
宇都宮市
令和3年度男女共同参画に関する
市民意識調査報告書

令和4年3月

宇都宮市

<目次>

I. 調査の概要.....	4
(1) 調査の目的.....	4
(2) 調査方法.....	4
(3) 実施時期.....	4
(4) 回収結果.....	4
(5) 報告書を見る際の注意事項.....	4
(6) 調査項目および調査内容.....	5
(7) 比較した調査について.....	6
II. アンケート調査結果.....	7
(1)あなたについて.....	13
(2)男女共同参画に関する用語について.....	17
(3)男女共同参画意識について.....	26
(4)新型コロナによる影響について.....	62
(5)地域・社会参画について.....	65
(6)職業・就労について.....	74
(7)人権尊重について.....	91
記述編.....	119
調査票.....	162

I. 調査の概要

(1) 調査の目的

男女参画に関する市民の意識の現状や変化，地域特性等を的確にとらえ，問題・課題等を明らかにし，「(仮称) 第5次宇都宮市男女共同参画行動計画」を策定するうえでの基礎資料とすることを目的として実施しました。

(2) 調査方法

18歳以上の市民3,000人を無作為に抽出し，アンケート調査票を郵送配布，無記名にて郵送回収 ※御礼状兼督促状を1回配布

(3) 実施時期

令和4年2月14日(月)～3月4日(金)

(4) 回収結果

対象	配布数	回収数	回収率	有効回収数	有効回収率
18歳以上の 市民3,000人	3,000件	1,508件	50.2%	1,507件	50.2%

(5) 報告書を見る際の注意事項

- 本報告書では，回答すべき箇所が回答されていないものは「無回答」として扱います。
- 本報告書では，回答する必要のない箇所及び回答すべき箇所でないところを回答している場合は，「非該当」として扱います。
- 設問の構成比は，回答者数（該当設問での該当者数）を基数として百分率（%）で示しているため，非該当者数は構成比に含まれません。
- 比率は全て百分率（%）で表し，小数点以下第二位を四捨五入し算出しているため，合計が100%にならない場合があります。
- 複数回答については，回答者数を基数として百分率（%）で示しているため，合計値が100%にならない場合があります。
- 本報告書では，回答合計の表記を単一回答（○は1つだけ）は「合計」，複数回答（○は3つまで）又は（○はいくつでも）は「回答者数」としています。非該当処理が含まれる設問は「回答者数」と表記しています。

(6) 調査項目および調査内容

■市民

調査項目	調査内容
1. あなたについて	F 1 性別
	F 2 年代
	F 3 居住地区
	F 4 家族構成
	F 5 職業
2. 男女共同参画に関する用語について	問 1 用語の認知度
3. 男女共同参画意識について	問 2 男女の地位の平等感
	問 3 「男は仕事, 女は家庭」という考え方
	問 4 男女で担うべき役割についての考え方
	問 5 自分の子どもの育て方
	問 6 生活の中での優先度
	問 7 夫婦の役割分担
	問 8 男性が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加していくために重要なこと
4. 新型コロナによる影響について	問 9 新型コロナによる生活・働き方・仕事内容の変化
5. 地域・社会参画について	問 10 地域などの社会的な活動への参加状況
	問 11 社会的な活動に参加していない理由
	問 12 地域活動の役員や行政機関の委員に女性の参画が増えていくために必要なこと
	問 13 災害時や防災活動において男女共同参画を推進していくために必要だと思うこと
6. 職業・就労について	問 14 退職経験の有無について
	問 15 退職理由
	問 16 女性が職業を持つことについて
	問 17 組織のリーダーや上司, 残業や育児休業について
	問 18 女性の再就職に必要なこと
	問 19 男性が育児休業を取得しづらい理由
	問 20 男性が介護休業を取得しづらい理由

7. 人権尊重について	問 21	ハラスメントを受けた経験
	問 22	健康状態に対するパートナーの理解
	問 23	配偶者や恋人から暴力を受けた経験
	問 24	配偶者等から受けた暴力についての相談の有無
	問 25	相談先
	問 26	相談しなかった理由
	問 27	DV・デートDV防止に必要なこと
	問 28	女性に対する暴力等に関する相談窓口で配慮してほしいこと
	問 29	自分の性別で悩んだこと
	問 30	性に関する用語の認知度
	問 31	性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策について必要だと思うこと

(7) 比較した調査について

前回調査

「宇都宮市男女共同参画に関する意識調査」(平成 28 年, 宇都宮市)

国調査

「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和元年, 内閣府)

「男女間における暴力に関する調査」(令和 2 年, 内閣府)

県調査

「人権に関する県民意識調査」(令和 3 年, 栃木県)

「栃木県政世論調査」(令和 3 年, 栃木県)

Ⅱ. アンケート調査結果

【調査結果概要】

1. あなたについて

F 1 性別

性別については、「男性」が40.4%、「女性」が57.9%となっています。

F 2 年代

年代については、「70歳以上」が21.8%で最も多く、次いで「65～69歳」が11.0%、「60～64歳」が10.0%となっています。

《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、男女ともに「60歳代」、「70歳以上」の割合が高くなっています。

F 3 居住地区

居住地区については、「中央地域」が45.1%で最も多く、次いで「北部地域」が18.0%、「南部地域」が14.1%となっています。

F 4 家族構成

家族構成については、「親と未婚の子ども（核家族）」が32.6%で最も多く、次いで「夫婦のみ（一世帯世帯）」が26.8%となっています。

F 5 職業

仕事については、「常勤・フルタイム」が35.7%で最も多く、次いで「無職」が20.6%となっています。

《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「常勤・フルタイム」が減少し、「無職」が増加しています。

2. 男女共同参画に関する用語について

問1 用語の認知度

男女共同参画に関する用語や施設名称の認知度については、「言葉も内容も知っている」で「ドメスティック・バイオレンス（DV）」が84.3%で最も多く、次いで「ジェンダー」が60.6%、「LGBT」が53.7%となっています。

3. 男女共同参画意識について

問2 男女の地位の平等感

分野別の男女の地位については、「平等になっている」が多い項目は、「学校教育の場」が45.3%で最も多く、次いで「家庭生活」が34.2%となっています。また、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた回答が多い項目は、「政治の場」が76.6%で最も多く、次いで「社会通念・慣習・しきたりなどで」が72.7%となっています。

《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、大きな差はありませんでした。

問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方

「男は仕事、女は家庭」という考え方については、「男女とも仕事をもち、家庭でも役割を分担するのがよい」、「男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をしていても家庭にいてもよい」がそれぞれ43.6%と最も多くなっています。

《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をしていても家庭にいてもよい」という回答が多くなっています。

問4 男女で担うべき役割についての考え方

男女で担うべき役割の考え方については、「そう思う」という回答が最も多かったのが「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」で23.9%でした。また、「そう思わない」という回答が最も多かったのが「女性に理系の進路（学校や職業）は向いていない」で78.8%となっています。

問5 自分の子どもの育て方

自分の子どもをどのように育てたいかについては、「どちらかといえば、性別にとらわれずに育てたい」が34.1%で最も多く、次いで「どちらかといえば、『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに育てたい」が26.7%となっています。

《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「どちらかといえば『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに育てたい」という回答が少なくなっています。また、「性別にとらわれずに育てたい」という回答が多くなっています。

問6 生活の中での優先度

生活の中で、仕事、家庭生活、個人・地域の生活の優先順位については、「現実・現状」は、『仕事』と『家庭生活』を優先」が29.8%で最も多くなっています。次いで『家庭生活』を優先」が26.5%となっています。

「理想」は、『仕事』と『家庭生活』を優先」が35.3%で最も多く、次いで『仕事』と『家庭生活』と『個人・地域の生活』のすべてを優先」が20.4%となっています。

《前回調査との比較》

前回調査の「理想」と比較すると、『仕事』と『家庭生活』を優先したい」が多く、『仕事』と『家庭生活』と『個人・地域の生活』のすべてを優先したい」が少なくなっています。

また、前回調査の「現実」と比較すると、『仕事』を優先している」という回答が少なくなっています。

問7 夫婦の役割分担

夫婦の間の分担については、「夫妻同じ程度」という回答で多いのは「親や身内の介護」で38.8%となっています。「どちらかといえば妻」という回答で多いのは「育児」で26.2%、「主に妻」という回答で多いのは「家事」で32.9%となっています。

問 8 男性が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加していくために重要なこと

今後、男性が家事、子育て、介護に積極的に参加していくために重要なことについては、「夫婦が協力して家事、子育て、介護をすることに職場の理解が得られること」が65.4%で最も多く、次いで「夫婦の間で家事などの分担について、十分に話し合い、協力し合うこと」が61.3%、「賃金、昇進・昇格の機会、仕事内容など、労働条件での男女の差をなくすこと」が50.5%となっています。

《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「その他」を除き「重要である」という回答が多くなっています。特に、「賃金、昇進・昇格の機会、仕事内容など、労働条件での男女の差をなくすこと」は11.8ポイント増加しています。

4. 新型コロナによる影響について**問 9 新型コロナによる生活・働き方・仕事内容の変化**

新型コロナによる影響で、あなたの生活や働き方、仕事内容などにどのような変化があったかについては、生活の変化では「特に変化はなかった」が56.4%で最も多く、次いで「心身の不調を感じた」が26.7%となっています。また、働き方の変化では、「特に変化はなかった」が46.2%で最も多く、次いで「収入が減った」が19.1%となっています。

5. 地域・社会参画について**問 10 地域などの社会的な活動への参加状況**

現在、地域などでの社会的な活動については、「行っている」が26.1%、「行っていない」が72.3%となっています。

問 11 社会的な活動に参加していない理由

現在、社会的な活動に参加していない理由については、「活動についての情報がないから」が36.1%で最も多く、次いで「関心がないから」が29.6%、「仕事が忙しく時間がないから」が26.8%となっています。

《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「活動についての情報がないから」は7.1ポイント多くなっています。一方、「仕事が忙しく時間がないから」は10.2ポイント少なくなっています。

問 12 地域活動の役員や行政機関の委員に女性の参画が増えていくために必要なこと

自治会やPTAなど地域活動の役員や、行政機関の審議会等の委員など、方針を決定していく場での女性の参画が増えていくために必要なことについては、「家族からの支援や協力があること」が36.4%で最も多く、次いで「男性優位の組織運営を改善すること」が34.9%、「女性自身が積極的な参画意識をもつこと」が32.4%となっています。

問 13 災害時や防災活動において男女共同参画を推進していくために必要だと思うこと

災害時や防災活動において男女共同参画を推進していくために必要なことについては、「乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性（女性用品等）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」が 61.0%で最も多く、次いで「避難所の設備（更衣室・トイレなど、防犯対策等）」が 58.7%、「災害時における対策会議に女性が配置され、対策に女性の視点が入ること」が 50.4%となっています

6. 職業・就労について

問 14 女性の退職経験

退職した経験があるかについては、「ある」が 29.5%、「ない」が 67.4%となっています。

問 15 退職理由

退職した具体的な理由については、「家事・育児・介護に専念したいので自発的に辞めた」が 37.5%で最も多く、次いで「仕事と家事・育児・介護の両立が難しいため」が 35.7%となっています。

問 16 女性が職業を持つことについて

女性が職業をもつことについては、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が 29.0%で最も多く、次いで「女性は職業をもつことにこだわらなくてよい」が 20.1%となっています。

《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」という回答が少なくなっており、「女性は職業をもつことにこだわらなくてよい」という回答が多くなっています。

問 17 組織のリーダーや上司、残業や育児休業について

組織のリーダーや上司、残業や育児休業の考え方について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答は、「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」が 41.1%で最も多く、次いで「組織のリーダーは男性の方が向いている」が 33.9%となっています。

また、「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」という回答は、「男性は育児休業を取るべきではない」が 88.1%で最も多く、次いで「男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ」が 82.7%となっています。

問 18 女性の再就職に必要なこと

女性が結婚や出産・育児のために退職した場合、その後、再就職するために必要なことについては、「夫の理解や家事・育児などへの参加」が 78.4%で最も多く、次いで「子どもや介護を必要とする人を預かってくれる施設やサービスの充実」が 74.1%、「フレックスタイム制度の導入や育児休業などの制度の充実」が 56.1%となっています。

問 19 男性が育児休業を取得しづらい理由

育児休業について、男性が育児休業を取得しづらい理由については、「職場に取りやすい雰囲気がないから」が 75.4%で最も多く、次いで「取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから」が 57.9%、「周囲に取った男性がいないから」が 45.5%となっています。

問 20 男性が介護休業を取得しづらい理由

介護休業について、男性が介護休業を取得しづらい理由については、「職場に取りやすい雰囲気がないから」が71.3%で最も多く、次いで「取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから」が58.0%、「周囲に取った男性がいないから」が43.0%となっています。

7. 人権尊重について**問 21 ハラスメントを受けた経験**

ハラスメントを受けた経験について、「ある」という回答は、「パワーハラスメント」が35.6%で最も多く、次いで「セクシュアルハラスメント」が19.6%となっています。

問 22 健康状態に対するパートナーの理解

パートナーが自分の健康状態について理解していると思うかについては、「理解していると思う、理解できていると思う」が39.3%で最も多く、次いで「理解していると思わない、理解できていないと思う」が29.5%、「わからない」が21.9%となっています。

《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「理解していると思う、理解できていると思う」という回答が少なくなっています。

問 23 配偶者や恋人から暴力を受けた経験

暴力を受けた経験については、「まったくない」が9割前後となっています。また、「精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた」で「何度もあった」、「1、2度あった」という回答は合わせて7.5%となっています。

《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「何度もあった」、「1、2度あった」という回答が少なくなっています。

問 24 配偶者等から受けた暴力についての相談の有無

受けた暴力について、誰かに相談したかについては、「相談した」が25.7%、「相談しなかった」が67.1%となっています。

《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「相談しなかった」という回答が多くなっています。

問 25 相談先

相談した相手については、「親族」が69.2%で多く、次いで「友人・知人」が43.6%となっています。

《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「親族」という回答が多くなっており、「友人・知人」という回答が少なくなっています。

問 26 相談しなかった理由

相談しなかった理由については、「相談しても無駄だと思ったから」が41.2%で最も多く、次いで「自分さえ我慢すればやっていけると思ったから」が38.2%、「相談するほどのことではないと思ったから」が34.3%となっています。

《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、今回調査の上位3項目で回答が少なくなっています。なお、減少率が高い項目としては、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が8ポイント、「自分さえ我慢すればやっていけると思ったから」が7ポイント、「他人を巻き込みたくなかったから」、が6.2ポイントの減少となっています。

問27 DV・デートDV防止に必要なこと

DVやデートDVを防止するために必要なことについては、「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口を周知する」が71.7%で最も多く、次いで「加害者への罰則を強化する」が55.3%、「中学・高校や大学等で、暴力を防止するための教育を行う」が49.4%となっています。

《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、大きな差はありませんでした。

問28 女性に対する暴力等に関する相談窓口で配慮してほしいこと

女性に対する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで、配慮してほしいと思うことについては、「24時間相談ができる」が67.3%で最も多く、次いで「匿名で相談できる」が61.6%、「同性の相談員がいる」が57.3%となっています。

問29 自分の性別で悩んだこと

自分の性別に悩んだことについては、「ある」が3.8%、「ない」が92.6%となっています。

問30 性に関する用語の認知度

性的指向や性自認、LGBT、性的マイノリティという言葉の認知度については、「知っていた」項目で「LGBT」が68.3%で最も高く、次いで「性的マイノリティ」が59.1%、「性的指向や性自認」が53.3%となっています。

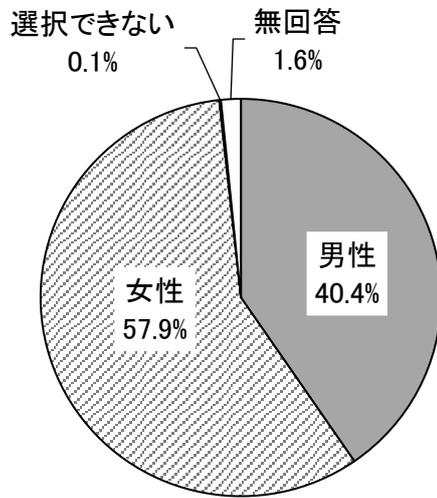
問31 性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策について必要だと思うこと

性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策について、必要だと思うかは、「わからない」が53.8%で最も多く、次いで「必要だと思う」が38.6%となっています。

(1) あなたについて

F1 あなたの性別は次のうちどれですか。

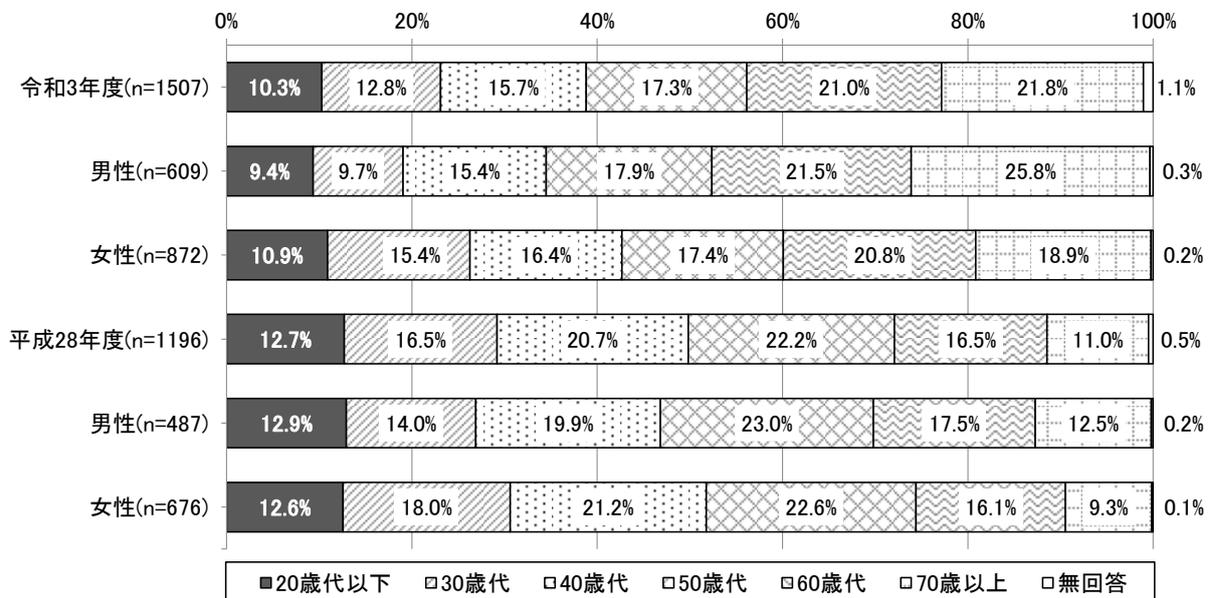
性別については、「男性」が40.4%、「女性」が57.9%となっています。



項目	度数	構成比
男性	609	40.4%
女性	872	57.9%
選択できない	2	0.1%
無回答	24	1.6%
合計	1,507	100.0%

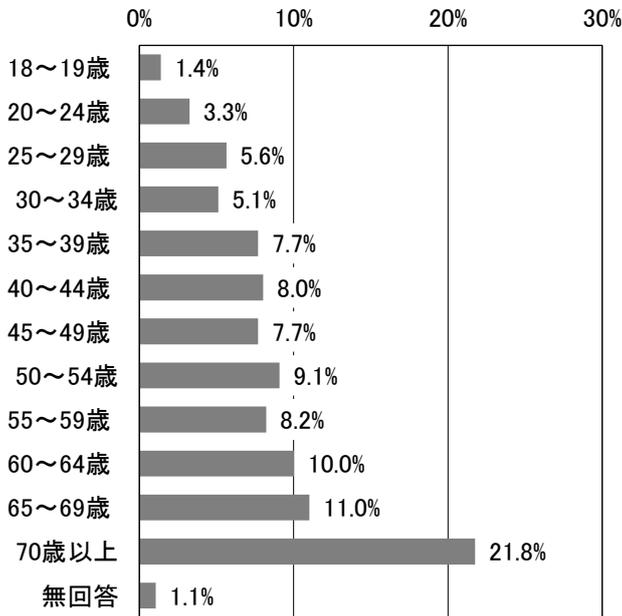
【経年比較, 性別, 年代別クロス】

平成28年度調査(以下, 前回調査という。)と比較すると, 男女ともに「60歳代」, 「70歳以上」の割合が高くなっています。



F2 あなたの年代は次のうちどれですか。

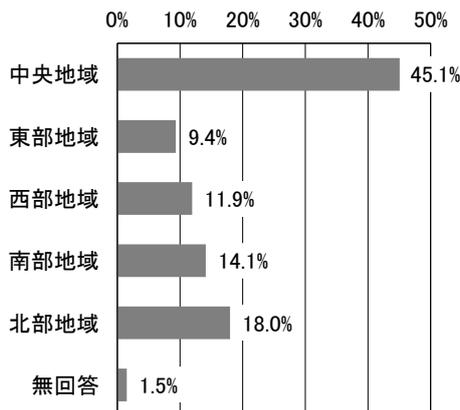
年代については、「70歳以上」が21.8%で最も多く、次いで「65～69歳」が11.0%、「60～64歳」が10.0%となっています。



項目	度数	構成比
18～19歳	21	1.4%
20～24歳	49	3.3%
25～29歳	85	5.6%
30～34歳	77	5.1%
35～39歳	116	7.7%
40～44歳	121	8.0%
45～49歳	116	7.7%
50～54歳	137	9.1%
55～59歳	124	8.2%
60～64歳	151	10.0%
65～69歳	166	11.0%
70歳以上	328	21.8%
無回答	16	1.1%
合計	1,507	100.0%

F3 あなたがお住まいの地区はどちらですか。

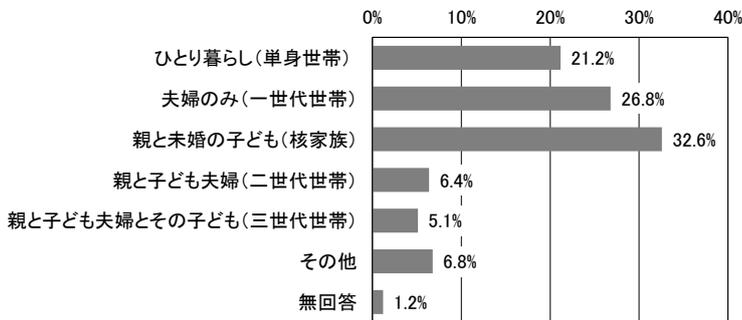
住まいの地区については、「中央地域」が45.1%で最も多く、次いで「北部地域」が18.0%、「南部地域」が14.1%となっています。



項目	度数	構成比
中央地域(下記, 東部地域, 西部地域, 南部地域, 北部地域以外の地区)	679	45.1%
東部地域(平石地区, 清原地区, 瑞穂野地区)	141	9.4%
西部地域(城山地区, 姿川地区)	180	11.9%
南部地域(横川地区, 雀宮地区)	213	14.1%
北部地域(豊郷地区, 国本地区, 富屋地区, 篠井地区, 河内地区, 上河内地区)	271	18.0%
無回答	23	1.5%
合計	1,507	100.0%

F4 あなたの家族構成はどれに該当しますか。

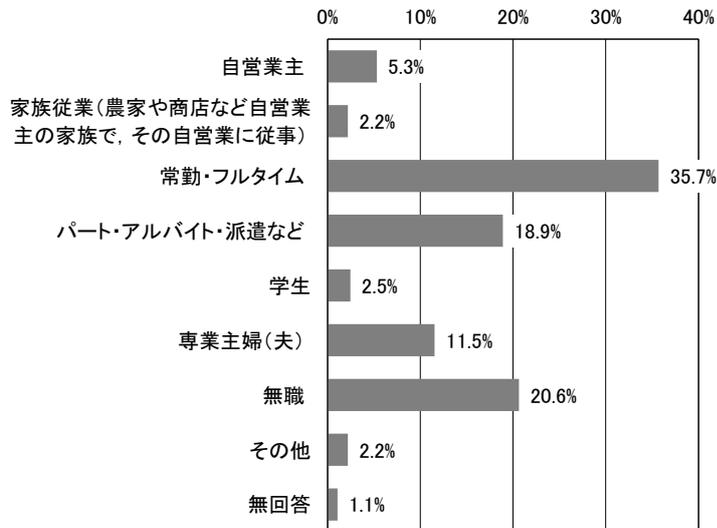
家族構成については、「親と未婚の子ども（核家族）」が32.6%で最も多く、次いで「夫婦のみ（一世代世帯）」が26.8%となっています。



項目	度数	構成比
ひとり暮らし(単身世帯)	319	21.2%
夫婦のみ(一世代世帯)	404	26.8%
親と未婚の子ども(核家族)	491	32.6%
親と子ども夫婦(二世帯世帯)	96	6.4%
親と子ども夫婦とその子ども(三世帯世帯)	77	5.1%
その他	102	6.8%
無回答	18	1.2%
合計	1,507	100.0%

F5 あなたの仕事は次のうちどれにあたりますか。

仕事については、「常勤・フルタイム」が35.7%で最も多く、次いで「無職」が20.6%となっています。

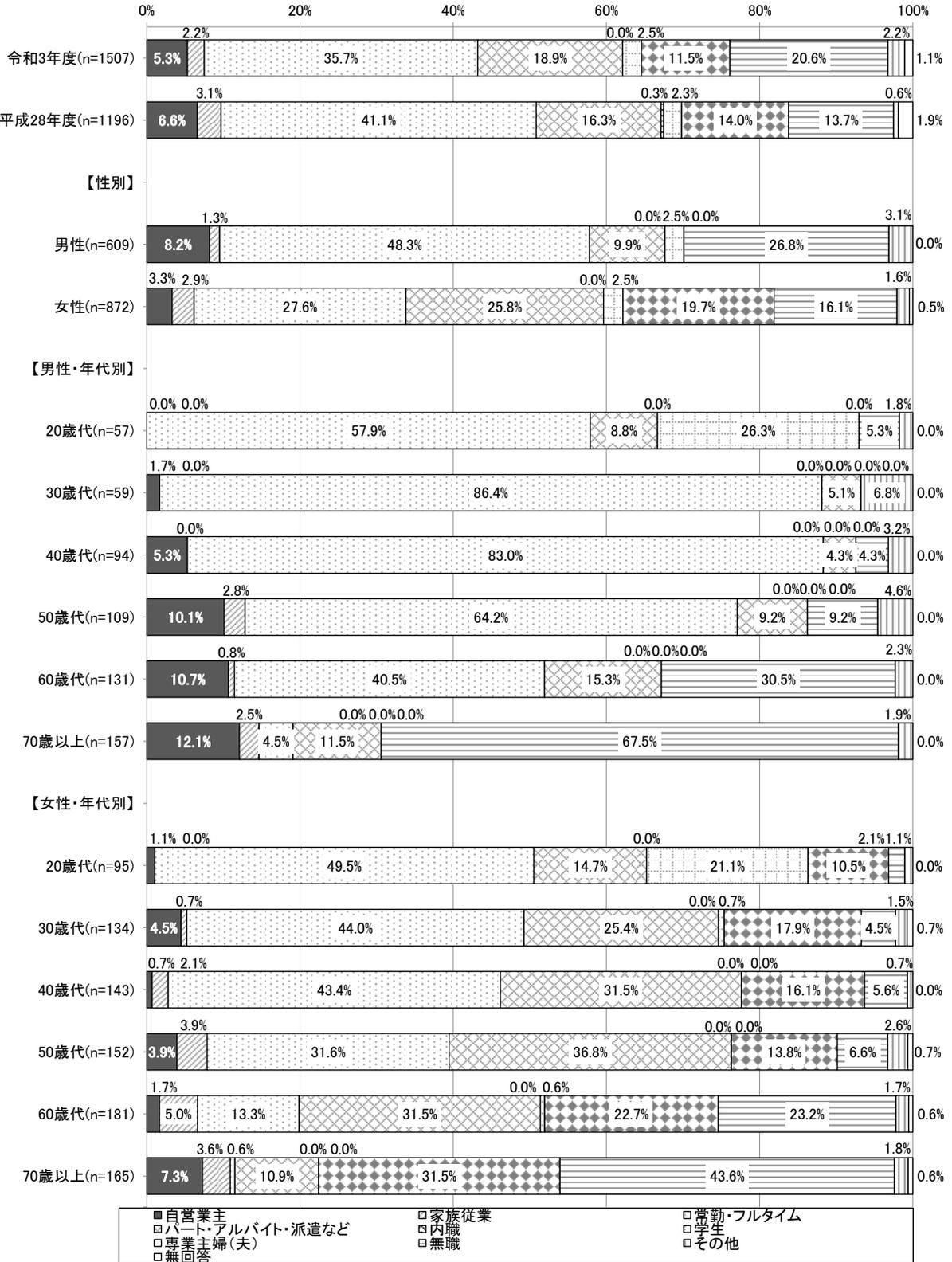


項目	度数	構成比
自営業主	80	5.3%
家族従業(農家や商店など自営業主の家族で、その自営業に従事)	33	2.2%
常勤・フルタイム	538	35.7%
パート・アルバイト・派遣など	285	18.9%
学生	37	2.5%
専業主婦(夫)	174	11.5%
無職	311	20.6%
その他	33	2.2%
無回答	16	1.1%
合計	1,507	100.0%

【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】

前回調査と比較すると、「常勤・フルタイム」が減少し、「無職」が増加しています。

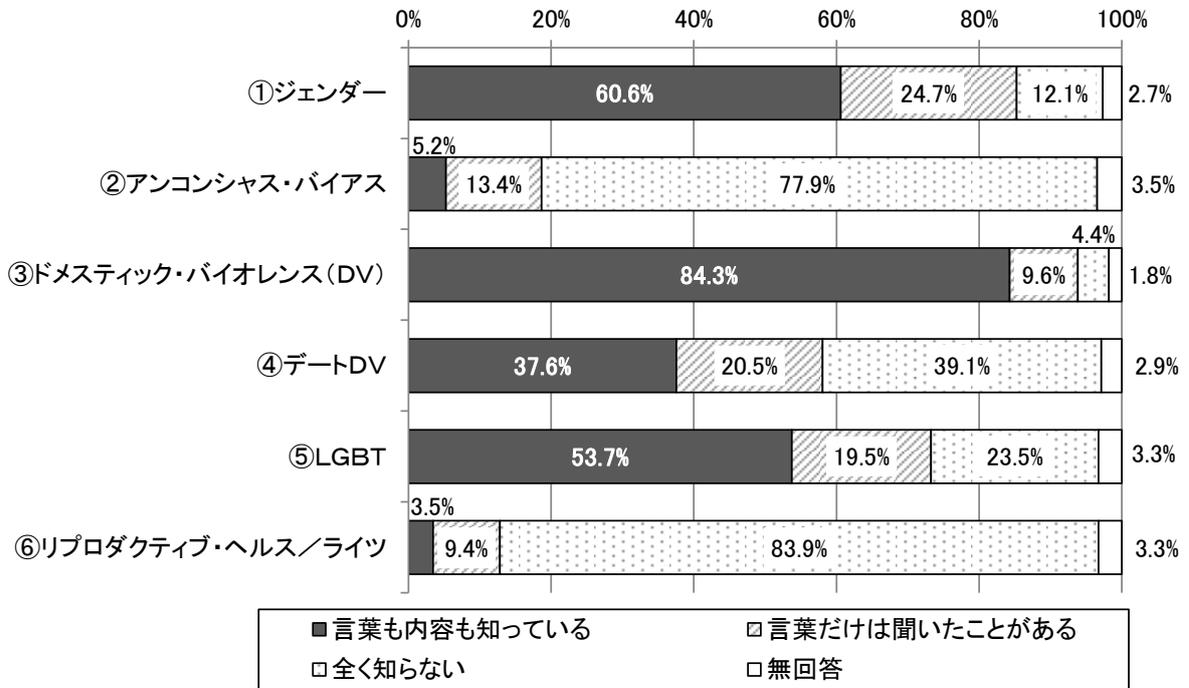
性・年代別では、男性の「60歳代」までは「常勤・フルタイム」という回答が最も多く、女性の「常勤・フルタイム」という回答は「20歳代」以外は男性に比べて約半数となっています。



(2) 男女共同参画に関する用語について

問1 次にあげる男女共同参画に関する用語を聞いたことがありますか。(それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

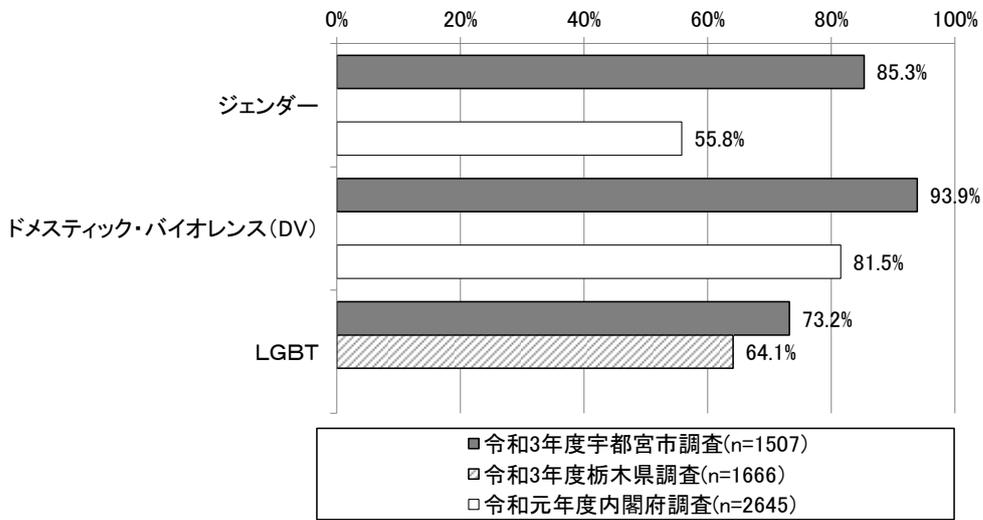
男女共同参画に関する用語や施設名称の認知度については、「言葉も内容も知っている」で「ドメスティック・バイオレンス (DV)」が84.3%で最も高く、次いで「ジェンダー」が60.6%、「LGBT」が53.7%となっています。



項目(度数)	言葉も内容も知っている	言葉だけは聞いたことがある	全く知らない	無回答	合計
①ジェンダー	913	372	182	40	1,507
②アンコンシャス・バイアス	79	202	1,174	52	1,507
③ドメスティック・バイオレンス(DV)	1,270	144	66	27	1,507
④デートDV	566	309	589	43	1,507
⑤LGBT	810	294	354	49	1,507
⑥リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	52	141	1,265	49	1,507

【宇都宮市, 栃木県, 内閣府調査比較】

国, 県調査と比較すると, 全ての項目で国, 県よりも認知度が多くなっています。特に, 「ジェンダー」は大きな差がでています。

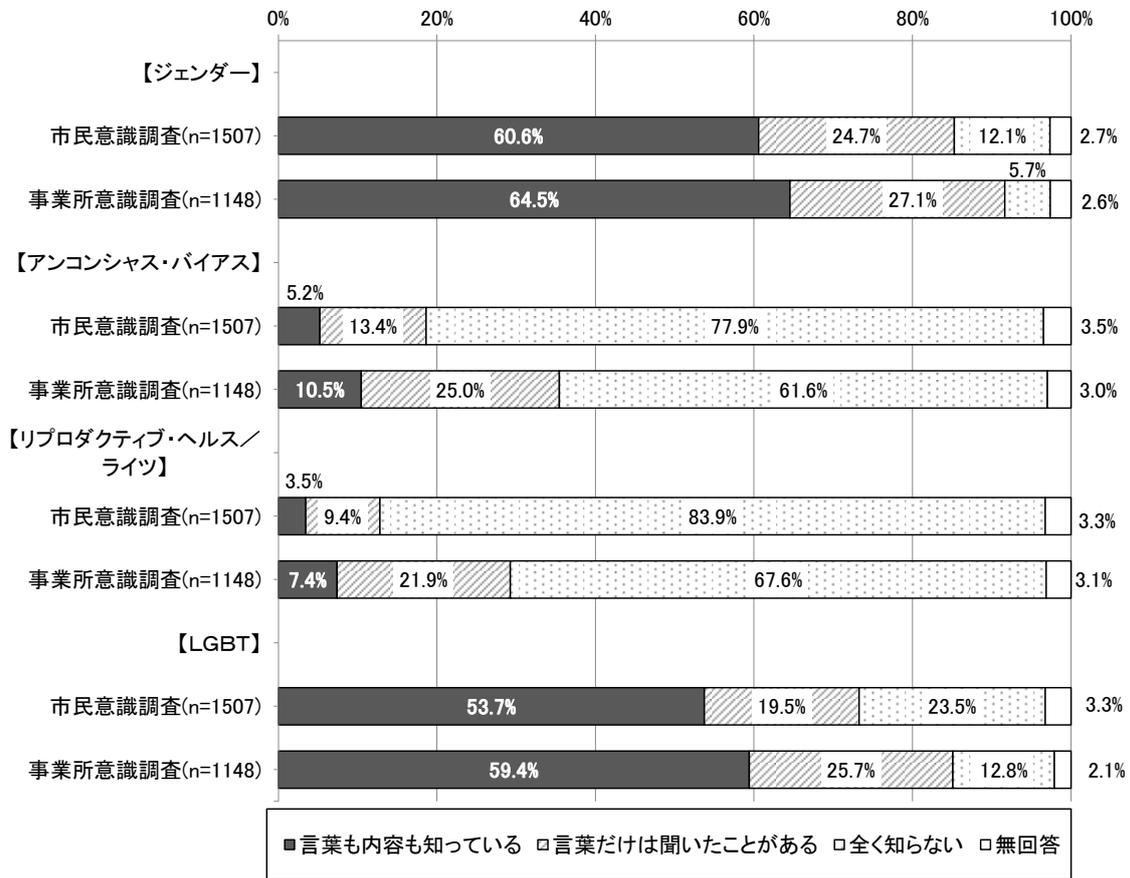


※宇都宮市調査では, 「言葉も内容も知っている」と「言葉だけは聞いたことがある」の合計値を表記しています。

※栃木県調査は, 「言葉は聞いているし, 意味も知っている」と「言葉は聞いているが, 意味は知らない」の合計値を表記しています。

【事業所意識調査との比較】

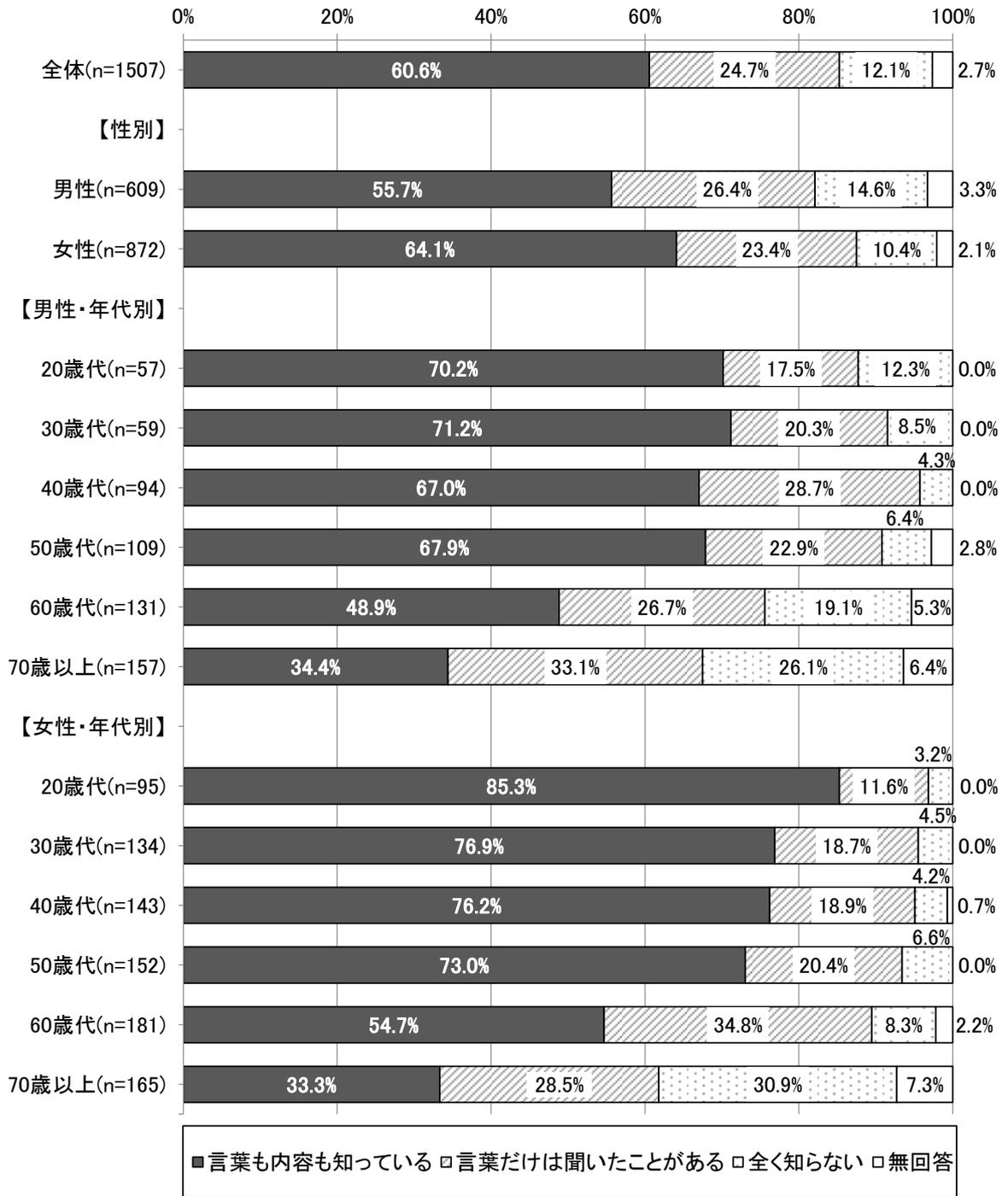
同時期に実施した「事業所意識調査」と比較すると、全体的に用語の認知度は事業所意識調査の方が高くなっています。特に、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」は、「言葉も内容も知っている」、「言葉だけは聞いたことがある」を合わせると、市民意識調査の認知度は事業所意識調査の半数以下となっています。



◆ジェンダー【性別，性・年代別クロス】

性別では，女性の方の認知度が高くなっています。

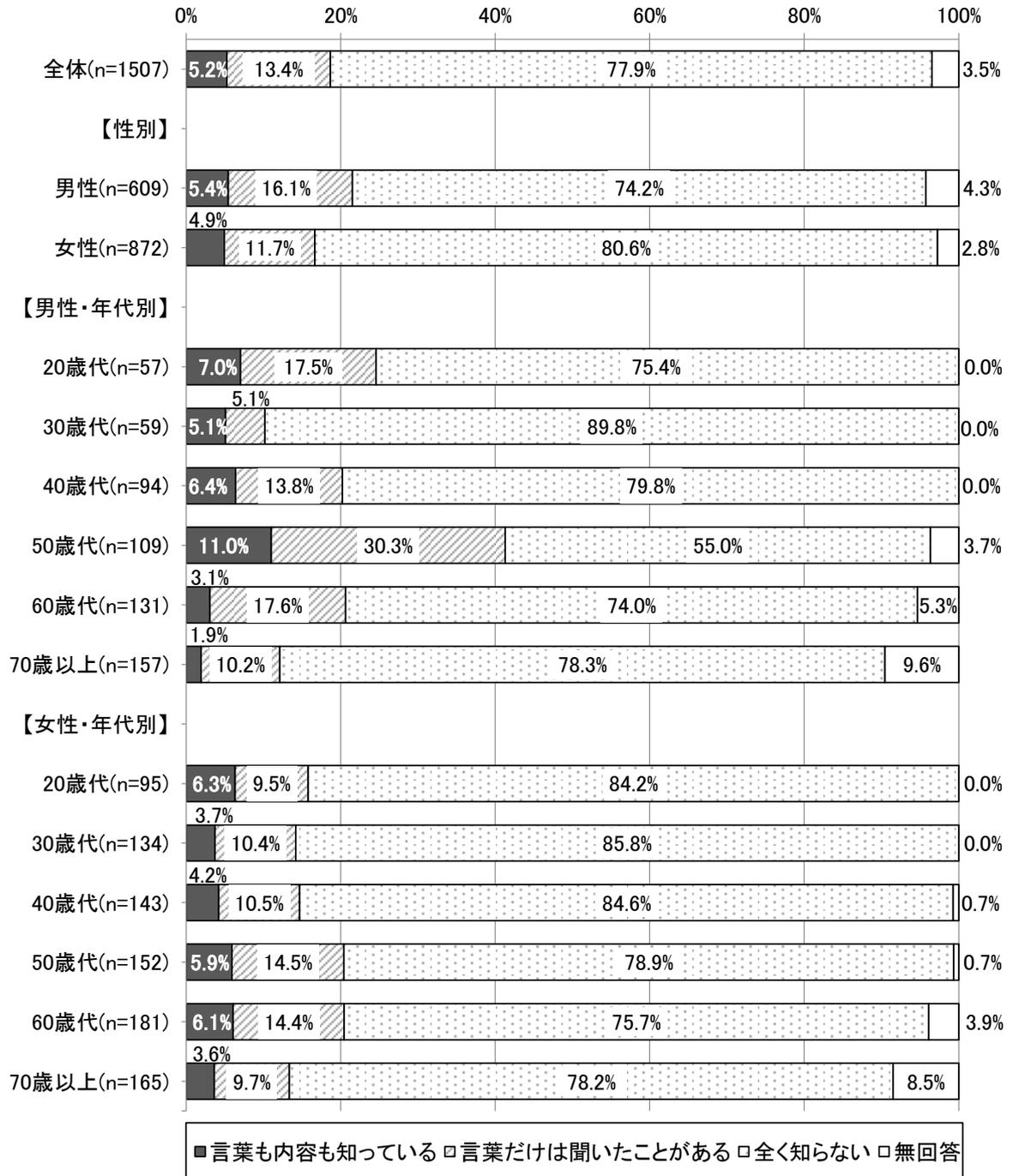
性・年代別では，男女ともに50歳代以下は「言葉も内容も知っている」という回答が多くなっていますが，60歳代以上は減少する傾向にあります。



◆アンコンシャス・バイアス【性別、性・年代別クロス】

性別では、男女での大きな差はありませんでした。

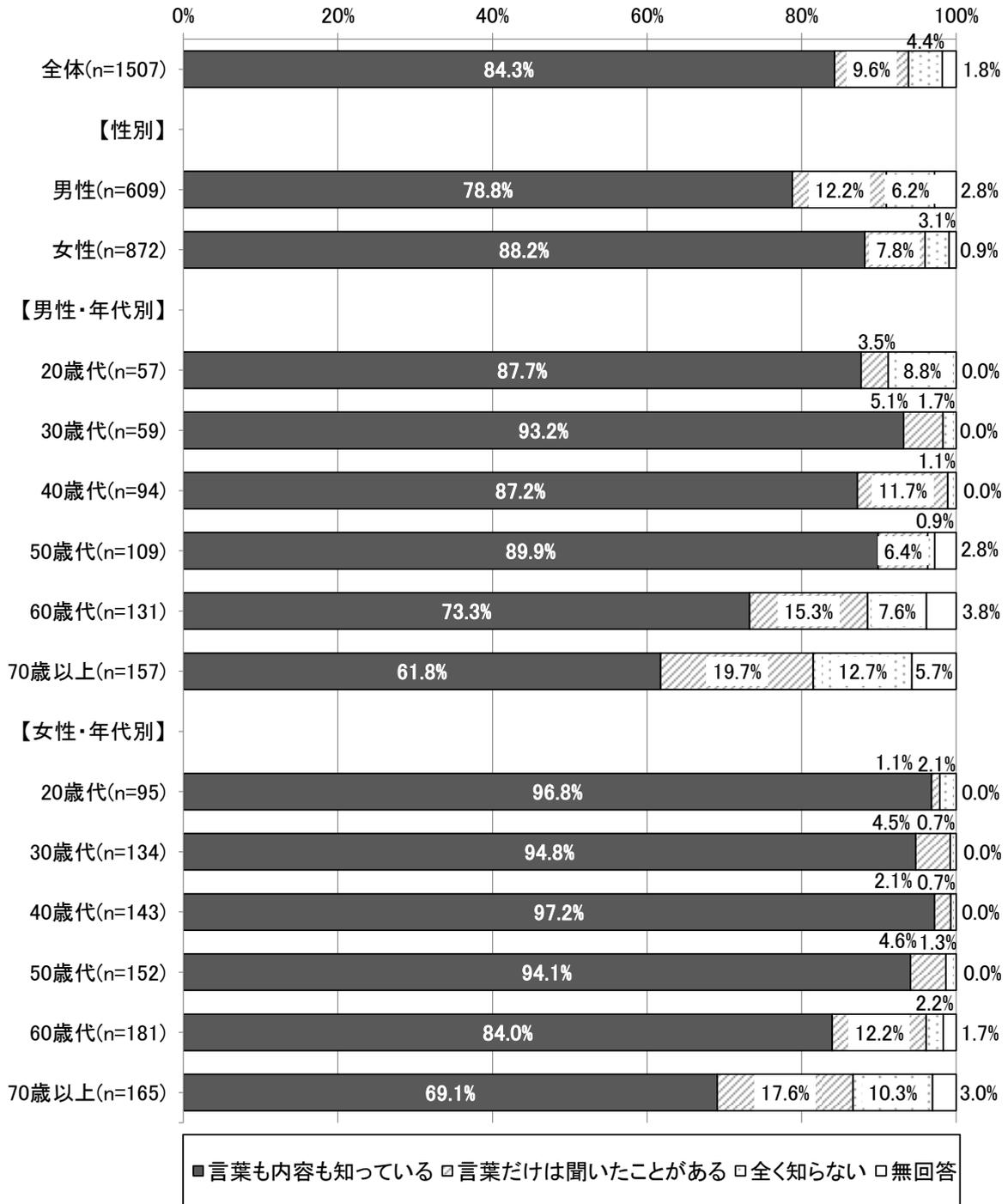
性・年代別では、男性の50歳代が「言葉も内容も知っている」、「言葉だけは聞いたことがある」を合わせた回答が多くなっています。



◆ドメスティック・バイオレンス(DV)【性別、性・年代別クロス】

性別では、男女での大きな差はありませんでした。

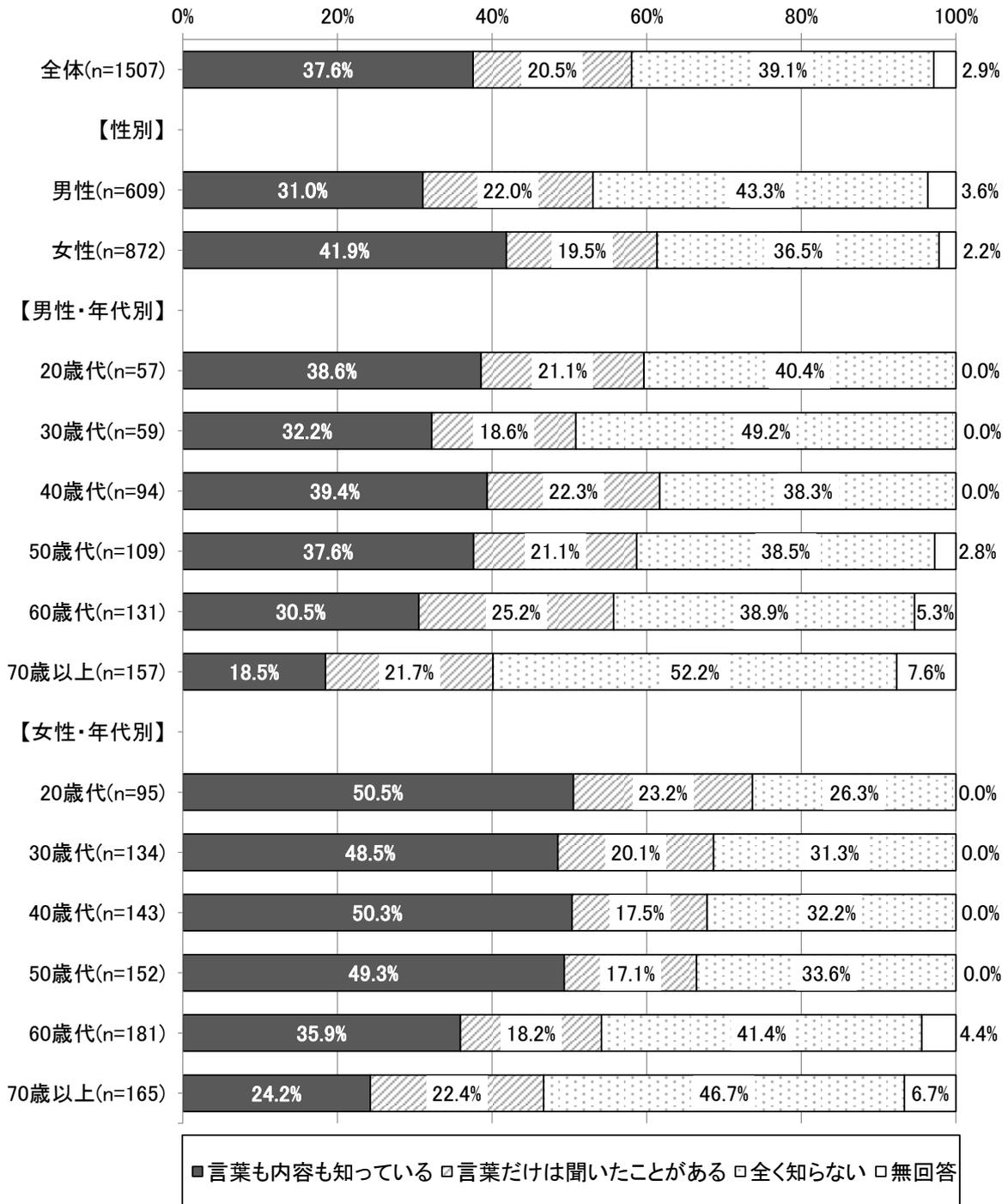
性・年代別では、男女ともに、年代が上がるに従い「言葉も内容も知っている」という回答が減少する傾向にあります。



◆データ DV【性別、性・年代別クロス】

性別では、男性より女性の方が「言葉も内容も知っている」という回答が多くなっています。

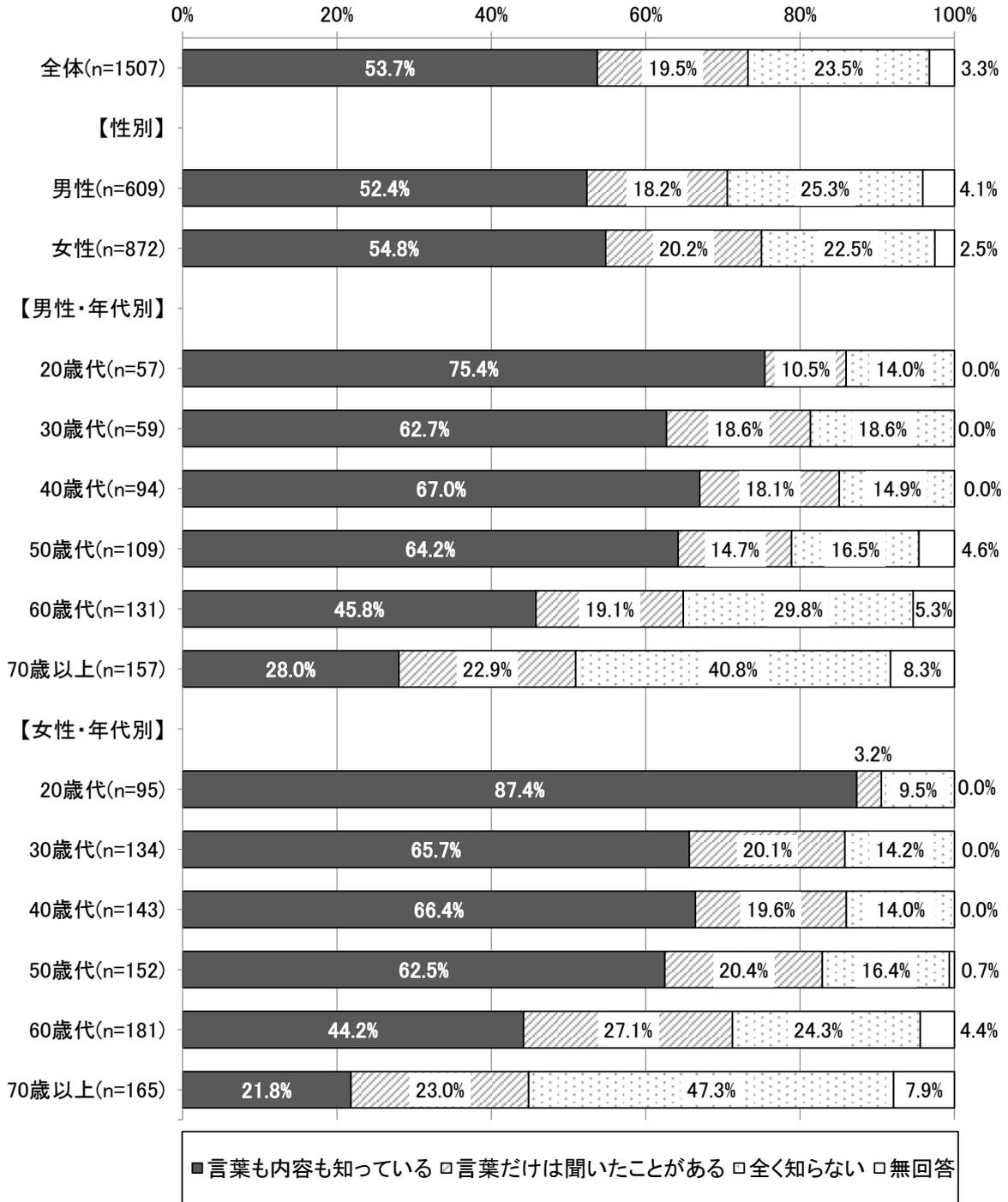
性・年代別では、男女ともに、年代が上がるに従い「言葉も内容も知っている」という回答が減少する傾向があります。特に、男性の70歳以上、女性の60歳代から、「言葉も内容も知っている」という回答が減少しています。



◆LGBT【性別，性・年代別クロス】

性別では，男女での大きな差はありませんでした。

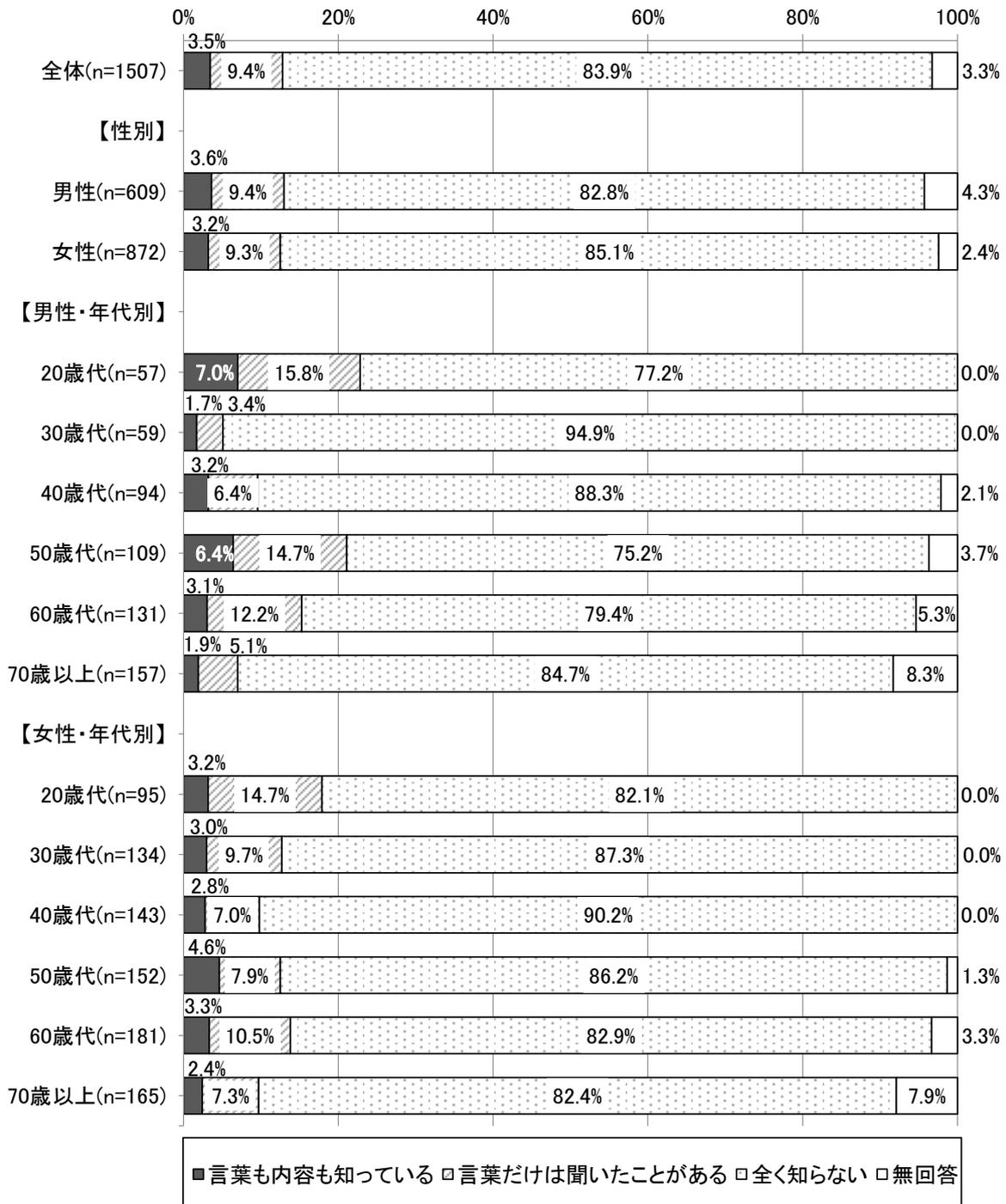
性・年代別では，男女ともに，20歳代が「言葉も内容も知っている」という回答が多くなっています。また，男女ともに，60歳代から「言葉も内容も知っている」という回答が大きく減少しています。



◆リプロダクティブ・ヘルス/ライツ【性別, 性・年代別クロス】

性別では、男女での大きな差はありませんでした。

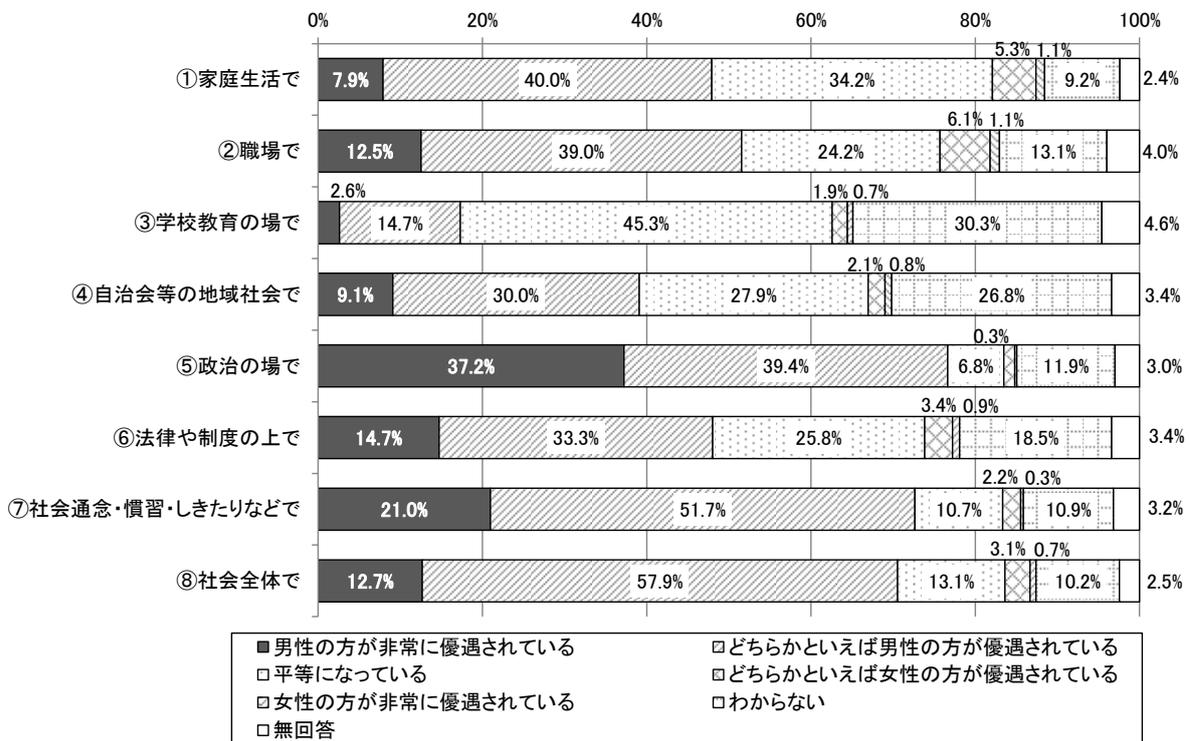
性・年代別では、男性は年代によるバラつきがあり、最も多く「言葉も内容も知っている」、
「言葉だけは聞いたことがある」を合わせた回答が多かった年代は20歳代でした。女性も、20歳代の認知度が最も高くなっています。



(3) 男女共同参画意識について

問2 あなたは、現在、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

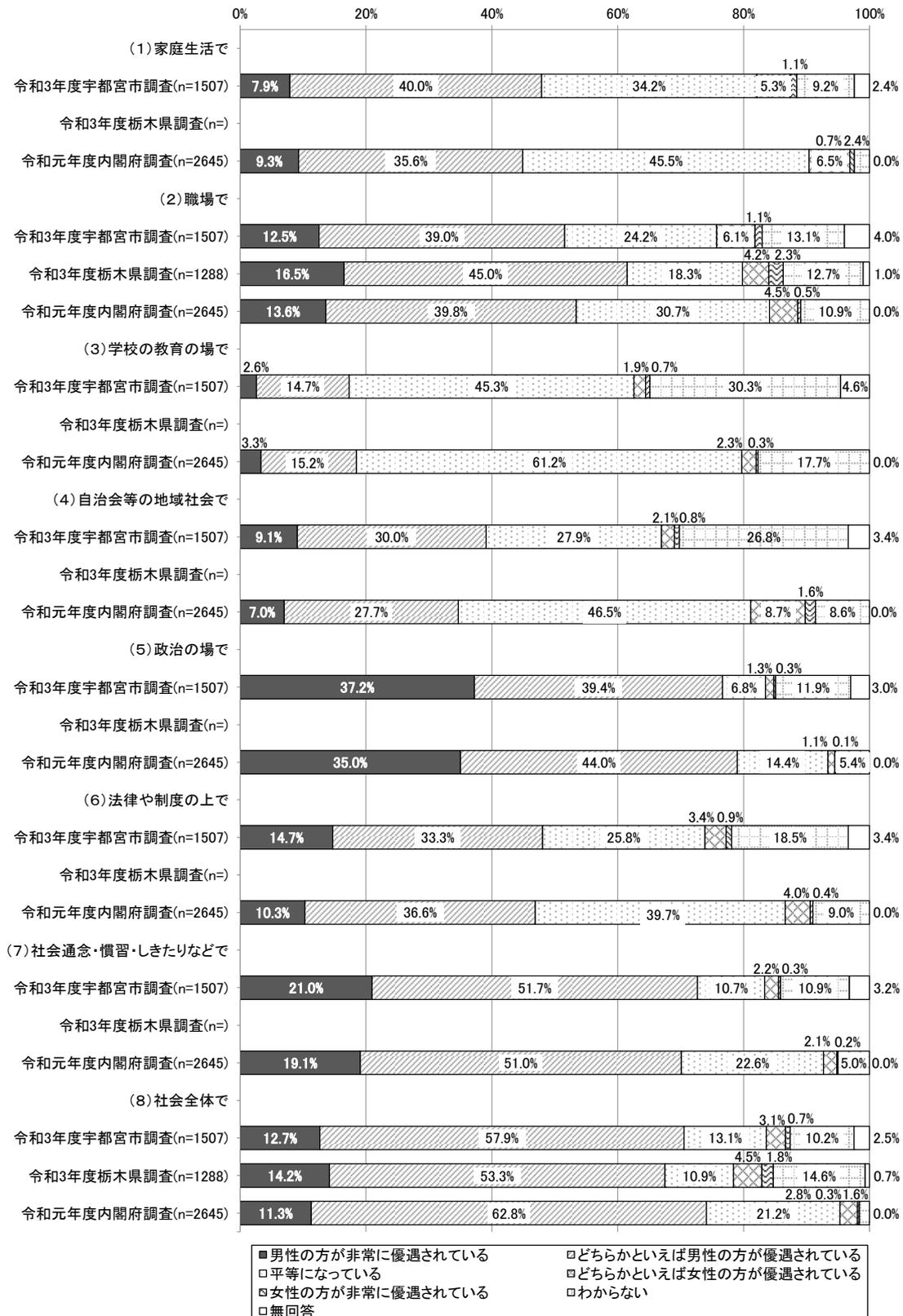
分野別の男女の地位について、「平等になっている」という回答が多かったのは、「学校教育の場で」が45.3%、次いで「家庭生活中で」が34.2%となっています。また、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が多かったのは、「政治の場で」が「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が合わせて76.6%、次いで「社会通念・慣習・しきたりなどで」が「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が合わせて72.7%となっています。



項目(度数)	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答	合計
①家庭生活中で	119	603	515	80	16	138	36	1,507
②職場で	189	588	364	92	17	197	60	1,507
③学校教育の場で	39	222	682	28	10	457	69	1,507
④自治会等の地域社会で	137	452	420	31	12	404	51	1,507
⑤政治の場で	561	594	103	20	4	180	45	1,507
⑥法律や制度の上で	222	502	389	51	13	279	51	1,507
⑦社会通念・慣習・しきたりなどで	316	779	161	33	5	165	48	1,507
⑧社会全体で	191	872	197	46	11	153	37	1,507

【宇都宮市, 栃木県, 内閣府調査比較】

県調査とは大きな差はありませんが、国調査と比較すると、「平等になっている」という回答が市調査よりもやや多くなっています。



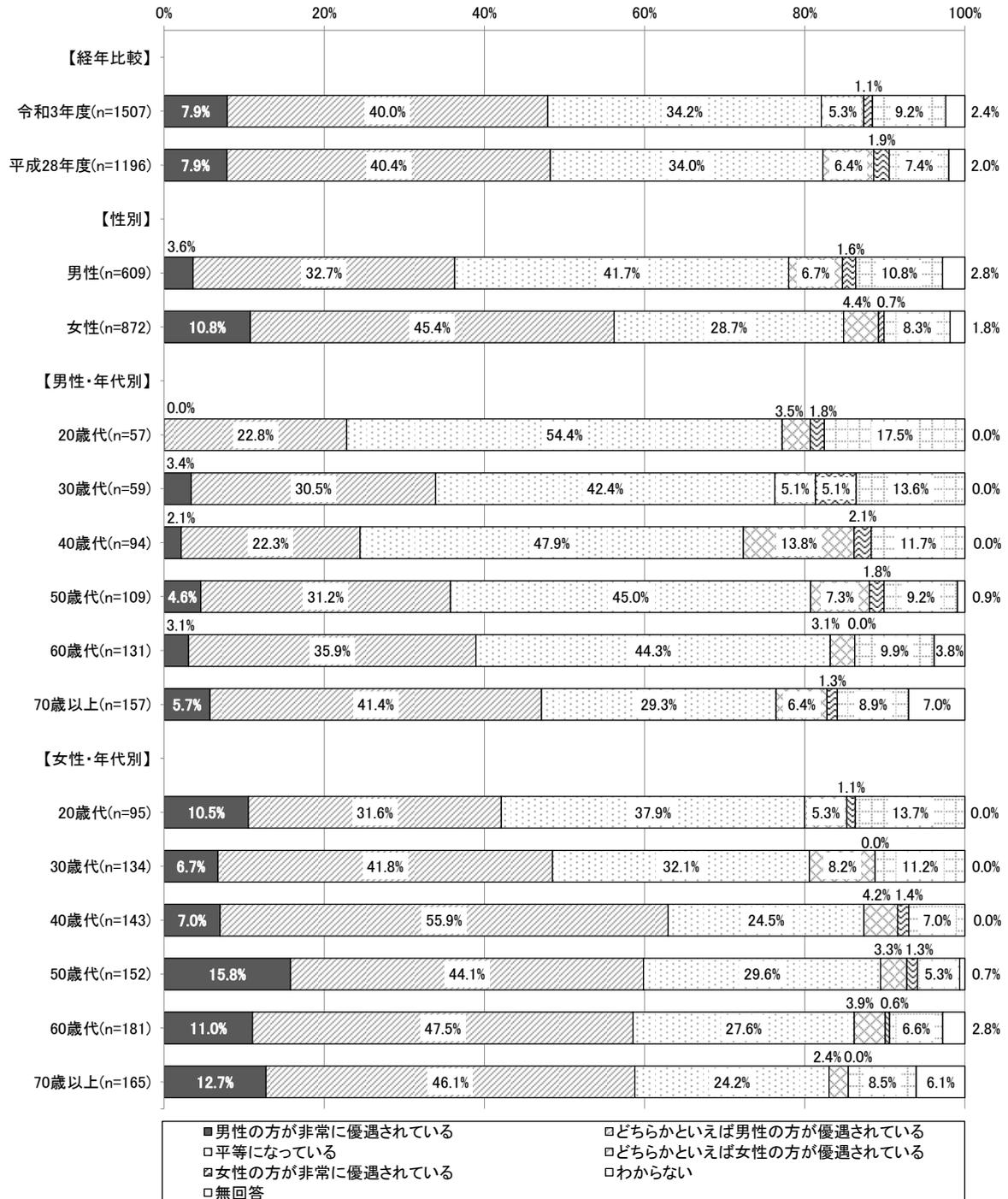
※令和3年度県調査の選択肢と一致しない項目があり、その場合は「令和3年度栃木県調査 (n=)」のみ表記しています。

◆家庭生活で【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】

前回調査と比較すると、大きな差はありませんでした。

性別では、男性より女性の方が「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた回答が多くなっています。

性・年代別では、男性の全年代、女性の30歳代以下では、約3割～5割の方が「平等」と回答しています。50歳代の女性は、他年代と比較すると「男性の方が非常に優遇されている」という回答が多くなっています。

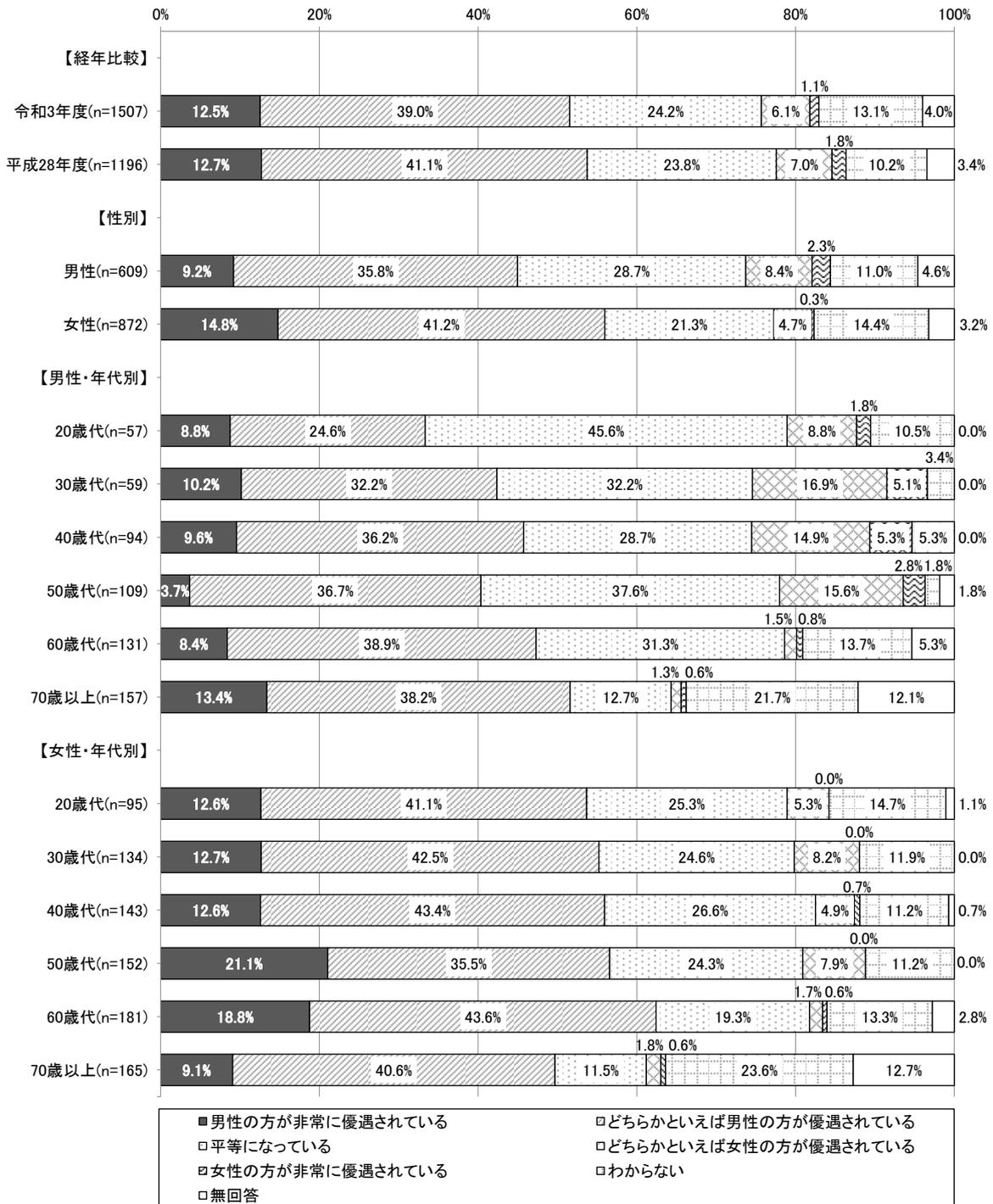


◆職場で【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】

前回調査と比較すると、大きな差はありませんでした。

性別では、男性より女性の方が「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた回答が多くなっています。

性・年代別では、男性の20歳代は、「平等になっている」という回答が他年代に比べ多くなっています。女性は、50歳代及び60歳代が「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた回答が多くなっています。

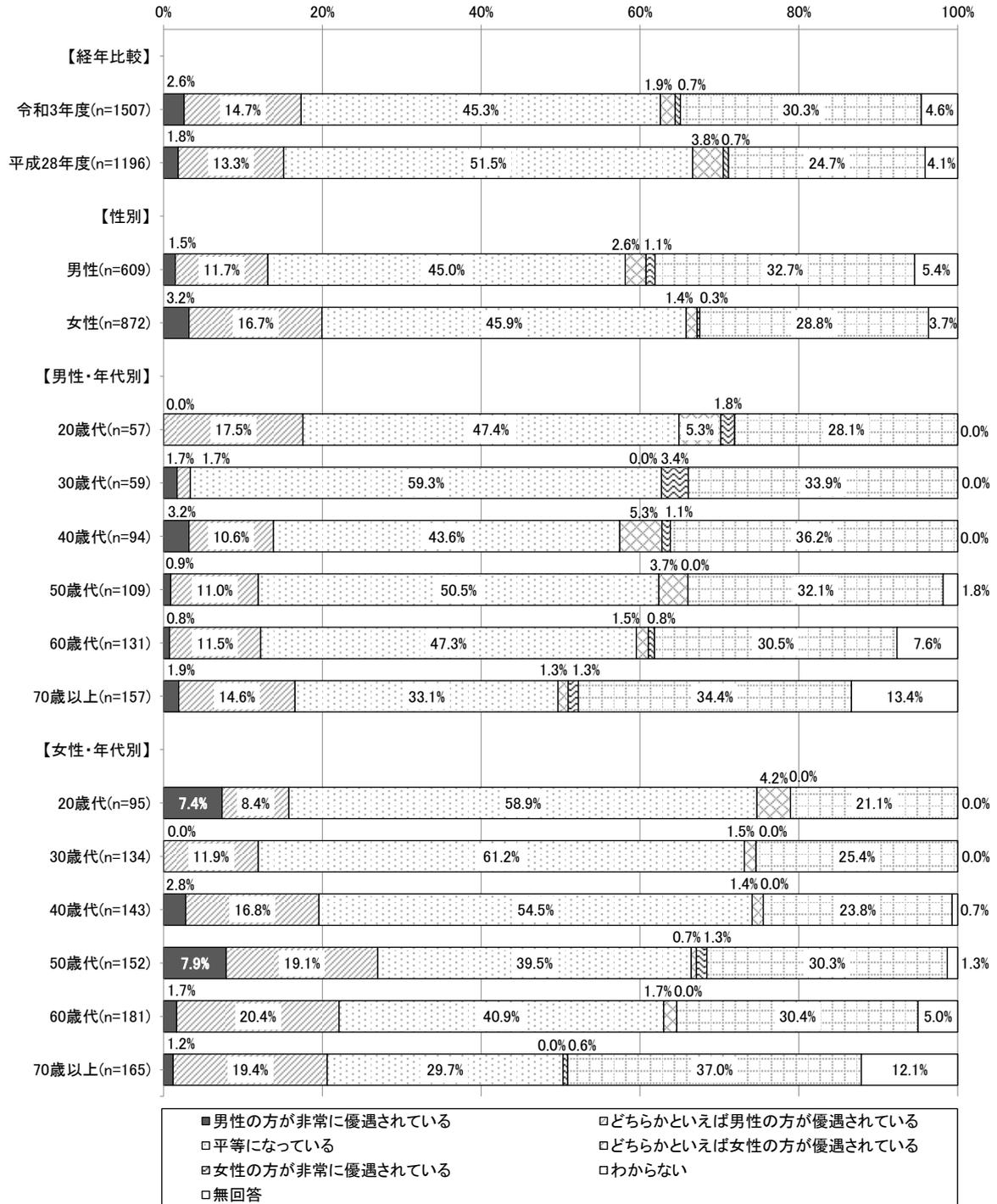


◆学校教育の場で【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】

前回調査と比較すると、「平等になっている」という回答がやや少なくなっています。

性別では、男性より女性の方が「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた回答が多くなっています。

性・年代別では、男女ともに、70歳以上の年代を除き「平等になっている」という回答が最も多くなっています。

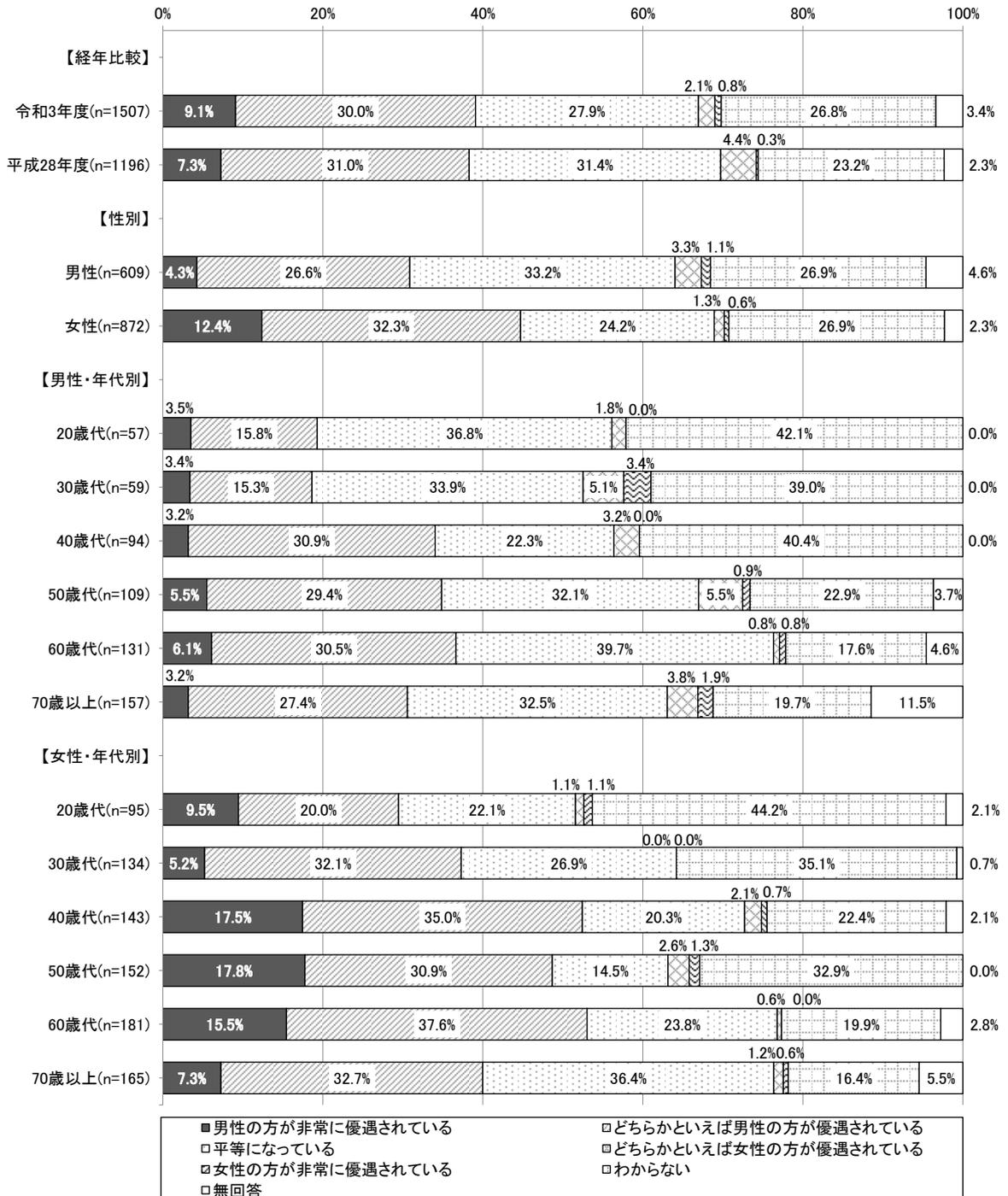


◆自治会等の地域社会で【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】

前回調査と比較すると、大きな差はありませんでした。

性別では、男性より女性の方が「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた回答が多くなっています。

性・年代別では、男性は20歳代～40歳代、女性は20歳代、30歳代、50歳代が、「わからない」という回答が最も多くなっています。また、男女ともに、40歳代～60歳代が「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた回答がやや多くなっています。

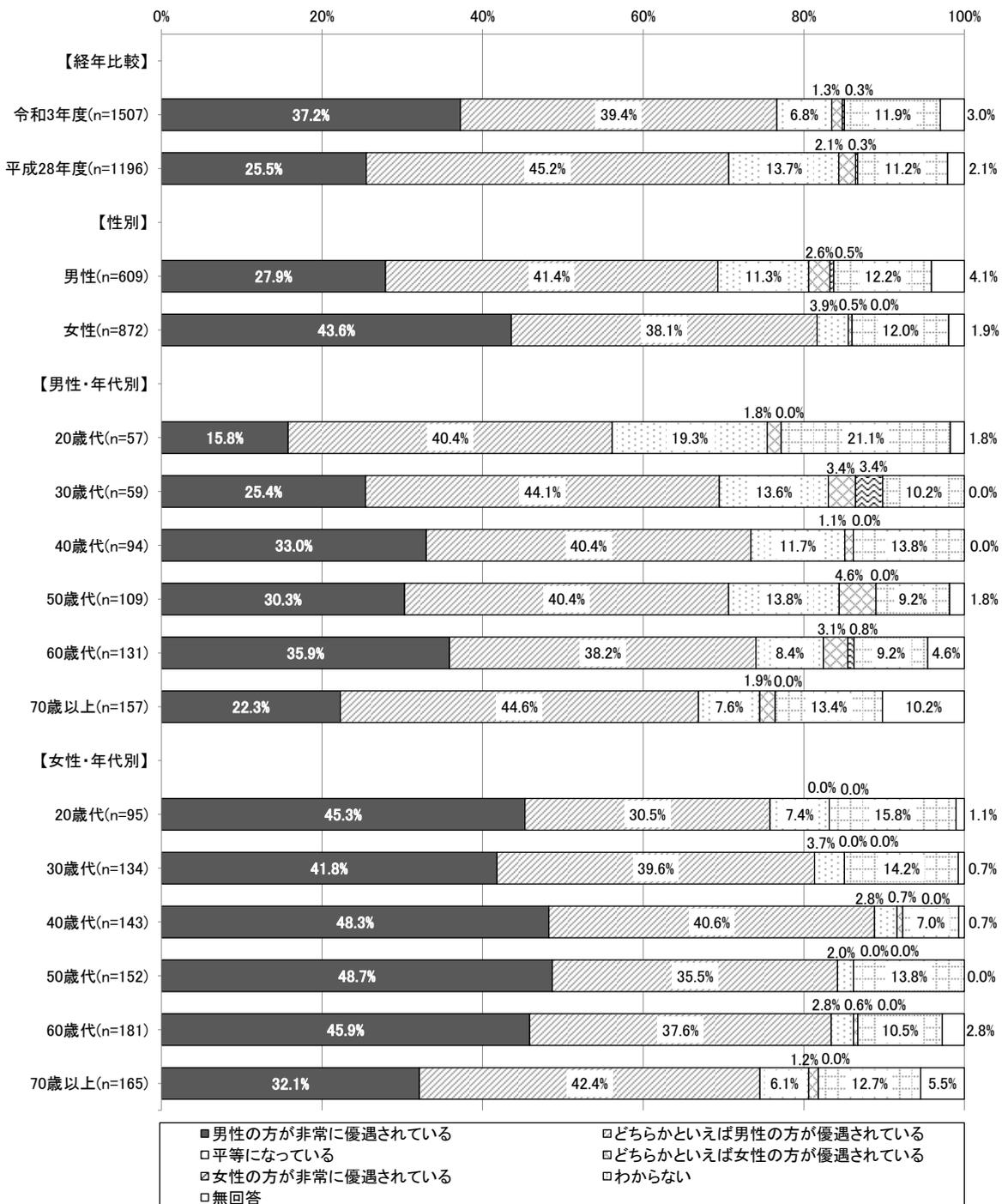


◆政治の場で【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】

前回調査と比較すると、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた回答が多くなっています。

性別では、男性より女性の方が「男性の方が非常に優遇されている」という回答が多くなっています。

性・年代別では、女性は30歳代～60歳代までは、8割以上の方が「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答しています。

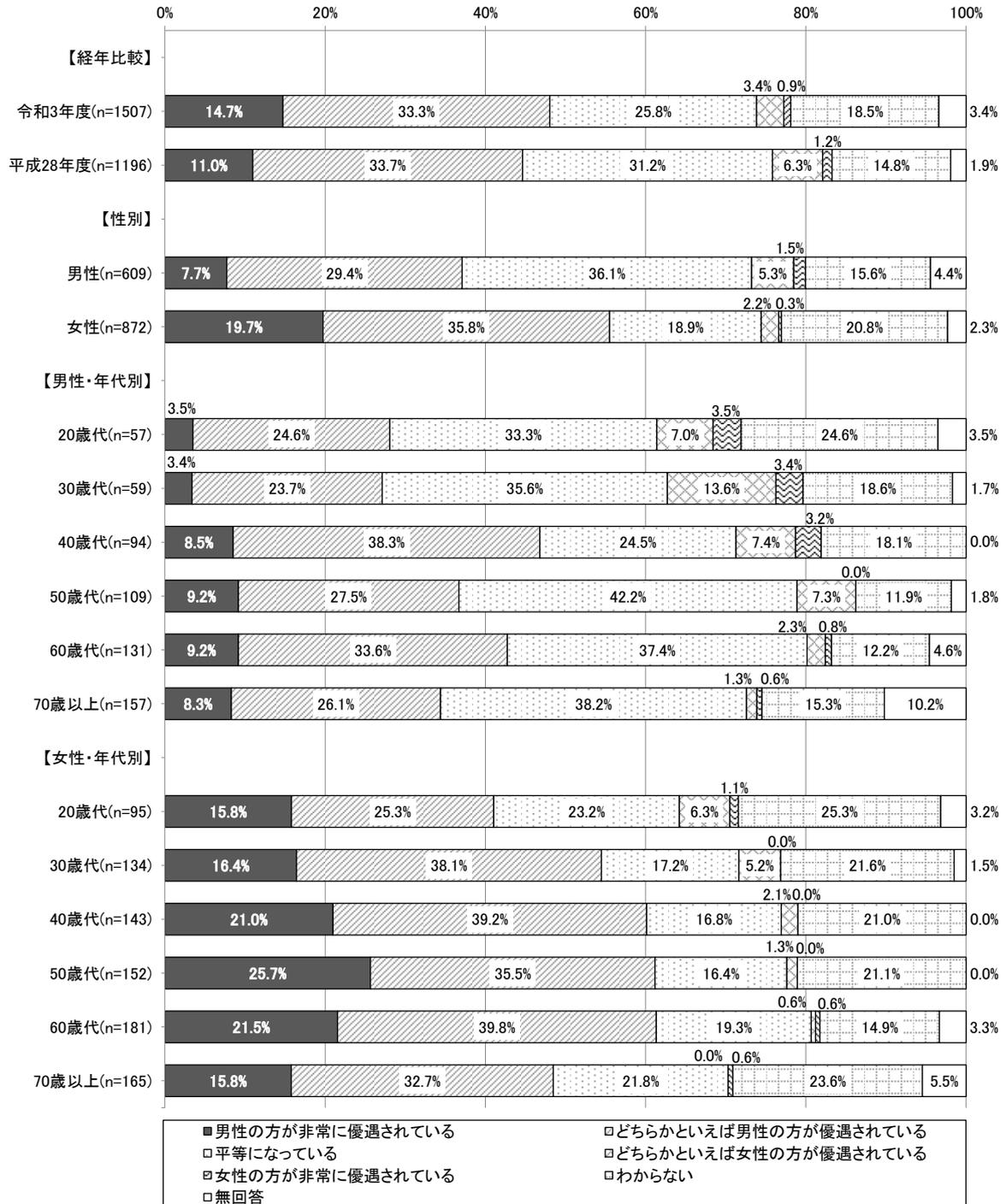


◆法律や制度の上で【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】

前回調査と比較すると、「平等になっている」という回答が少なくなっています。

性別では、男性より女性の方が「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた回答が多くなっています。

性・年代別では、女性は20歳代～60歳代まで、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた回答が年代が上がるに従って増加しています。一方、男性は年代によるバラつきがありますが、40歳代を除く年代は、「平等になっている」という回答が最も多くなっています。

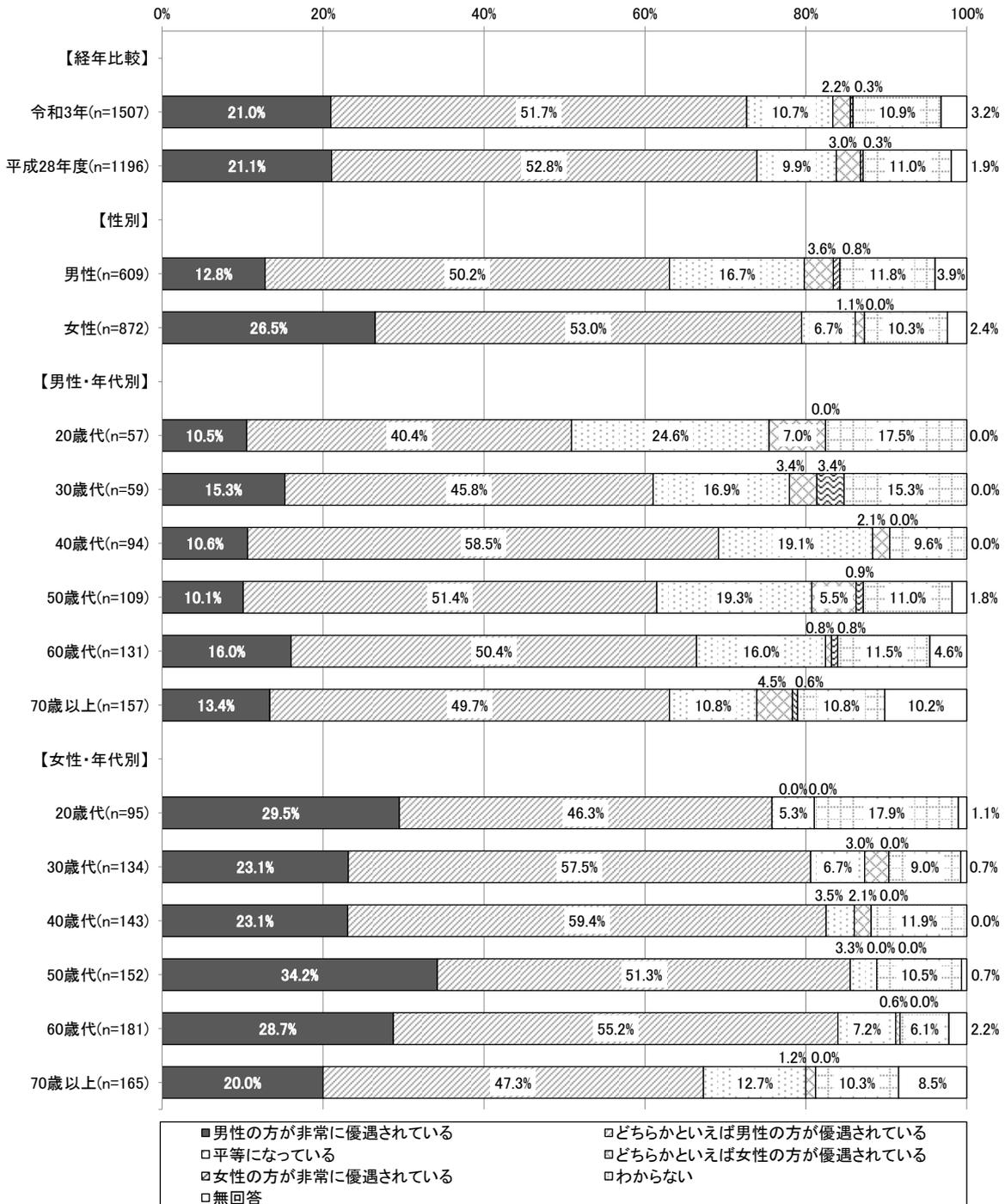


◆社会通念・慣習・しきたりなどで【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】

前回調査と比較すると、大きな差はあませんでした。

性別では、男性より女性の方が「男性の方が非常に優遇されている」という回答が多くなっています。

性・年代別では、女性は30歳代～60歳代が、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた回答が多く、8割以上の方が回答しています。男性も「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した年代が多くなっていますが、20歳代は比較的少なくなっています。

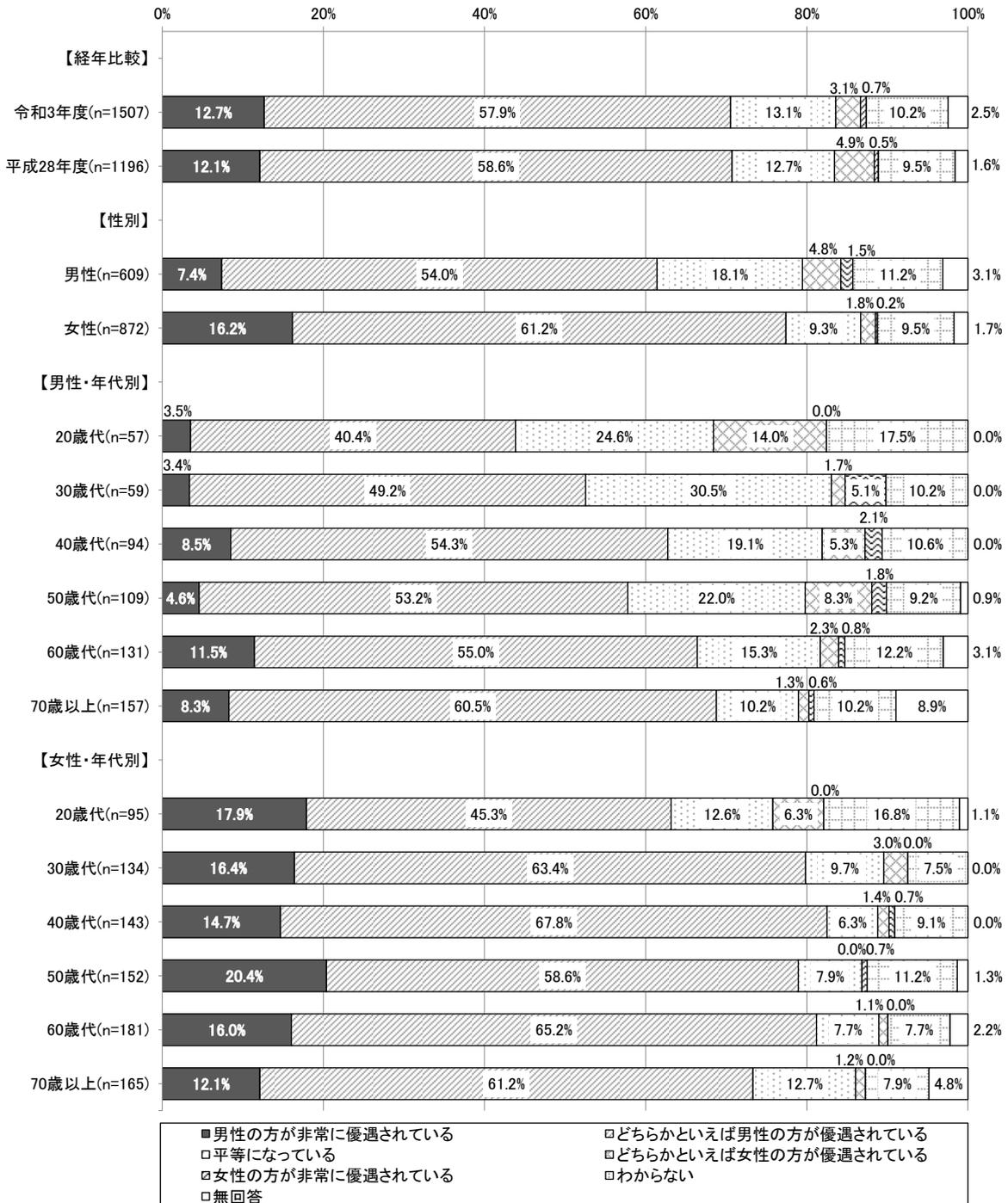


◆社会全体で【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】

前回調査と比較すると、大きな差はありませんでした。

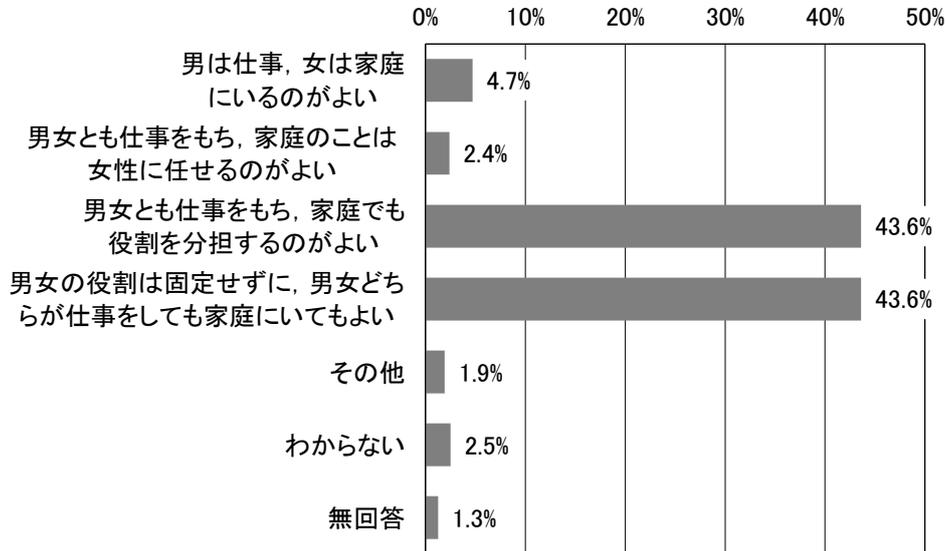
性別では、男性より女性の方が「男性の方が非常に優遇されている」という回答が多くなっています。

性・年代別では、女性は30歳代～60歳代まで、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた回答が約8割となっています。男性は年代が上がるに従い「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた回答が増加する傾向にあります。



問3 「男は仕事, 女は家庭」という考え方について, あなたの意見に近いものはどれですか。
(○は1つだけ)

「男は仕事, 女は家庭」という考え方については, 「男女とも仕事を持ち, 家庭でも役割を分担するのがよい」, 「男女の役割は固定せずに, 男女どちらが仕事をしていても家庭にいてもよい」がそれぞれ 43.6%と最も多くなっています。



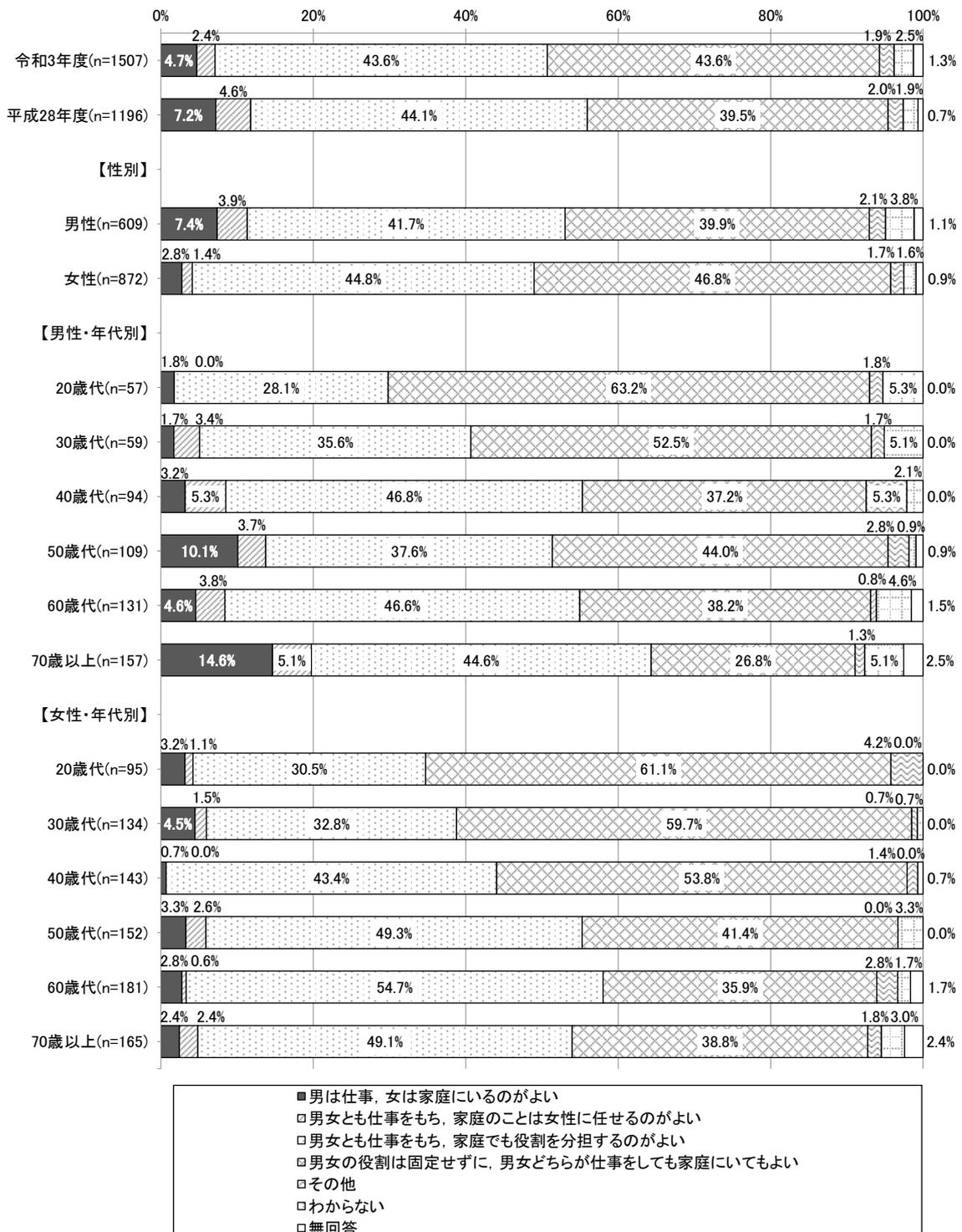
項目	度数	構成比
男は仕事, 女は家庭 にいるのがよい	71	4.7%
男女とも仕事を持ち, 家庭のことは 女性に任せるのがよい	36	2.4%
男女とも仕事を持ち, 家庭でも 役割を分担するのがよい	657	43.6%
男女の役割は固定せずに, 男女ど ちらが仕事をしていても家庭に いてもよい	657	43.6%
その他	29	1.9%
わからない	38	2.5%
無回答	19	1.3%
合計	1,507	100.0%

【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】

前回調査と比較すると、「男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をして家庭にいてもよい」という回答が多くなっています。

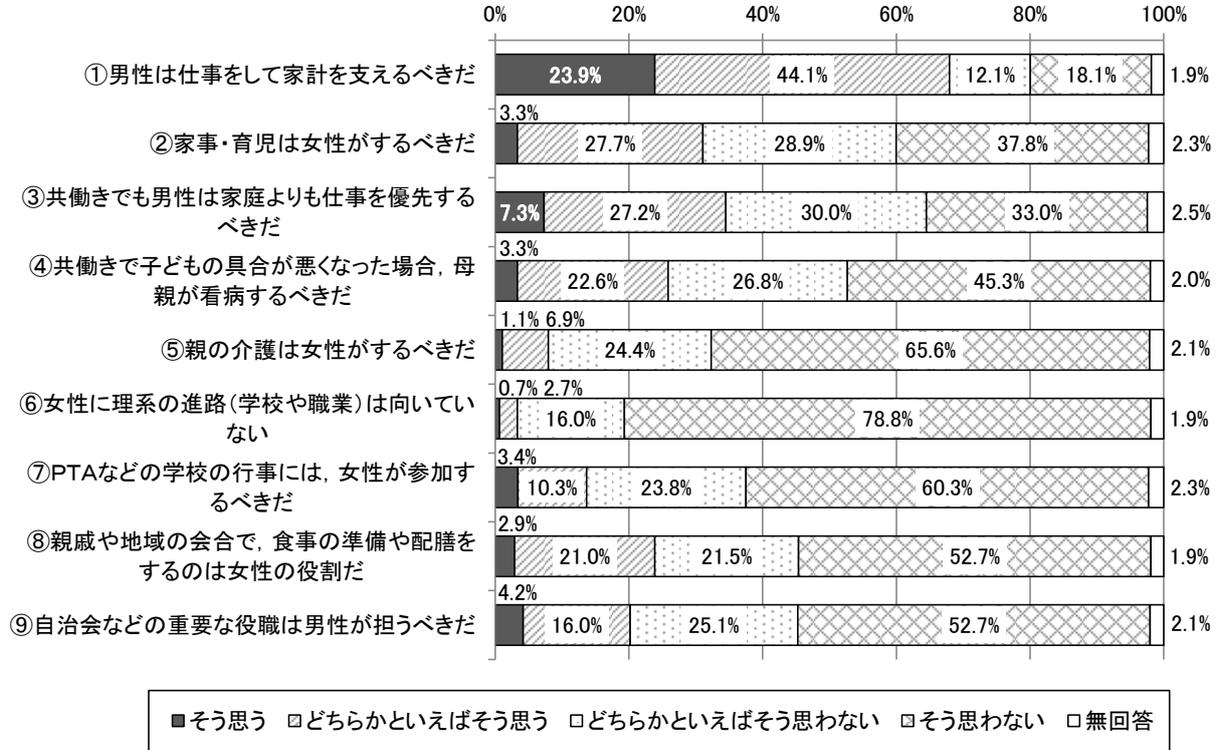
性別では、女性より男性の方が「男は仕事、女は家庭にいるのがよい」という回答が多く、女性は男性に比べ「男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をして家庭にいてもよい」という回答が多くなっています。

性・年代別では、女性は20歳代～60歳代までは、年代が上がるに従い、「男女とも仕事をもち、家庭でも責任を分担するのがよい」という回答が多くなっています。男性は年代が上がるに従い、「男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をして家庭にいてもよい」という回答が少なくなる傾向にあります。



問4 次の①～⑨の項目について、あなたの考えに近いものはどれですか。（それぞれについてあてはまる番号に○を1つ）

男女で担うべき役割の考え方については、「そう思う」という回答が最も多かったのが「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」で23.9%でした。また、「そう思わない」という回答が最も多かったのが「女性に理系の進路(学校や職業)は向いていない」で78.8%となっています。

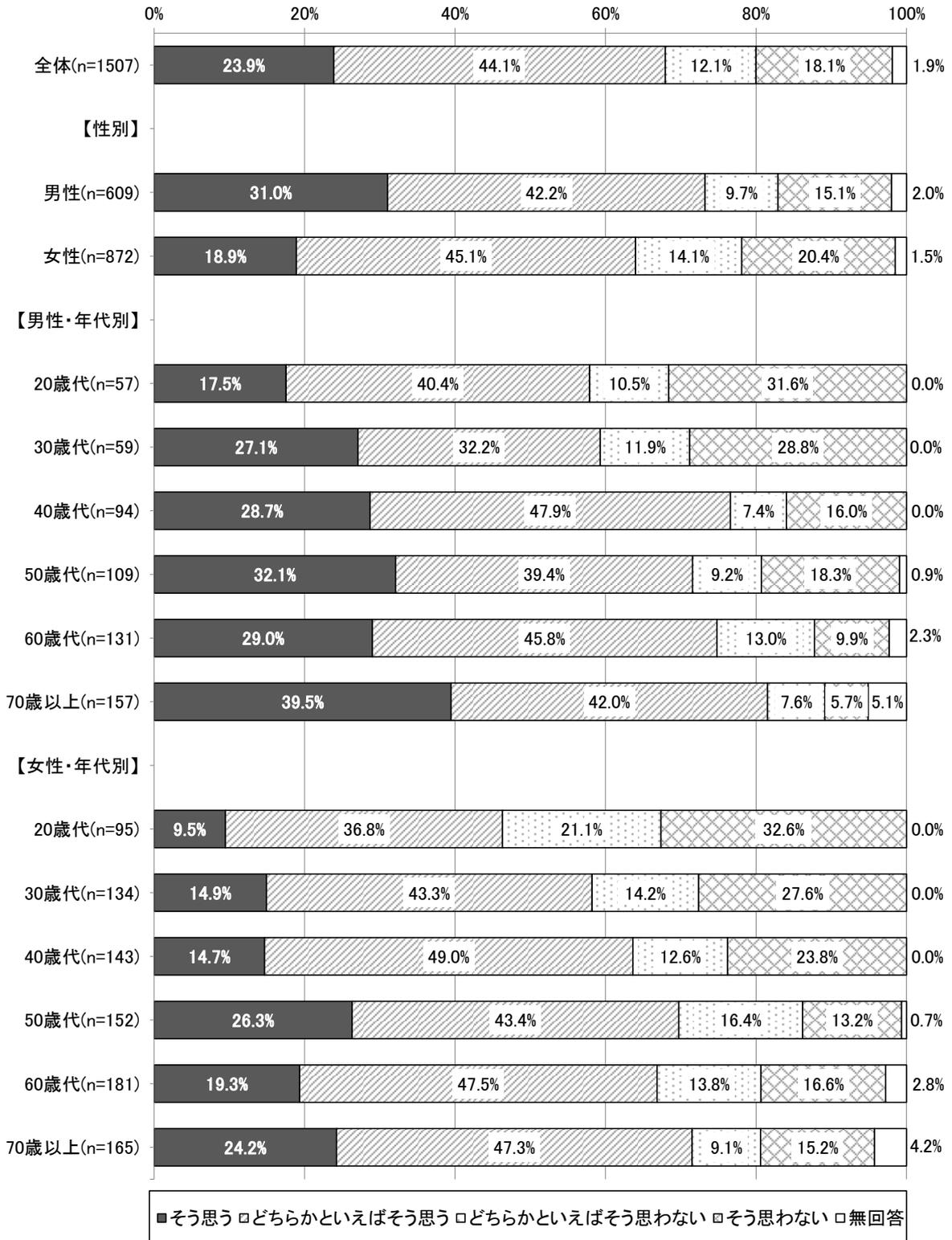


項目(度数)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	合計
①男性は仕事をして家計を支えるべきだ	360	664	182	273	28	1,507
②家事・育児は女性がするべきだ	50	418	436	569	34	1,507
③共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	110	410	452	498	37	1,507
④共働きで子どもの具合が悪くなった場合、母親が看病するべきだ	50	340	404	683	30	1,507
⑤親の介護は女性がするべきだ	16	104	367	988	32	1,507
⑥女性に理系の進路(学校や職業)は向いていない	10	40	241	1,187	29	1,507
⑦PTAなどの学校の行事には、女性が参加するべきだ	51	155	359	908	34	1,507
⑧親戚や地域の会合で、食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	44	316	324	794	29	1,507
⑨自治会などの重要な役職は男性が担うべきだ	63	241	378	794	31	1,507

◆男性は仕事をして家計を支えるべきだ【性別，性・年代別クロス】

性別では，女性より男性の方が「そう思う」という回答が多くなっています。

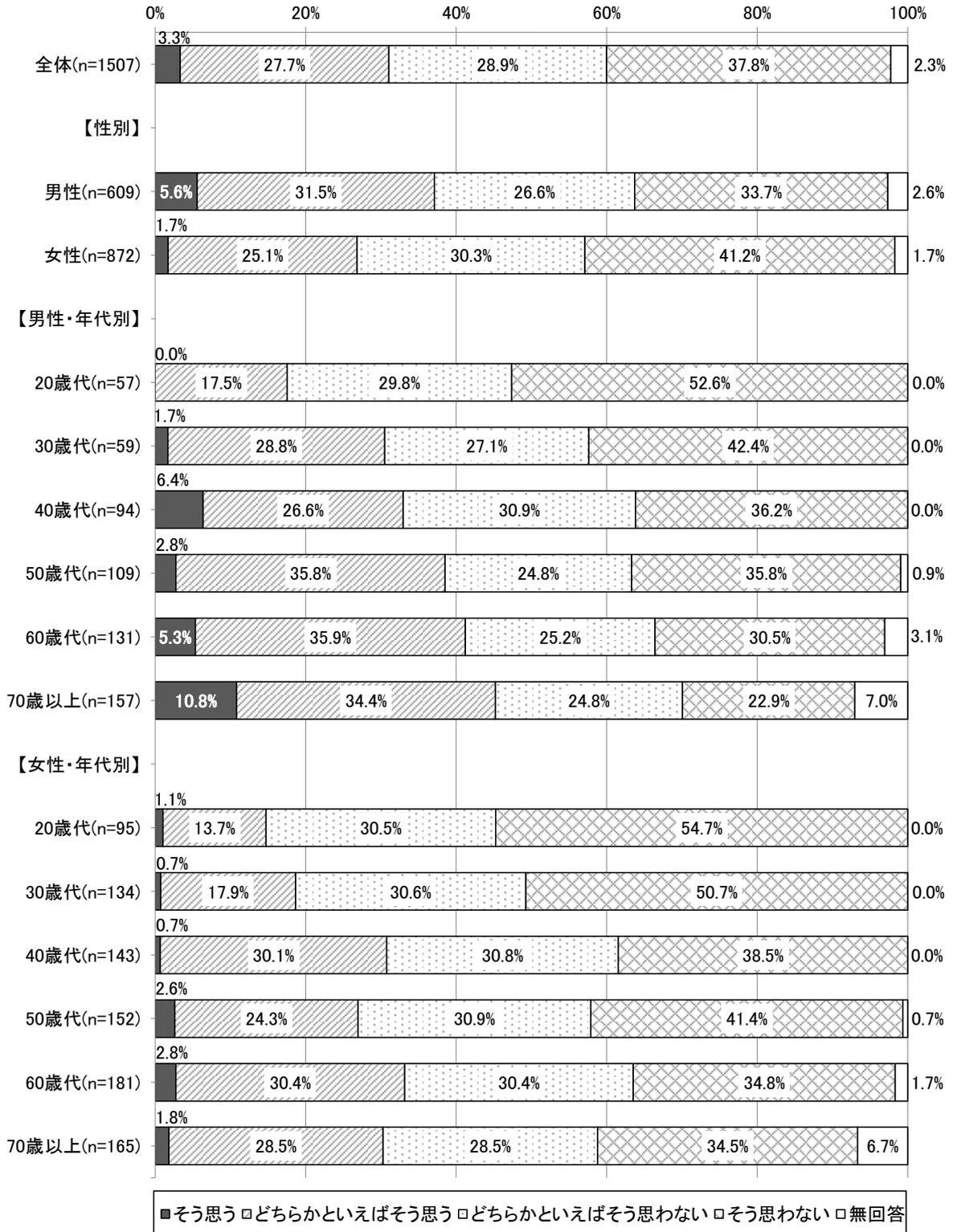
性・年代別では，女性は20歳代～50歳代まで，「そう思う」，「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答が，年代が上がるに従い多くなっています。男性は70歳以上が「そう思う」という回答がやや多くなっています。



◆家事・育児は女性がするべきだ【性別，性・年代別クロス】

性別では，女性より男性の方が「そう思う」という回答が多くなっています。

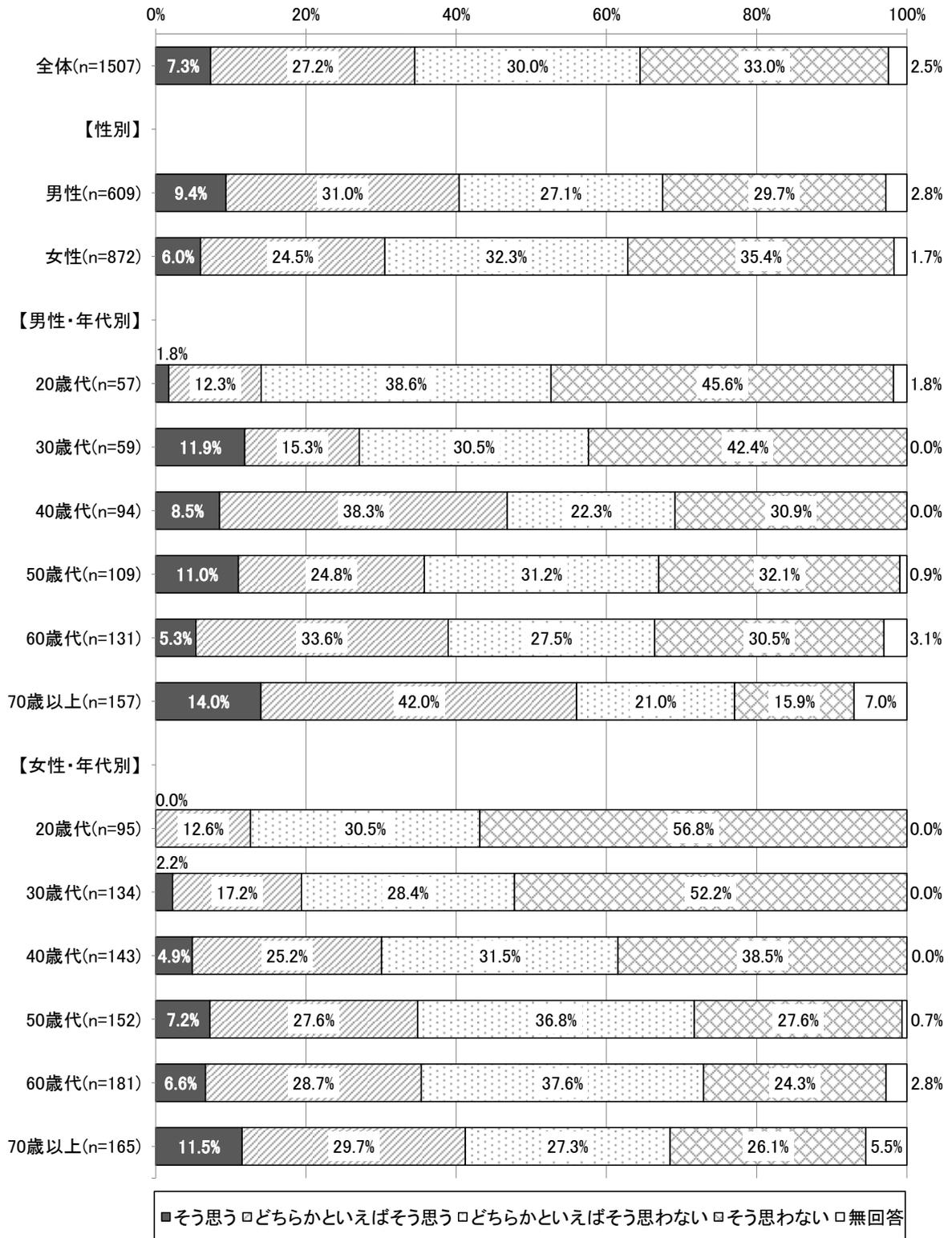
性・年代別では，女性は全ての年代で「そう思わない」という回答が最も多くなっています。男性は年代が上がるに従って「そう思わない」という回答が少なくなっています。



◆共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ【性別、性・年代別クロス】

性別では、男性より女性の方が「そう思わない」という回答が多くなっています。

性・年代別では、女性は年代が上がるに従って「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答が多くなっています。男性は年代によって回答にバラつきがありますが、20歳代～30歳代は「そう思わない」という回答がやや多くなっています。

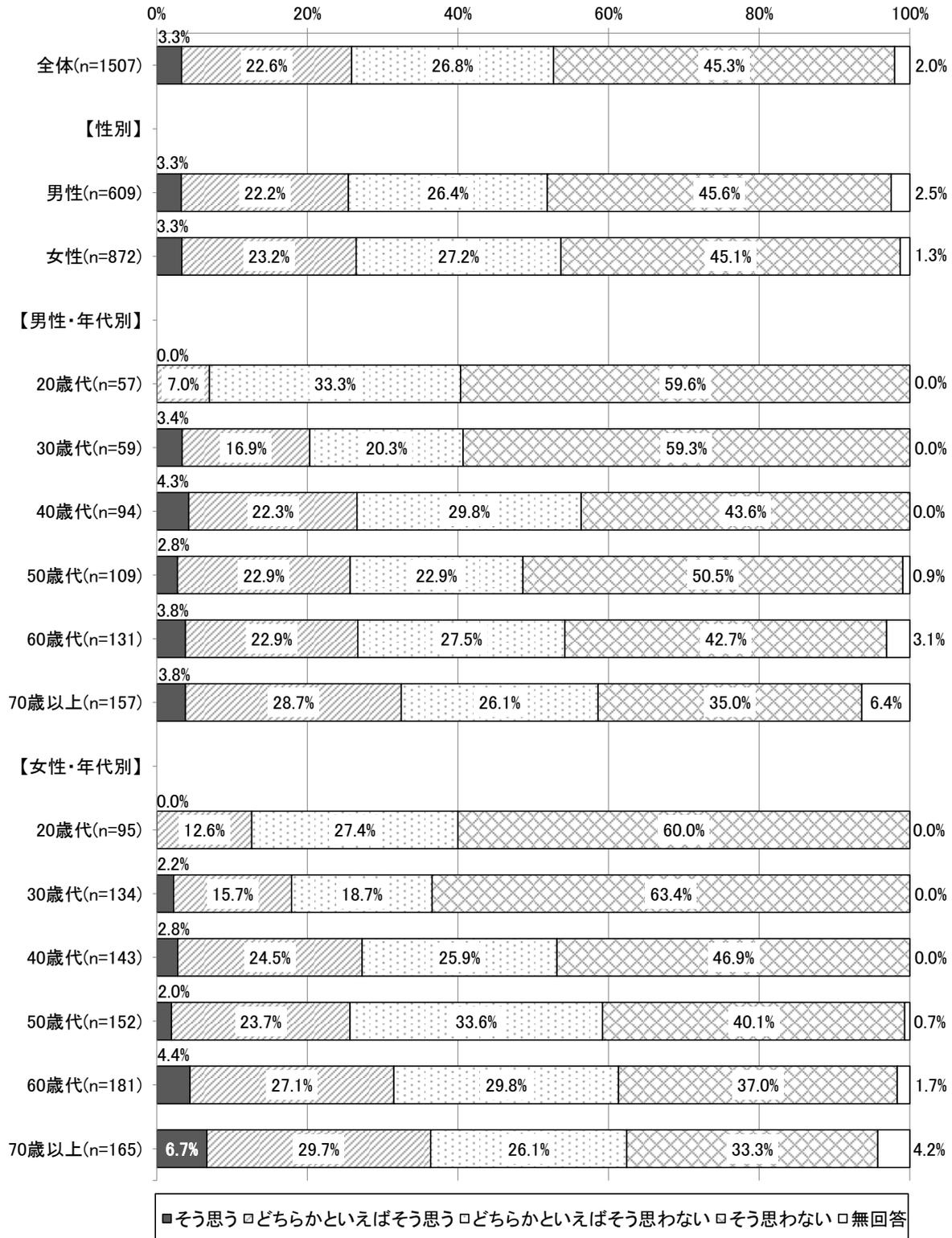


◆共働きで子どもの具合が悪くなった場合、母親が看病すべきだ

【性別、性・年代別クロス】

性別では、大きな差はありませんでした。

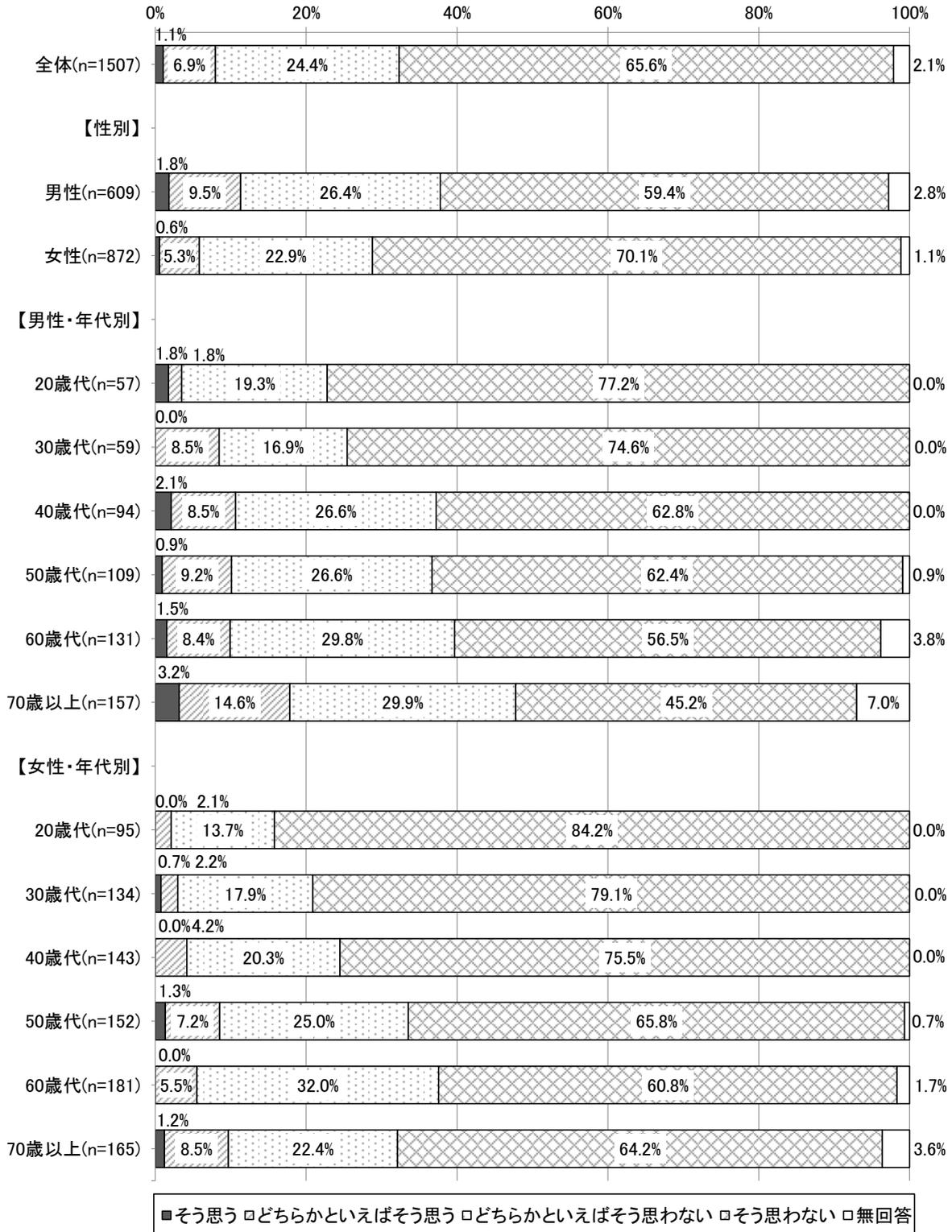
性・年代別では、男女ともに、20歳代～30歳代が「そう思わない」という回答が多くなっています。また、女性は40歳代から年代が上がるに従って「そう思わない」という回答が少なくなっています。



◆親の介護は女性がするべきだ【性別、性・年代別クロス】

性別では、男性より女性の方が「そう思わない」という回答が多くなっています。

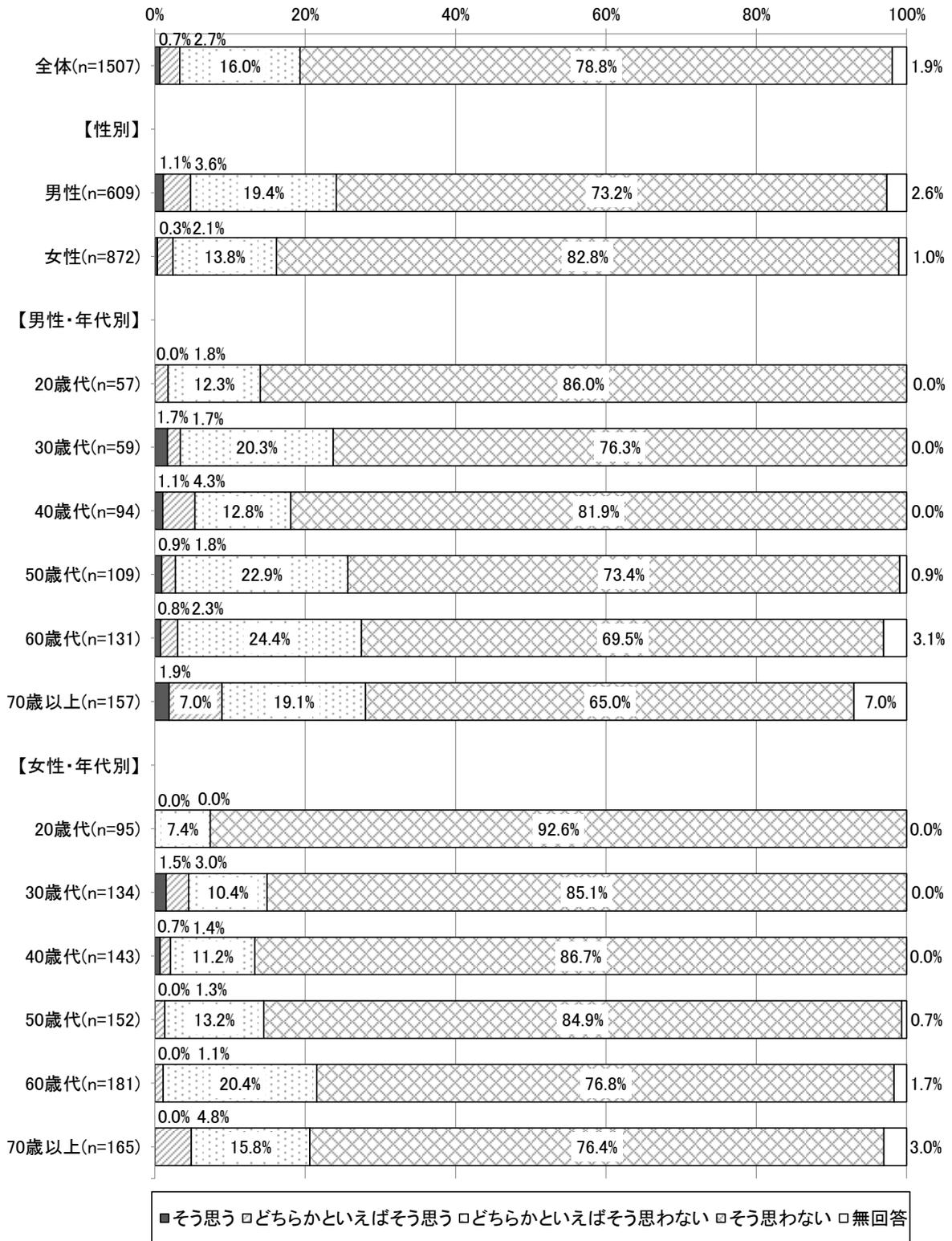
性・年代別では、女性の20歳代～60歳代は、年代が上がるに従って「そう思わない」という回答が少なくなっています。男性は、年代が上がるに従って「そう思わない」という回答が少なくなっています。



◆女性に理系の進路(学校や職業)は向いていない【性別, 性・年代別クロス】

性別では, 男性より女性の方が「そう思わない」という回答が多くなっています。

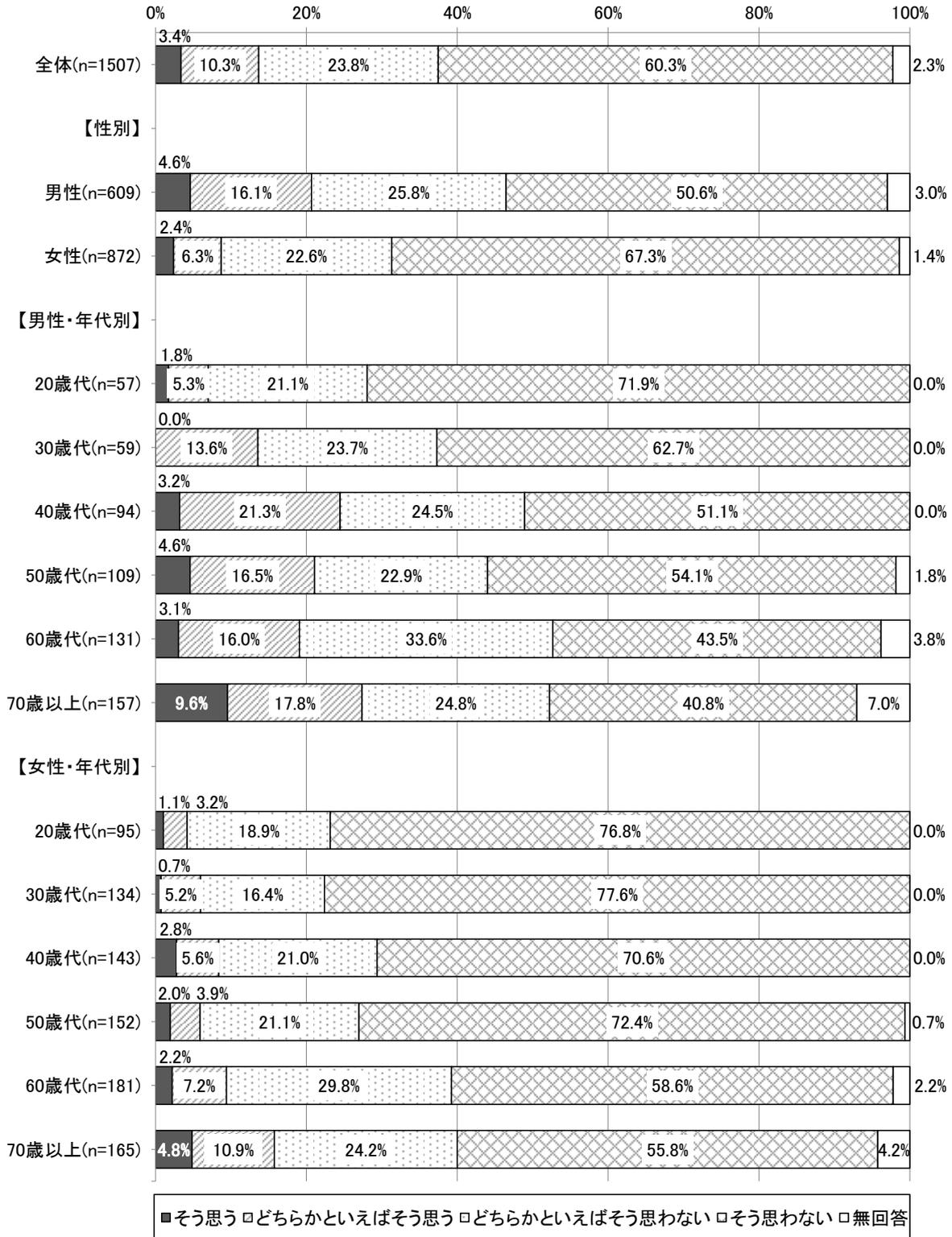
性・年代別では, 女性の20歳代は「そう思わない」という回答が9割を超えています。男性は40歳代~70歳以上まで, 年代が上がるに従って「そう思わない」という回答が少なくなっています。



◆PTAなどの学校の行事には、女性が参加するべきだ【性別、性・年代別クロス】

性別では、男性より女性の方が「そう思わない」という回答が多くなっています。

性・年代別では、女性は20歳代～50歳代で「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」を合わせた回答が9割を超えています。男性は60歳代～70歳以上が「そう思わない」という回答がやや少なくなっています。

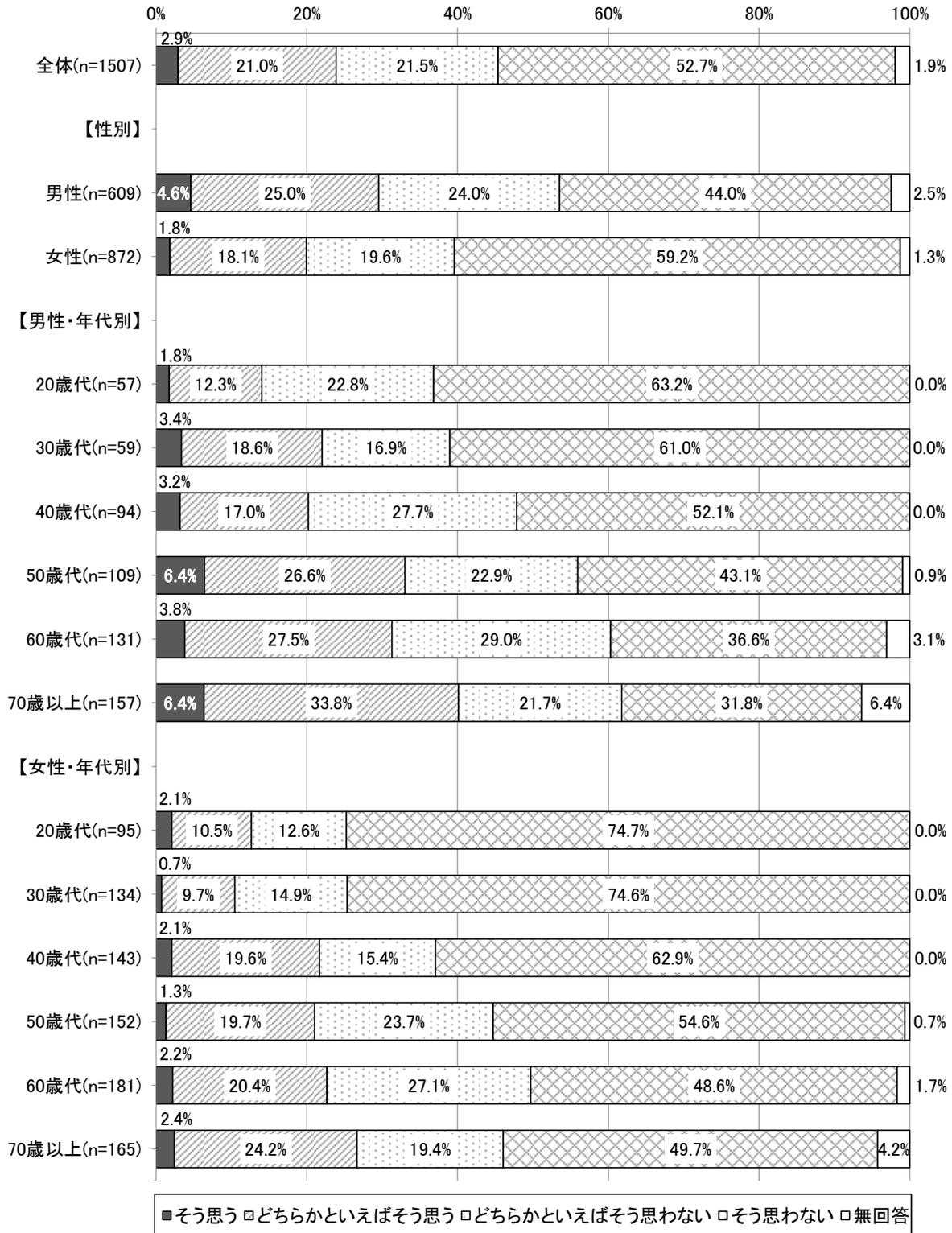


◆親戚や地域の会合で、食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ

【性別、性・年代別クロス】

性別では、男性より女性の方が「そう思わない」という回答が多くなっています。

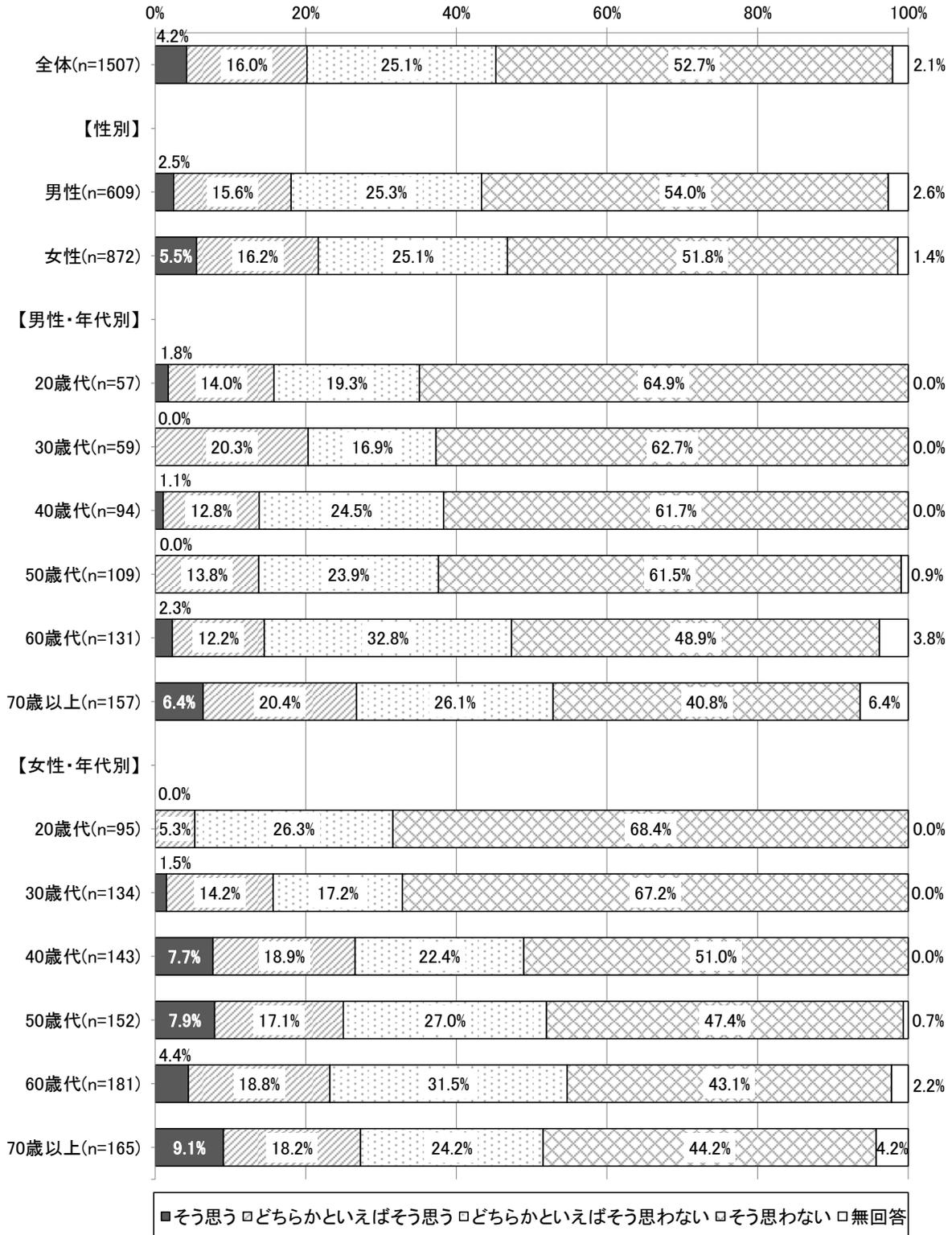
性・年代別では、女性は20歳代～30歳代で「そう思わない」という回答が7割を超えています。男性は年代が上がるに従って「そう思わない」という回答が少なくなっています。



◆自治会などの重要な役職は男性が担うべきだ【性別、性・年代別クロス】

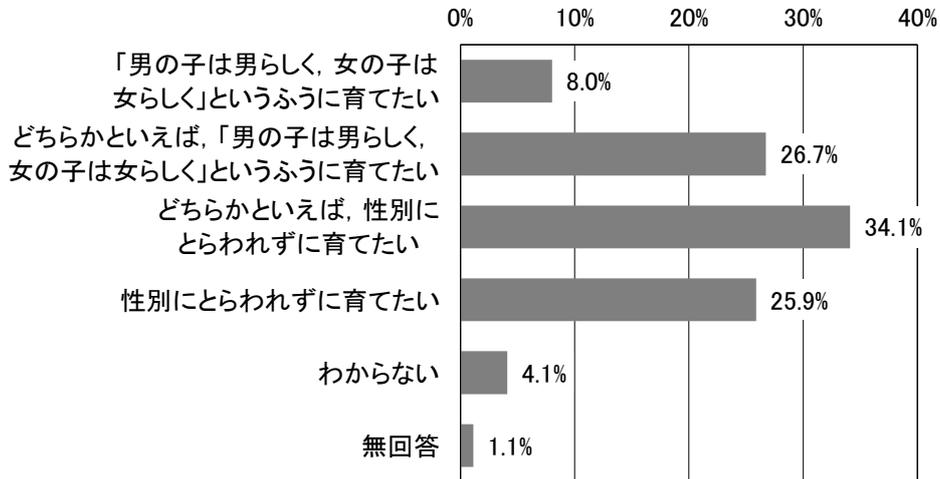
性別では、男性より女性の方が「そう思う」という回答がやや多くなっています。

性・年代別では、女性は20歳代～30歳代が「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」を合わせた回答が多くなっています。男性は60歳代～70歳以上が「そう思わない」という回答がやや少なくなっています。



問5 あなたは自分の子どもをどのように育てたいと思いますか。子どもがいない場合は、いると仮定して選んでください。(○は1つだけ)

自分の子どもをどのように育てたいかについては、「『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに育てたい」、「どちらかといえば、『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに育てたい」が合わせて34.7%、「どちらかといえば、性別にとらわれずに育てたい」、「性別にとらわれずに育てたい」が合わせて60.0%となっています。



項目	度数	構成比
「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに育てたい	121	8.0%
どちらかといえば、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに育てたい	403	26.7%
どちらかといえば、性別にとらわれずに育てたい	514	34.1%
性別にとらわれずに育てたい	390	25.9%
わからない	62	4.1%
無回答	17	1.1%
合計	1,507	100.0%

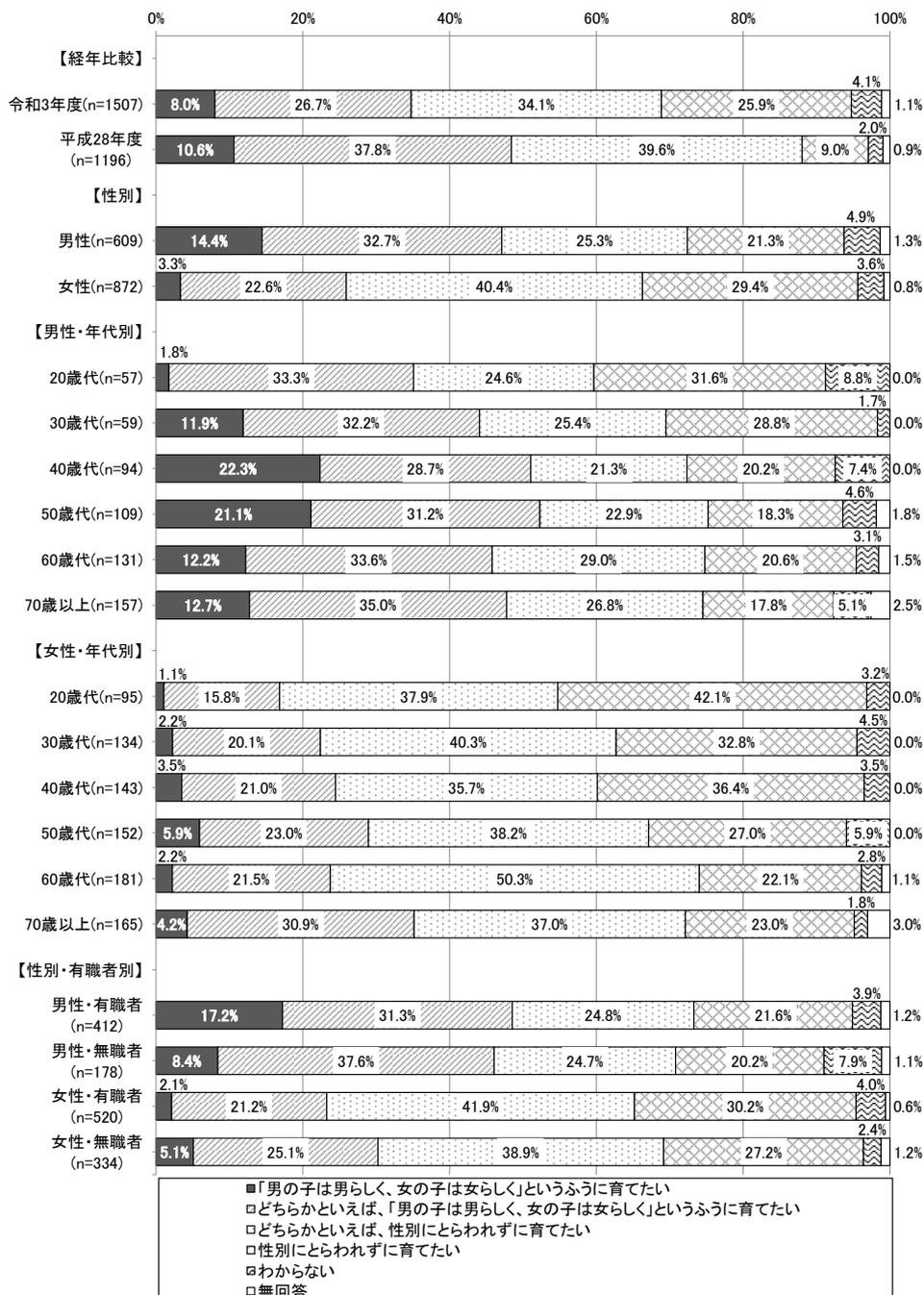
【経年比較, 性別, 性・年代別, 有無職者別クロス】

前回調査と比較すると、「どちらかといえば『男の子は男らしく, 女の子は女らしく』というふうに育てたい」という回答が少なくなっています。また, 「性別にとらわれずに育てたい」という回答が多くなっています。

性別では, 女性より男性の方が「どちらかといえば『男の子は男らしく, 女の子は女らしく』というふうに育てたい」という回答が多くなっています。また, 男性より女性の方が「どちらかといえば性別にとらわれずに育てたい」という回答が多くなっています。

性・年代別では, 男性は, 40歳代, 50歳代が『男の子は男らしく, 女の子は女らしく』というふうに育てたい」という回答が多くなっています。女性は, 概ね年代が上がるに従い, 『男の子は男らしく, 女の子は女らしく』というふうに育てたい, 「どちらかといえば『男の子は男らしく, 女の子は女らしく』というふうに育てたい」を合わせた回答が多くなっています。

性別・有職者別では, 男性の有職者が他の性別・有職者と比べて『男の子は男らしく, 女の子は女らしく』というふうに育てたい」という回答が多くなっています。

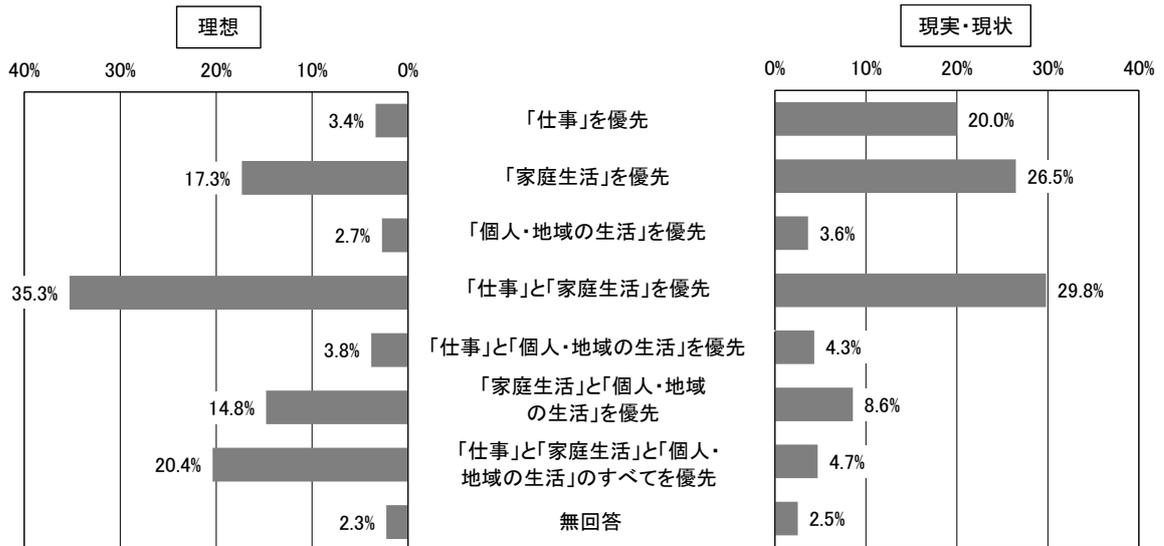


(4) ワーク・ライフ・バランスについて

問6 生活の中で、「仕事」、「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「個人・地域の生活」の優先度についてお伺いします。(○は1つだけ)

生活の中で、仕事、家庭生活、個人・地域の生活の優先順位については、「理想」は、『仕事』と『家庭生活』を優先」が 35.3%で最も多く、次いで『仕事』と『家庭生活』と『個人・地域の生活』のすべてを優先」が 20.4%となっています。

「現実・現状」は、『仕事』と『家庭生活』を優先」が 29.8%で最も多くなっています。次いで『家庭生活』を優先」が 26.5%となっています。



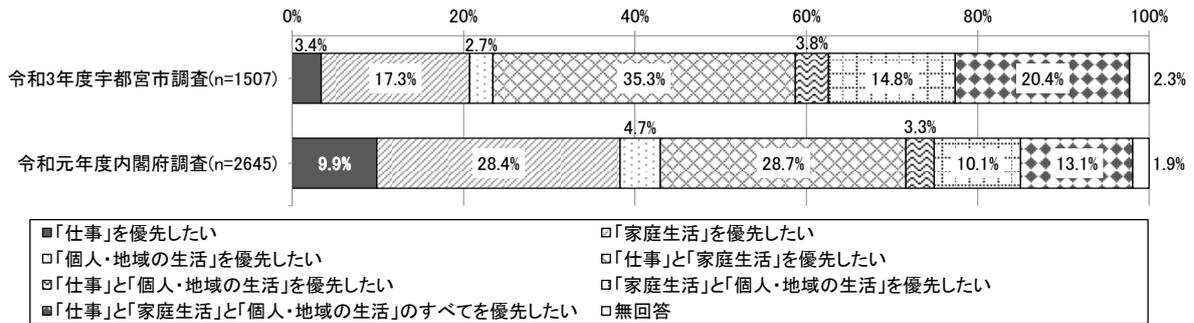
項目	理想		現実・現状	
	度数	構成比	度数	構成比
「仕事」を優先	51	3.4%	301	20.0%
「家庭生活」を優先	261	17.3%	399	26.5%
「個人・地域の生活」を優先	41	2.7%	55	3.6%
「仕事」と「家庭生活」を優先	532	35.3%	449	29.8%
「仕事」と「個人・地域の生活」を優先	58	3.8%	65	4.3%
「家庭生活」と「個人・地域の生活」を優先	223	14.8%	129	8.6%
「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」のすべてを優先	307	20.4%	71	4.7%
無回答	34	2.3%	38	2.5%
合計	1,507	100.0%	1,507	100.0%

【宇都宮市, 内閣府調査比較】

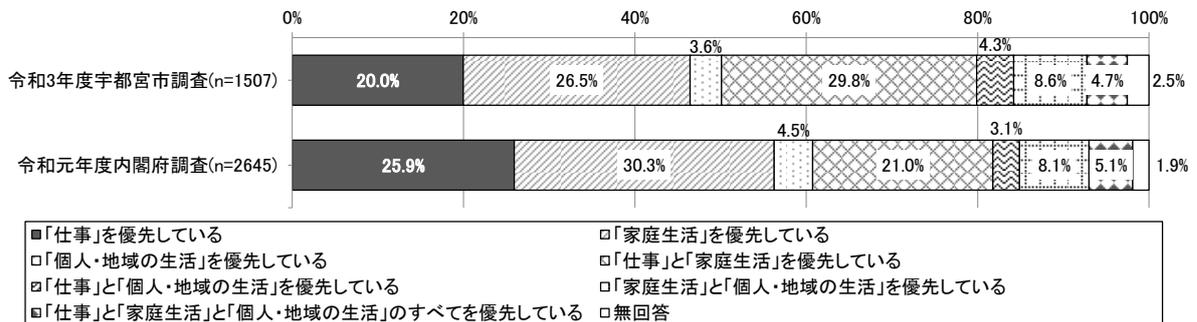
国調査と比較すると、「理想」では国調査に比べ『家庭生活』を優先したい」という回答が少なく、『仕事』と『家庭生活』を優先したい」という回答が多くなっています。

また、「現実」では、『仕事』を優先している」という回答が国調査に比べて少なく、『仕事』と『家庭生活』を優先している」という回答が多くなっています。

理想



現実



【経年比較, 性別, 性・年代別, 有職者別クロス】

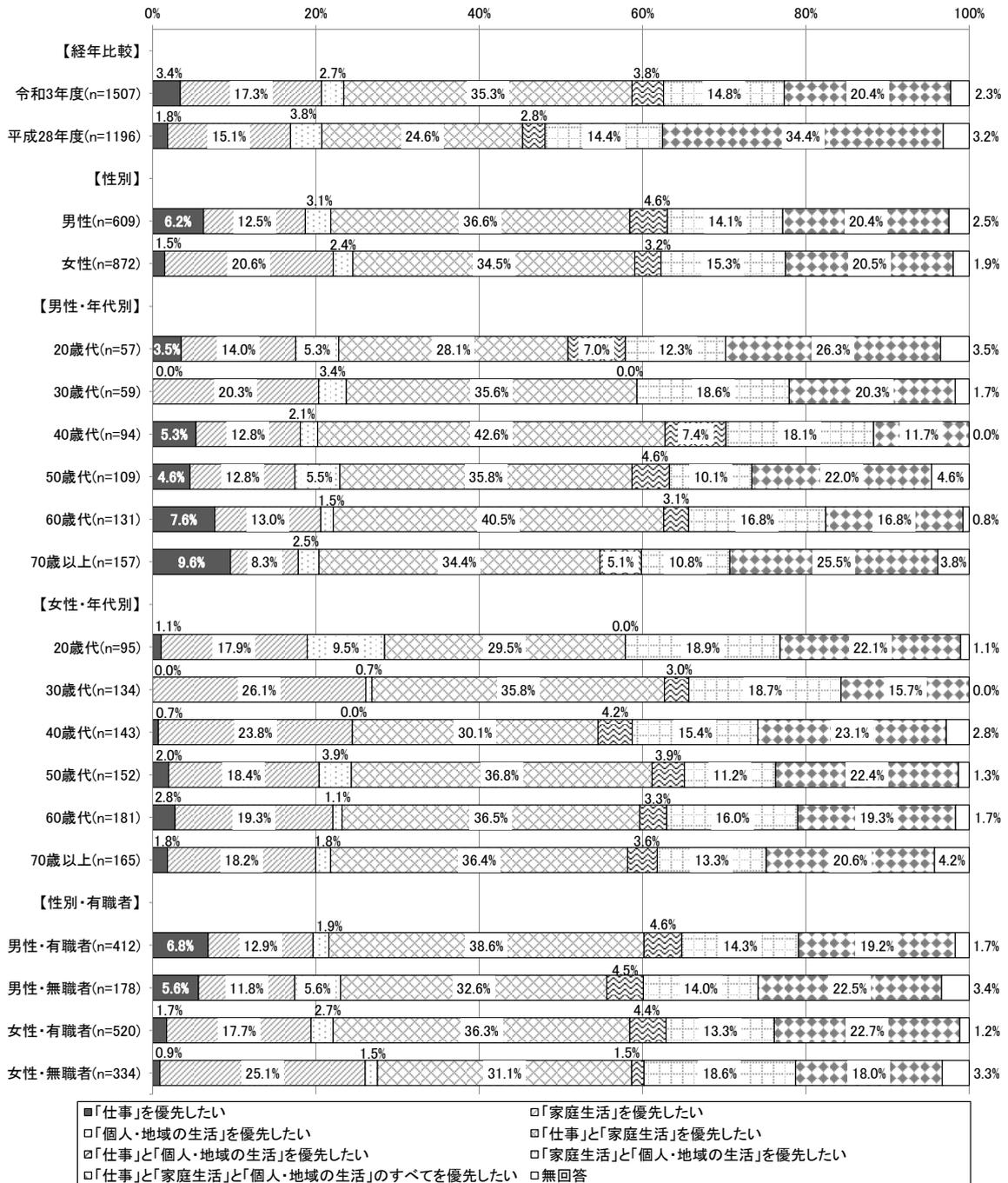
理想

前回調査と比較すると、「『仕事』と『家庭生活』を優先したい」が多く、「『仕事』と『家庭生活』と『個人・地域の生活』のすべてを優先したい」が少なくなっています。

性別では、男性より女性の方が、「『家庭生活』を優先したい」という回答が多くなっています。

性・年代別では、男女ともに、30歳代が「『仕事』を優先したい」という回答が少なくなっています。

性別・有職者別では、女性の無職者が、「『家庭生活』を優先したい」という回答が多くなっています。



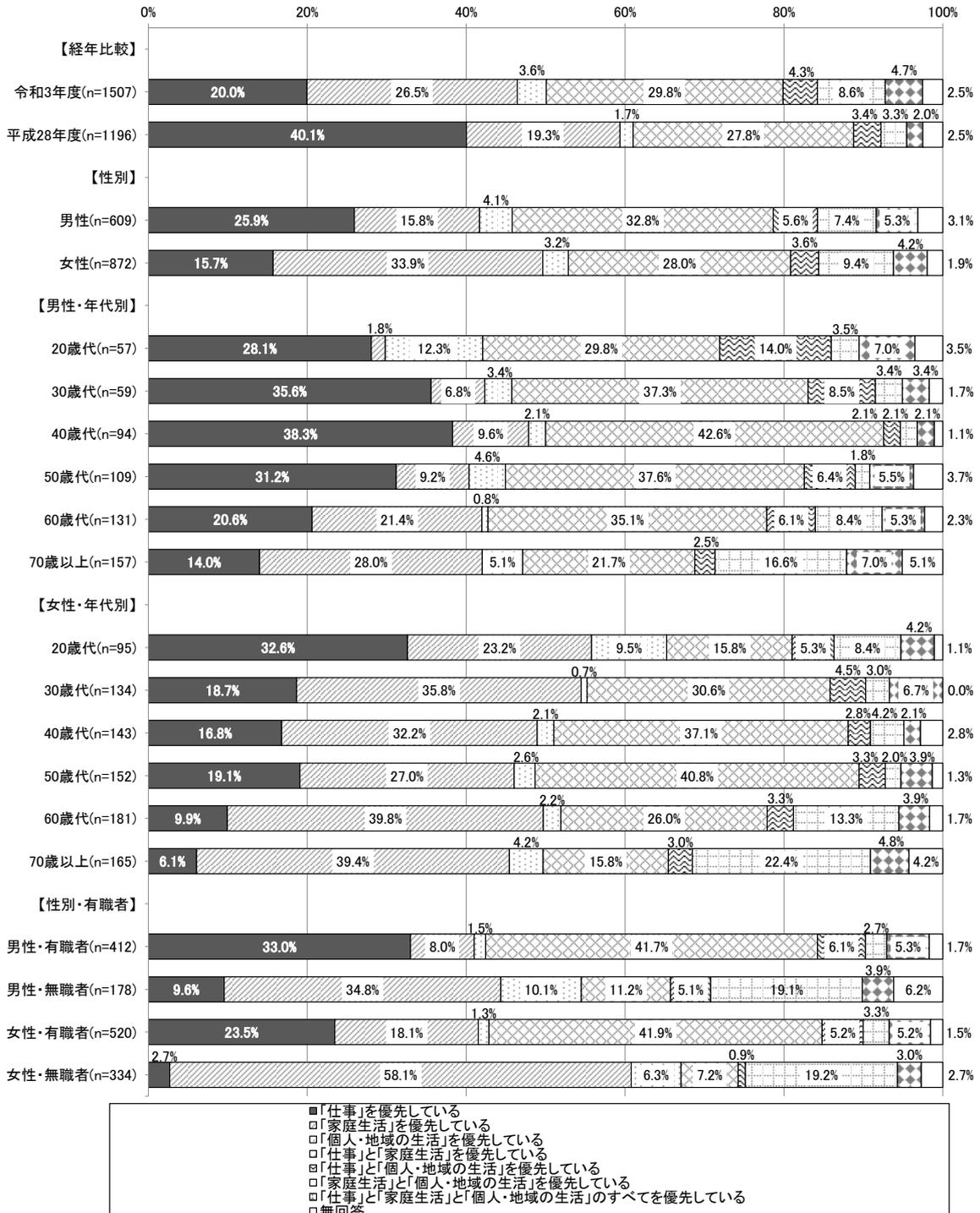
現実

前回調査と比較すると、「『仕事』を優先している」という回答が少なくなっています。

性別では、女性より男性の方が「『仕事』を優先している」という回答が多く、男性より女性の方が「『家庭生活』を優先している」という回答が多くなっています。

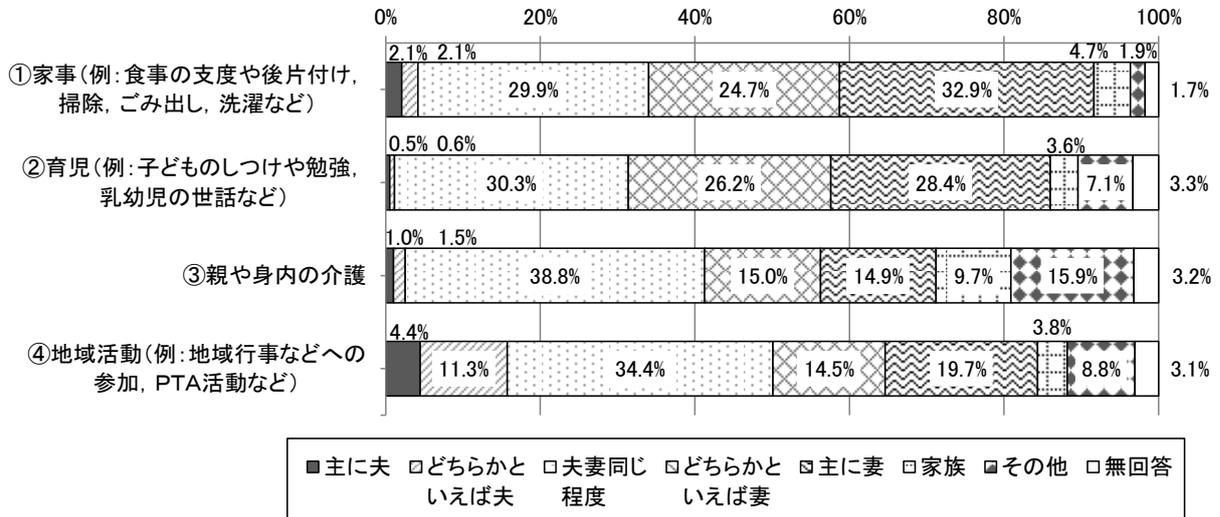
性・年代別では、男性の40歳代、女性の20歳代が「『仕事』を優先している」という回答が最も多くなっています。

有職者別では、男性の有職者、女性の有職者ともに「『仕事』と『家庭生活』を優先している」という回答が多くなっています。



問7 あなたは、次の①～④について、夫婦の間でどのように分担していますか。配偶者のいない場合は、配偶者がいるとしたらどのようにしたいと思いますか。（それぞれについてあてはまる番号に○を1つ）

夫婦の間の分担については、「夫妻同じ程度」という回答で多いのは「親や身内の介護」で38.8%となっています。「どちらかといえば妻」という回答で多いのは「育児」で26.2%、「主に妻」という回答で多いのは「家事」で32.9%となっています。



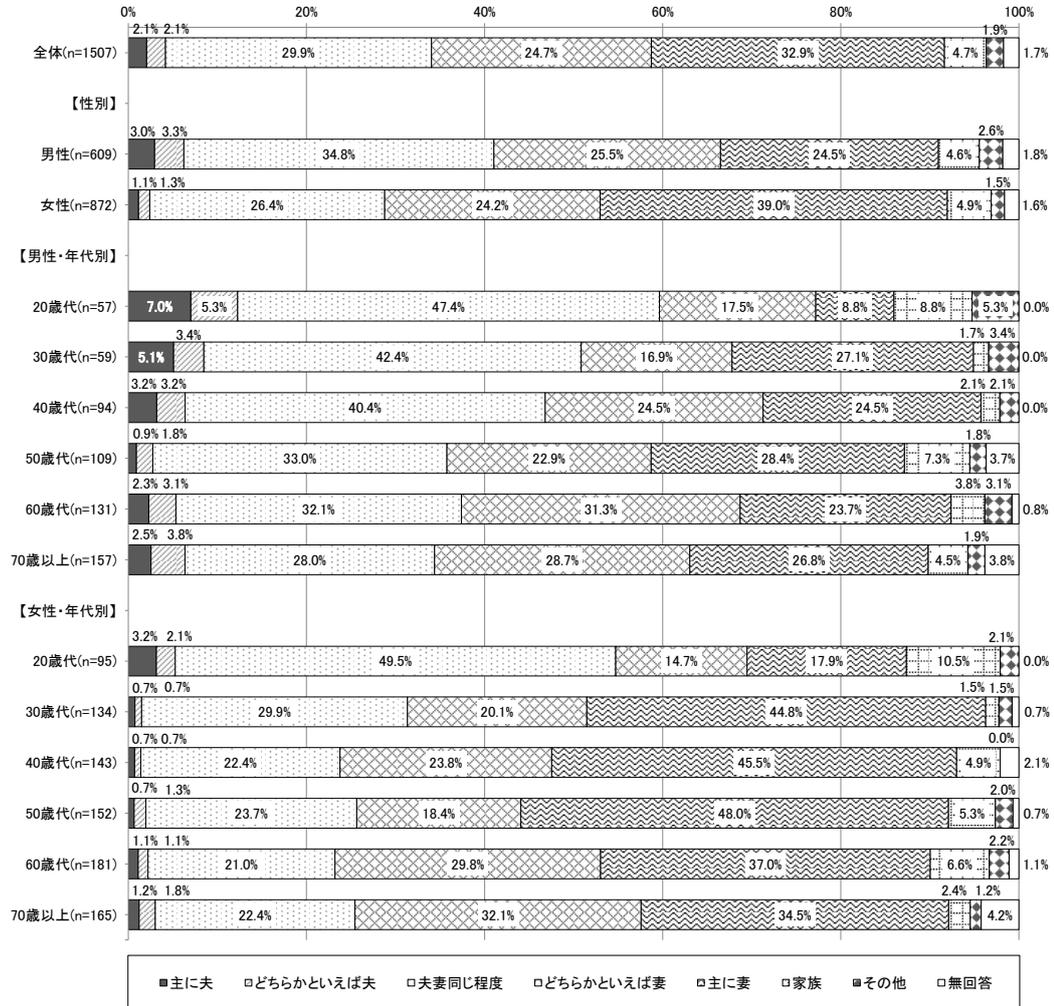
項目(度数)	主に夫	どちらかといえば夫	夫妻同じ程度	どちらかといえば妻	主に妻	家族	その他	無回答	合計
①家事(例:食事の支度や後片付け,掃除,ごみ出し,洗濯など)	31	32	450	372	496	71	29	26	1,507
②育児(例:子どものしつけや勉強,乳幼児の世話など)	8	9	456	395	428	54	107	50	1,507
③親や身内の介護	15	23	584	226	225	146	240	48	1,507
④地域活動(例:地域行事などへの参加,PTA活動など)	67	170	518	219	297	58	132	46	1,507

◆家事(例:食事の支度や後片付け, 掃除, ごみ出し, 洗濯など)

【性別, 性・年代別クロス】

性別では, 男性よりも女性の方が「主に妻」という回答が多くなっていますが, 女性に比べて男性は, 「夫妻同じ程度」という回答が多くなっています。

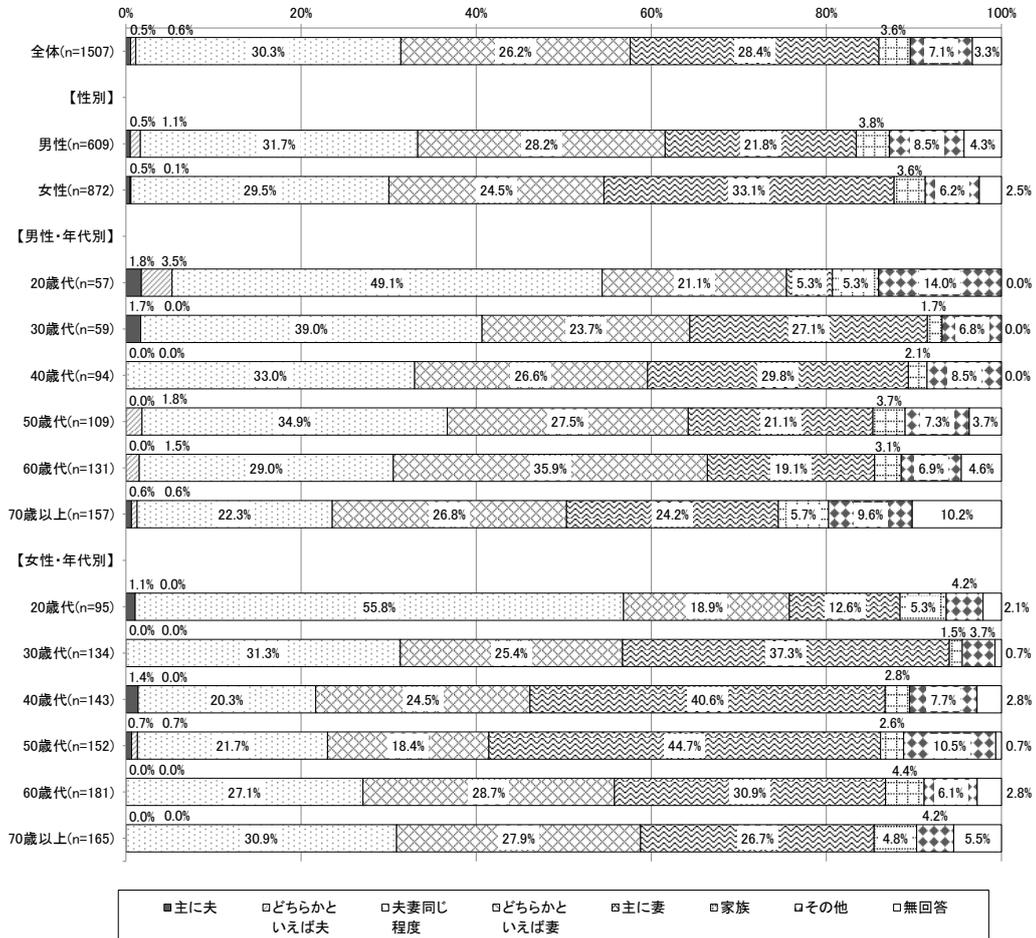
性・年代別では, 男女ともに, 20歳代が「夫婦同じ程度」という回答が多くなっています。



◆育児(例:子どものしつけや勉強, 乳幼児の世話など)【性別, 性・年代別クロス】

性別では, 男性よりも女性の方が「主に妻」という回答が多くなっています。

性・年代別では, 男性は概ね, 年代が上がるに従って「夫妻同じ程度」という回答が少なくなっています。女性は, 40歳代, 50歳代で「主に妻」という回答が多くなっています。

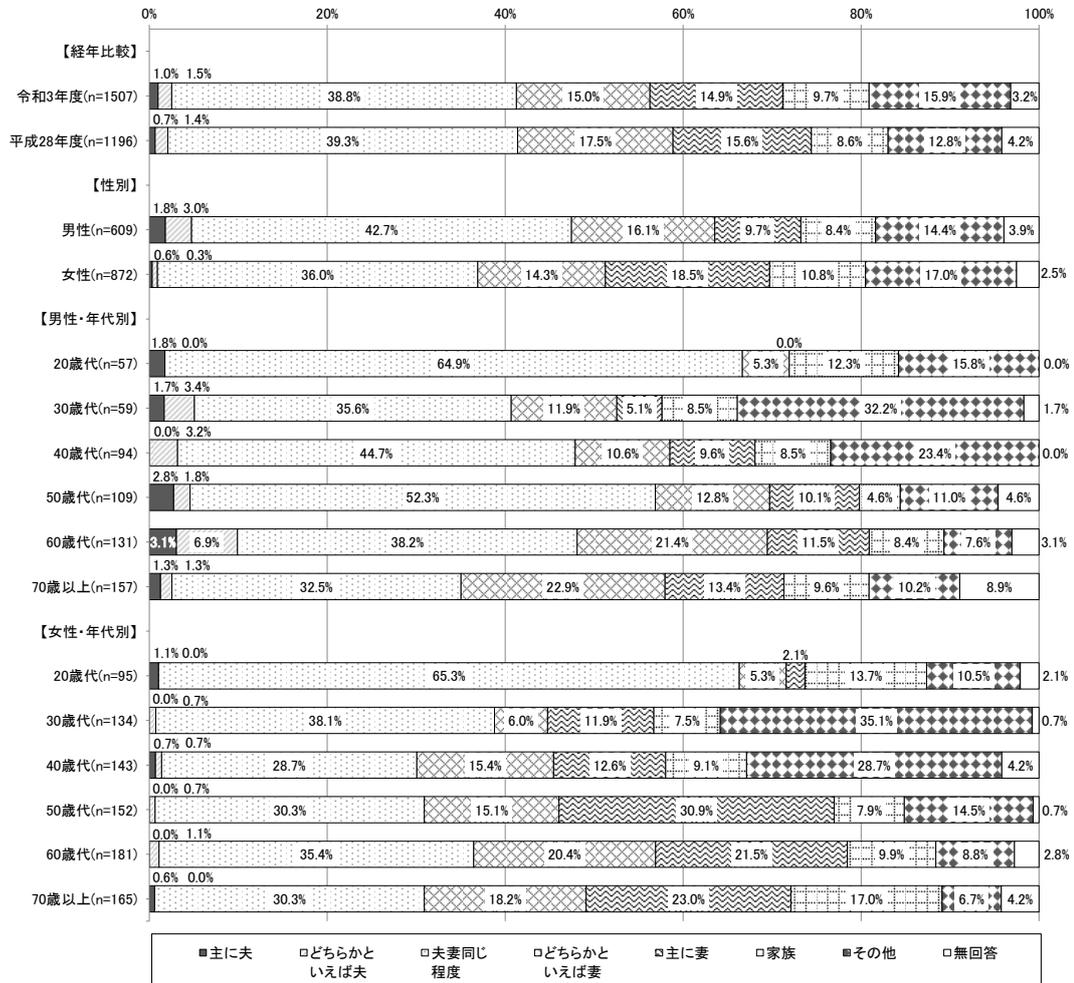


◆親や身内の介護【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】

前回調査と比較すると、大きな差はありませんでした。

性別では、女性よりも男性の方が「夫妻同じ程度」という回答が多くなっていますが、男性に比べ女性では、「主に妻」という回答が多くなっています。

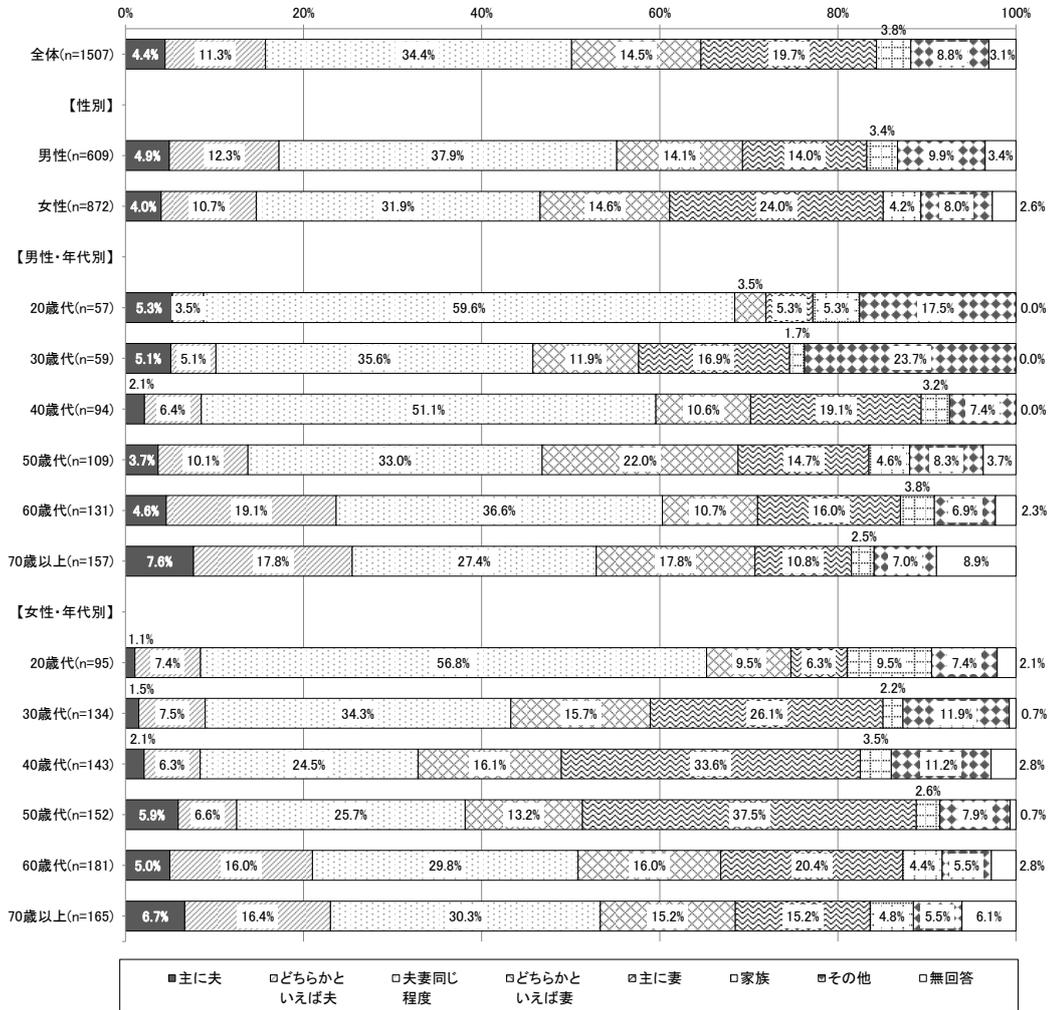
性・年代別では、男女ともに、20歳代では「夫婦同じ程度」という回答が他世代に比べ多くなっています。



◆地域活動(例:地域行事などへの参加, PTA活動など)【性別, 性・年代別クロス】

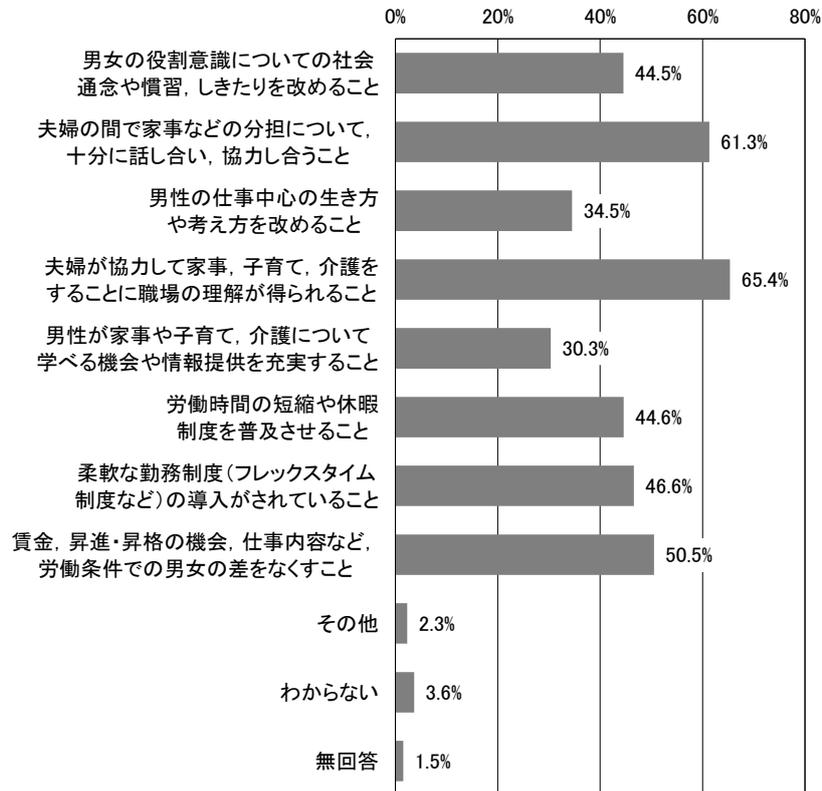
性別では, 男性よりも女性の方が「主に妻」という回答が多くなっています。

性・年代別では, 男性は, 全ての年代で「夫妻同じ程度」という回答が最も多くなっており, 特に20歳代は約6割が回答しています。女性は, 40歳代, 50歳代で「主に妻」という回答が多くなっています。



**問8 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、特
どのようなことが重要だと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)**

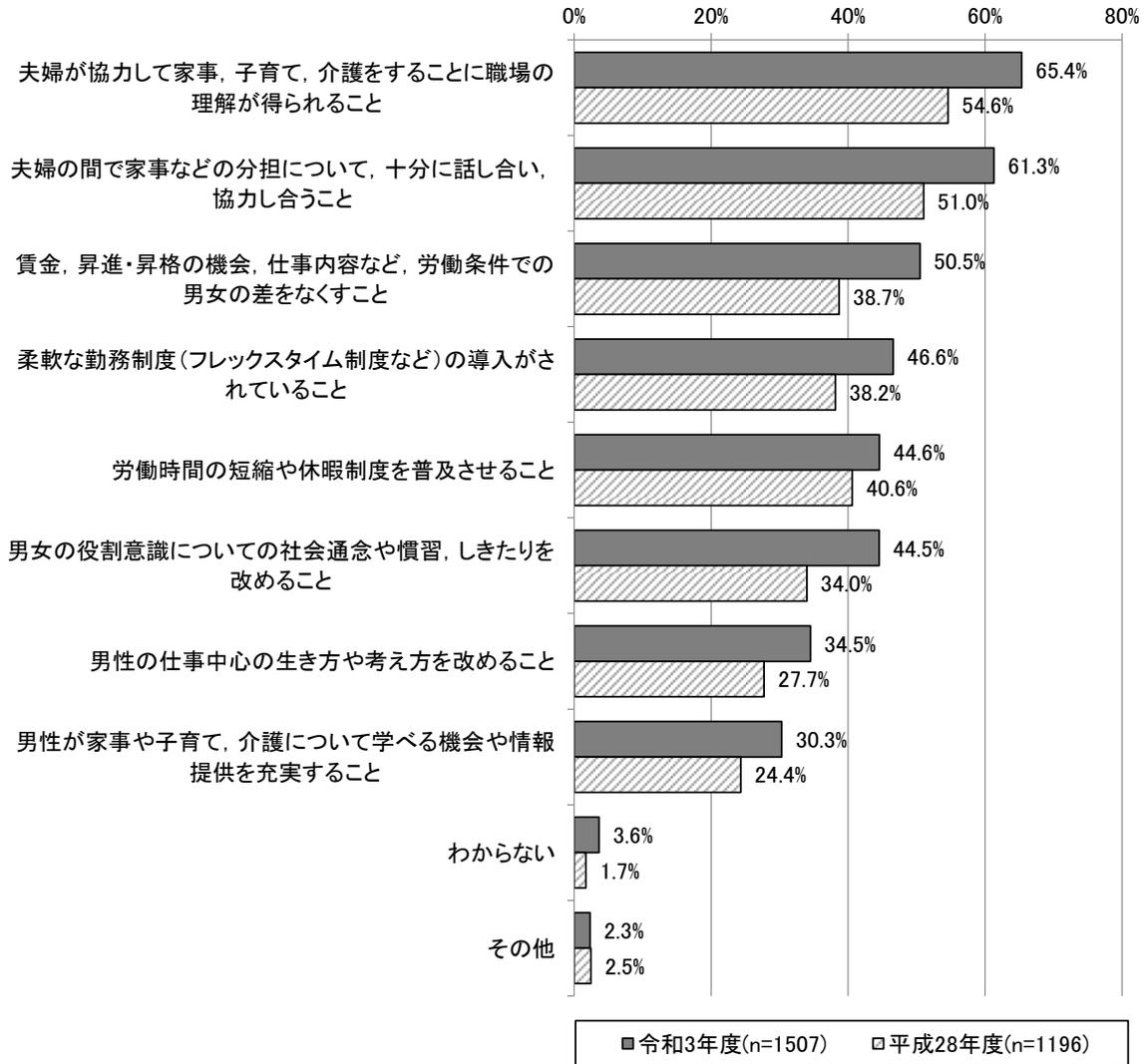
今後、男性が家事、子育て、介護に積極的に参加していくために重要なことについては、「夫婦が協力して家事、子育て、介護をすることに職場の理解が得られること」が65.4%で最も多く、次いで「夫婦の間で家事などの分担について、十分に話し合い、協力し合うこと」が61.3%、「賃金、昇進・昇格の機会、仕事内容など、労働条件での男女の差をなくすこと」が50.5%となっています。



項目	度数	比率
男女の役割意識についての社会通念や慣習、しきたりを改めること	671	44.5%
夫婦の間で家事などの分担について、十分に話し合い、協力し合うこと	924	61.3%
男性の仕事中心の生き方や考え方を改めること	520	34.5%
夫婦が協力して家事、子育て、介護をすることに職場の理解が得られること	985	65.4%
男性が家事や子育て、介護について学べる機会や情報提供を充実すること	457	30.3%
労働時間の短縮や休暇制度を普及させること	672	44.6%
柔軟な勤務制度(フレックスタイム制度など)の導入がされていること	702	46.6%
賃金、昇進・昇格の機会、仕事内容など、労働条件での男女の差をなくすこと	761	50.5%
その他	35	2.3%
わからない	55	3.6%
無回答	23	1.5%
回答者数	1,507	

【経年比較】

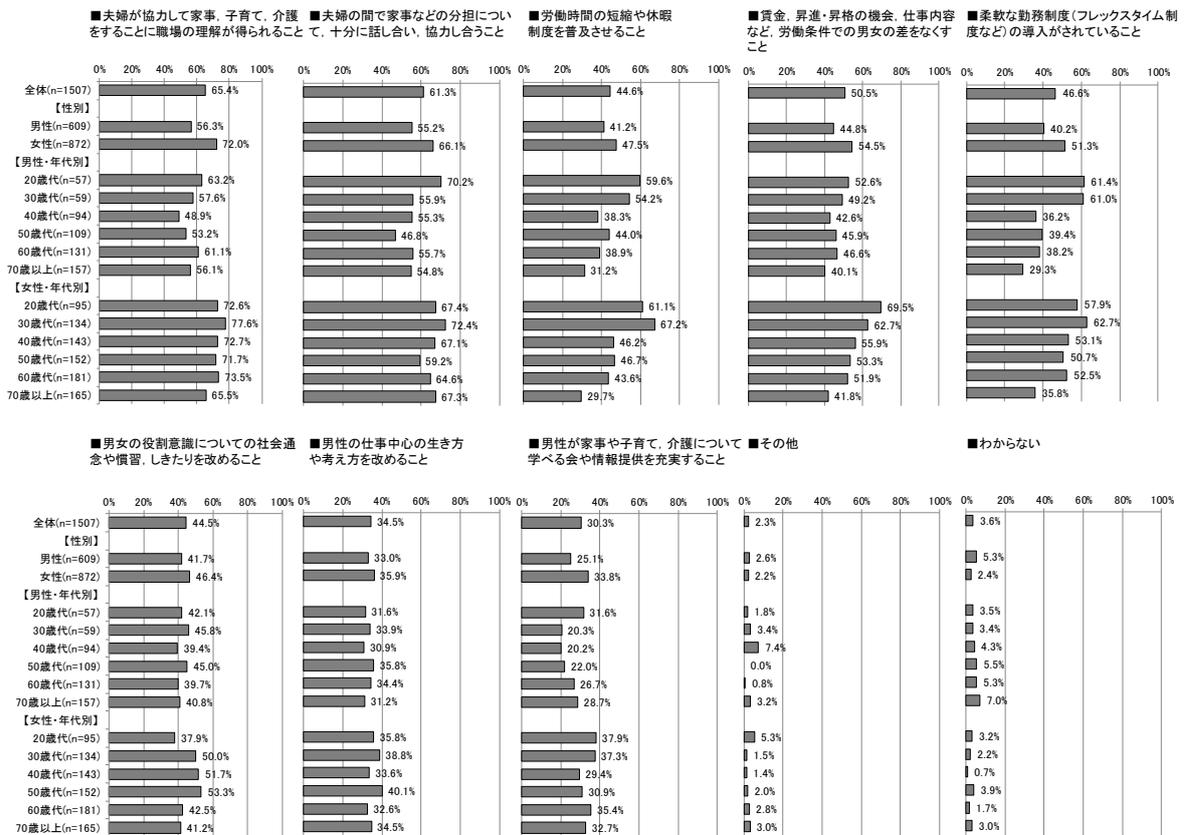
前回調査と比較すると、ほとんどの項目で今回調査の方が上回っています。特に、「賃金、昇進・昇格の機会、仕事内容など、労働条件での男女の差をなくすこと」は11.8ポイント増加しています。



【性別、性・年代別クロス】

性別では、ほとんどの項目において、重要だと思うという回答は男性よりも女性が多くなっています。特に、「夫婦が協力して家事、子育て、介護をすることに職場の理解が得られること」では15.7ポイントの開きがあります。

性・年代別では、男性の20歳代～30歳代が「柔軟な勤務制度（フレックスタイム制度など）の導入がされていること」という回答が多くなっています。女性は年代が上がるに従い、「賃金、昇進・昇格の機会、仕事内容など、労働条件での男女の差をなくすこと」という回答は少なくなっています。



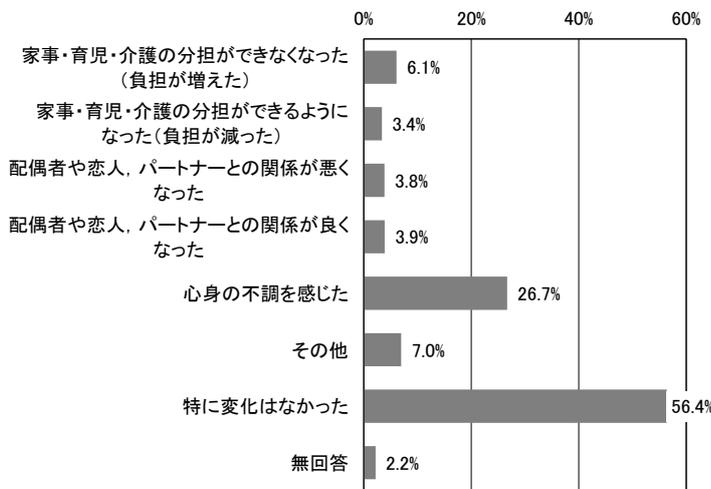
(4) 新型コロナによる影響について

問9 新型コロナによる影響で、あなたの生活や働き方、仕事内容などにどのような変化がありましたか。(あてはまる番号すべてに○)

新型コロナによる影響で、あなたの生活や働き方、仕事内容などにどのような変化があったかについては、生活の変化では「特に変化はなかった」が56.4%で最も多く、次いで「心身の不調を感じた」が26.7%となっています。

また、働き方の変化では、「特に変化はなかった」が46.2%で最も多く、次いで「収入が減った」が19.1%となっています。

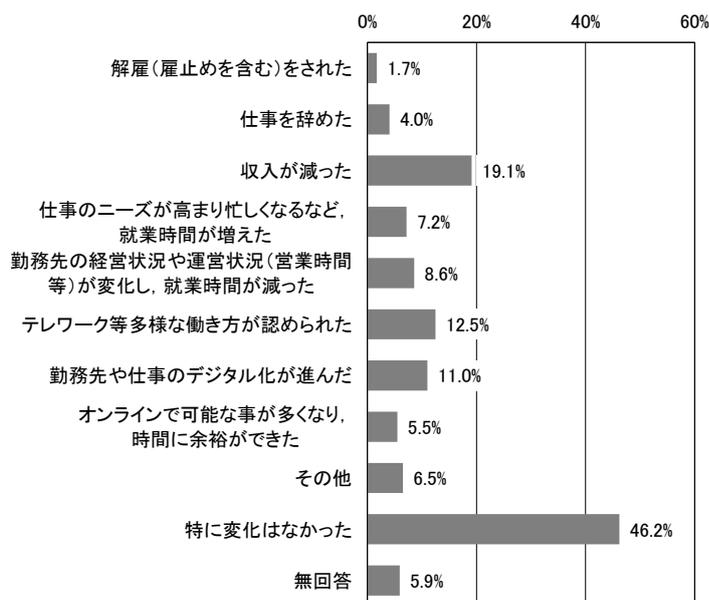
生活の変化



【生活の変化】

項目	度数	比率
家事・育児・介護の分担ができなくなった(負担が増えた)	92	6.1%
家事・育児・介護の分担ができるようになった(負担が減った)	51	3.4%
配偶者や恋人、パートナーとの関係が悪くなった	58	3.8%
配偶者や恋人、パートナーとの関係が良くなった	59	3.9%
心身の不調を感じた	402	26.7%
その他	105	7.0%
特に変化はなかった	850	56.4%
無回答	33	2.2%
回答者数	1,507	

働き方の変化



【働き方の変化】

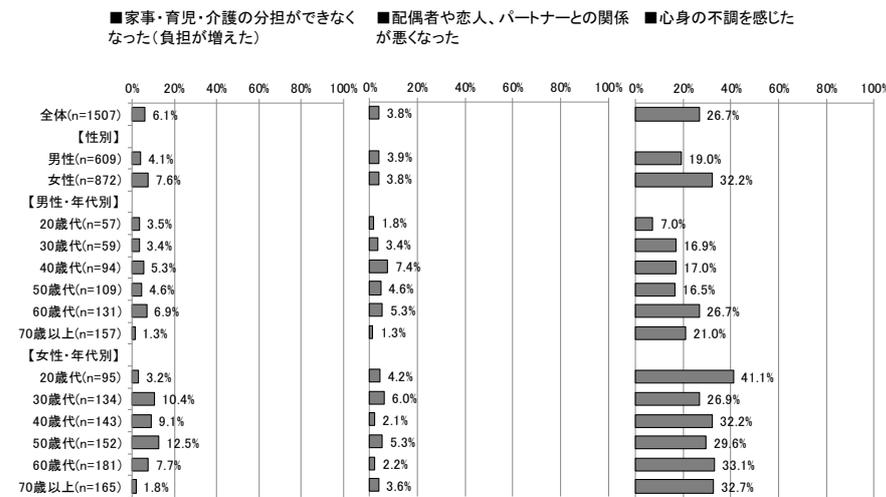
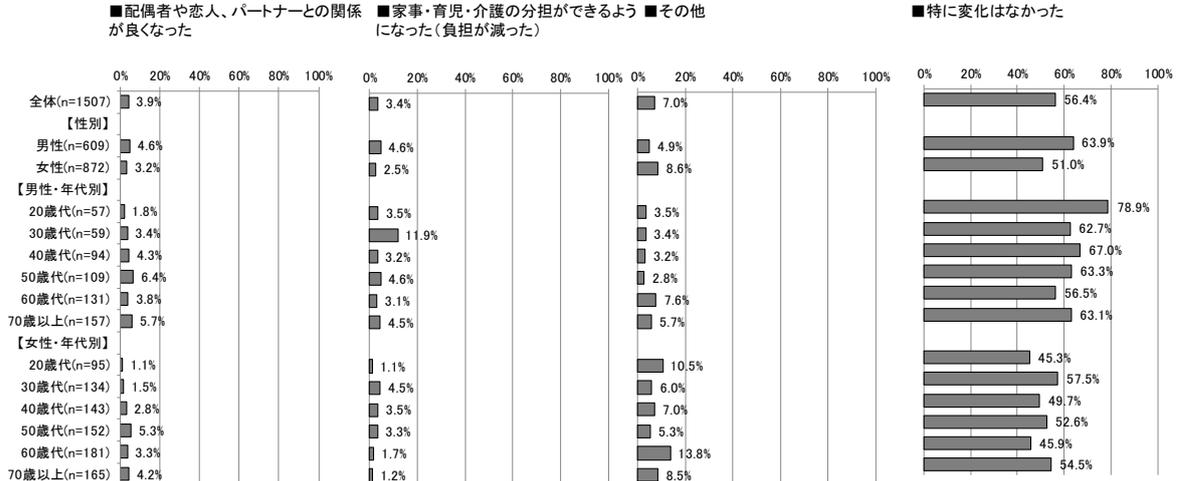
項目	度数	比率
解雇(雇止めを含む)をされた	26	1.7%
仕事を辞めた	61	4.0%
収入が減った	288	19.1%
仕事のニーズが高まり忙しくなるなど、就業時間が増えた	108	7.2%
勤務先の経営状況や運営状況(営業時間等)が変化し、就業時間が減った	129	8.6%
テレワーク等多様な働き方が認められた	188	12.5%
勤務先や仕事のデジタル化が進んだ	166	11.0%
オンラインで可能な事が多くなり、時間に余裕ができた	83	5.5%
その他	98	6.5%
特に変化はなかった	696	46.2%
無回答	89	5.9%
回答者数	1,507	

【性別, 性・年代別, 有職者別クロス】

生活の変化

性別では、女性より男性の方が、「特に変化はなかった」という回答が多く、男性より女性の方が、「心身の不調を感じた」という回答が多くなっています。

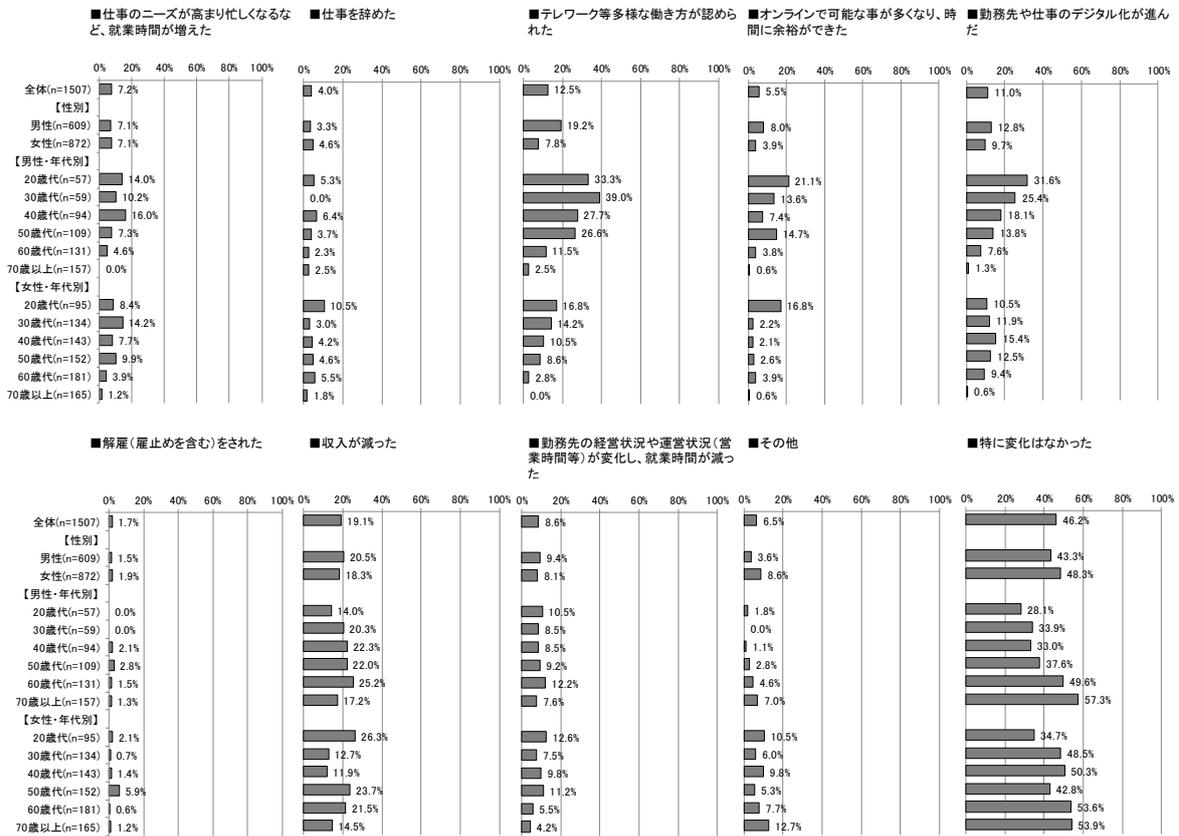
性・年代別では、男性の20歳代が「特に変化はなかった」という回答が多くなっており、女性の20歳代が、「心身の不調を感じた」という回答が多くなっています。



働き方の変化

性別では、女性より男性の方が、「テレワーク等多様な働き方が認められた」という回答が多く、男性より女性の方が、「特に変化はなかった」という回答が多くなっています。

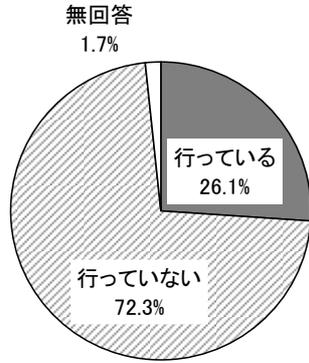
性・年代別では、男性は年代が上がるに従って「勤務先や仕事のデジタル化が進んだ」という回答が少なくなっており、女性の60歳代～70歳以上が、「特に変化はなかった」という回答が多くなっています。



(5) 地域・社会参画について

問10 現在、地域などでの社会的な活動(自治会やPTA, ボランティアなど)を行っていますか。(○は1つだけ)

現在、地域などでの社会的な活動については、「行っている」が26.1%、「行っていない」が72.3%となっています。

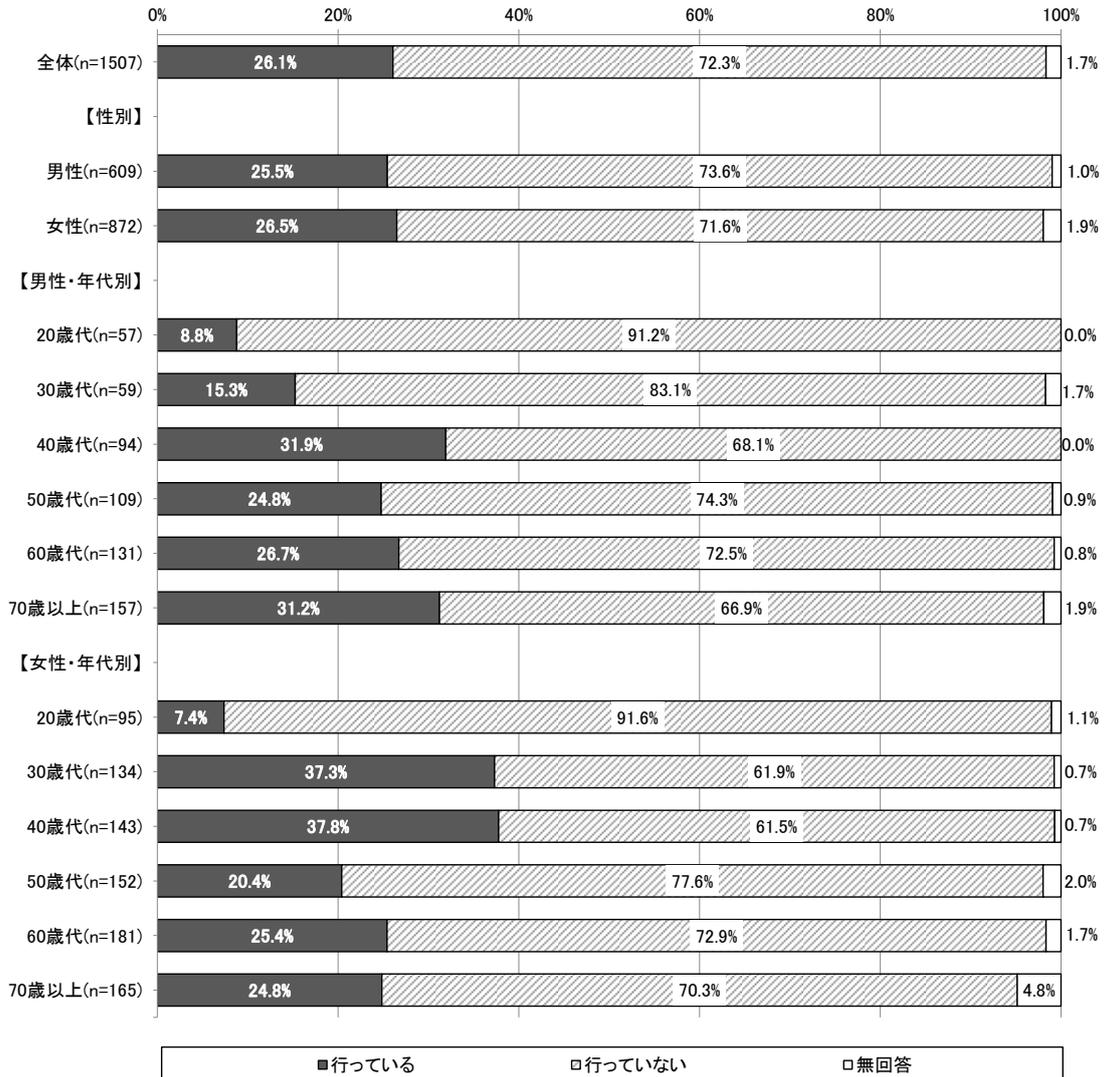


項目	度数	構成比
行っている	393	26.1%
行っていない	1,089	72.3%
無回答	25	1.7%
合計	1,507	100.0%

【性別、性・年代別クロス】

性別では、大きな差はありませんでした。

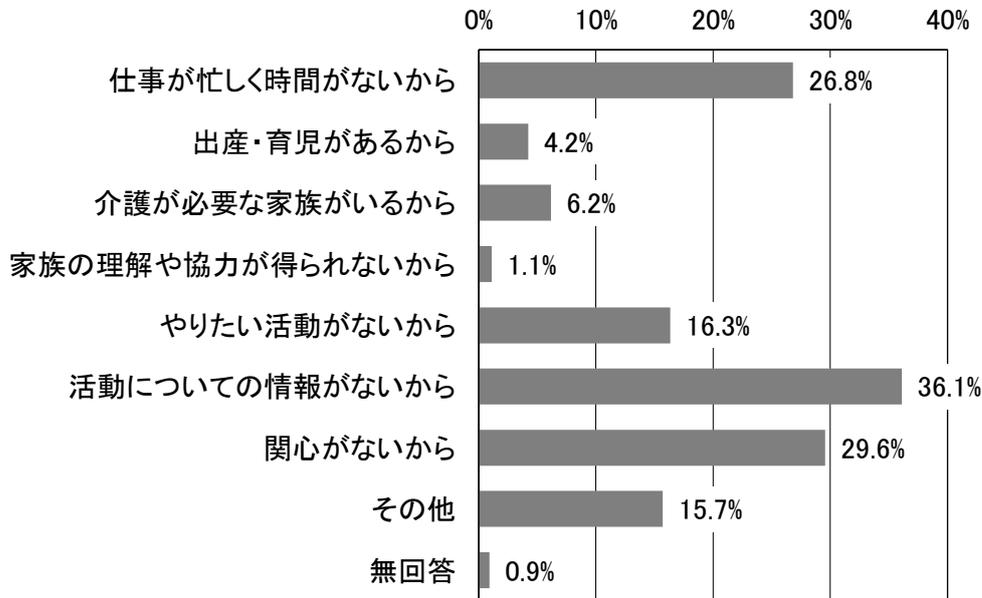
性・年代別では、男女とも20歳代は「行っている」という回答が極端に少なくなっています。



《問10で、「行っていない」に○をつけた人にお伺いました。》

問11 あなたが現在、社会的な活動に参加していない主な理由は何ですか？(あてはまる番号すべてに○)

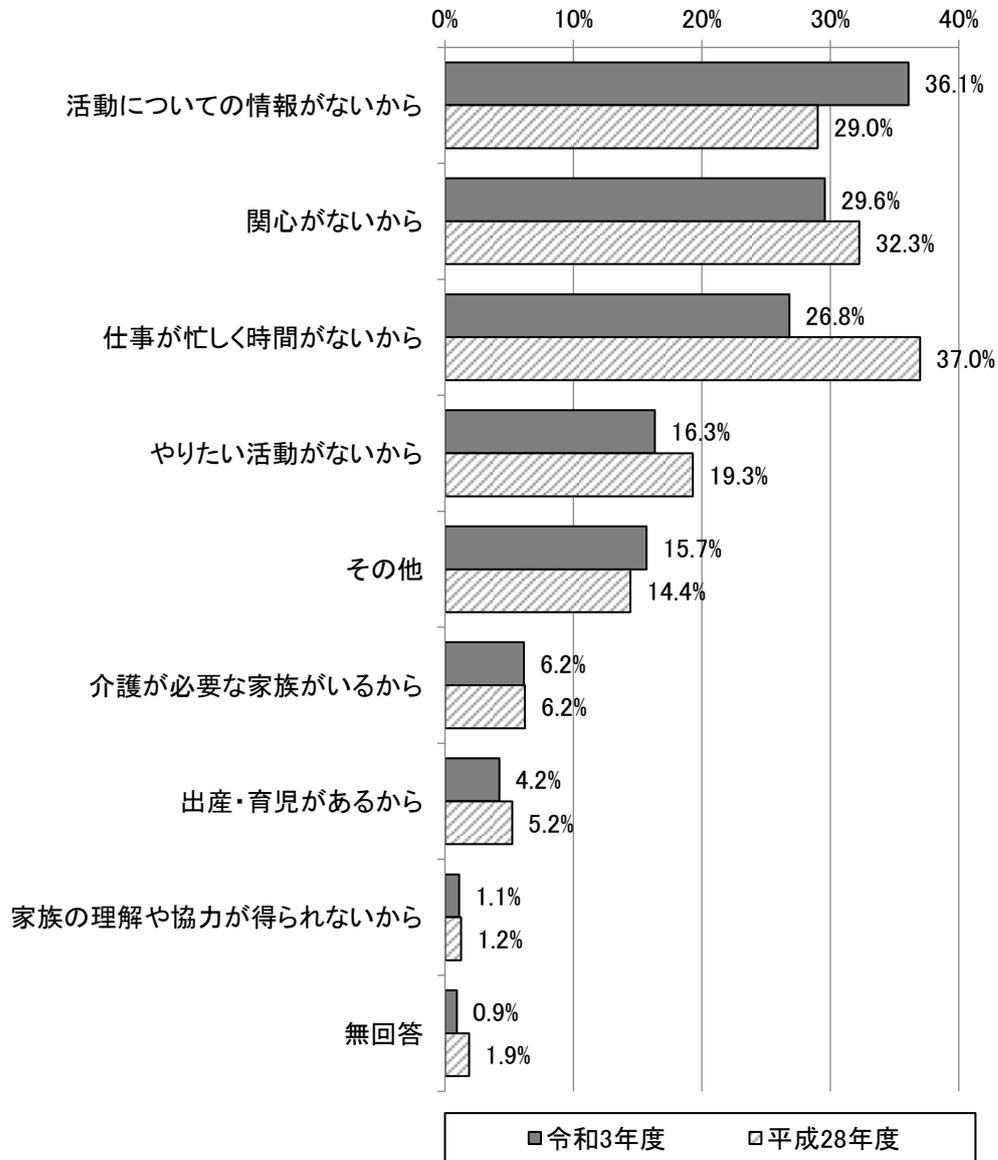
現在、社会的な活動に参加していない理由については、「活動についての情報がないから」が36.1%で最も多く、次いで「関心がないから」が29.6%、「仕事が忙しく時間がないから」が26.8%となっています。



項目	度数	比率
仕事が忙しく時間がないから	292	26.8%
出産・育児があるから	46	4.2%
介護が必要な家族がいるから	67	6.2%
家族の理解や協力が得られないから	12	1.1%
やりたい活動がないから	178	16.3%
活動についての情報がないから	393	36.1%
関心がないから	322	29.6%
その他	171	15.7%
無回答	10	0.9%
回答者数	1,089	
非該当	418	
合計	1,507	

【経年比較】

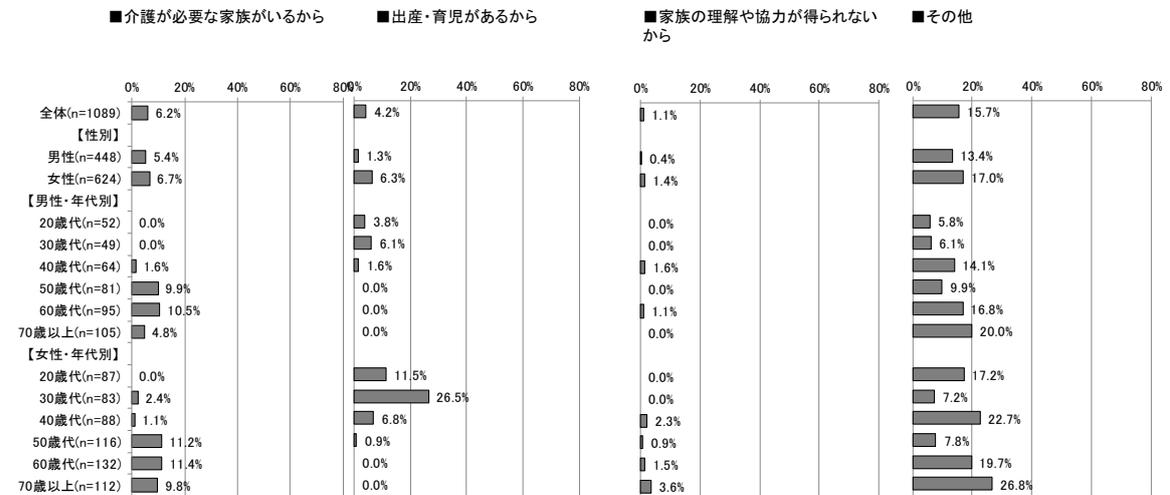
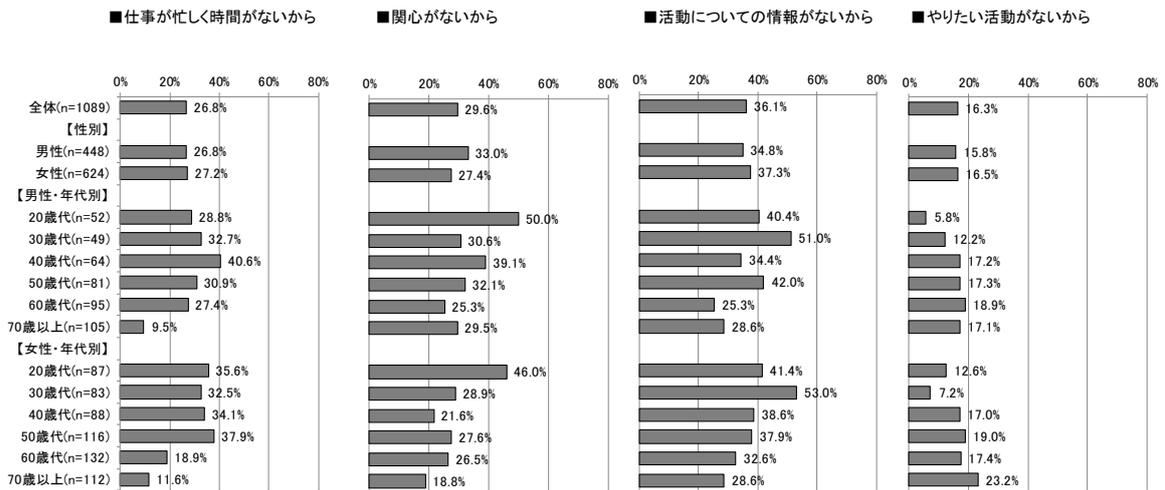
前回調査と比較すると、「活動についての情報がないから」は7.1ポイント多くなっています。一方、「仕事が忙しく時間がないから」は10.2ポイント少なくなっています。



【性別、性・年代別クロス】

性別では、女性より男性の方が、「関心がないから」という回答が多く、男性より女性の方が、「出産・育児があるから」という回答が多くなっています。

性・年代別では、「活動についての情報がないから」と回答したのは、男女ともに、30歳代が最も多くなっています。また、「関心がないから」と回答したのは、男女ともに、20歳代が最も多くなっています。



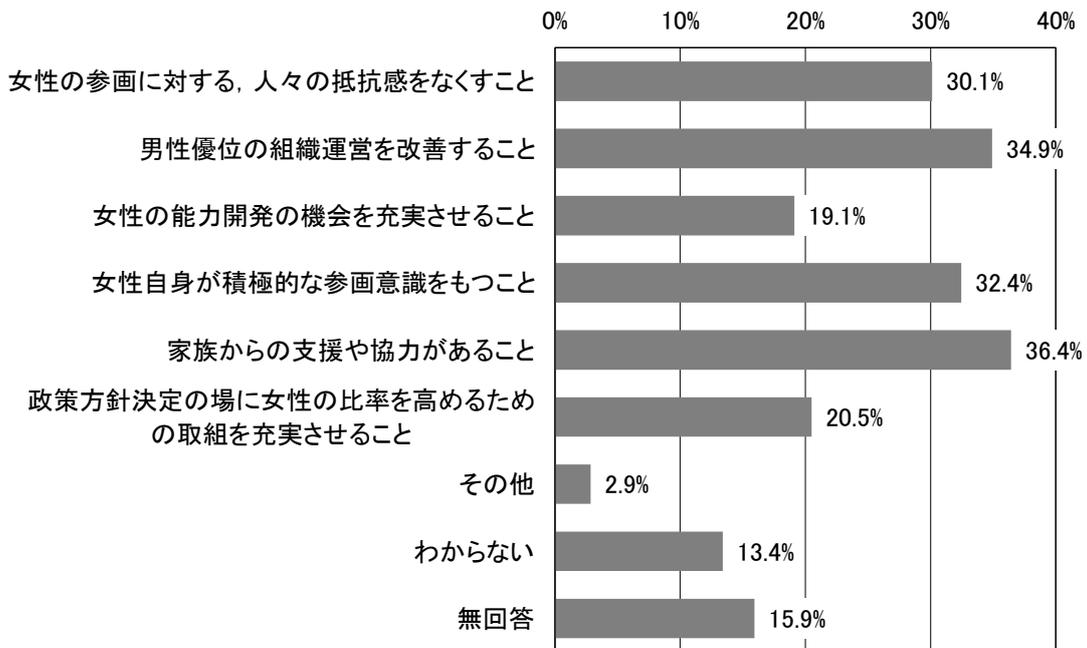
■社会的な活動に参加しない理由上位5つ【経年比較(性別)】

性別では、前回調査は男女ともに第1位が「仕事が忙しく時間がないから」でしたが、本調査では、男女ともに第1位が「活動についての情報がないから」となっています。また、本調査では、第2位が男女ともに「関心がないから」となっています。

		1位	2位	3位	4位	5位
令和3年度	男性	活動についての情報がないから	関心がないから	仕事が忙しく時間がないから	やりたい活動がないから	その他
	n=448	34.8%	33.0%	26.8%	15.8%	13.4%
令和3年度	女性	活動についての情報がないから	関心がないから	仕事が忙しく時間がないから	その他	やりたい活動がないから
	n=624	37.3%	27.4%	27.2%	17.0%	16.5%
平成28年度	男性	仕事が忙しく時間がないから	関心がないから	活動についての情報がないから	やりたい活動がないから	介護が必要な家族がいるから
	n=342	44.2%	36.5%	28.9%	19.9%	2.6%
平成28年度	女性	仕事が忙しく時間がないから	活動についての情報がないから	関心がないから	やりたい活動がないから	介護が必要な家族がいるから
	n=443	31.6%	29.3%	29.1%	19.2%	9.0%

問12 自治会やPTAなど地域活動の役員や、行政機関の審議会等の委員など、方針を決定していく場での女性の参画が増えていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

自治会やPTAなど地域活動の役員や、行政機関の審議会等の委員など、方針を決定していく場での女性の参画が増えていくために必要なことについては、「家族からの支援や協力があること」が36.4%で最も多く、次いで「男性優位の組織運営を改善すること」が34.9%、「女性自身が積極的な参画意識をもつこと」が32.4%となっています。

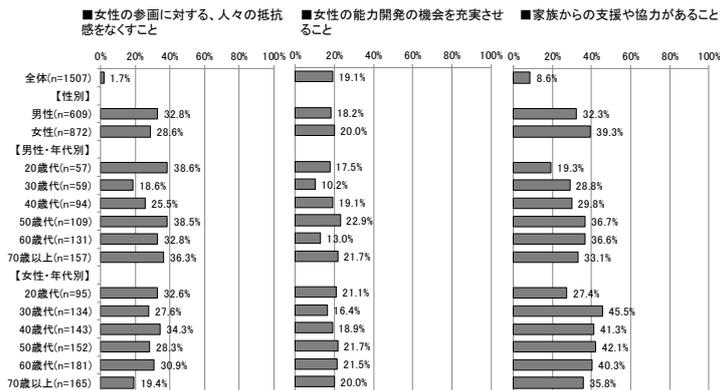
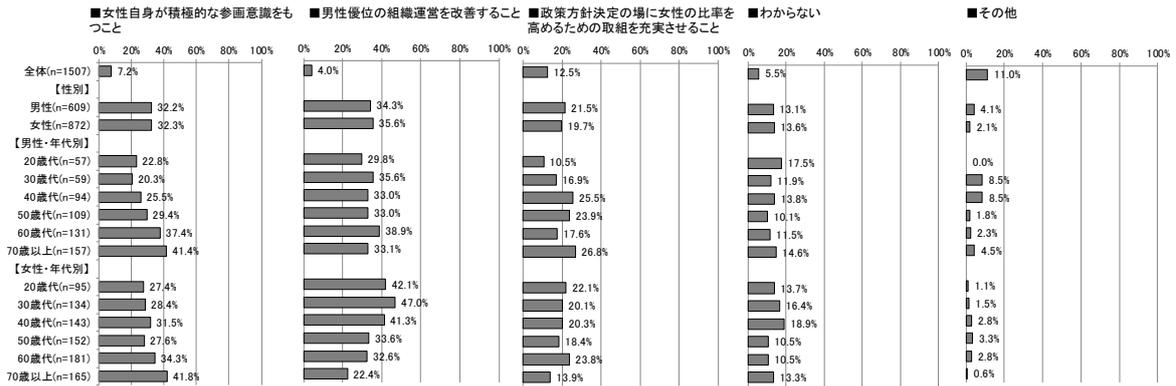


項目	度数	比率
女性の参画に対する、人々の抵抗感をなくすこと	454	30.1%
男性優位の組織運営を改善すること	526	34.9%
女性の能力開発の機会を充実させること	288	19.1%
女性自身が積極的な参画意識をもつこと	489	32.4%
家族からの支援や協力があること	549	36.4%
政策方針決定の場に女性の比率を高めるための取組を充実させること	309	20.5%
その他	43	2.9%
わからない	202	13.4%
無回答	240	15.9%
回答者数	1,507	

【性別、性・年代別クロス】

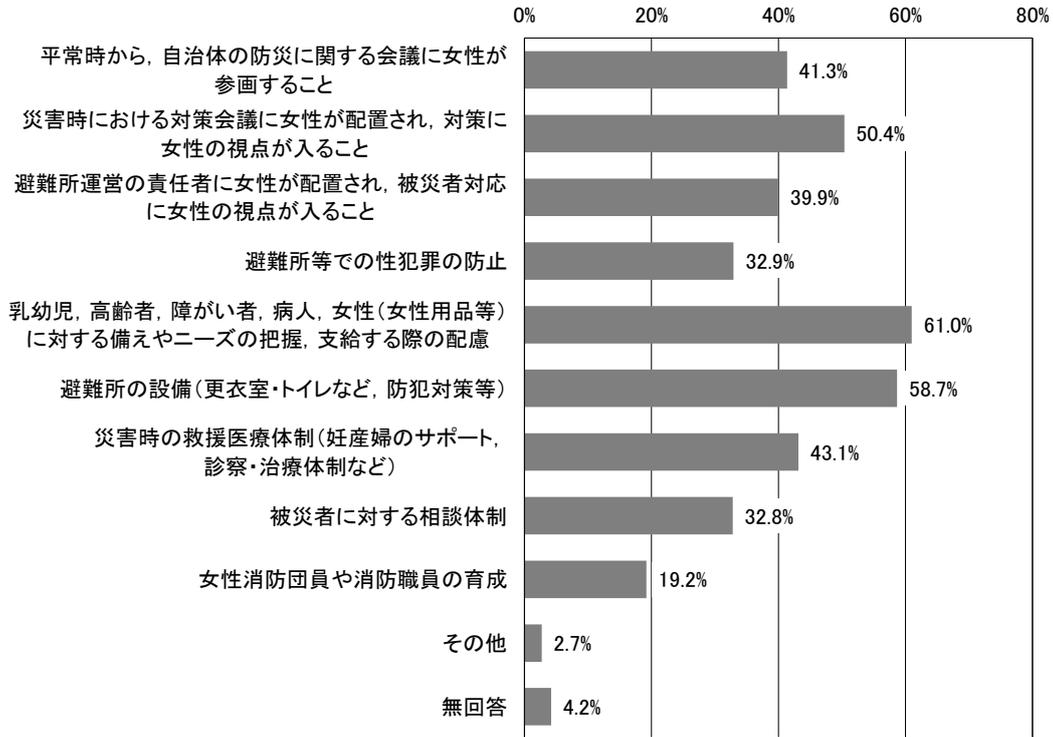
性別では、女性より男性の方が、「女性の参画に対する、人々の抵抗感をなくすこと」という回答が多く、男性より女性の方が、「家族からの支援や協力があること」という回答が多くなっています。

性・年代別では、男性は30歳代から年代が上がるに従って、「女性自身が積極的な参画意識をもつこと」という回答が多くなっています。また、女性は30歳代が「男性優位の組織運営を改善すること」という回答が多くなっています。



問13 あなたは、災害時や防災活動において男女共同参画を推進していくために、特にどのようなことが必要だと思いますか。（あてはまる番号すべてに○）

災害時や防災活動において男女共同参画を推進していくために必要なことについては、「乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性（女性用品等）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」が61.0%で最も多く、次いで「避難所の設備（更衣室・トイレなど、防犯対策等）」が58.7%、「災害時における対策会議に女性が配置され、対策に女性の視点が入ること」が50.4%、「災害時における対策会議に女性が配置され、被災者対応に女性の視点が入ること」が39.9%、「避難所等での性犯罪の防止」が32.9%、「災害時の救援医療体制（妊産婦のサポート、診察・治療体制など）」が43.1%、「被災者に対する相談体制」が32.8%、「女性消防団員や消防職員の育成」が19.2%、「その他」が2.7%、「無回答」が4.2%となっています。

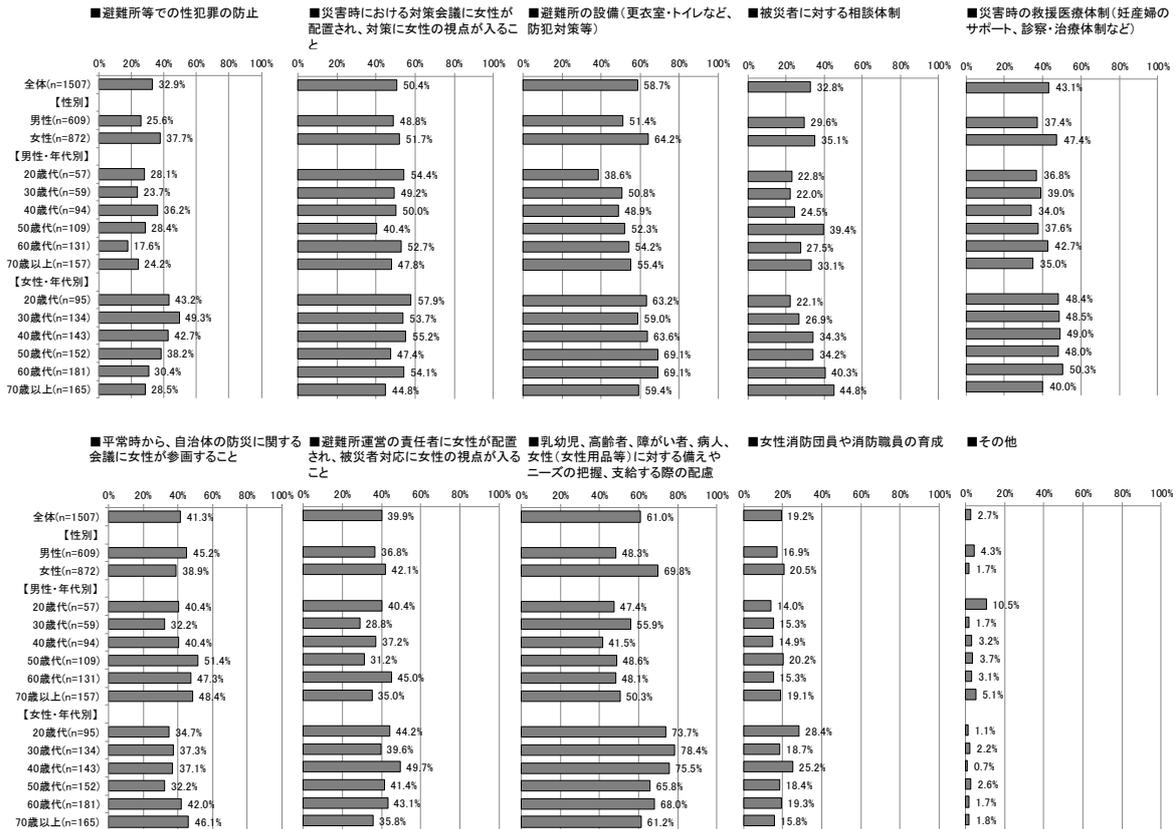


項目	度数	比率
平常時から、自治体の防災に関する会議に女性が参画すること	623	41.3%
災害時における対策会議に女性が配置され、対策に女性の視点が入ること	759	50.4%
避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に女性の視点が入ること	602	39.9%
避難所等での性犯罪の防止	496	32.9%
乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性（女性用品等）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮	919	61.0%
避難所の設備（更衣室・トイレなど、防犯対策等）	884	58.7%
災害時の救援医療体制（妊産婦のサポート、診察・治療体制など）	650	43.1%
被災者に対する相談体制	494	32.8%
女性消防団員や消防職員の育成	289	19.2%
その他	41	2.7%
無回答	63	4.2%
回答者数	1,507	

【性別、性・年代別クロス】

性別では、女性より男性の方が、「平常時から、自治体の防災に関する会議に女性が参画すること」という回答が多くなっていますが、ほとんどの項目で、男性より女性の方が回答が多くなっています。

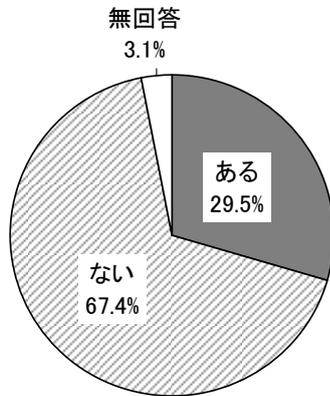
性・年代別では、男性は20歳代が、「避難所の設備（更衣室・トイレなど、防犯対策等）」という回答が少なくなっています。また、女性は概ね年代が上がるに従って「被災者に対する相談体制」という回答が多くなっています。



(6) 職業・就労について

問14 あなたは、「結婚」「妊娠・出産」「育児」「介護」の理由で退職した経験がありますか。
(○は1つだけ)

「結婚」「妊娠・出産」「育児」「介護」の理由で退職した経験があるかについては、「ある」が29.5%、「ない」が67.4%となっています。

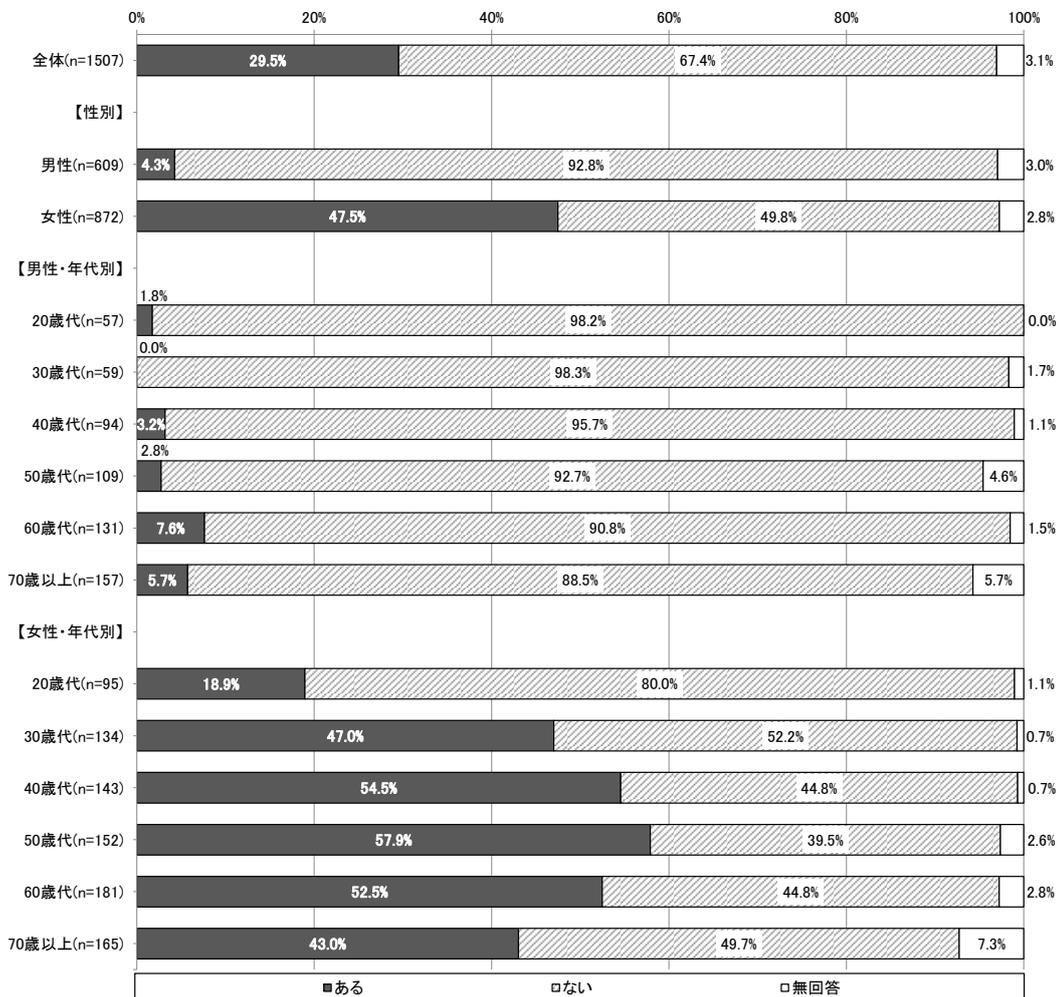


項目	度数	構成比
ある	445	29.5%
ない	1,016	67.4%
無回答	46	3.1%
合計	1,507	100.0%

【性別、性・年代別クロス】

性別では、男性よりも女性の方が「ある」という回答が多く、女性の約5割は「結婚」「妊娠・出産」「育児」「介護」の理由で退職した経験が「ある」と回答しています。

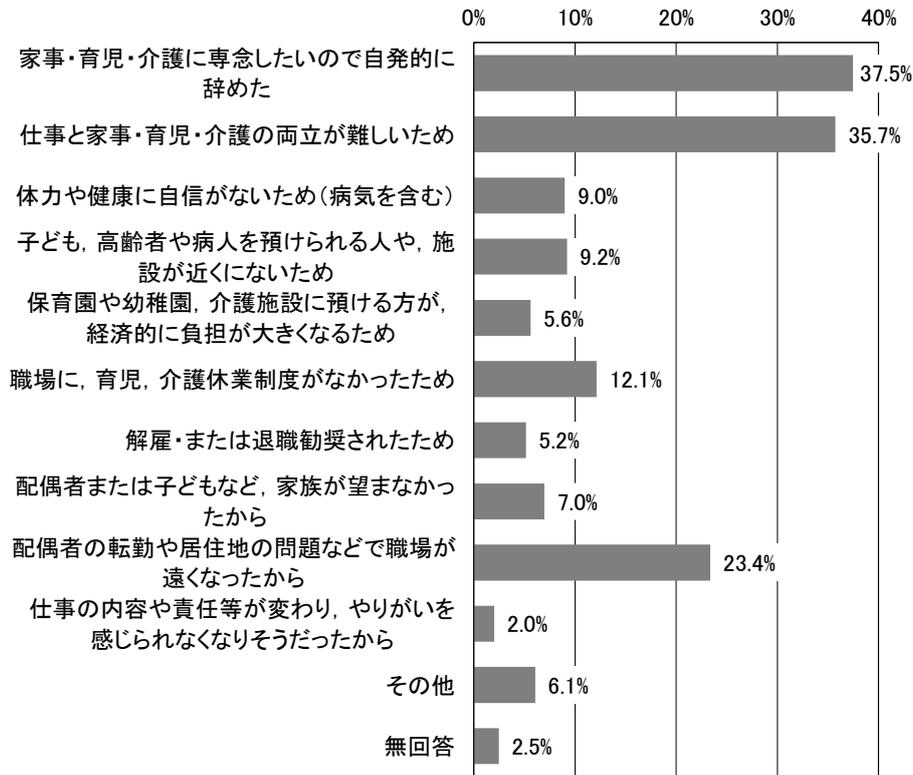
性・年代別では、男性は他年代と比べて60歳代が「ある」という回答が多く、女性は20歳代以外で「ある」という回答が多くなっています。



《問14で、「ある」と回答した人にお伺いしました。》

問15 具体的な理由は、どれに該当しますか。(あてはまる番号すべてに○)

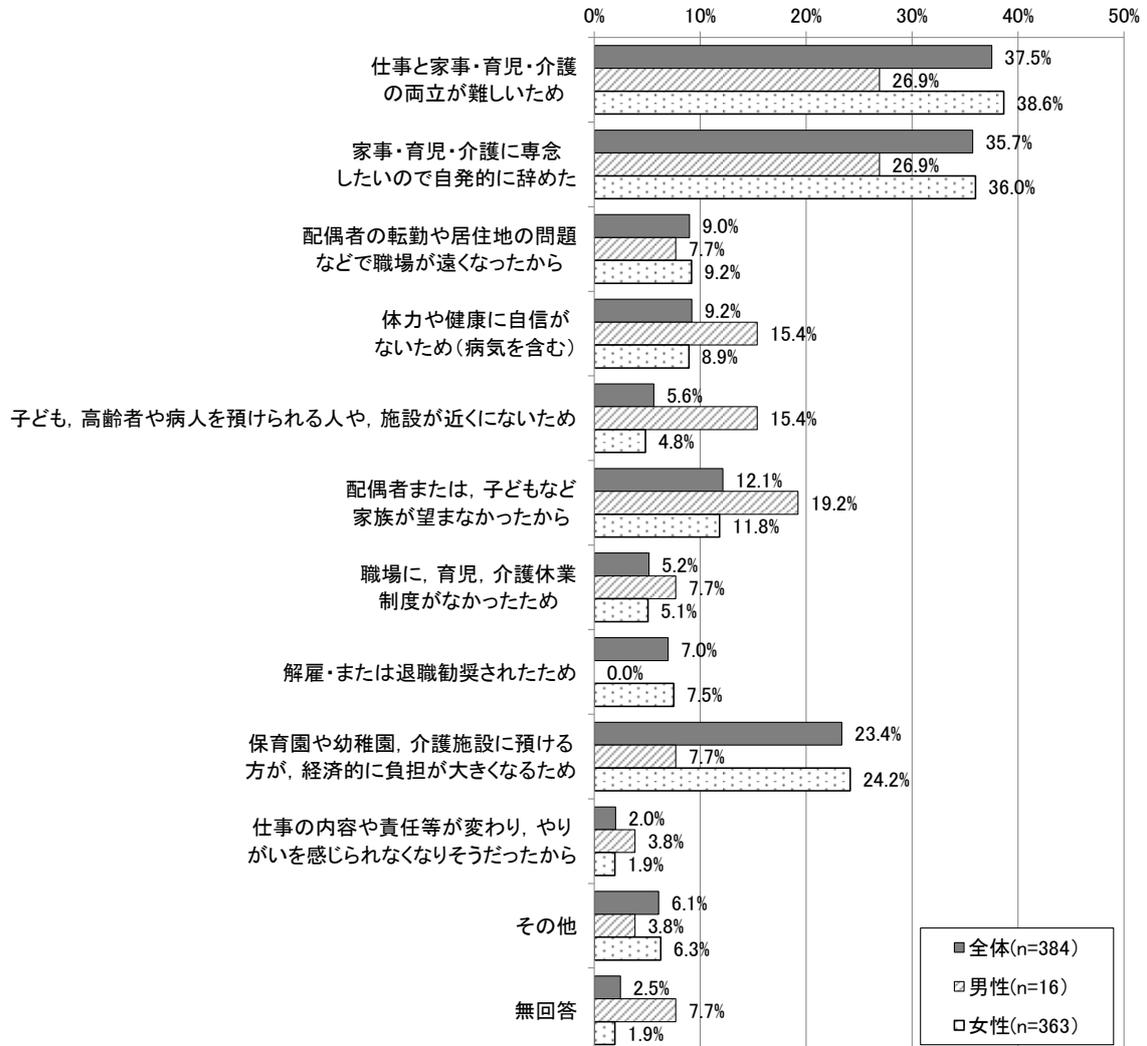
退職した具体的な理由については、「家事・育児・介護に専念したいので自発的に辞めた」が37.5%で最も多く、次いで「仕事と家事・育児・介護の両立が難しいため」が35.7%となっています。



項目	度数	比率
家事・育児・介護に専念したいので自発的に辞めた	167	37.5%
仕事と家事・育児・介護の両立が難しいため	159	35.7%
体力や健康に自信がないため(病気を含む)	40	9.0%
子ども、高齢者や病人を預けられる人や、施設が近くにないため	41	9.2%
保育園や幼稚園、介護施設に預ける方が、経済的に負担が大きくなるため	25	5.6%
職場に、育児、介護休業制度がなかったため	54	12.1%
解雇・または退職勧奨されたため	23	5.2%
配偶者または子どもなど、家族が望まなかったから	31	7.0%
配偶者の転勤や居住地の問題などで職場が遠くなったから	104	23.4%
仕事の内容や責任等が変わり、やりがいを感じられなくなりそうだったから	9	2.0%
その他	27	6.1%
無回答	11	2.5%
回答者数	445	
非該当	1,062	
合計	1,507	

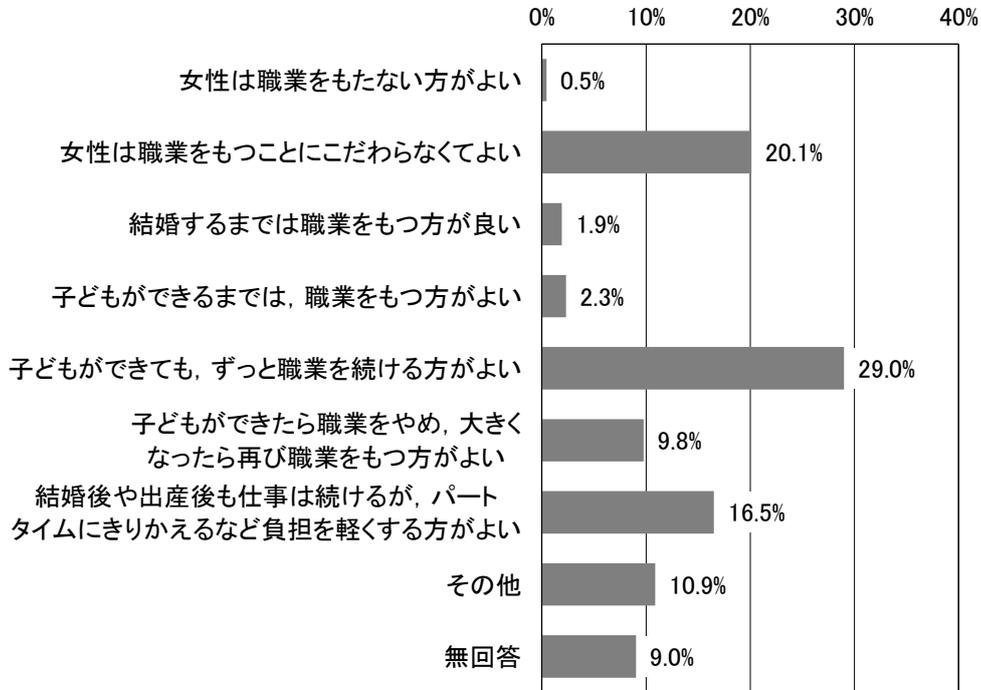
【性別クロス】

性別では、男性よりも女性の方が「保育園や幼稚園、介護施設に預ける方が、経済的に負担が大きくなるため」という回答が多くなっています。また、女性より男性の方が「子ども、高齢者や病人を預けられる人や、施設が近くにないため」という回答が多くなっています。



問16 あなたは、女性が職業をもつことについて、どうお考えですか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(○は1つだけ)

女性が職業をもつことについては、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が29.0%で最も多く、次いで「女性は職業をもつことにこだわらなくてよい」が20.1%となっています。



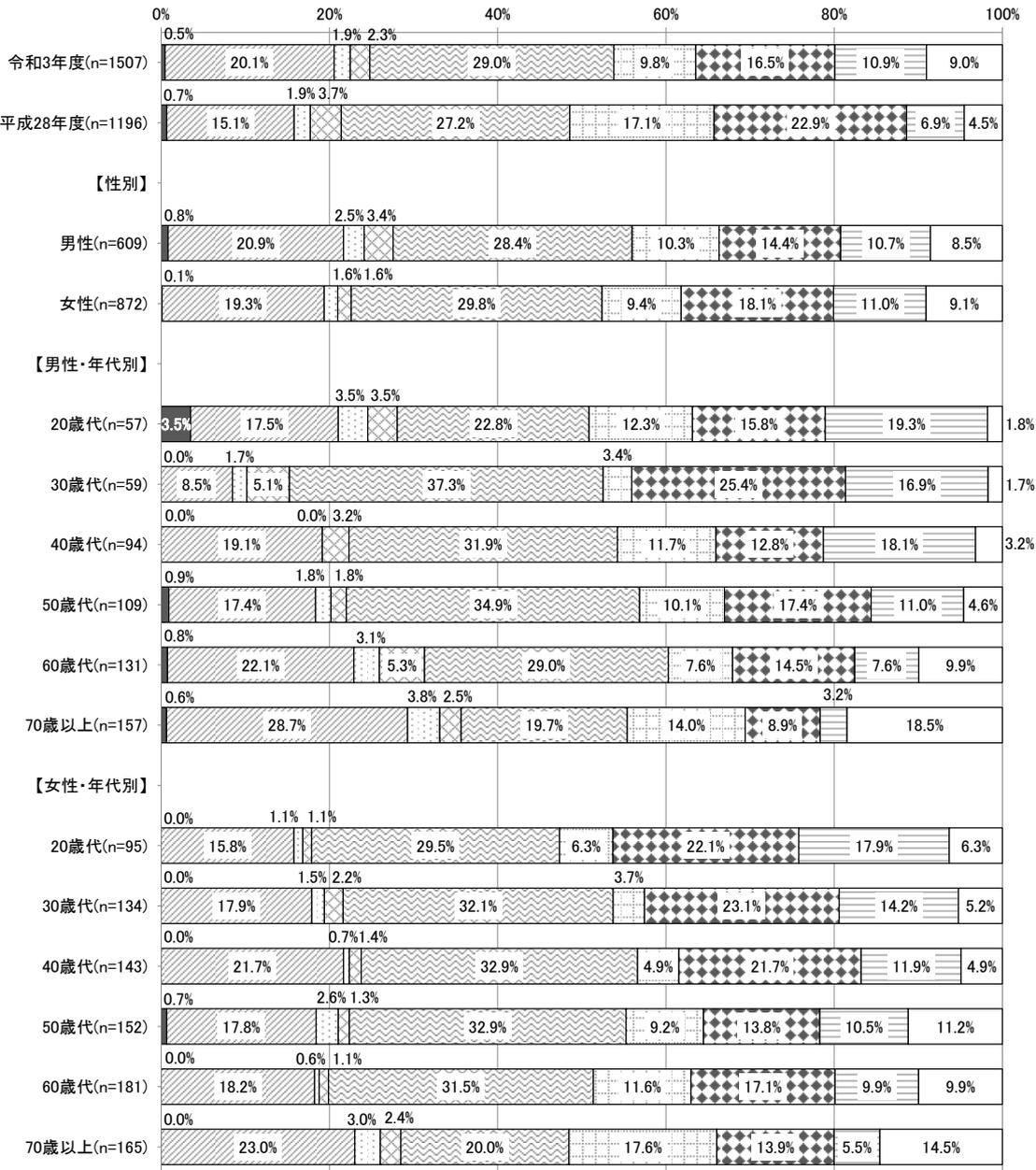
項目	度数	構成比
女性は職業をもたない方がよい	7	0.5%
女性は職業をもつことにこだわらなくてよい	303	20.1%
結婚するまでは職業をもつ方がよい	29	1.9%
子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	35	2.3%
子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	437	29.0%
子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	147	9.8%
結婚後や出産後も仕事は続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい	249	16.5%
その他	164	10.9%
無回答	136	9.0%
合計	1,507	100.0%

【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】

前回調査と比較すると、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」という回答が少なくなっており、「女性は職業をもつことにこだわらなくてよい」という回答が多くなっています。

性別では、大きな差はありませんでした。

性・年代別では、男性は、20歳代～60歳代が「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が最も多くなっています。女性は、30歳代から年代が上がるに従って、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」という回答が多くなっています。

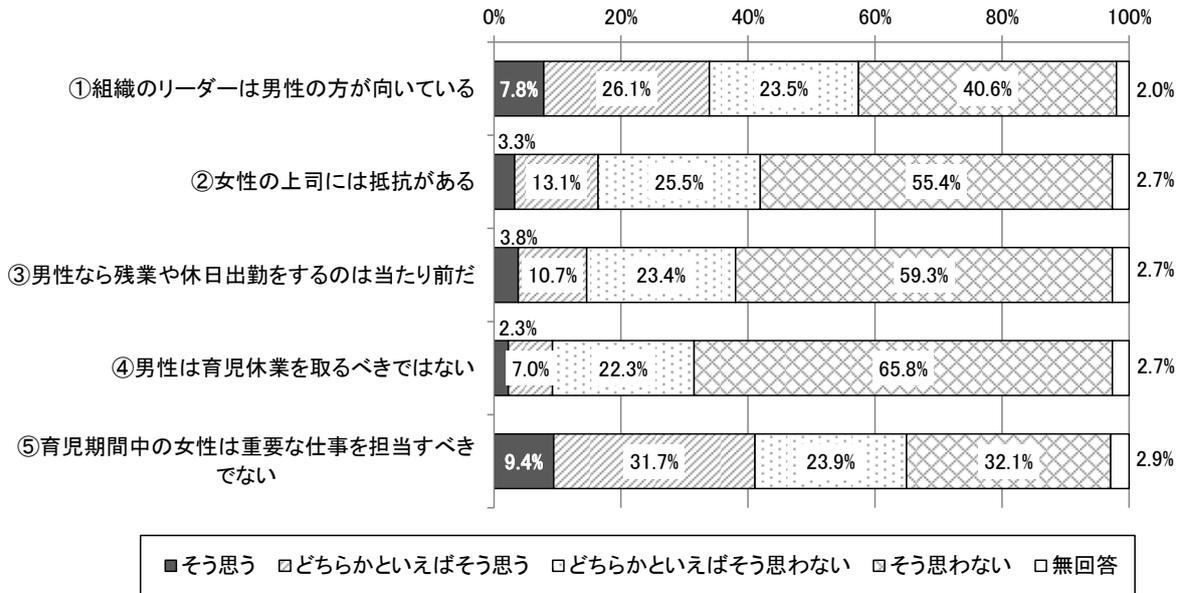


- 女性職業をもちたくない方がよい
- 女性職業をもちことにこだわらなくてよい
- 結婚するまでは職業をもち方がよい
- 子どもができるまでは、職業をもち方がよい
- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 結婚後や出産後も仕事は続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい
- その他
- 無回答

問17 次の①～⑤の項目について、あなたの考えに近いものはどれですか。（それぞれについてあてはまる番号に○を1つ）

組織のリーダーや上司、残業や育児休業の考え方について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答は、「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」が41.1%で最も多く、次いで「組織のリーダーは男性の方が向いている」が33.9%となっています。

また、「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」を合わせた回答は、「男性は育児休業を取るべきではない」が88.1%で最も多く、次いで「男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ」が82.7%となっています。

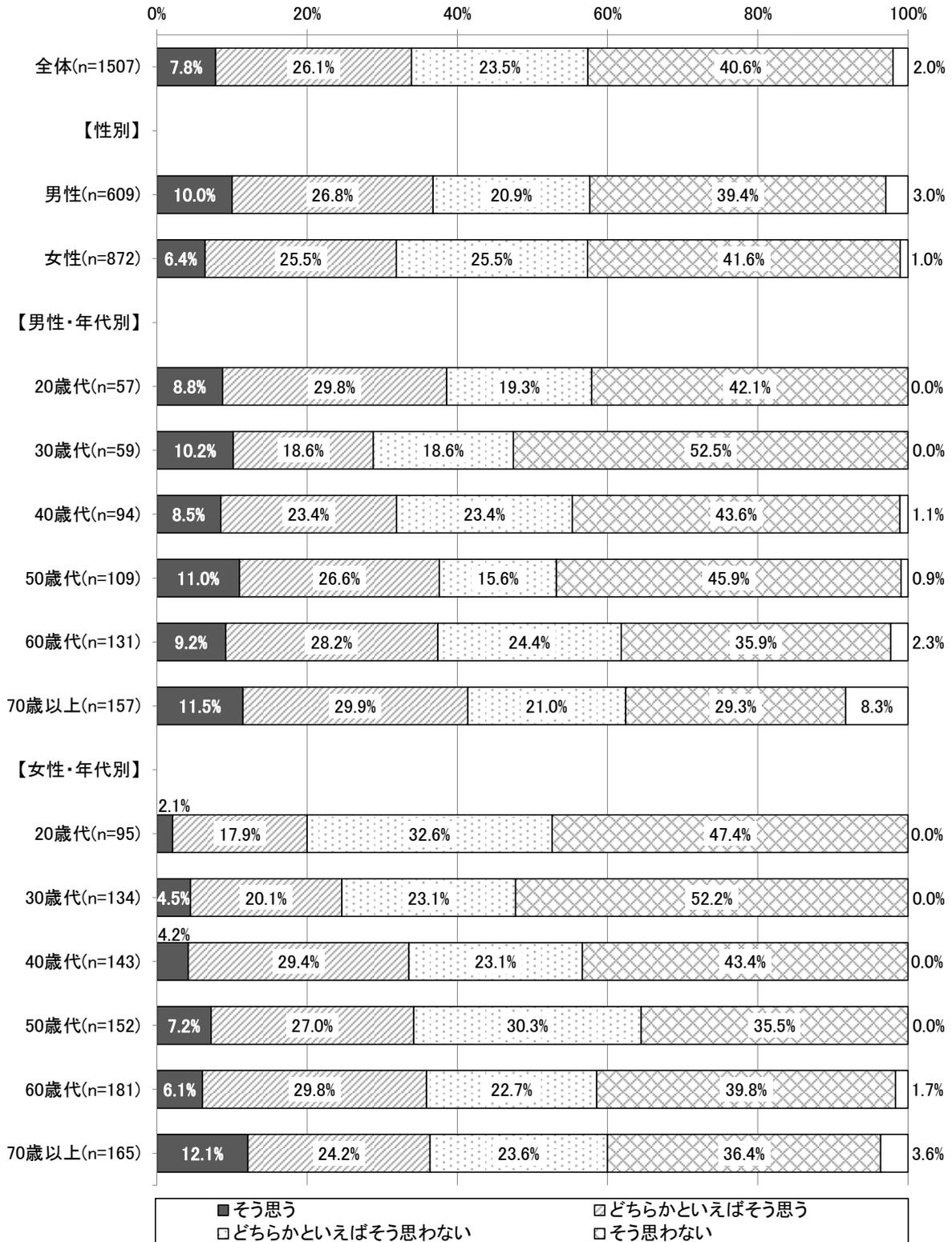


項目(度数)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	合計
①組織のリーダーは男性の方が向いている	118	393	354	612	30	1,507
②女性の上司には抵抗がある	49	198	385	835	40	1,507
③男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ	58	162	353	894	40	1,507
④男性は育児休業を取るべきではない	34	105	336	992	40	1,507
⑤育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	142	477	360	484	44	1,507

◆組織のリーダーは男性の方が向いている【性別、性・年代別クロス】

性別では、大きな差はありませんでした。

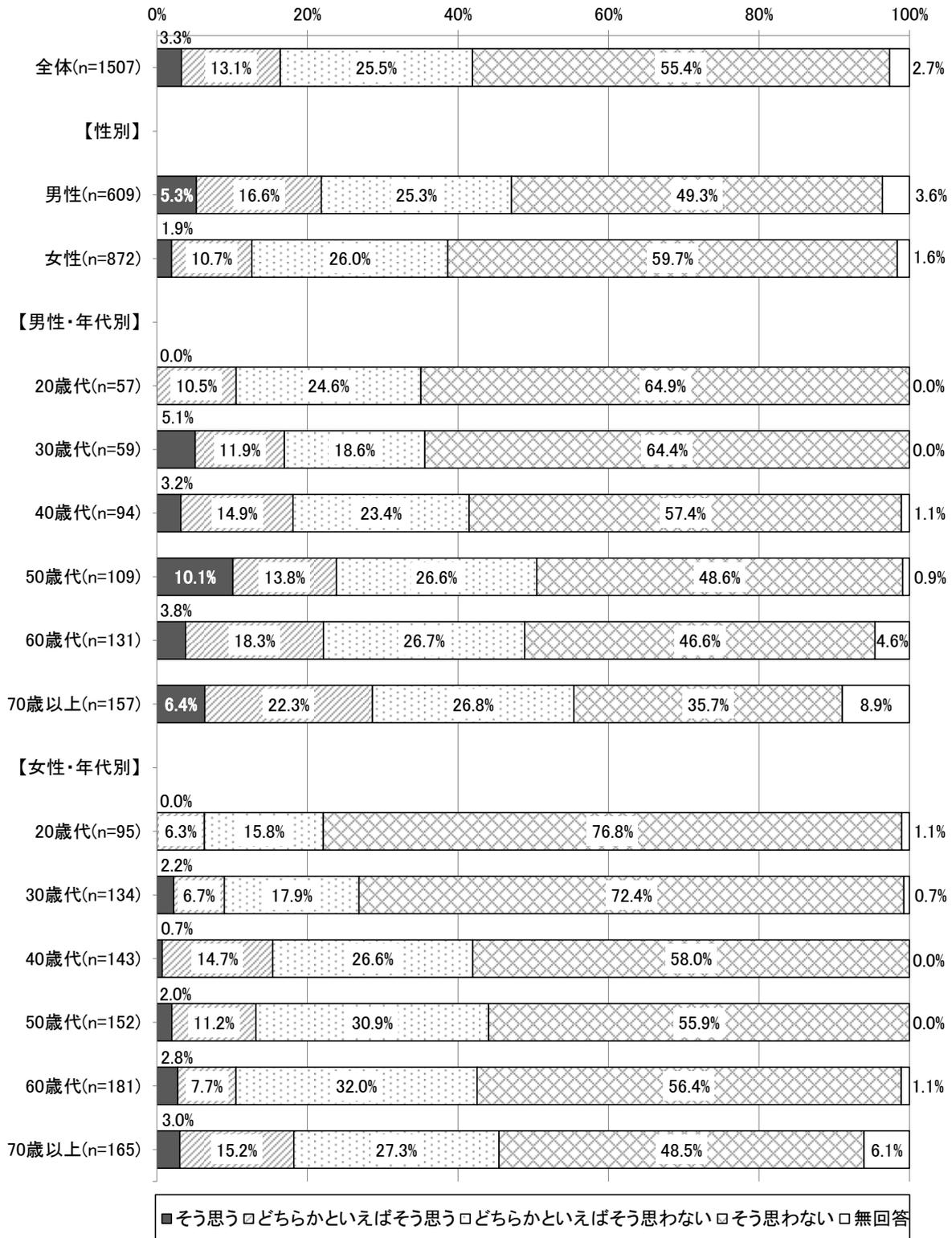
性・年代別では、男性は、30歳代から年代が上がるに従って「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」を合わせた回答が少なくなっています。女性は、年代が上がるに従って、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答が多くなっています。



◆女性の上司には抵抗がある【性別，性・年代別クロス】

性別では，男性より女性の方が「そう思わない」という回答が多くなっています。

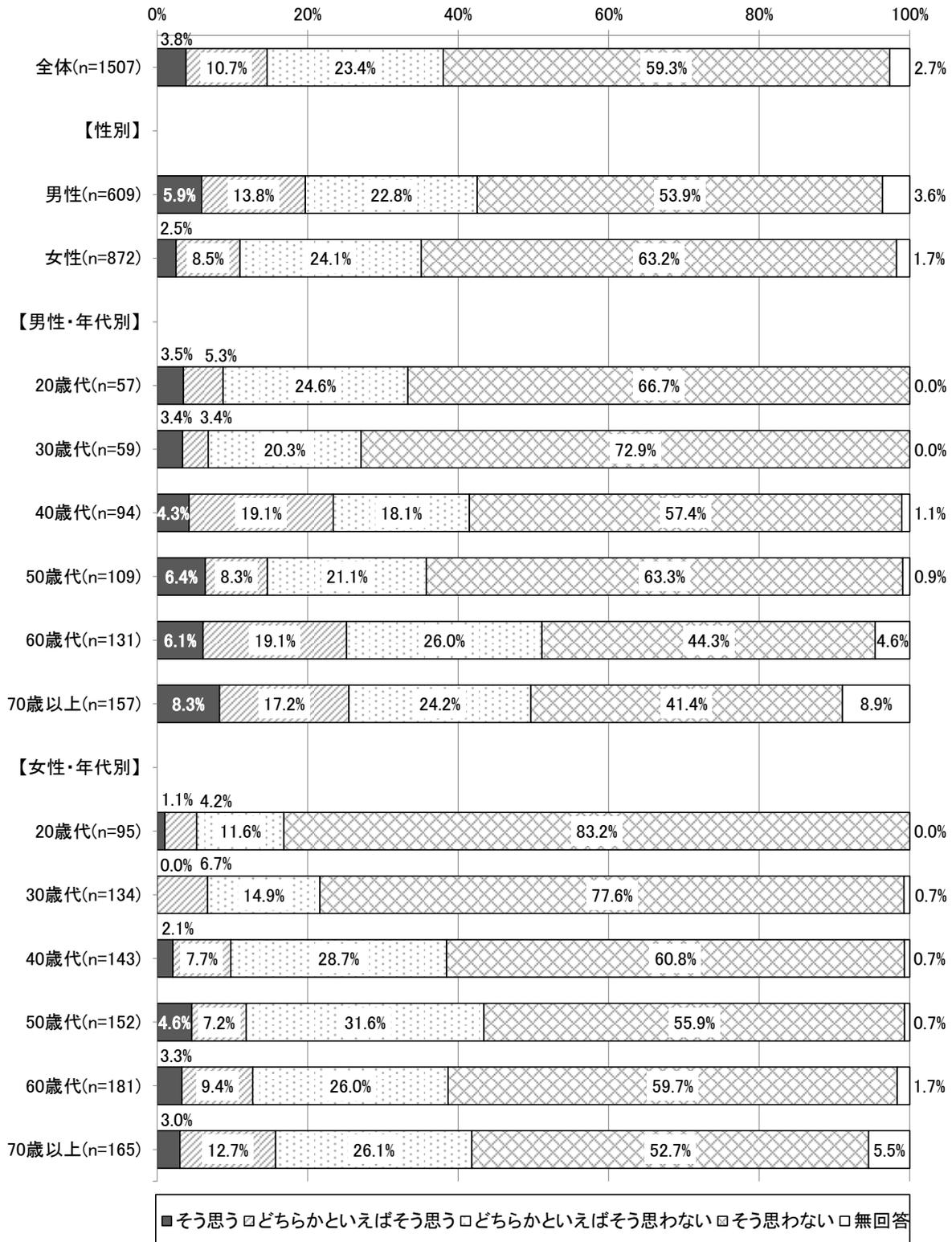
性・年代別では，男性は，年代が上がるに従って「そう思わない」という回答が少なくなっています。女性は，全ての年代で「そう思わない」，「どちらかといえばそう思わない」を合わせた回答が多く，特に20歳代～30歳代は「そう思わない」，「どちらかといえばそう思わない」を合わせた回答が9割を超えています。



◆男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前【性別、性・年代別クロス】

性別では、男性より女性の方が「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」を合わせた回答が多くなっています。

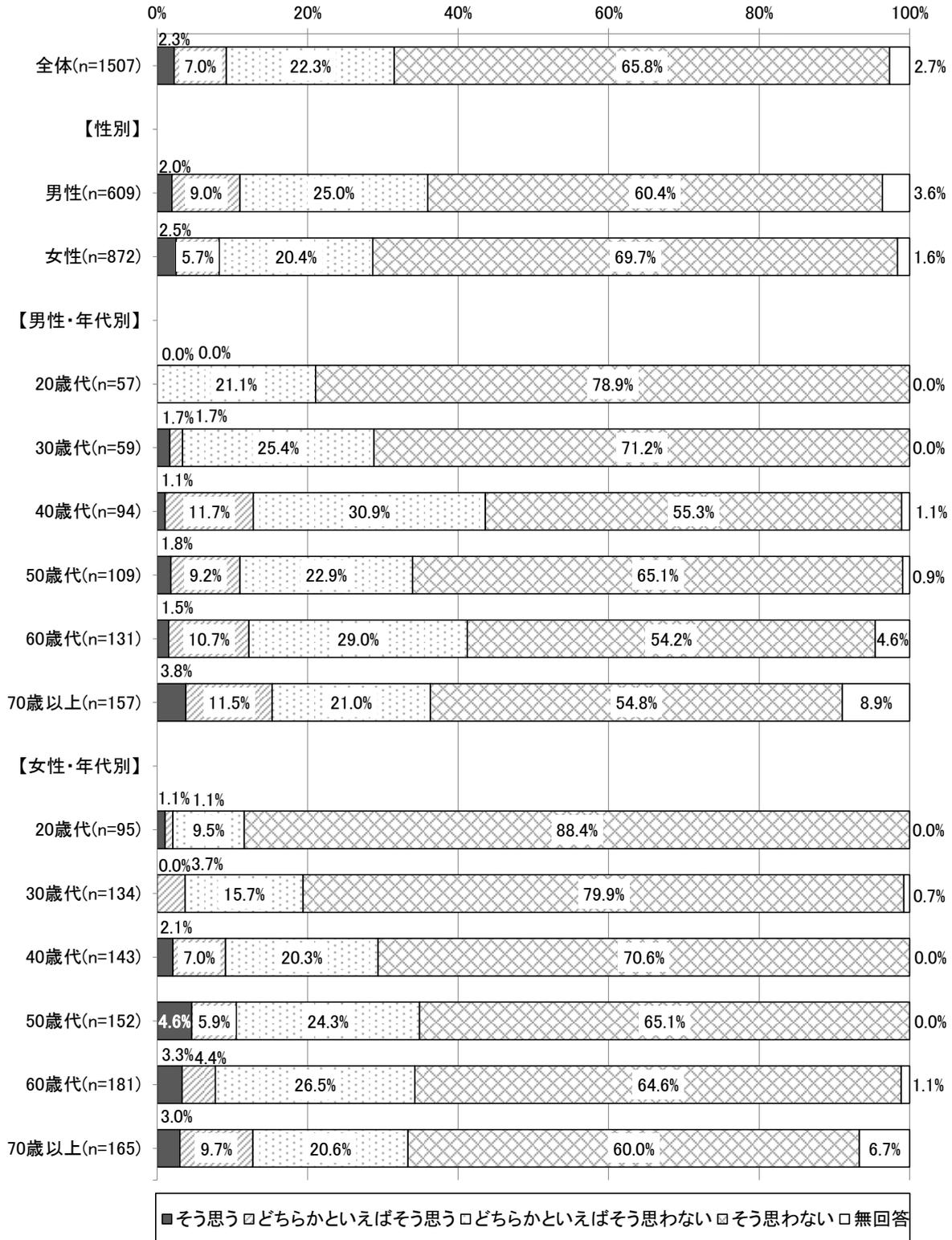
性・年代別では、男性は、20歳代～30歳代が「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」を合わせた回答が多くなっています。女性は、全ての年代で「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」を合わせた回答が多く、特に20歳代～30歳代は「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」を合わせた回答が9割を超えています。



◆男性は育児休業を取るべきではない【性別、性・年代別クロス】

性別では、男性より女性の方が「そう思わない」という回答が多くなっています。

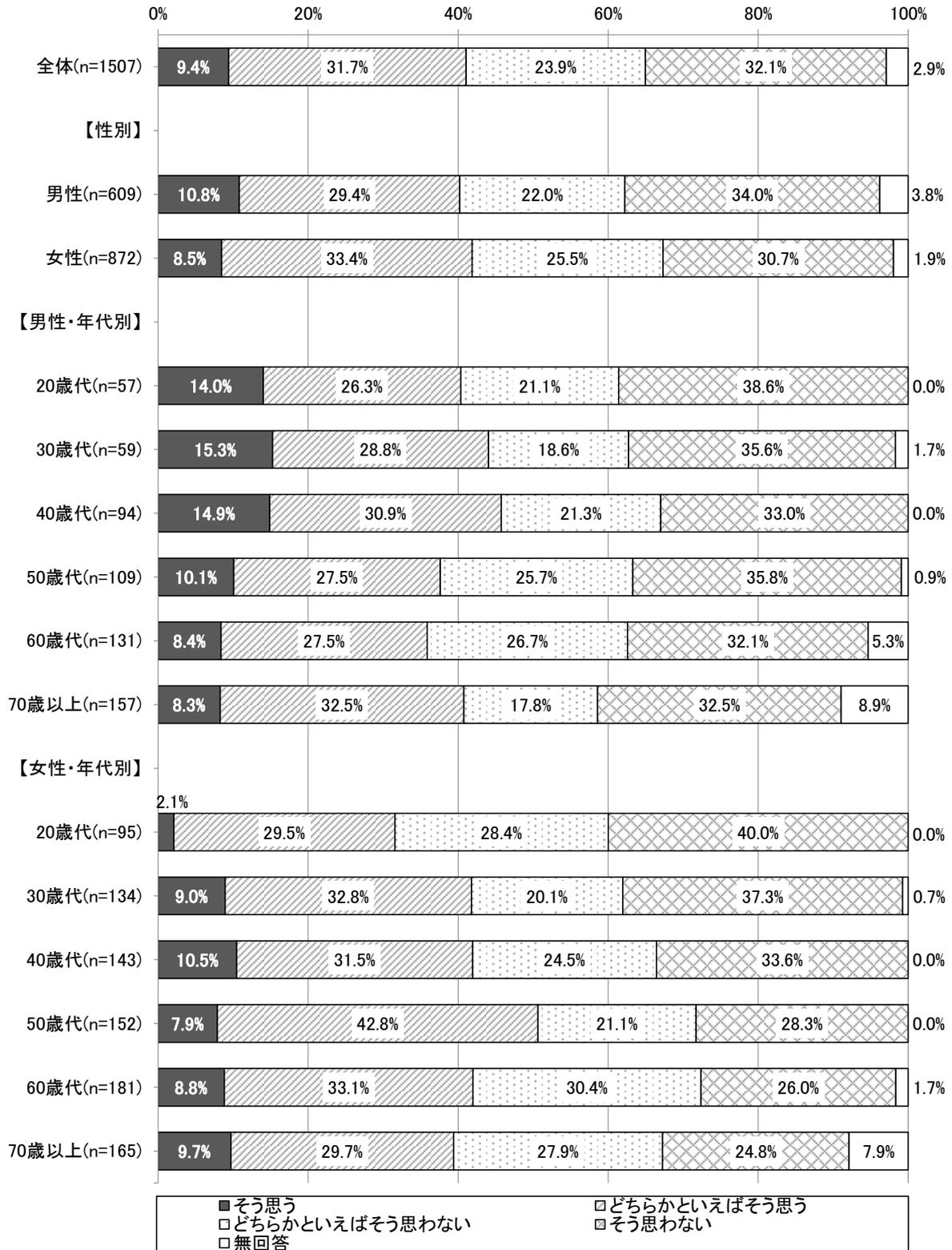
性・年代別では、男性は、20歳代の全ての回答が「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」となっています。女性は、全ての年代で「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」を合わせた回答が多く、特に20歳代、30歳代、60歳代は約9割が「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」と回答しています。



◆育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない【性別、性・年代別クロス】

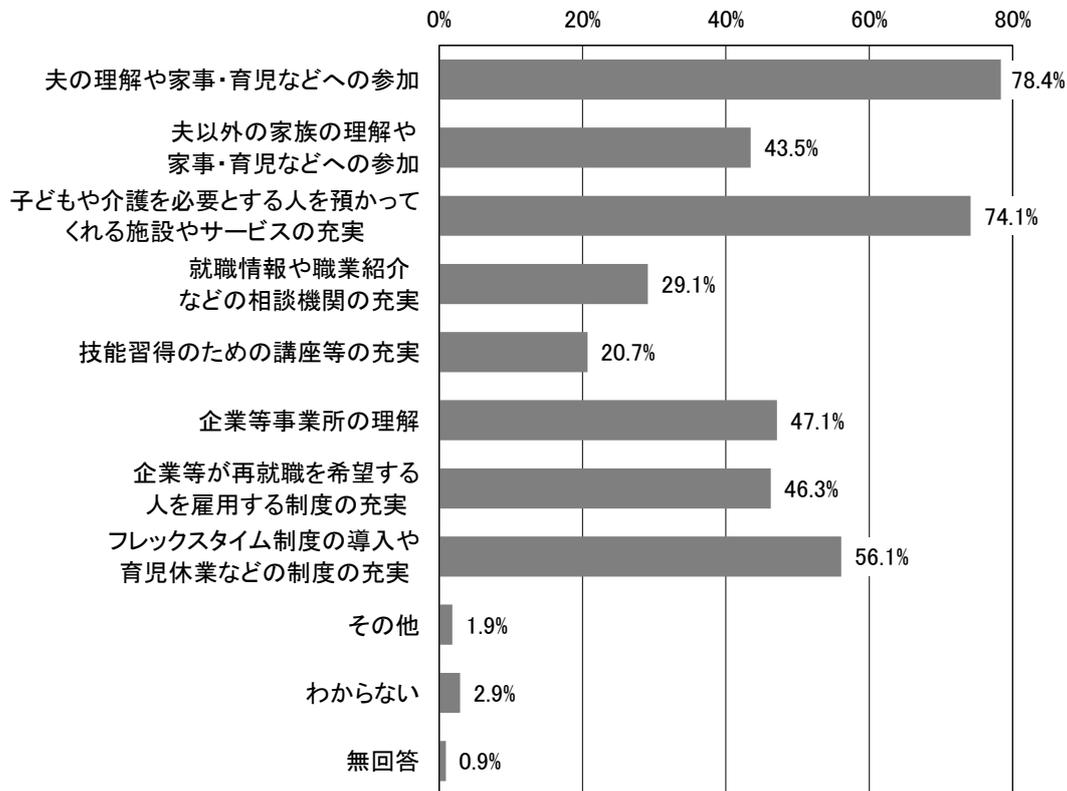
性別では、大きな差はありませんでした。

性・年代別では、男性は、30歳代から年代が上がるに従って「そう思う」という回答が少なくなっています。女性は、年代が上がるに従って「そう思わない」という回答が少なくなっています。



問18 女性が結婚や出産・育児のために退職した場合、その後、再就職するためには何が
必要だと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

女性が結婚や出産・育児のために退職した場合、その後、再就職するために必要なことについては、「夫の理解や家事・育児などへの参加」が78.4%で最も多く、次いで「子どもや介護を必要とする人を預かってくれる施設やサービスの充実」が74.1%、「フレックスタイム制度の導入や育児休業などの制度の充実」が56.1%となっています。

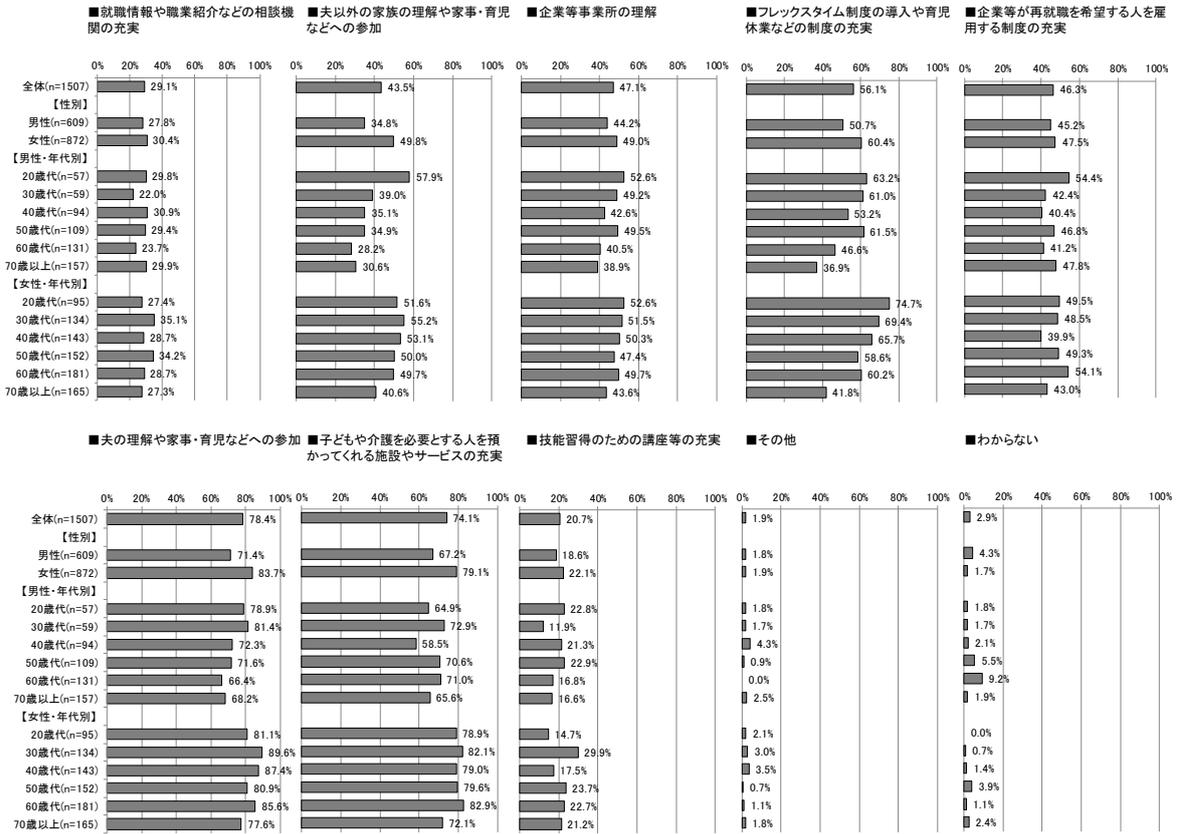


項目	度数	比率
夫の理解や家事・育児などへの参加	1,181	78.4%
夫以外の家族の理解や家事・育児などへの参加	655	43.5%
子どもや介護を必要とする人を預かってくれる施設やサービスの充実	1,117	74.1%
就職情報や職業紹介などの相談機関の充実	439	29.1%
技能習得のための講座等の充実	312	20.7%
企業等事業所の理解	710	47.1%
企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実	697	46.3%
フレックスタイム制度の導入や育児休業などの制度の充実	845	56.1%
その他	28	1.9%
わからない	44	2.9%
無回答	14	0.9%
回答者数	1,507	

【性別、性・年代別クロス】

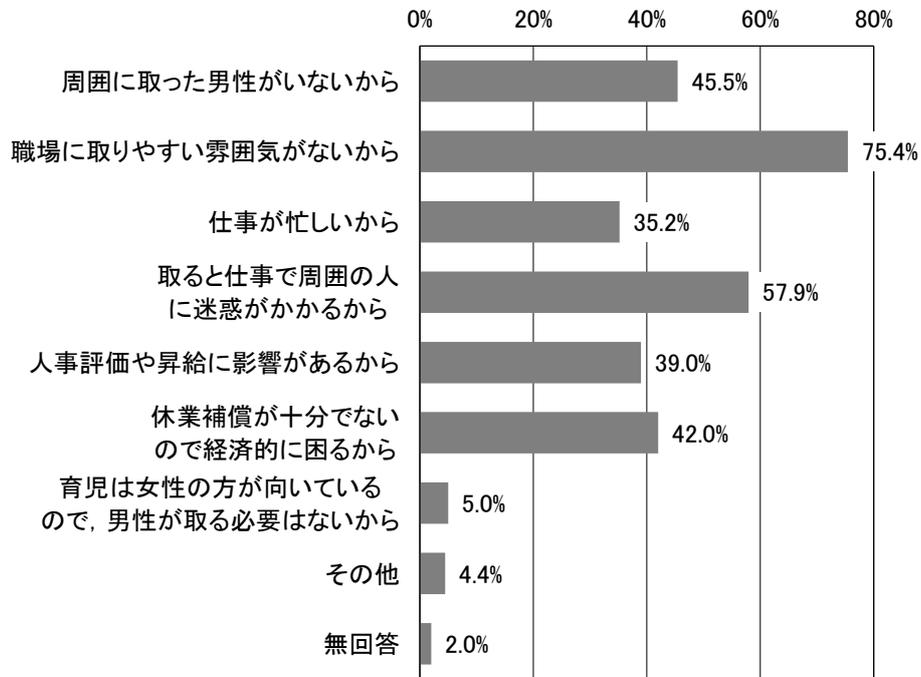
性別では、ほとんどの項目で男性より女性の方が多くなっていますが、特に「夫の理解や家事・育児などへの参加」という回答が多くなっています。

性・年代別では、男性は20歳代が、「夫以外の家族の理解や家事・育児などへの参加」という回答が多くなっています。女性は、20歳代～50歳代まで年代が上がるに従って「フレックスタイム制度の導入や育児休業などの制度の充実」という回答が少なくなっています。



問19 育児休業について、男性が育児休業を取得しづらい理由は何だと思えますか。（あてはまる番号すべてに○）

育児休業について、男性が育児休業を取得しづらい理由については、「職場に取りやすい雰囲気がないから」が75.4%で最も多く、次いで「取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから」が57.9%、「周囲に取った男性がいないから」が45.5%となっています。

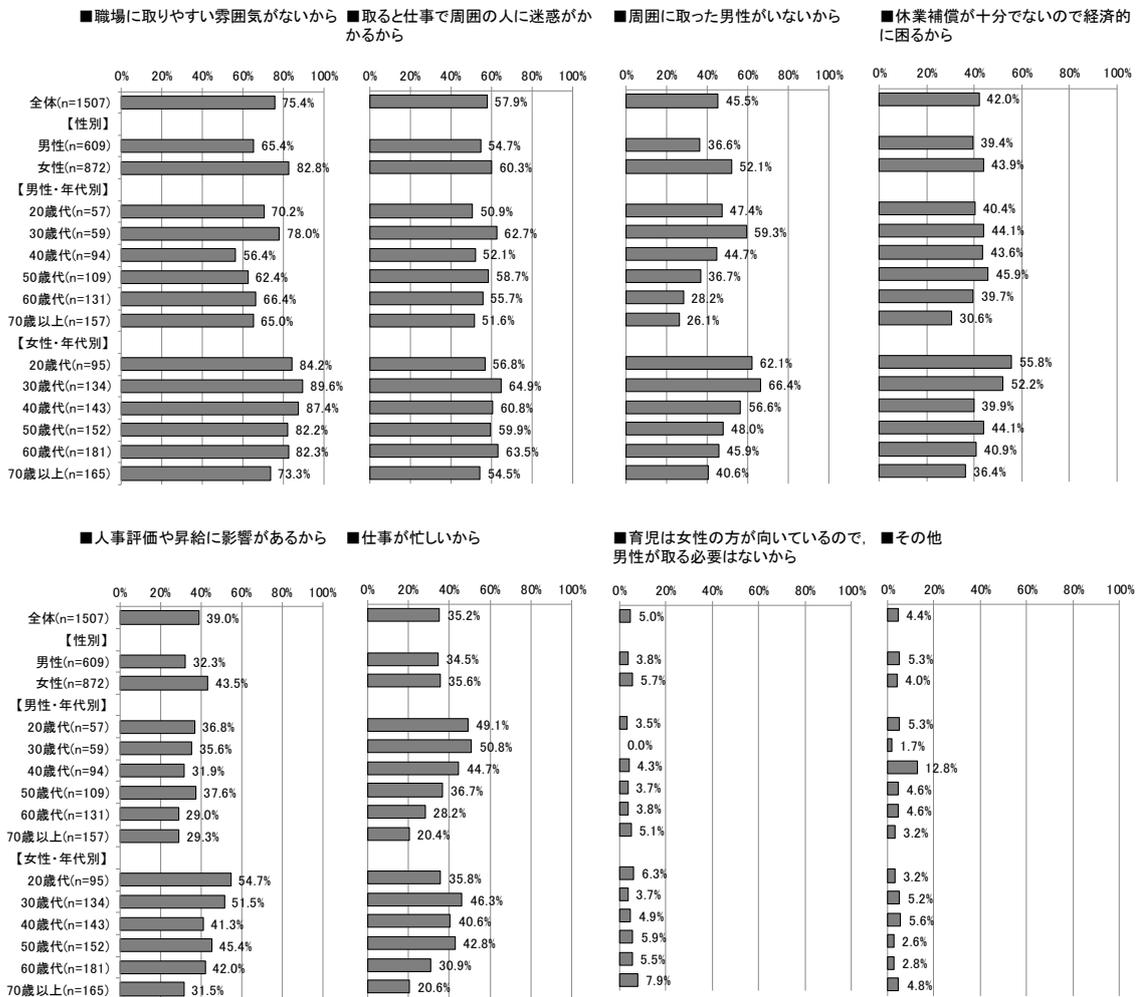


項目	度数	比率
周囲に取った男性がいないから	685	45.5%
職場に取りやすい雰囲気がないから	1,137	75.4%
仕事が忙しいから	530	35.2%
取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから	873	57.9%
人事評価や昇給に影響があるから	587	39.0%
休業補償が十分でない ので経済的に困るから	633	42.0%
育児は女性の方が向いている ので、男性が取る必要はないから	75	5.0%
その他	67	4.4%
無回答	30	2.0%
回答者数	1,507	

【性別、性・年代別クロス】

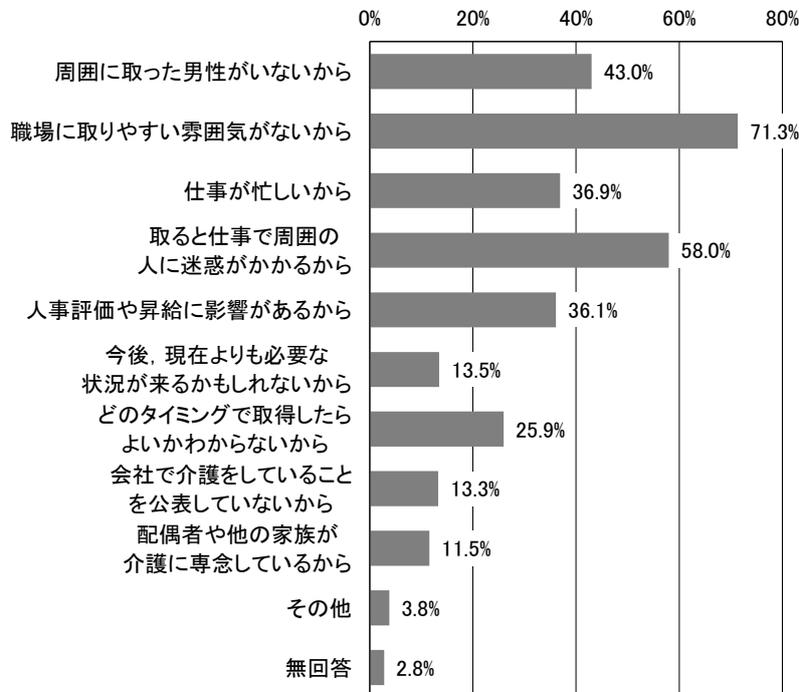
性別では、ほとんどの項目で男性より女性の方が多くなっていますが、特に「職場に取りやすい雰囲気がないから」という回答が多くなっています。

性・年代別では、男性、女性ともに、30歳代から年代が上がるに従って「周囲に取った男性がいないから」という回答が少なくなっています。



問20 介護休業について、男性が介護休業を取得しづらい理由は何だと思いますか。
(あてはまる番号すべてに○)

介護休業について、男性が介護休業を取得しづらい理由については、「職場に取りやすい雰囲気がないから」が71.3%で最も多く、次いで「取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから」が58.0%、「周囲に取った男性がいないから」が43.0%となっています。

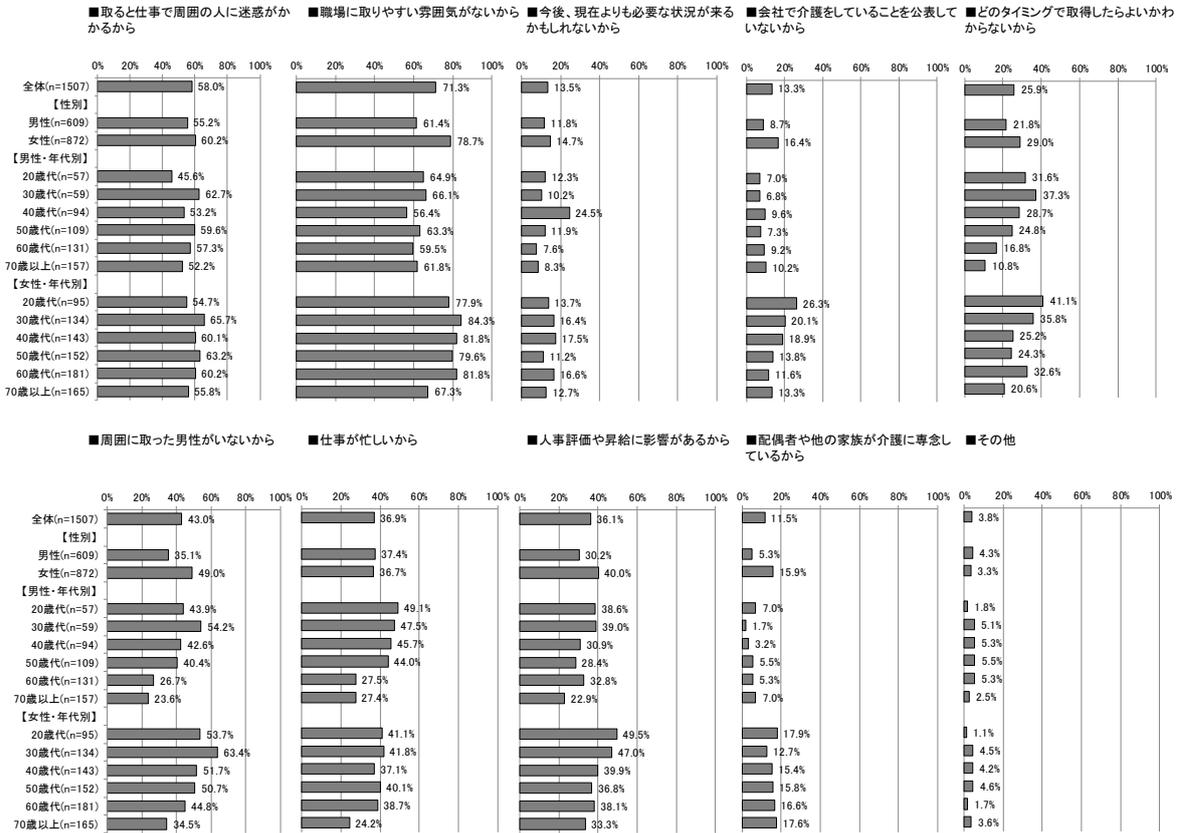


項目	度数	比率
周囲に取った男性がいないから	648	43.0%
職場に取りやすい雰囲気がないから	1,075	71.3%
仕事が忙しいから	556	36.9%
取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから	874	58.0%
人事評価や昇給に影響があるから	544	36.1%
今後、現在よりも必要な状況が来るかもしれないから	203	13.5%
どのタイミングで取得したらよいかわからないから	391	25.9%
会社で介護をしていることを公表していないから	200	13.3%
配偶者や他の家族が介護に専念しているから	174	11.5%
その他	57	3.8%
無回答	42	2.8%
回答者数	1,507	

【性別、性・年代別クロス】

性別では、男性より女性の方が「職場に取りやすい雰囲気がないから」という回答が多くなっています。

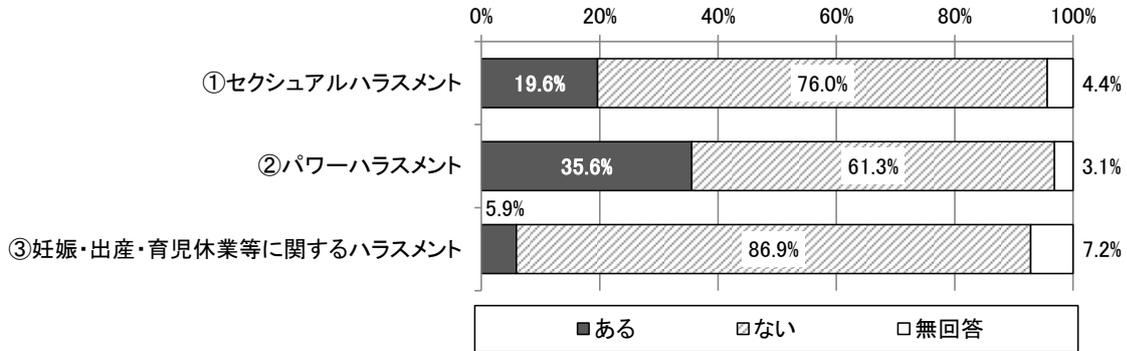
性・年代別では、男性は、60歳代～70歳以上が「仕事が忙しいから」という回答が少なくなっています。女性は、20歳代が「どのタイミングで取得したらよいかわからないから」という回答が多くなっています。



(7) 人権尊重について

問21 あなたは、次のハラスメントを受けた経験がありますか。
 (それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

ハラスメントを受けた経験について、「ある」という回答は、「パワーハラスメント」が35.6%で最も多く、次いで「セクシュアルハラスメント」が19.6%となっています。

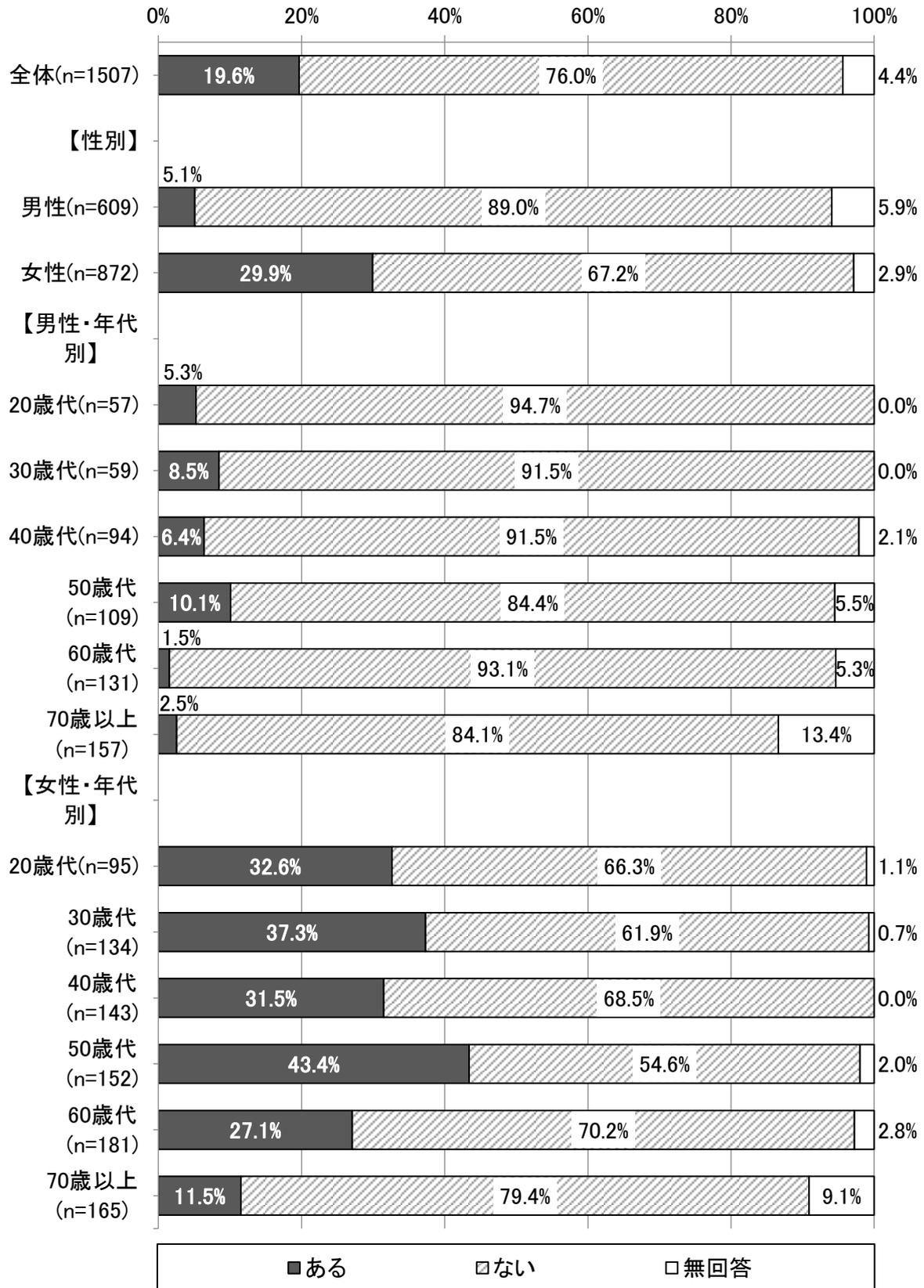


項目(度数)	ある	ない	無回答	合計
①セクシュアルハラスメント	296	1,145	66	1,507
②パワーハラスメント	536	924	47	1,507
③妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメント	89	1,310	108	1,507

◆セクシュアルハラスメント【性別，性・年代別クロス】

性別では，男性より女性の方が「ある」という回答が多くなっています。

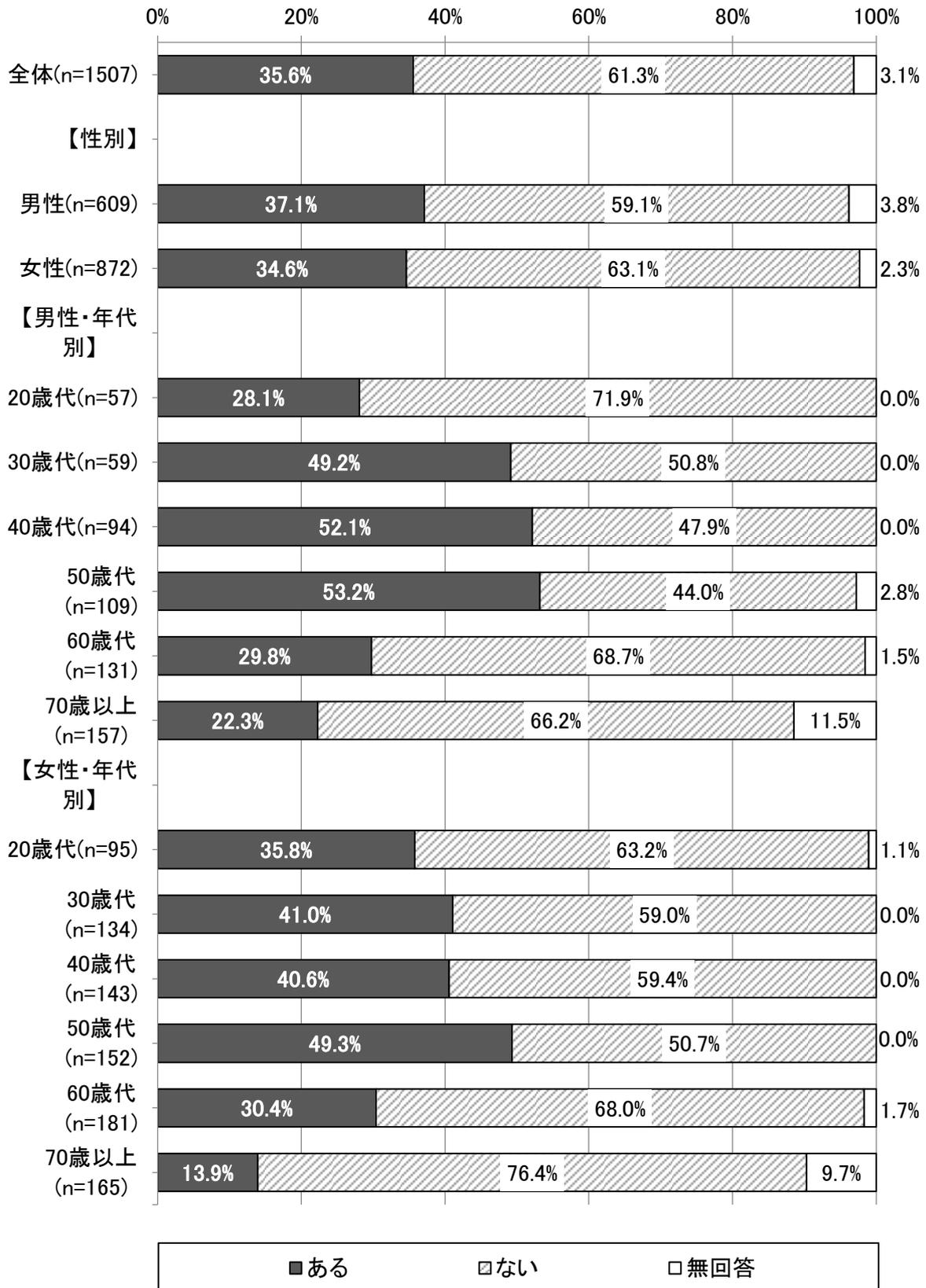
性・年代別では，男性，女性ともに50歳代が「ある」という回答が多くなっています。



◆パワーハラスメント【性別，性・年代別クロス】

性別では，大きな差はありませんでした。

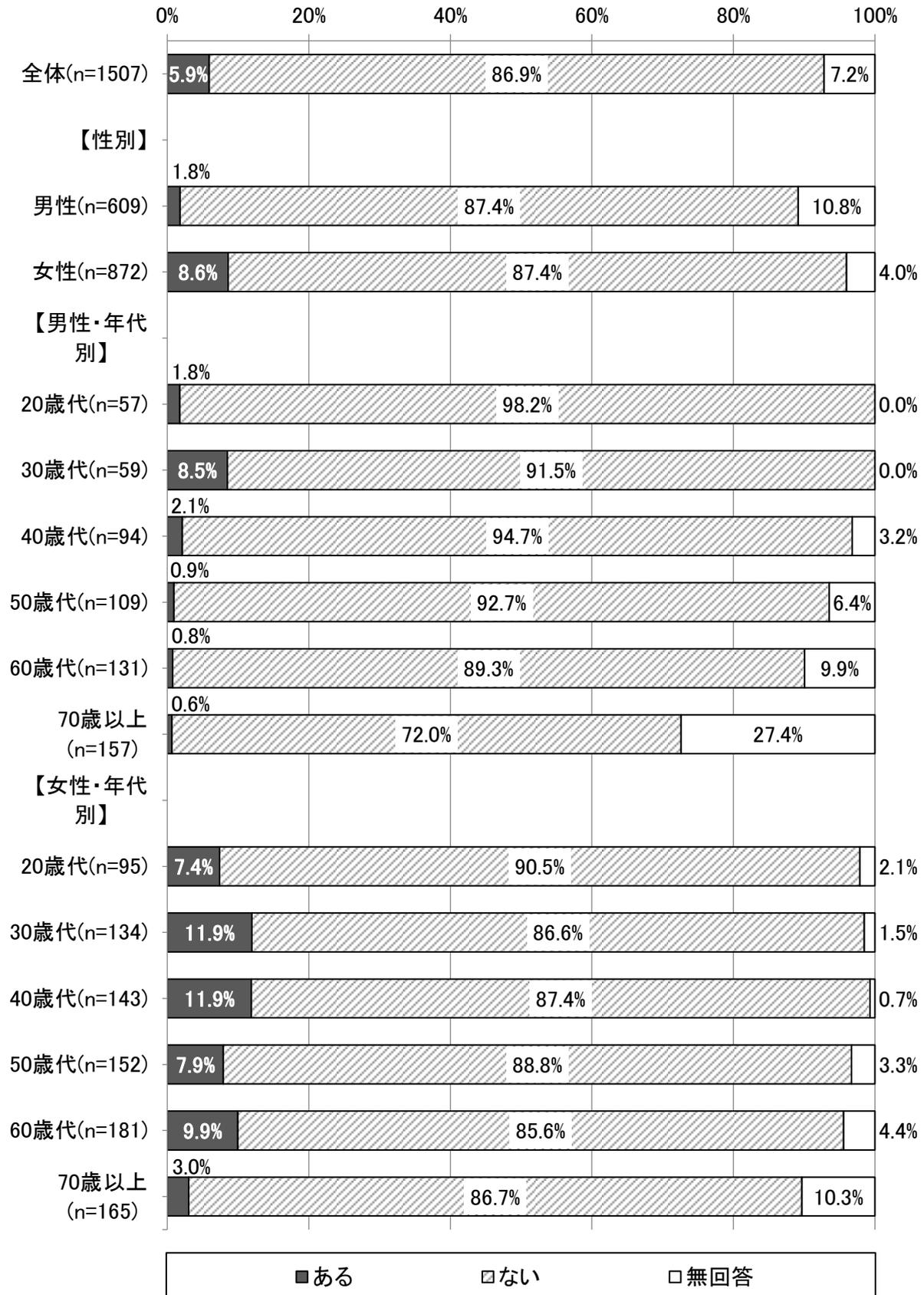
性・年代別では，男性は30歳代～50歳代が「ある」という回答が多くなっています。女性は50歳代が「ある」という回答が多くなっています。



◆妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメント【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】

性別では, 男性より女性の方が「ある」という回答が多くなっています。

性・年代別では, 男性は30歳代が「ある」という回答が多くなっています。女性は, 70歳以上が「ある」という回答がやや少なくなっています。

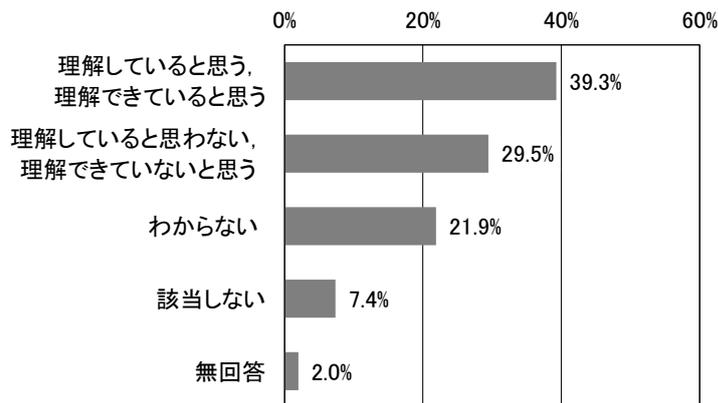


問22 女性は妊娠や出産の可能性もあることから、ライフサイクルを通じて、男性とは異なる、月経など健康上の変化が起こり得ますが、そうした、身体的性差による健康状態について、

【女性の方へ】あなたの配偶者や恋人などが、正しく理解していると思いますか。

【男性の方へ】あなた自身が、配偶者や恋人などの健康状態を理解できていると思いますか。
(○は1つだけ)

パートナーが自分の健康状態について理解していると思うかについては、「理解していると思う、理解できていると思う」が39.3%で最も多く、次いで「理解していると思わない、理解できていないと思う」が29.5%、「わからない」が21.9%となっています。



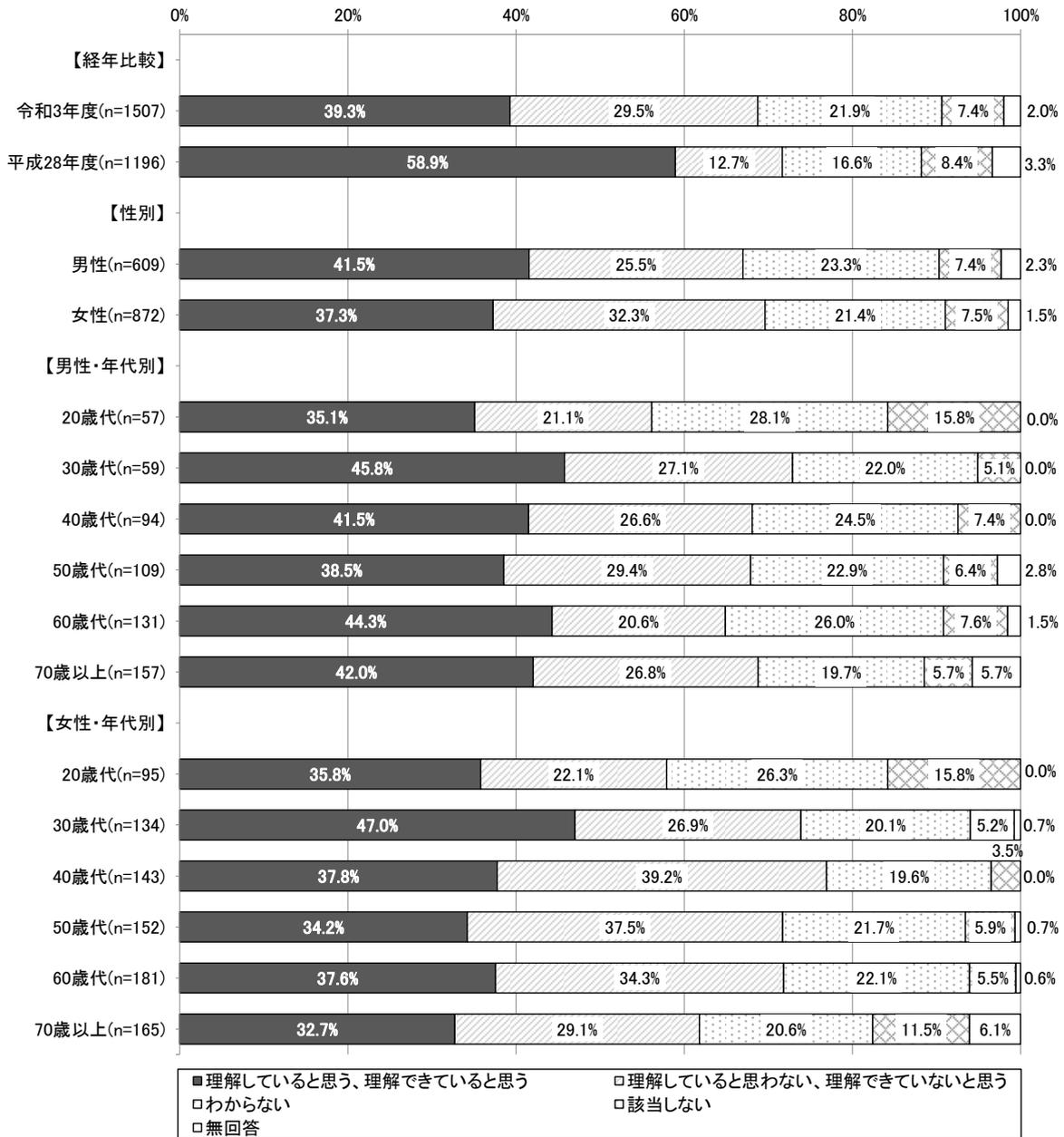
項目	度数	構成比
理解していると思う, 理解できていると思う	592	39.3%
理解していると思わない, 理解できていないと思う	444	29.5%
わからない	330	21.9%
該当しない	111	7.4%
無回答	30	2.0%
合計	1,507	100.0%

【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】

前回調査と比較すると、「理解していると思う, 理解できていると思う」という回答が少なくなっています。

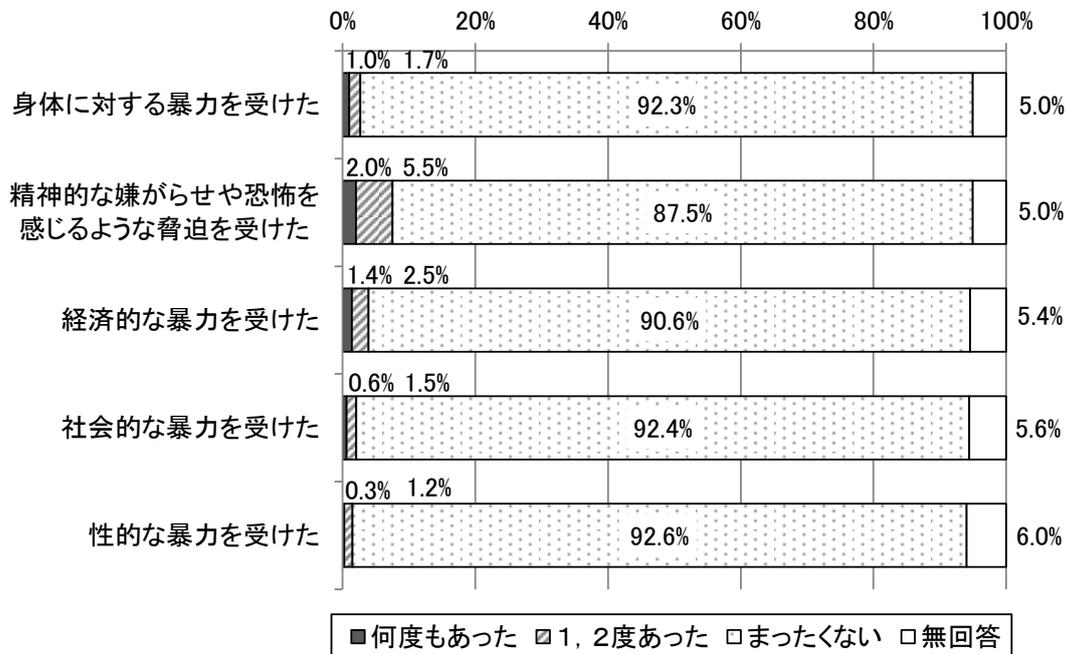
性別では, 男性よりも女性の方が「理解していると思わない, 理解できていないと思う」という回答が多くなっています。

性・年代別では, 男性は, 20歳代が「理解していると思う, 理解できていると思う」という回答が少なくなっています。女性は, 30歳代が「理解していると思う, 理解できていると思う」という回答が多くなっています。



問23 あなたは過去1年間に配偶者や恋人から、①～⑤のような暴力(DV又はデートDV)を受けた経験がありますか。(それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

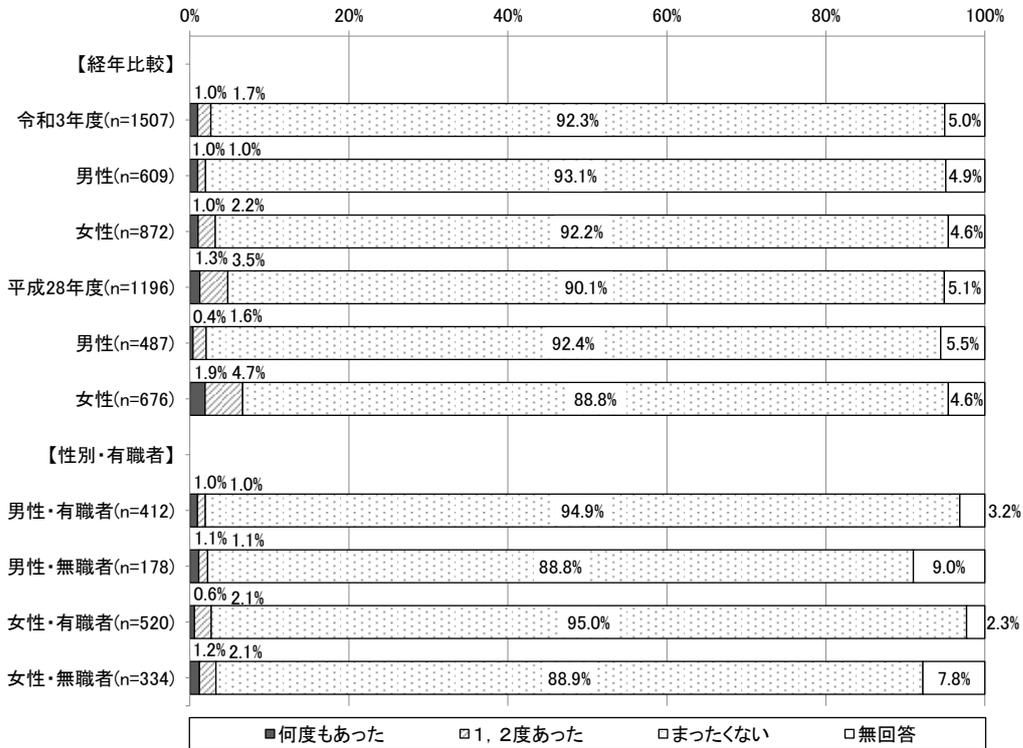
暴力を受けた経験については、「まったくない」が9割前後となっています。また、「精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた」で「何度もあった」、「1、2度あった」を合わせた回答は7.5%となっています。



項目(度数)	何どもあった	1, 2度あった	まったくない	無回答	合計
身体に対する暴力を受けた(殴る, 蹴るなど)	15	25	1,391	76	1,507
精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた(大声で怒鳴る, 嫌な写真を送りつける, 待ち伏せをするなど)	30	83	1,318	76	1,507
経済的な暴力を受けた(生活費を渡さない, 支出を細かく監視するなど)	21	38	1,366	82	1,507
社会的な暴力を受けた(携帯電話を壊す, 親戚や友人との付き合いを制限するなど)	9	22	1,392	84	1,507
性的な暴力を受けた(性行為を強要する, 避妊に協力しないなど)	4	18	1,395	90	1,507

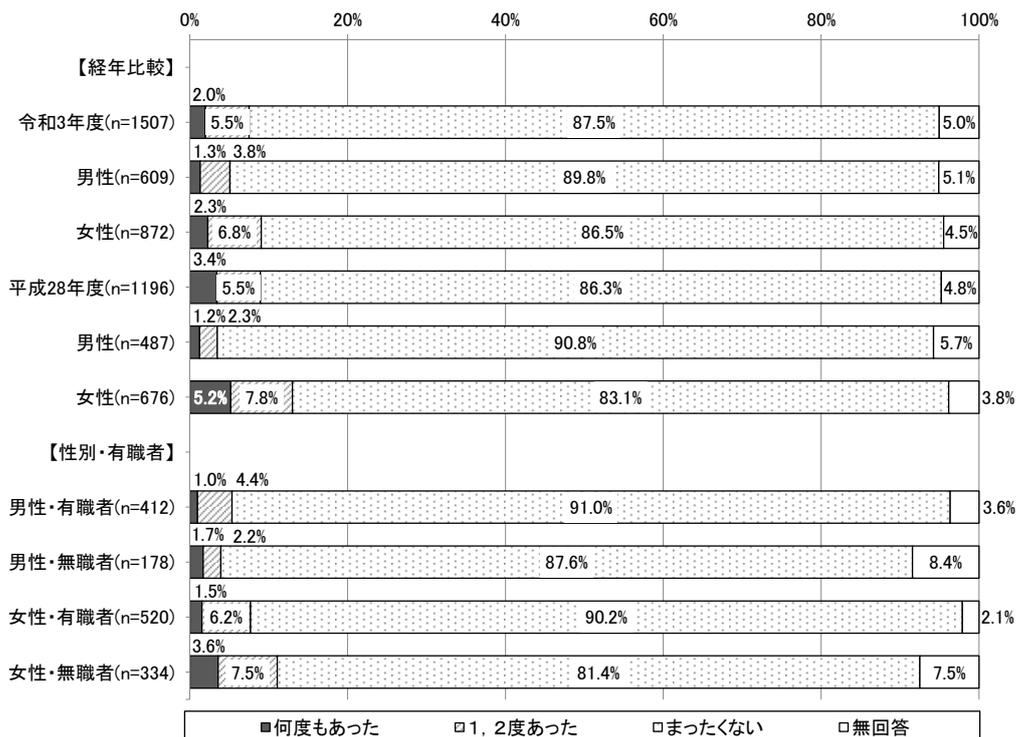
◆身体に対する暴力を受けた(殴る, 蹴るなど)【経年比較, 性別, 性・有職者別クロス】

前回調査と比較すると, 女性は, 「何度もあった」, 「1, 2度あった」を合わせた回答が少なくなっています。性・有職者別では, 大きな差はありませんでした。



◆精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた(大声で怒鳴る, 嫌な写真を送りつける, 待ち伏せをするなど)【経年比較, 性別, 有職者別クロス】

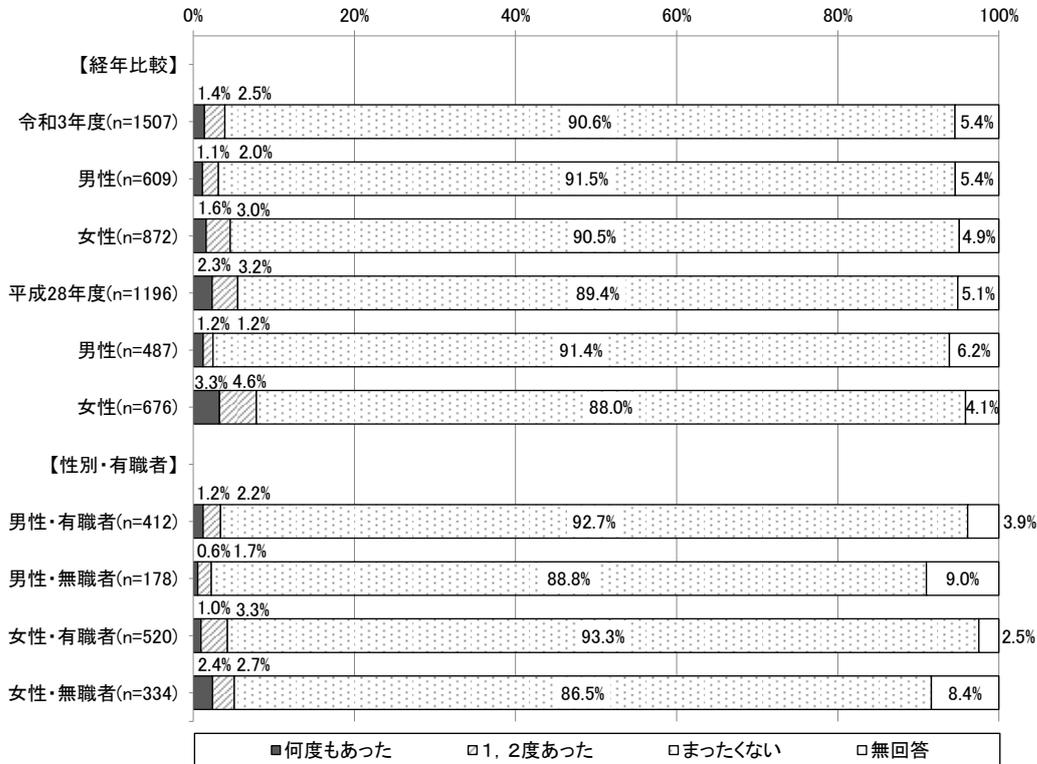
前回調査と比較すると, 女性は, 「何どもあった」, 「1, 2度あった」を合わせた回答が少なくなっています。性・有職者別では, 女性の無職者が「何どもあった」, 「1, 2度あった」を合わせた回答が多くなっています。



◆経済的な暴力を受けた(生活費を渡さない, 支出を細かく監視するなど)

【経年比較, 性別, 有職者別クロス】

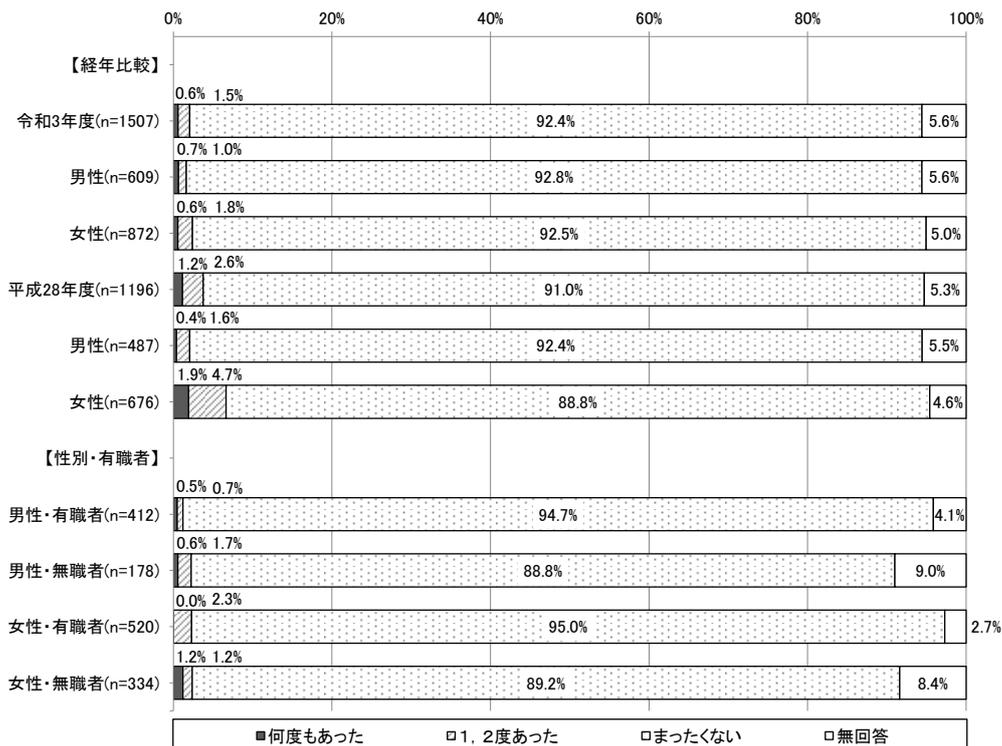
前回調査と比較すると, 女性は, 「何度もあった」, 「1, 2度あった」を合わせた回答が少なくなっています。性・有職者別では, 大きな差はありませんでした。



◆社会的な暴力を受けた(携帯電話を壊す, 親戚や友人との付き合いを制限するなど)

【経年比較, 性別, 有職者別クロス】

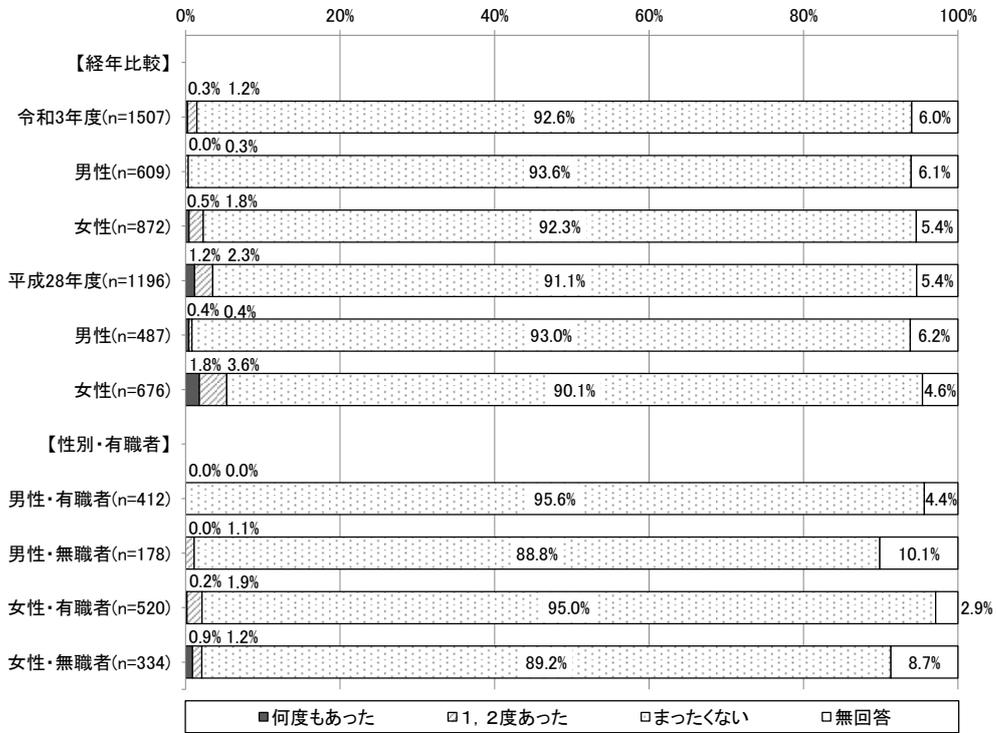
前回調査と比較すると, 女性は, 「何どもあった」, 「1, 2度あった」を合わせた回答が少なくなっています。性・有職者別では, 大きな差はありませんでした。



◆性的な暴力を受けた(性行為を強要する, 避妊に協力しないなど)

【経年比較, 性別, 有職者別クロス】

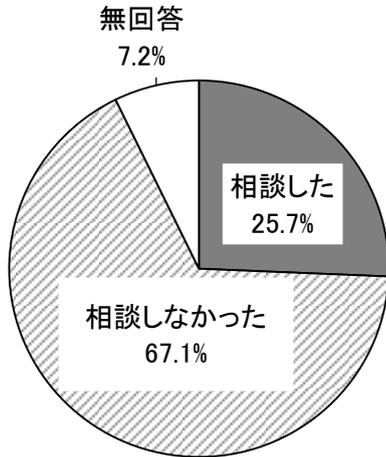
前回調査と比較すると, 女性は, 「何度もあった」, 「1, 2度あった」を合わせた回答が少なくなっています。性・有職者別では, 大きな差はありませんでした。



《問23で、①～⑤のいずれかで、「何度もあった」または「1, 2度あった」に○をつけた人にお伺いしました。》

問24 あなたはこれまでに、配偶者等から受けた暴力について、誰かに相談しましたか。
(○は1つだけ)

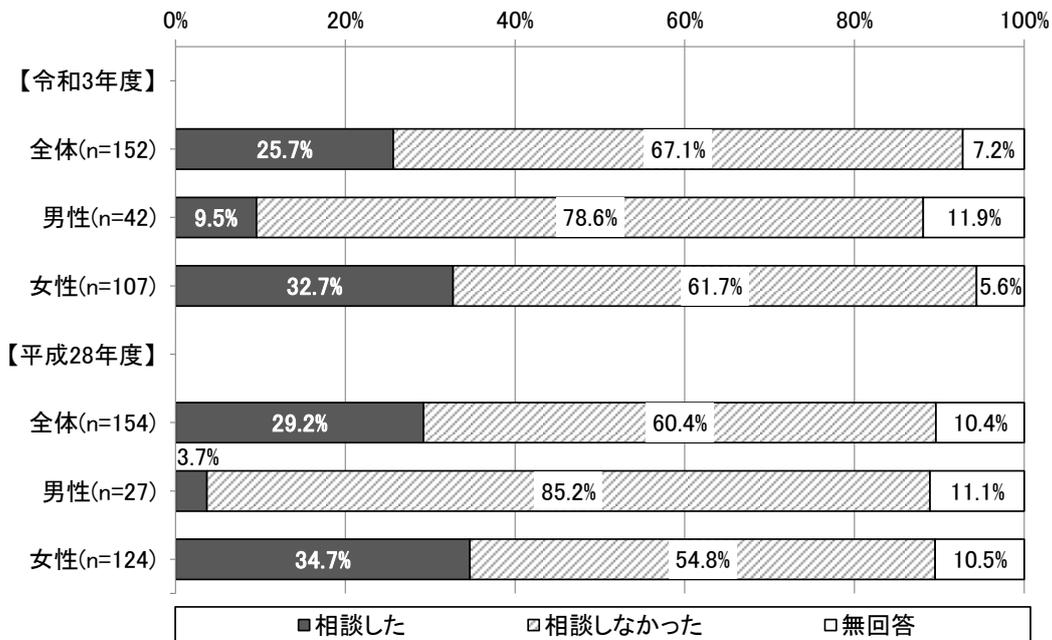
受けた暴力について、誰かに相談したかについては、「相談した」が25.7%、「相談しなかった」が67.1%となっています。



項目	度数	構成比
相談した	39	25.7%
相談しなかった	102	67.1%
無回答	11	7.2%
回答者数	152	100.0%
非該当	1,355	
合計	1,507	

【経年比較, 性別クロス】

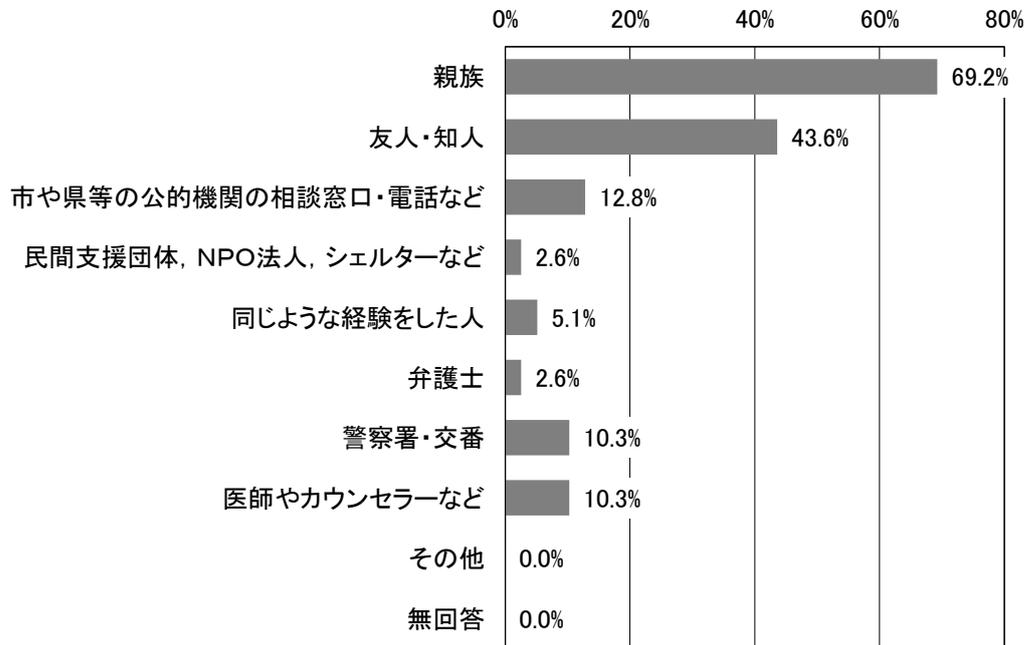
前回調査と比較すると、「相談しなかった」という回答が多くなっています。
性別では、男性より女性の方が「相談した」という回答が多くなっています。



《問24で、「相談した」に○をつけた人にお伺いしました。》

問25 相談した相手はどなたですか。(あてはまる番号すべてに○)

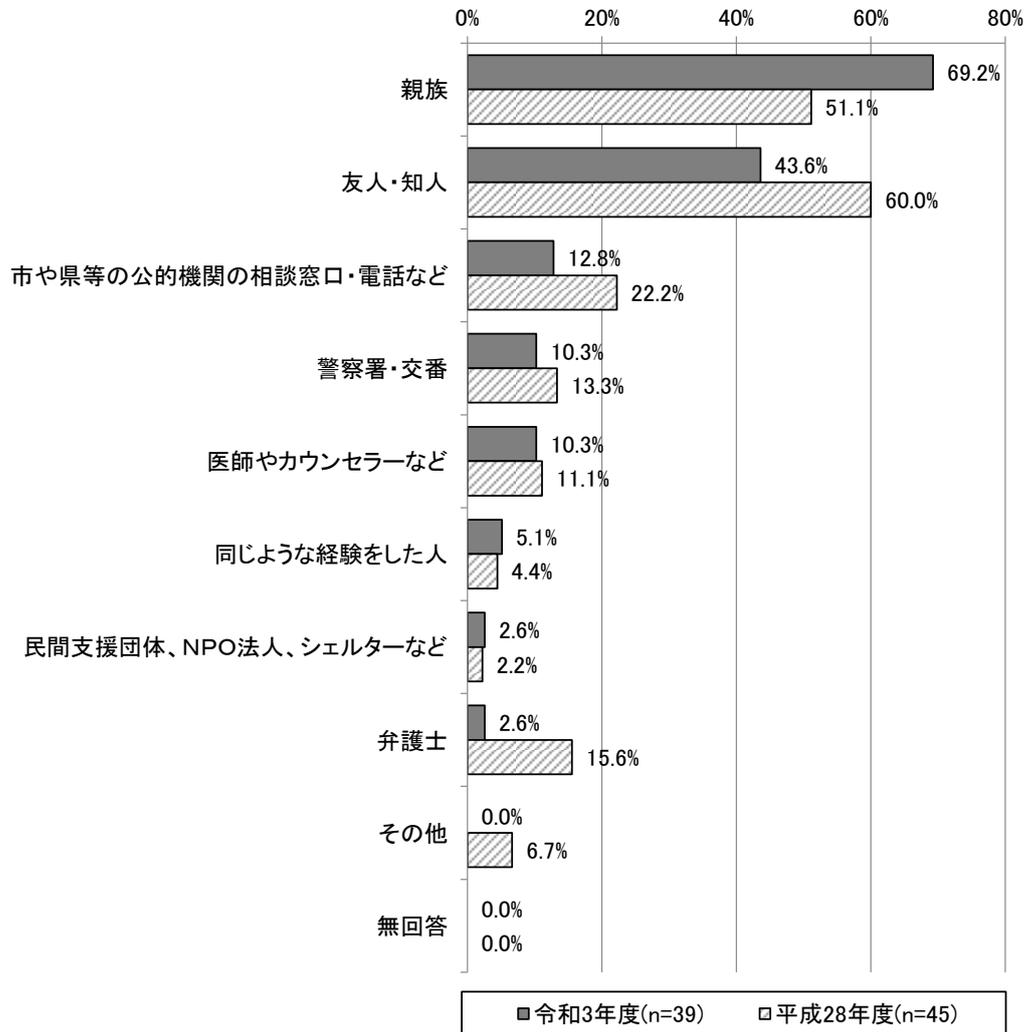
相談した相手については、「親族」が69.2%で最も多く、次いで「友人・知人」が43.6%となっています。



項目	度数	比率
親族	27	69.2%
友人・知人	17	43.6%
市や県等の公的機関の相談窓口・電話など	5	12.8%
民間支援団体, NPO法人, シェルターなど	1	2.6%
同じような経験をした人	2	5.1%
弁護士	1	2.6%
警察署・交番	4	10.3%
医師やカウンセラーなど	4	10.3%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
回答者数	39	
非該当	1,468	
合計	1,507	

【経年比較】

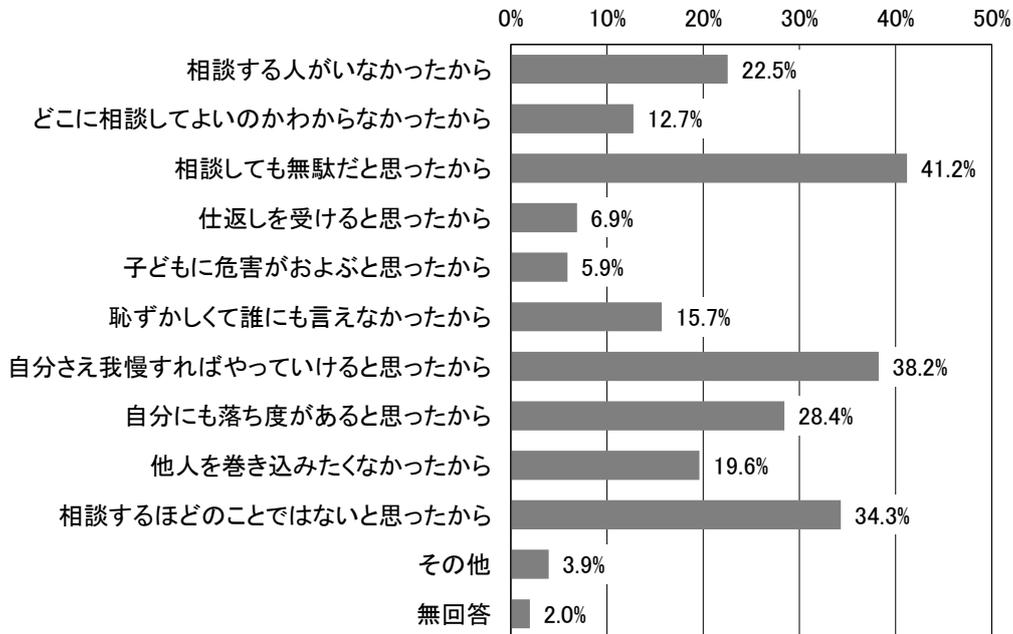
前回調査と比較すると、「親族」という回答が多くなっており、「友人・知人」という回答が少なくなっています。



《問24で、「相談しなかった」に○をつけた人にお伺いしました。》

問26 相談しなかった理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

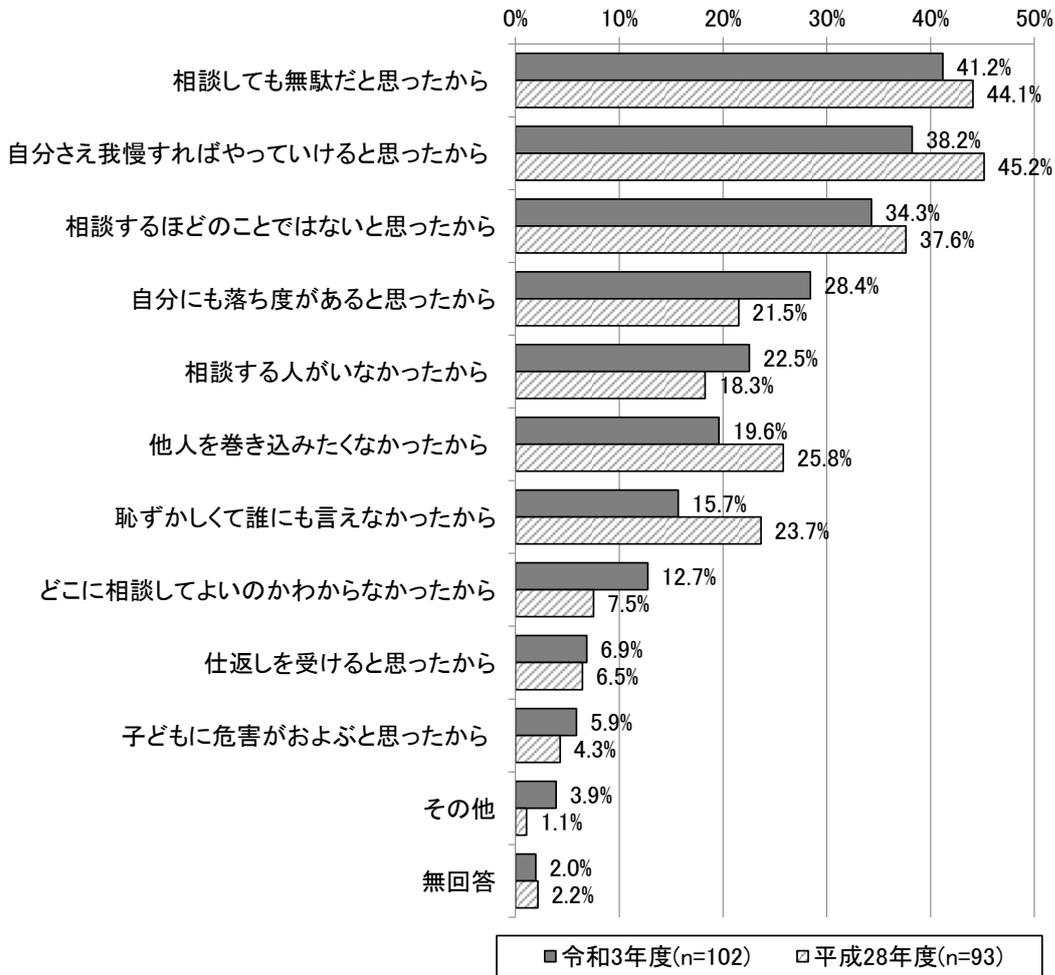
相談しなかった理由については、「相談しても無駄だと思ったから」が41.2%で最も多く、次いで「自分さえ我慢すればやっていけると思ったから」が38.2%、「相談するほどのことではないと思ったから」が34.3%となっています。



項目	度数	比率
相談する人がいなかったから	23	22.5%
どこに相談してよいのかわからなかったから	13	12.7%
相談しても無駄だと思ったから	42	41.2%
仕返しを受けると思ったから	7	6.9%
子どもに危害がおよぶと思ったから	6	5.9%
恥ずかしくて誰にも言えなかったから	16	15.7%
自分さえ我慢すればやっていけると思ったから	39	38.2%
自分にも落ち度があると思ったから	29	28.4%
他人を巻き込みたくなかったから	20	19.6%
相談するほどのことではないと思ったから	35	34.3%
その他	4	3.9%
無回答	2	2.0%
回答者数	102	
非該当	1,405	
合計	1,507	

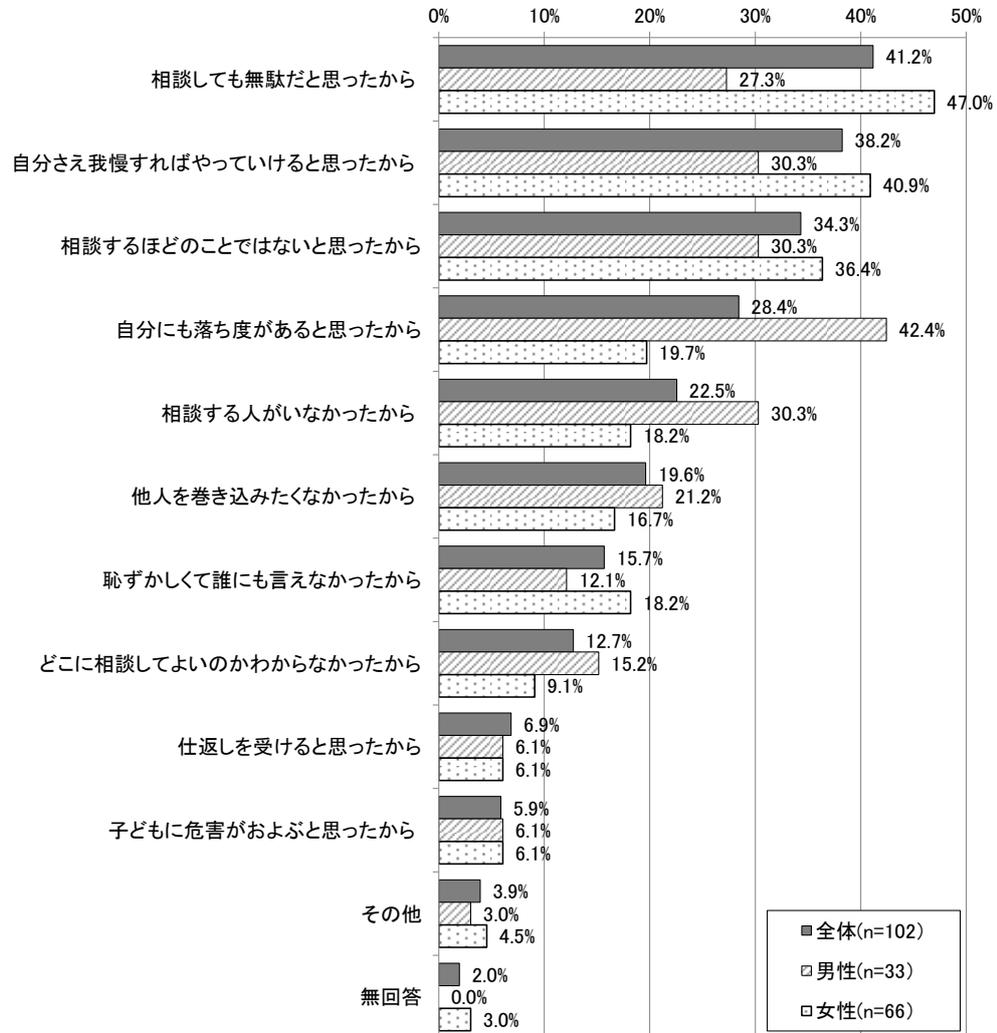
【経年比較】

前回調査と比較すると、今回調査の上位3項目で回答が少なくなっています。なお、減少率が高い項目としては、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が8.0ポイント、「自分さえ我慢すればやっていけると思ったから」が7.0ポイント、「他人を巻き込みたくなかったから」が6.2ポイントの減少となっています。



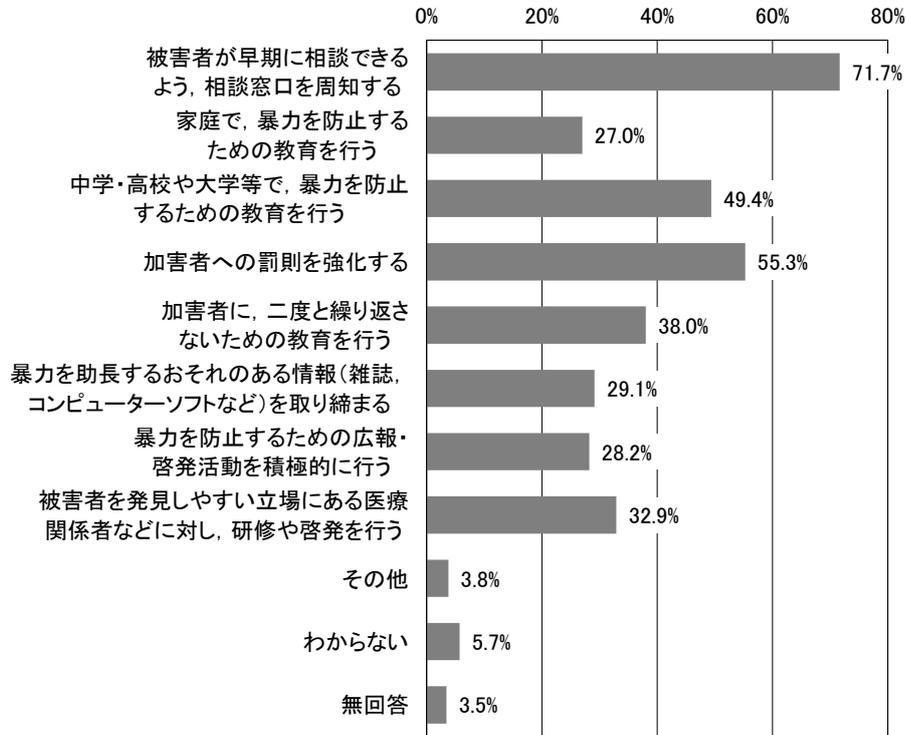
【性別クロス】

性別では、男性より女性の方が「相談しても無駄だと思ったから」という回答が多くなっています。また、女性より男性の方が「自分にも落ち度があると思ったから」という回答が多くなっています。



問27 DVやデートDVを防止するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまる番号すべてに○)

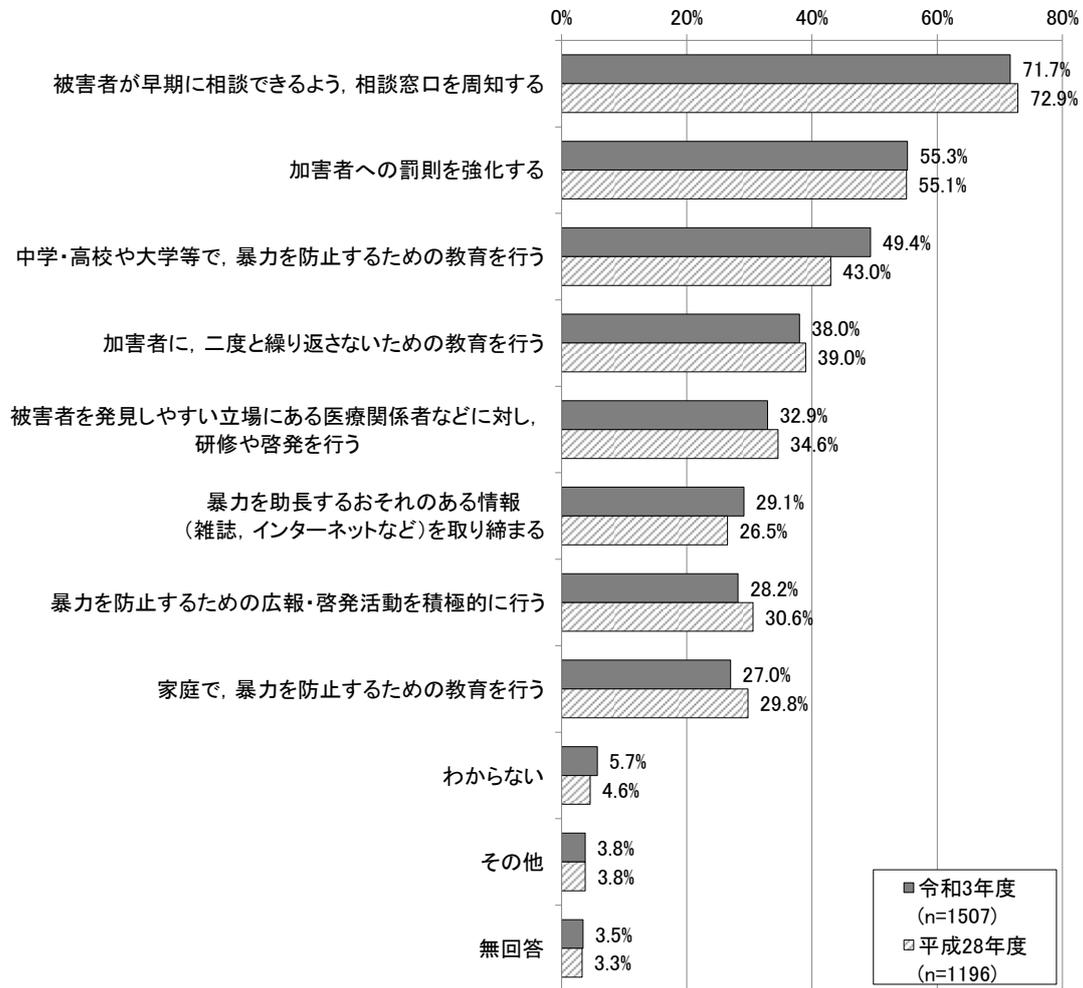
DVやデートDVを防止するために必要なことについては、「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口を周知する」が71.7%で最も多く、次いで「加害者への罰則を強化する」が55.3%、「中学・高校や大学等で、暴力を防止するための教育を行う」が49.4%となっています。



項目	度数	比率
被害者が早期に相談できるよう、相談窓口を周知する	1,080	71.7%
家庭で、暴力を防止するための教育を行う	407	27.0%
中学・高校や大学等で、暴力を防止するための教育を行う	744	49.4%
加害者への罰則を強化する	833	55.3%
加害者に、二度と繰り返さないための教育を行う	573	38.0%
暴力を助長するおそれのある情報(雑誌, コンピューターソフトなど)を取り締まる	439	29.1%
暴力を防止するための広報・啓発活動を積極的に行う	425	28.2%
被害者を発見しやすい立場にある医療関係者などに対し、研修や啓発を行う	496	32.9%
その他	57	3.8%
わからない	86	5.7%
無回答	52	3.5%
回答者数	1,507	

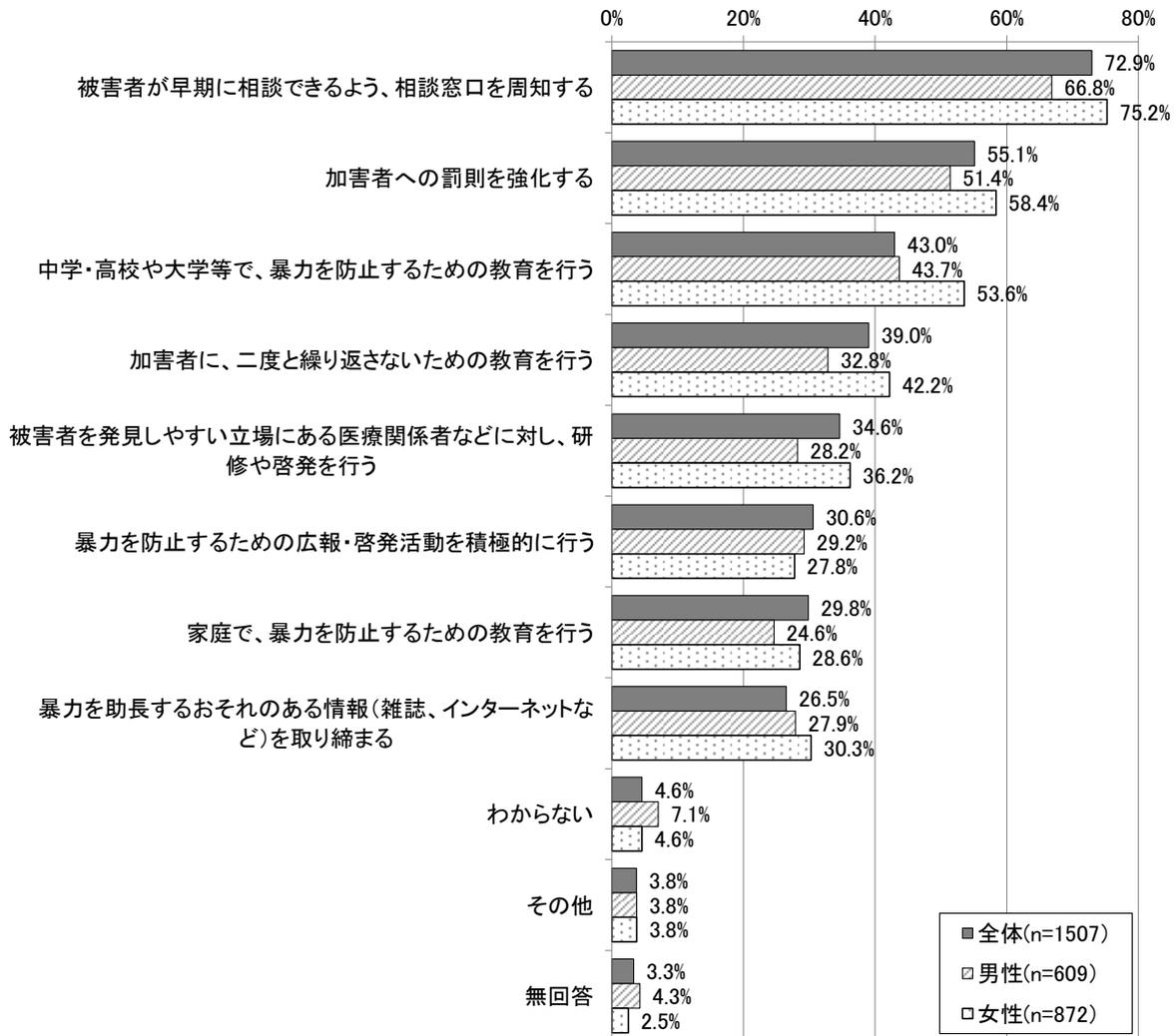
【経年比較】

前回調査と比較すると、大きな差はありませんでした。



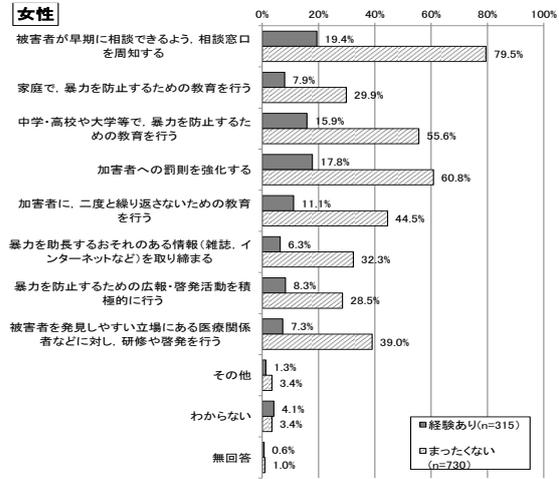
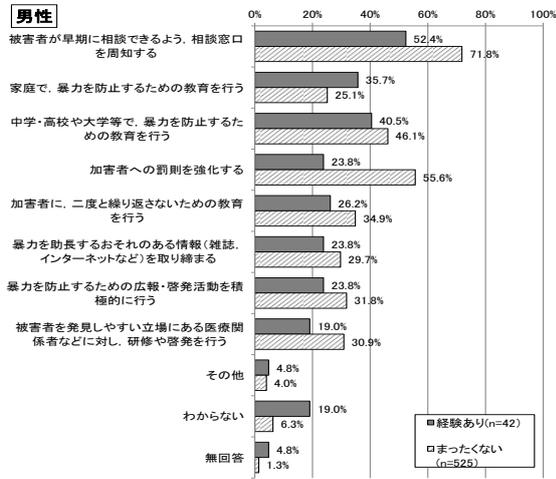
【性別クロス】

性別では、男女ともに、回答の傾向は同じですが、「中学・高校や大学等で、暴力を防止するための教育を行う」、「加害者に、二度と繰り返さないための教育を行う」では、男女に差があります。



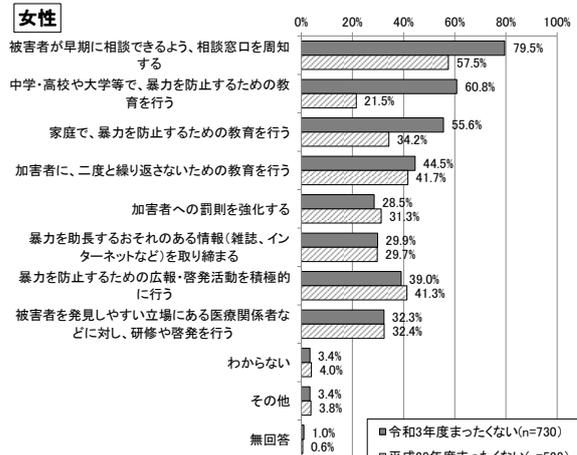
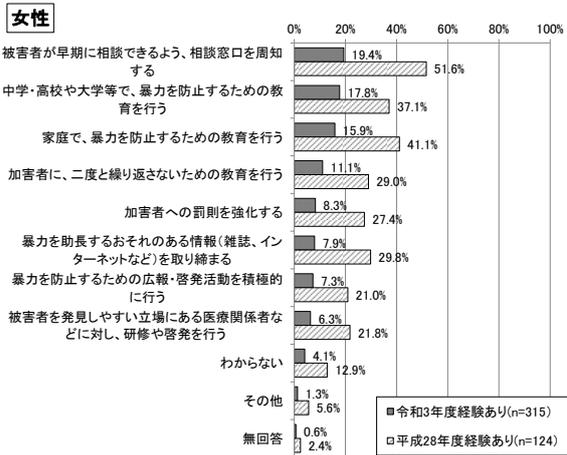
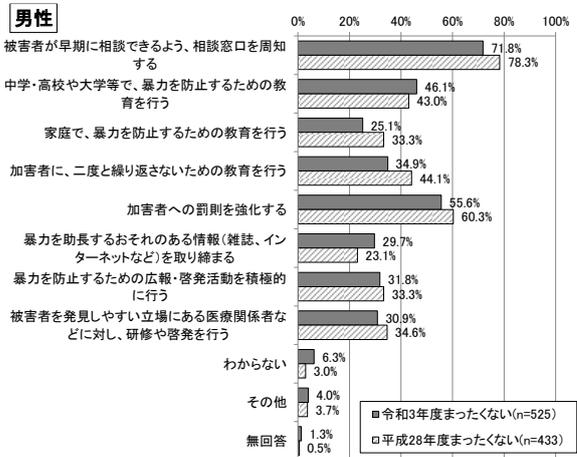
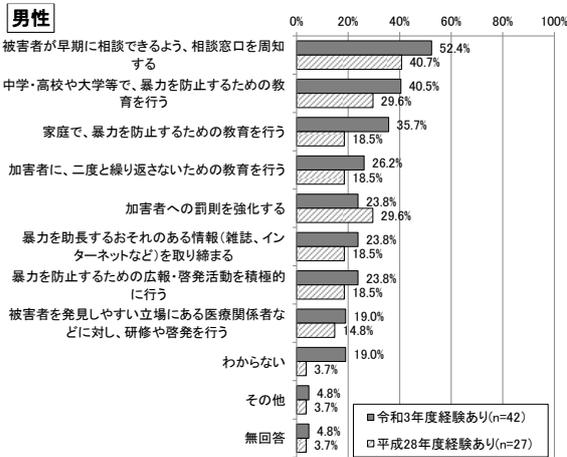
■暴力を受けた経験【性別クロス】

暴力を受けた経験の有無別では、男女ともに、「まったくない」の方が、ほとんどの項目で多くなっています。



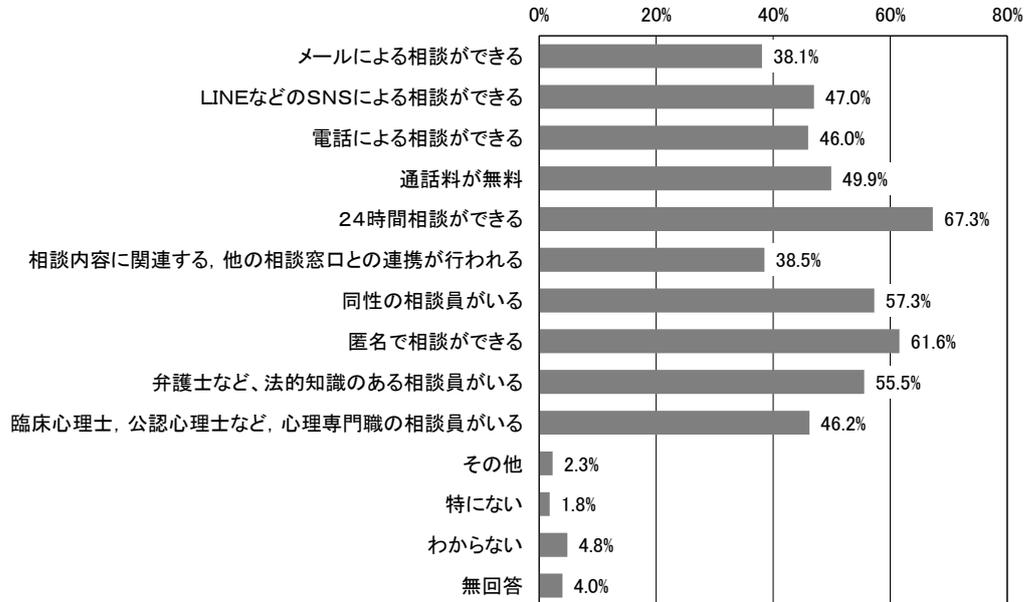
■暴力を受けた経験【経年比較, 性別クロス】

前回調査と比較すると、暴力を受けた経験がある男性は、DVやデートDVを防止するためには、すべての項目において必要だと思うという回答が多くなっています。また、暴力を受けた経験がある女性は、DVやデートDVを防止するためには、すべての項目において必要だと思うという回答が少なくなっています。



問28 女性に対する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで、配慮してほしいと思うことは何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

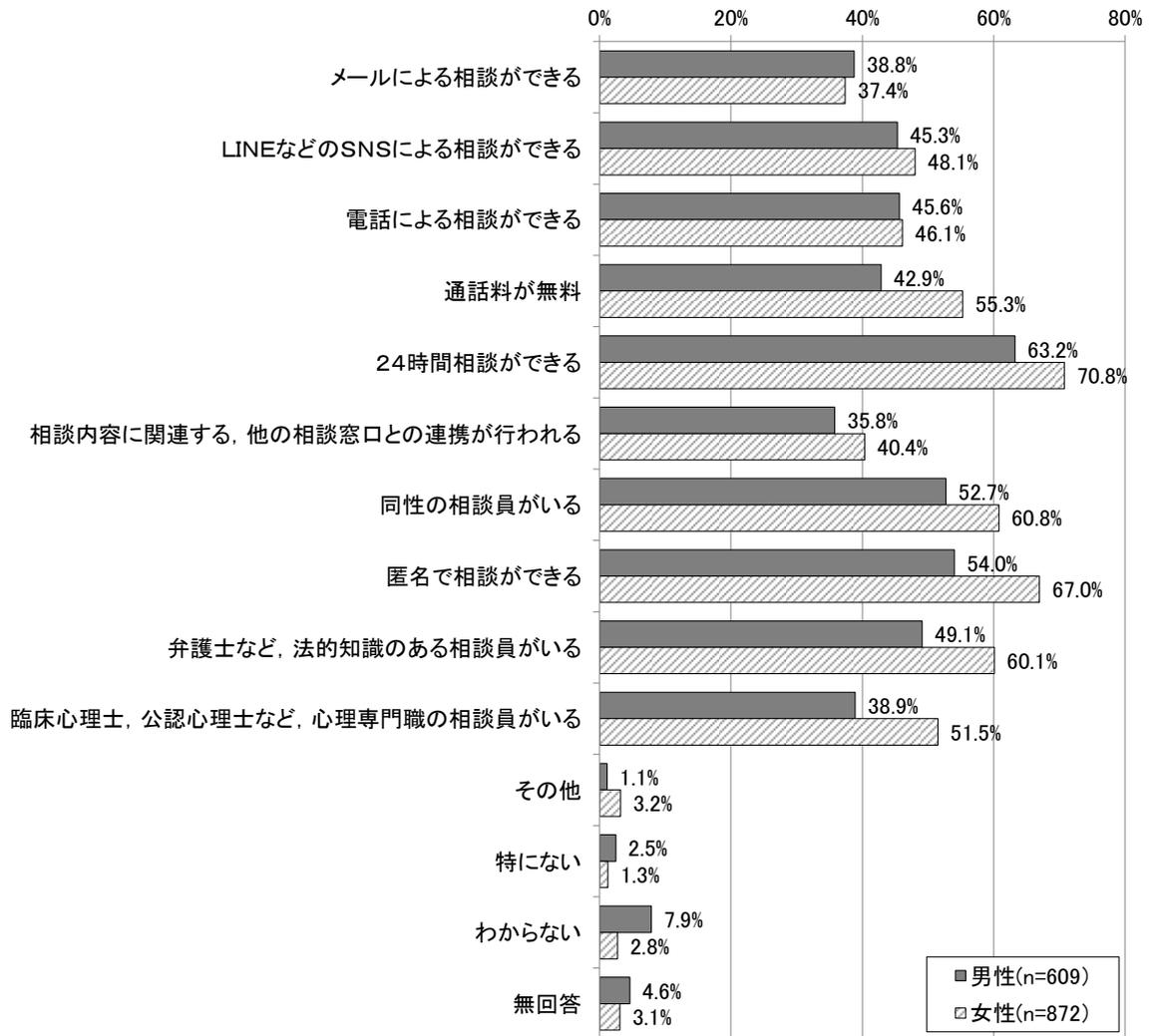
女性に対する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで、配慮してほしいと思うことについては、「24時間相談ができる」が67.3%で最も多く、次いで「匿名で相談できる」が61.6%、「同性の相談員がいる」が57.3%となっています。



項目	度数	比率
メールによる相談ができる	574	38.1%
LINEなどのSNSによる相談ができる	708	47.0%
電話による相談ができる	693	46.0%
通話料が無料	752	49.9%
24時間相談ができる	1,014	67.3%
相談内容に関連する、他の相談窓口との連携が行われる	580	38.5%
同性の相談員がいる	863	57.3%
匿名で相談ができる	928	61.6%
弁護士など、法的知識のある相談員がいる	837	55.5%
臨床心理士、公認心理士など、心理専門職の相談員がいる	696	46.2%
その他	35	2.3%
特にない	27	1.8%
わからない	73	4.8%
無回答	60	4.0%
回答者数	1,507	

【性別クロス】

性別では、男性より女性の方が、ほとんどの項目で回答が多くなっています。特に、男女ともに、回答の傾向は同じですが、「匿名で相談できる」、「臨床心理士、公認心理士など、心理専門職の相談員がいる」では、男女に差があります。



問29 あなたは、今まで自分の性別に悩んだことはありますか。(○は1つだけ)

自分の性別に悩んだことについては、「ある」が3.8%、「ない」が92.6%となっています。

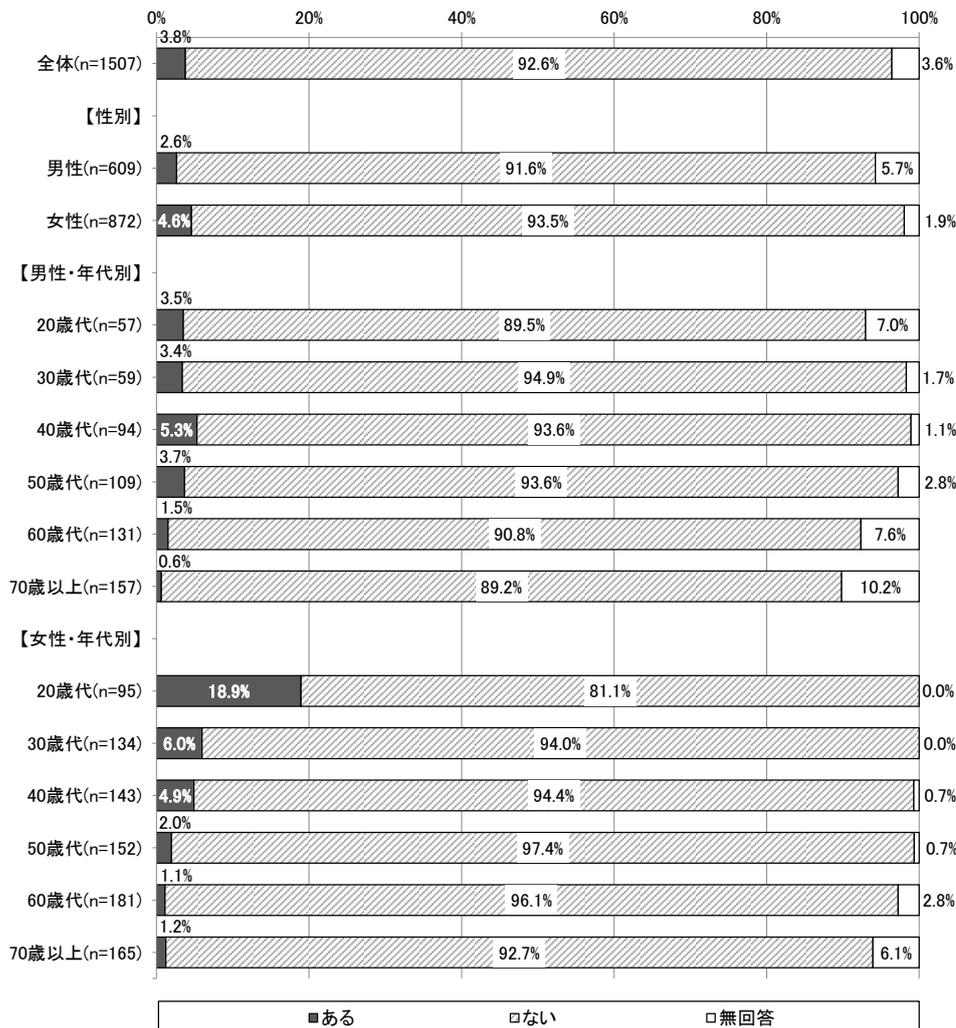


項目	度数	構成比
ある	57	3.8%
ない	1,396	92.6%
無回答	54	3.6%
合計	1,507	100.0%

【性別、性・年代別クロス】

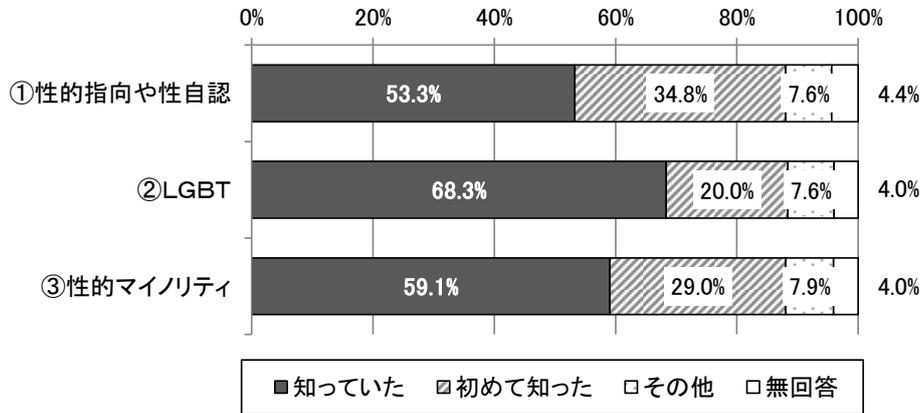
性別では、大きな差はありませんでした。

性・年代別では、男性は、40歳代が「ある」という回答が多くなっています。女性は、20歳代が「ある」という回答が多く、60歳代まで年代が上がるに従って「ある」という回答が少なくなっています。



問30 性的指向や性自認, LGBT, 性的マイノリティという言葉を知っていましたか。(それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

性的指向や性自認, LGBT, 性的マイノリティという言葉の認知度については、「知っていた」で「LGBT」が68.3%で最も高く、次いで「性的マイノリティ」が59.1%、「性的指向や性自認」が53.3%となっています。

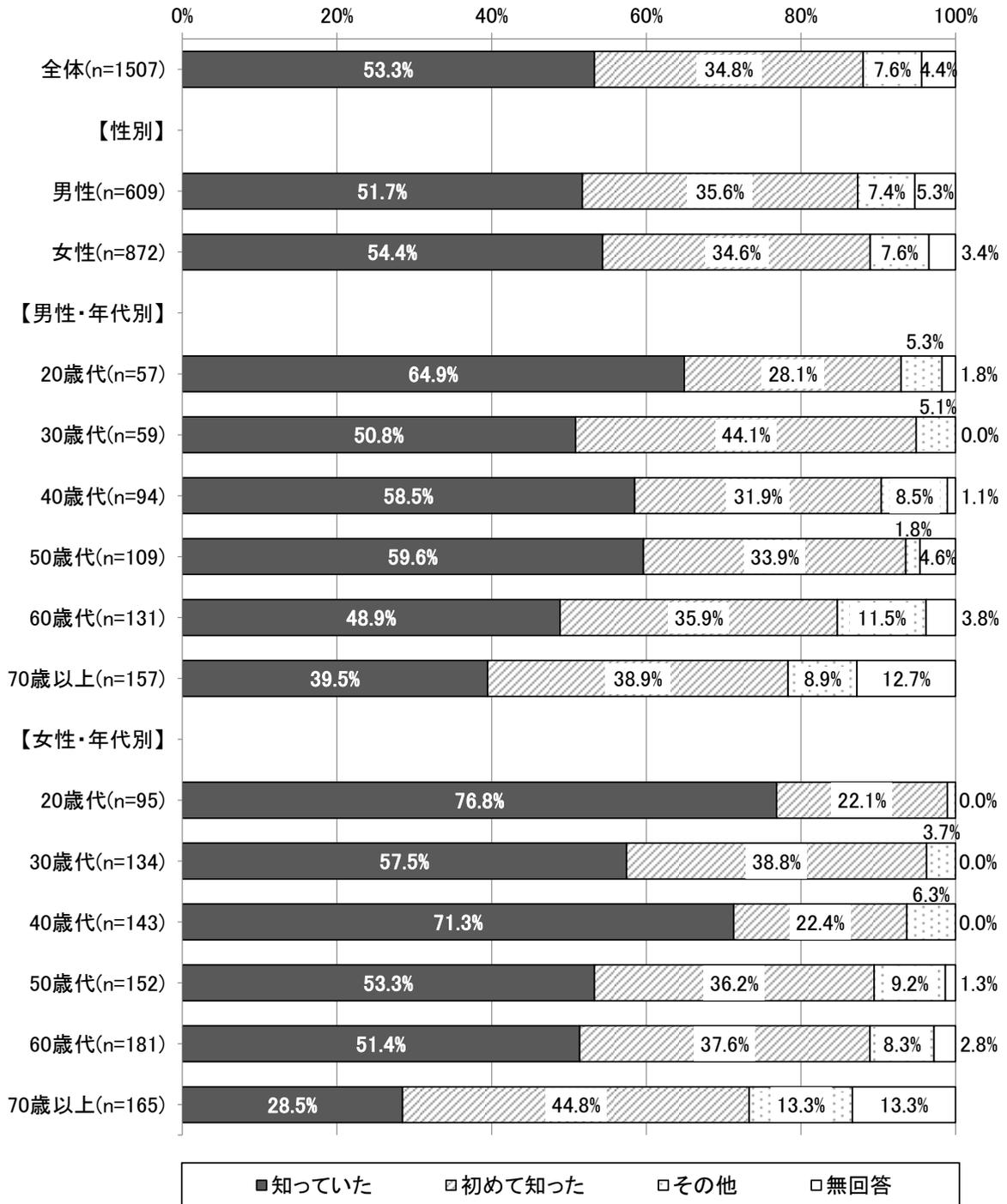


項目(度数)	知っていた	初めて知った	その他	無回答	合計
①性的指向や性自認	803	524	114	66	1,507
②LGBT	1,030	302	115	60	1,507
③性的マイノリティ	890	437	119	61	1,507

◆性的指向や性自認【性別，性・年代別クロス】

性別では，大きな差はありませんでした。

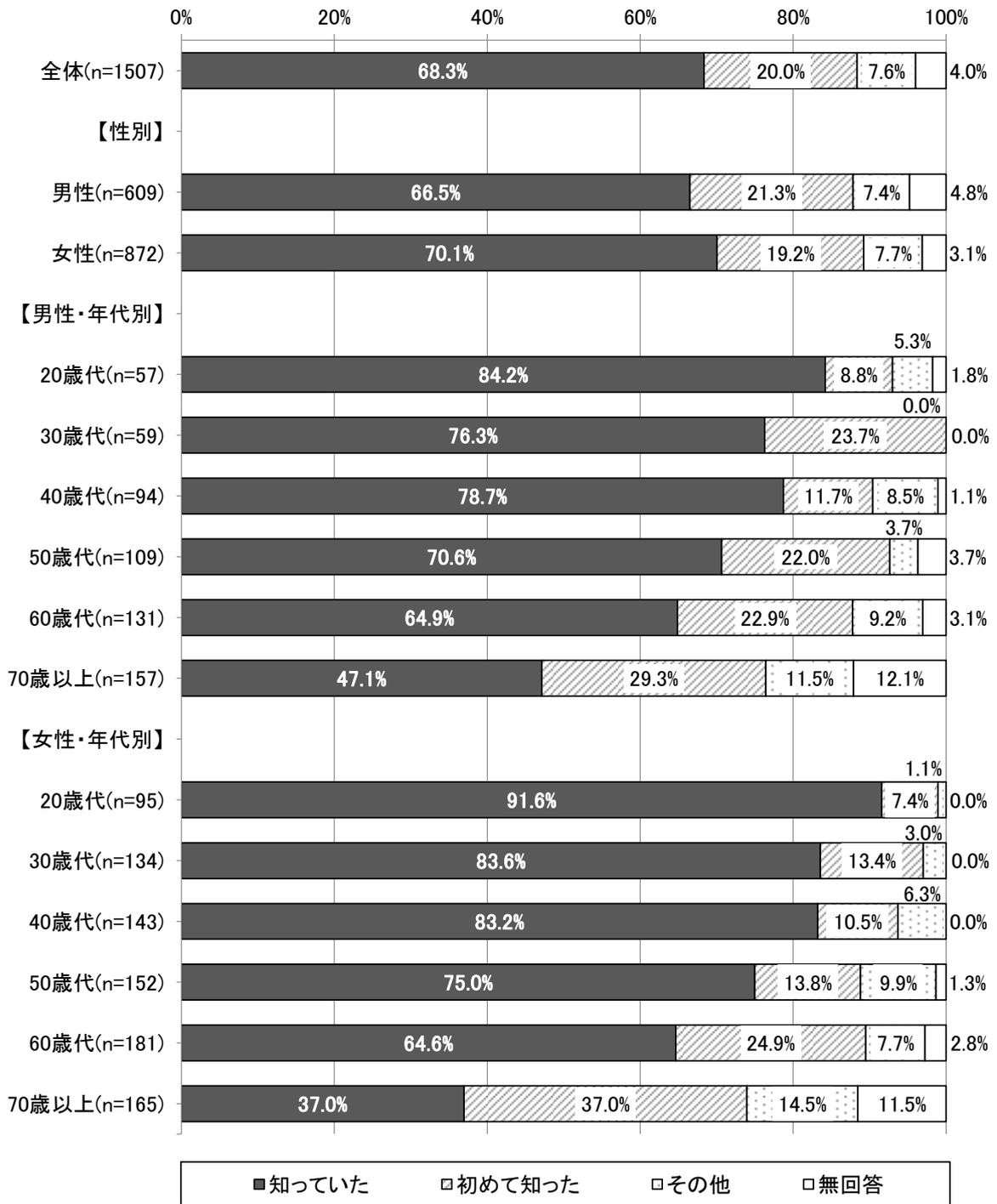
性・年代別では，男性女性ともに，20歳代が「知っていた」という回答が最も多くなっています。女性は，40歳代も「知っていた」という回答が約7割と多くなっています。



◆LGBT【性別, 性・年代別クロス】

性別では、大きな差はありませんでした。

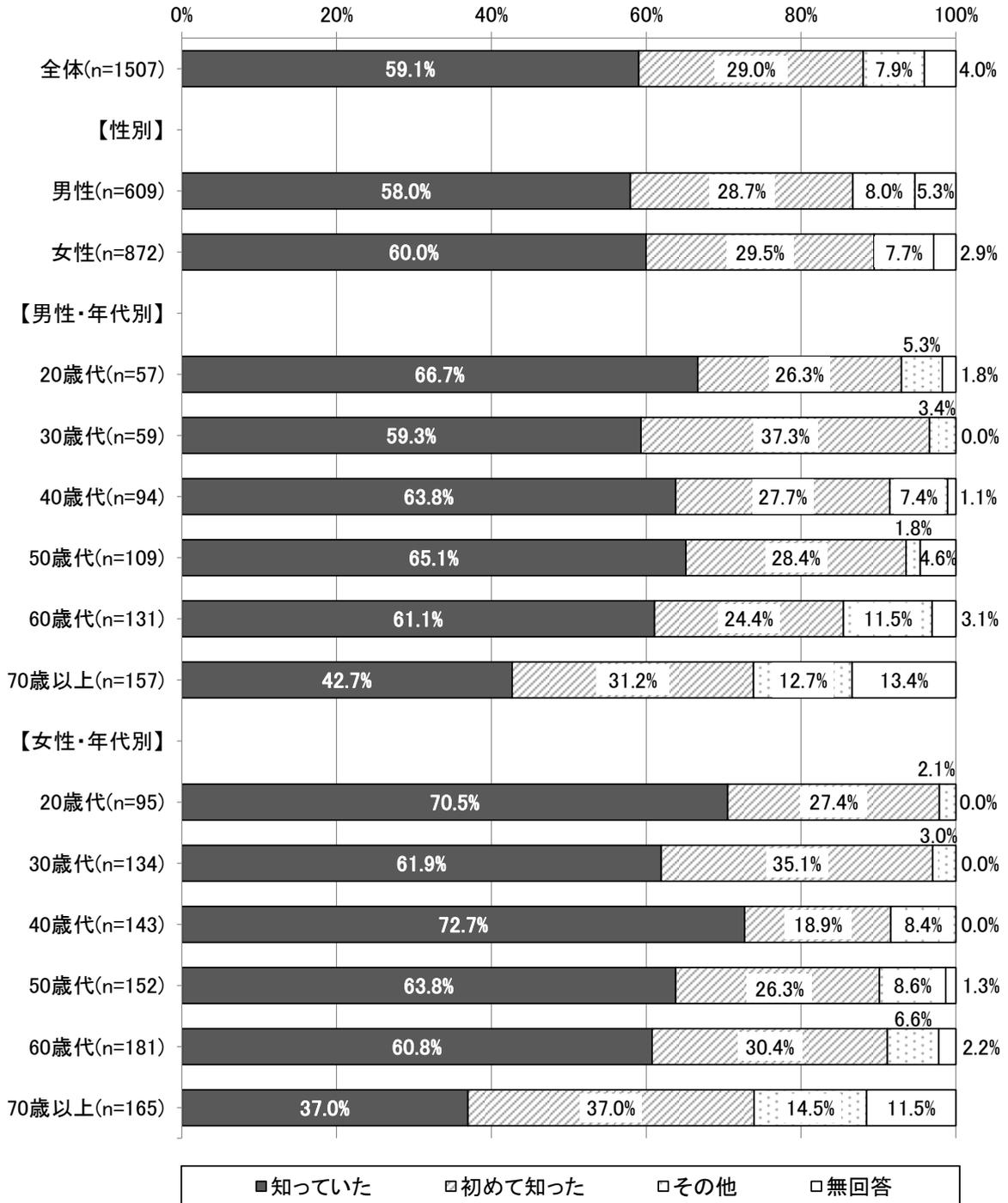
性・年代別では、男性女性ともに、20歳代が「知っていた」という回答が最も多くなっています。女性は、年代が上がるに従って、「知っていた」という回答が少なくなっています。



◆性的マイノリティ【性別, 性・年代別クロス】

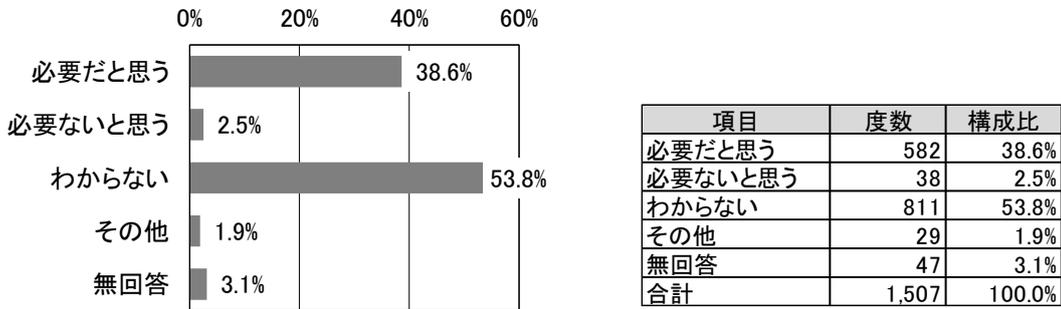
性別では、大きな差はありませんでした。

性・年代別では、男性女性ともに、70歳以上が「知っていた」という回答が最も少なくなっています。女性は、20歳代、40歳代が「知っていた」という回答が多くなっています。



問31 あなたは、性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策について、必要だと思いますか。(○は1つだけ)

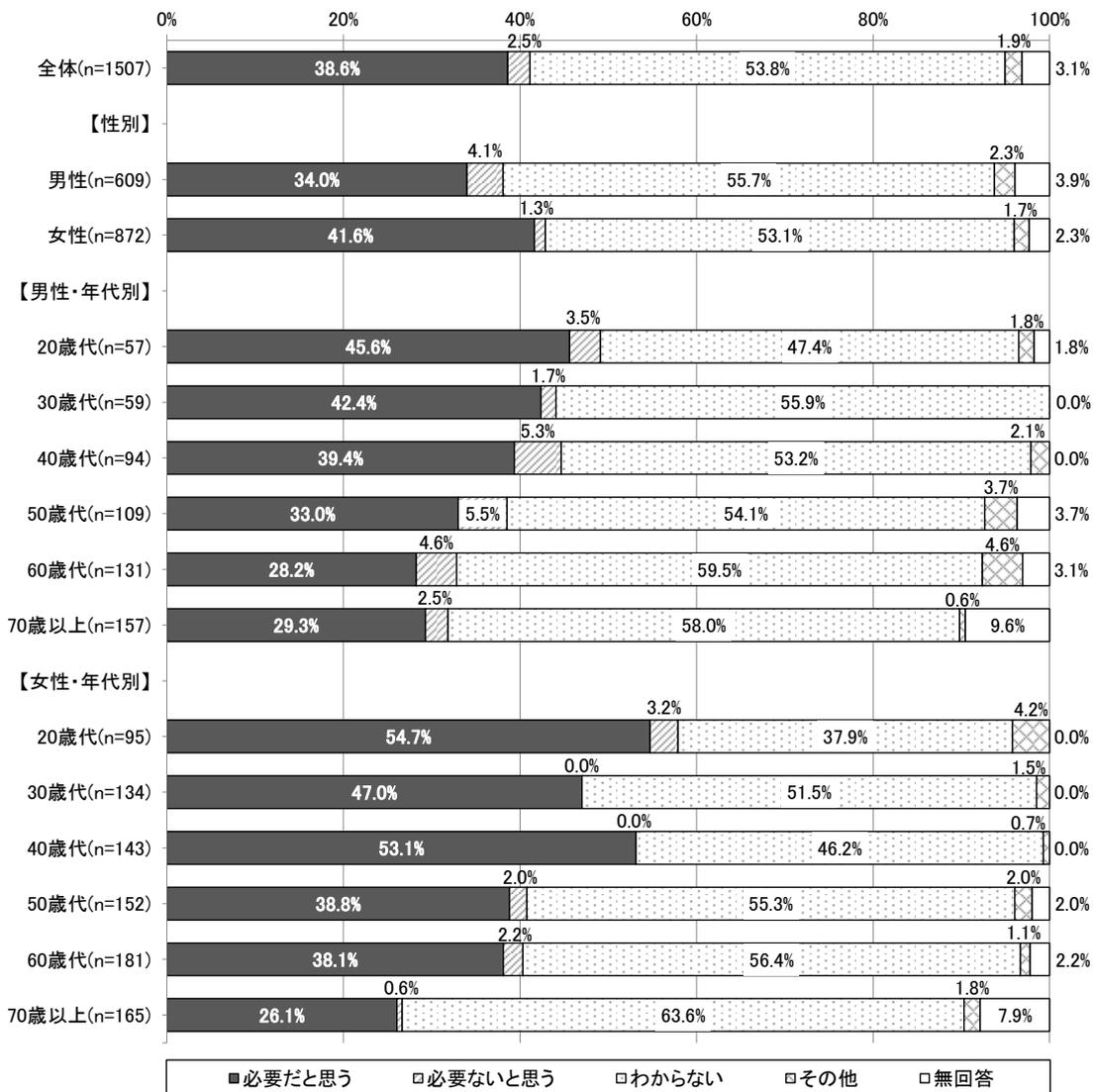
性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策について、必要だと思うかは、「わからない」が53.8%で最も多く、次いで「必要だと思う」が38.6%となっています。



【性別、性・年代別クロス】

性別では、男性よりも女性の方が「必要だと思う」という回答が多くなっています。

性・年代別では、男性は20歳代～60歳代まで、年代が上がるに従い「必要だと思う」という回答が少なくなっています。女性は、70歳以上が「必要だと思う」という回答が少なくなっています。



記述編

F 4 あなたの家族構成はどれに該当しますか。(○は1つだけ)

- 兄弟 (男性, 50 歳代)
- 自分, 親, 妹, 姪 (女性, 40 歳代)
- 親ひとりと子ども (女性, 50 歳代)
- パートナーとパートナーの子ども (女性, 40 歳代)
- 親 1 人, 子 1 人 (男性, 40 歳代)
- 姉妹同居 (女性, 20 歳代)
- 親, シングルマザー (子 1 人) (女性, 20 歳代)
- 妻が死亡のため私の両親と 10 歳の長男 4 人 (男性, 40 歳代)
- 両親, 自分, 子どもの三世代 (女性, 30 歳代)
- 夫婦, 子 1 人 (女性, 70 歳以上)
- 母 (女性, 20 歳代)
- 姉妹 (女性, 50 歳代)
- 親と私達夫婦と未婚の子供 (女性, 50 歳代)
- グループホーム (男性, 30 歳代)
- 夫婦と未婚の子一人 (女性, 60 歳代)
- チワワ 1 匹と人間一人 (女性, 20 歳代)
- 夫婦と子供一人 (男性, 20 歳代)
- 夫婦と未婚の子供 (男性, 70 歳以上)
- 母と祖母 (女性, 20 歳未満)
- 母親 95 才 娘 72 才の二人暮らし (女性, 70 歳以上)
- 自分 弟 2 人 (男性, 70 歳以上)
- 職場の寮 (男性, 20 歳代)
- 母親と 2 人 (男性, 50 歳代)
- 祖母と二人暮らし (女性, 20 歳代)
- 寮 (男性, 20 歳代)
- 夫と子供 (女性, 40 歳代)
- 自宅に妻と子を残し単身赴任 (男性, 30 歳代)
- 夫婦, 子どもの 3 人 (女性, 30 歳代)
- 単身赴任 (男性, 60 歳代)
- 母親と 2 人暮らし (女性, 50 歳代)
- 未婚の母と子ども (シングルマザー) (女性, 30 歳代)
- 母子家庭 (親と子) (女性, 30 歳代)
- 施設に入所している (男性, 50 歳代)
- 親と子ども夫婦とその子供夫婦とその子供と未婚の子供 (四世代世帯)
(女性, 60 歳代)
- 私と未婚の息子 (女性, 70 歳以上)
- 叔母 (男性, 50 歳代)
- 夫婦と母親 (女性, 60 歳代)
- 兄と同居 (女性, 50 歳代)
- 子ども夫婦とその子ども (男性, 70 歳以上)
- 親 (母のみ) と子ども (ひとり親) とその子ども (女性, 40 歳代)
- 母親と本人の二人暮らし (男性, 50 歳代)
- 夫婦のみですが, 主人は介護老人施設に入居です (女性, 70 歳以上)

市民意識調査報告書

- 恋人と同棲（女性，20歳代）
- 本人と両親（男性，40歳代）
- 四世代世帯（女性，20歳代）
- 親と子供と祖母（女性，20歳代）
- 兄夫婦と同居，世帯は別（女性，60歳代）
- 母親と夫婦と子どもとその子ども（四世代世帯）（女性，60歳代）
- 夫婦と未婚の子ども（女性，70歳以上）
- 母子家庭 母と子ども（未婚）（女性，30歳代）
- 親と子ども夫婦と未婚の子ども（女性，50歳代）
- 親と本人（女性，50歳代）
- 夫婦と親（女性，60歳代）
- 夫婦と未婚の子ども（男性，60歳代）
- 夫婦と未婚の子（男性，70歳以上）
- 親と姉家族と子ども（女性，40歳代）
- 両親と3人暮らし（女性，60歳代）
- 祖父母（女性，20歳代）
- 男性と同居（女性，50歳代）
- 親と子供(本人)と子供の子と，親の子（女性，20歳代）
- 夫婦と子供二人（女性，40歳代）
- 自身+亡夫の母親=二人（女性，50歳代）
- 親と（女性，60歳代）
- 夫婦と夫の親(母)（女性，60歳代）
- 親と子1人（男性，70歳以上）
- 私と姉（男性，60歳代）
- 未婚の子供，子系（女性，60歳代）
- 夫婦と子ども（男性，40歳代）
- 同居人(親子)（男性，70歳以上）
- 弟と2人暮らし（男性，60歳代）
- 親と離婚した娘と子ども(孫)（男性，70歳以上）
- 自分と孫（女性，70歳以上）
- ルームシェア 友人と二人暮らし（女性，20歳代）
- 親のみ（男性，50歳代）
- 夫婦と子供（男性，70歳以上）
- 祖父母，両親，兄，姉（男性，20歳代）
- 親，姉妹，めい（女性，50歳代）
- 親と自分（女性，60歳代）
- 母親と娘（女性，50歳代）
- 夫婦と未婚の子ども（男性，40歳代）
- 老夫婦(老両親)と記入者本人（女性，40歳代）
- 母と2人暮らし（男性，60歳代）
- 親と子(既婚)（女性，50歳代）
- 親と未婚の子供とおじいちゃん（女性，50歳代）
- 姉妹の二人暮らし（女性，30歳代）
- 祖母，親，自分（男性，20歳代）
- 母子世帯（男性，20歳代）
- 夫婦と子（女性，60歳代）

- 親と子供と孫（女性，60歳代）
- 彼女（男性，40歳代）
- 事実婚で二人（女性，60歳代）
- 親と私本人のみ（男性，60歳代）
- 夫婦と未婚の子ども（男性，70歳以上）
- 子ども2人，母1人（女性，70歳以上）

F 5 あなたの仕事は次のうちどれにあたりますか。（○は1つだけ）

- 生活保護（女性，40歳代）
- 会計年度任用職員（男性，70歳以上）
- 色んな事情で学歴が書けない人，会社は何も気にせず高卒からとか学歴社会はもう少し考えてほしい。だからなかなか就職が見つげづらい。（女性，50歳代）
- ボランティア活動（学童保育）（女性，70歳以上）
- 働きたい所は，年齢的に採用してもらえない。65才定年の後，働く場所がない。（働いたことがない体を動かす清掃の求人しかない）（女性，60歳代）
- 会社員（男性，30歳代）【同様2件】
- 息子の経営する会社に勤務（常務として）（女性，70歳以上）
- 国家公務員，防衛省職員（男性，50歳代）
- 会社役員（女性，70歳以上）【同様1件】
- 育休中（女性，30歳代）
- 医療従事者（男性，40歳代）
- B型作業所（男性，30歳代）
- 公務員（男性，20歳代）【同様2件】
- タイヤ関係（男性，30歳代）
- 健康面で働けず無職（女性，50歳代）
- 年金生活（男性，60歳代）
- 看護師（女性，30歳代）
- 自営業+アルバイト・派遣（男性，60歳代）
- 地方公務員（男性，50歳代）
- 年金生活（男性，60歳代）
- コロナ禍で，入院中の母を在宅医療に。休業申請し，休業期間終了後，無職。（女性，60歳代）
- 看護師（女性，50歳代）
- 育休中（女性，30歳代）
- ダム管理人（男性，70歳以上）
- 親戚の会社の手伝い（女性，50歳代）
- 保育教諭（女性，50歳代）
- 会社代表取締役（女性，60歳代）
- 臨床検査技師，臨床工学技士（男性，70歳以上）
- 医療従事者（女性，20歳代）
- 派遣社員（男性，40歳代）

問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたの意見に近いものはどれですか。(○は1つだけ)

- 男女どちらが仕事をしていても家庭についてもよいが、出産、乳幼児期の育児を考えると、どうしても女性が家庭にいる比率が高くなるのではないか。(男性, 60歳代)
- 得意なことをお互いがやって補い合えるのが理想。(女性, 40歳代)
- 子育ては重要案件。生活格差, 地域格差等がある現状ならば, 男女とも仕事をもらい, 家庭でも役割分担するもよし, 男女の役割は固定せずに, 男女どちらが仕事をしていても家庭にいてもよしと思う。「格差社会」の解消を願う。(女性, 60歳代)
- 選択しに①②の男女逆バージョンがない。平等な質問ではない。(女性, 20歳代)
- 二人次第だと思うし, 各々仕事と家庭を両立する手法もありだと思う。
(女性, 20歳未満)
- 男の仕事だけで食べていけるなら喜んで家庭に入ります。(女性, 30歳代)
- 男女にかかわらず, 男女どちらも, または一方でも仕事をしていても家庭にいてもよい。
(男性, 50歳代)
- 独身者は両性とも仕事を持ち, 結婚者は子供が幼い時は女性は家庭にいる方がよい。子供が成長した時は仕事に参加する。(女性, 70歳以上)
- 男女とも仕事をもつと同じくらい子育てにもゆっくり時間を使う選択肢も大切にしたい。
(女性, 40歳代)
- 古い (女性, 20歳代)
- 昔 (男性, 70歳以上)
- 男女とも仕事をもち, 家庭はお互いに協力する(役割を決めない) (男性, 50歳代)
- 各家庭で生活スタイルが違うから各々好きにすれば良いと思う。(男性, 20歳代)
- その家族各々で良いのでは。(女性, 20歳代)
- 子を育てる際, 必ず「母性」が必要となる。母の愛情が伝えられるよう, 何はどうかと決めず, お互いを助け合う事が重要。(男性, 40歳代)
- この質問は, 経済面, 身体面もあるので一概に何が良いとは決められない。
(女性, 60歳代)
- 気にしない (男性, 50歳代)
- 夫婦が話し合って決めれば良い。(女性, 70歳以上)
- ケースバイケースであるべき。(男性, 40歳代)
- 男女共, 自分が得意な事をすれば良い。そのうえで足りない部分を役割分担。
(女性, 60歳代)
- 男は仕事をもち女はその時の状況に合わせてかまわない。家庭のことはお互い協力し合う。
(男性, 40歳代)
- 働きたい女性には仕事をするもよい, 家の中の仕事は分担で。(女性, 70歳以上)
- 収入による (男性, 40歳代)
- 年と共に変わるので, どちらとも言えない。(女性, 60歳代)
- 社会全体が男女公平となったうえで4が望ましい。(男性, 40歳代)
- 基本男は仕事, 女は仕事をしたければ家庭に支障のない範囲で!(女性, 60歳代)
- 男が仕事をして男女共同で家庭の分担をした方がよい。(男性, 30歳代)
- それぞれの能力に応じて, 決めるべきことであり, このような固定観念を植え付けるべきではない。(男性, 70歳以上)

問8 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、特にどのようなことが重要だと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 男女平等というのがうすっぺらく聞こえないように、「教育」する人が必要（中身の無い聴こえの良い言葉）（女性、20歳代）
- 子どもの時からの教育、よき見本、ゆとり、感謝し助け合う心。（女性、60歳代）
- 個々の生活（サラリーマン、自営）又は、家庭環境（親の同居、もしくは近く）、個々の能力（夫が食事作りが得意）など皆違うので何をどうするという事だけに出来ない。（女性、50歳代）
- 賃金を国際競争できる水準にまで上げる。物価は上げても賃金が上がれば生活は維持できるし、収入が増えれば家事負担を外注することもできる、選択肢が増える。なおかつ新しい雇用も生まれる。（男性、40歳代）
- 全員が正社員になるか、同一労働、同一賃金にならない限り無理（パート、派遣、この働き方をなくして欲しい）（女性、60歳代）
- 思いやりの気持ちを持てば自然にそうなるのではないのでしょうか。（女性、30歳代）
- 男性が一生懸命に働いてもお金がもらえない。子育て世代の仕事以外に目を向ける余裕が生まれない。女性は逆。（女性、20歳代）
- 賃金が充実していれば、理解や行動も伴う為、ルールよりは社会的メンタルを緩和すべきでは？どんな状況においても「気持ち」が重要かと。（男性、40歳代）
- 正社員と契約社員とアルバイトの賃金格差をなくすこと。（男性、70歳以上）
- 賃金を上げる。（女性、20歳代）
- 年寄りの議員が考えることにろくな事はない。議員にも定年があり、適度な入れ替えが必要ではないか。（男性、40歳代）
- 年配者への教育を行う。（男性、20歳代）
- 夫婦間の分担については、個人の問題であって、周りには関係ないと思う。（女性、20歳代）
- 子供にも小さい時から社会通念や慣習を、しきたりなど理解させ情報提供、共有させる事。（女性、60歳代）
- 一人（男性、70歳以上）
- 年配の人は、男性優位の考えの方が多いので、高齢者の考え方の改善が必要。年配の人は、社会の中心になっている。（女性、50歳代）
- 男は仕事、女は家庭と分ける事で安定もあるが、時代と共に変わってきていて、女が働かなければ生活は安定しない今なので子供を、どう育てていくかが問題の様に思う。平等というのが全然平等とは思えない。（女性、60歳代）
- 政治家など上に立つ人たちが率先して女性の雇用を増やし男女隔たりなく、仕事、家事、育児などをする、手本を見せる。（女性、20歳代）
- 行政が何でも自治会に押しつけ過ぎ。（男性、70歳以上）
- 参加したくなる様な家庭環境を作ること。（女性、40歳代）
- 週休3日制やテレワークの拡充等。（男性、40歳代）
- 人間としての教育中心でありたい。（男女の区別ではなく）（女性、70歳以上）
- ～するべきという考えが時代に合っていない。（女性、40歳代）
- 政治に関わる人たちが、若い男性（女性）になることで、考えも一新する。（女性、30歳代）
- 設問のすべてが無理がある。常に参加の準備の上、必要に応じて参加すべき。（男性、70歳以上）

市民意識調査報告書

- 男女平等が良いが、個人の適性に合った事を夫婦間で互いに尊重し、協力することが大事。
(男性, 30 歳代)
- 江戸時代からの考えを変えていかない限り根本は変わらない。(女性, 70 歳以上)
- 仕事よりも家事の面白さややりがいを高めること。(男性, 40 歳代)
- 労働時間を変更出来ても賃金が少なくて意味がない。男性の方が賃金が高いので女性が働きにくい。(男性, 40 歳代)
- 单身者にも配慮をしてもらいたい。親、子供の事だから職場としては協力するが、单身者がいつも…というのは避けたい。バランスよく。(女性, 50 歳代)
- 本人のやるきの問題です。(女性, 60 歳代)
- 家計や生活面負担が大きく選択子なしとならない様、国や自治体に変革する必要がある。
(男性, 40 歳代)
- 職場の理解 (男性, 30 歳代)
- 現在は女性の方が強いと思われまます。男女が正しく話し合い、愛を持って対応することが重要。(男性, 70 歳以上)

問9 新型コロナによる影響で、あなたの生活や働き方、仕事内容などにどのような変化がありましたか。(あてはまる番号すべてに○)

《生活の変化》

- 仕事ができなくなり生活保護になった。(女性, 40 歳代)
- 仕事柄、コロナ以前のような生活は無理。行動制限が酷く職場も雰囲気が悪い。ストレスが非常に強い。周りとの距離を感じる。(女性, 40 歳代)
- 生活全般、生き方、価値観等、しっかり見直し考える時間を持てた。
(女性, 60 歳代)
- 外出が制限された。(女性, 70 歳以上)
- 自営なので来店客(特に年配の方)が減った。(女性, 70 歳以上)
- 外出が少なくなった。(男性, 60 歳代) 【同様3件】
- 外出減、読書増 (男性, 60 歳代)
- 外出することが減った(旅行、遠出) (女性, 60 歳代)
- 外出が減った。(女性, 60 歳代)
- ワクチンを打てない年齢の子どもと住んでいるのに、平気で県外へ旅行へ行く両親へのストレスと怒り。(女性, 20 歳代)
- テレワークが増えた。(男性, 60 歳代)
- 授業がオンライン形式になった。家族といる時間がより増えた。(女性, 20 歳代)
- 外出が減り人とのかわりが少なくなった。(女性, 60 歳代)
- 友人達と会う機会が少なくなった。(女性, 70 歳以上)
- お金がやたらにかかる。(女性, 60 歳代)
- 旅行、家族、友人などと外での食事が出来なくなり以前より行動範囲が狭くなった。
(女性, 70 歳以上)
- 自分がコロナにかかってしまった際どうしたらいいのか不安が多くなった。
(女性, 20 歳代)
- 外出しづらい (女性, 70 歳以上)
- 子育て中だが自由に外出できず、のびのびと子育てしにくくなった。
(女性, 30 歳代)
- ウォーキングが日課になった。(男性, 70 歳以上)

- 友達と遊べず、学校行事もほとんどなくなった。（女性、20歳未満）
- 家族や親類、友人等逢えなくなった（お正月やお盆に遠くのまごに来ない様にした。川崎市松戸市の友人達と新大久保で逢えなくなった）（女性、70歳以上）
- 会えない時間しかない。（男性、20歳代）
- スーパー行ったり公園行くのがあまり気が進まない。（女性、20歳代）
- 仕事以外の外出が減った。（女性、50歳代）
- 給料が少なくなり最悪です。（女性、70歳以上）
- 仕事、買い物、外出の規制で自由が制限。（女性、60歳代）
- 子育てがしんどい。リフレッシュする機会がなくなった。（女性、30歳代）
- 東京に居る友人・知人に電車で会いに行けなかった。そして、買物も出来ない。（女性、70歳以上）
- 帰省が失くなり楽になった。（女性、60歳代）
- マスクが苦しくて出かけるのも億劫でウツになる…。（女性、50歳代）
- 夜に買い物する為、衝動買いが減った。（女性、70歳以上）
- 外出が制限された。（女性、60歳代）
- 買い物などに神経を使い、ストレス増加。またストレスを発散することができない。1月以降、コロナ感染者が増え、ずっと我慢していた家族は怒りを覚えています。理不尽。（女性、50歳代）
- 外出、外食が減った。（女性、60歳代）
- 自由に行動が出来ず、ストレス！（女性、60歳代）
- 仕事量が減り、収入が少なくなった。（女性、60歳代）
- 施設入所中の親と面会できなくなった。（男性、50歳代）
- 友人交流、社会交流の機会が減った。（男性、60歳代）
- 人付き合いが減り、スポーツ運動の機会がなくなった。（女性、50歳代）
- 県外の両親と会う機会がぐんと減った。（女性、20歳代）
- わからない（男性、60歳代）
- 在宅勤務の実施（男性、不明）
- 親族に会えない（女性、60歳代）
- 受入り（男性、70歳以上）
- 都心へ出かけられなくなった。（女性、30歳代）
- 家族の体調管理や感染対策に気を使うようになった。レジャーの時間が減った。感染対策グッズ購入などの負担が増えた。（女性、50歳代）
- 夫婦で協力して新型コロナにならないようにする。（男性、70歳以上）
- 孫と会う機会が激減（男性、60歳代）
- 外出しづらくなった。（男性、20歳代）
- 心のリフレッシュが出来ない。（女性、60歳代）
- 身内を自殺で亡くした（女性、20歳代）
- 仕事がない事がある。（男性、70歳以上）
- 友人に会えなくなった。（女性、40歳代）
- 夫の海外赴任中、日本への帰国が困難となり負担が増えたが帰国後は負担が減った。（女性、30歳代）
- 近所どうしの関係が悪くなりました。（女性、40歳代）
- 人に会う機会が減った。（女性、40歳代）
- ボランティア等の活動も休止状態となり家で過ごす時間が多くなりました。（女性、60歳代）

市民意識調査報告書

- 仕事なくなった（男性，70歳以上）
- 行動が狭くなった（女性，40歳代）
- 病気になった。友達と遊べなくなった。（女性，70歳以上）
- 出かける機会が減った（男性，40歳代）【同様1件】
- 外出できる機会，体験できる機会が制限され，家族の思い出作りの機会が減った。（女性，40歳代）
- 一人暮らしの為，他の項目はわかりません。（女性，70歳以上）
- 給料の変化で生活の変化があった。（女性，20歳代）
- 感染しないよう出かけなくなった。（女性，40歳代）
- 外出する事がなくなり，家にいる時間が多くなった。（女性，40歳代）
- 職を無くした。（女性，60歳代）
- 孫の保育応援をした。（女性，70歳以上）
- 何かとストレスが溜まる。（男性，60歳代）
- 地域活動がなくなった（健康体操）（女性，70歳以上）
- 子ども達のストレスなのか，感情をぶつけられることが増え，精神的負担が増えた。（女性，30歳代）
- 長いコロナ習慣していたために，何事にもストレスが溜まった。（男性，50歳代）
- 夫が在宅勤務を経験したことにより，子育ての大変さを少し分かってもらえた。（女性，30歳代）
- 外食，旅行が出来なくなった。（女性，60歳代）
- 飲み会がなくなった。（男性，70歳以上）
- 行動範囲がせばまった。（男性，40歳代）
- 最初の数カ月でっ太った。夕方以降のテレワークの難しさを感じている。（男性，30歳代）
- 身体を動かす時間が少なくなった。（女性，50歳代）
- 些細な事でも気づかい，HP等に行く検査する機会が増えた。（女性，60歳代）
- ストレスがたまる，ストレスコントロールが難しい。（男性，40歳代）
- 単身赴任になった。（男性，60歳代）
- 外出の機会がととも減った。（女性，60歳代）
- どこにも出かけていない。近所の買い物のみ。（女性，50歳代）
- 不安になる事がある。（女性，60歳代）
- コロナウイルスに対する考え方が異なる人とのトラブルが増えた。（女性，30歳代）
- 街中へ出かける事が少なくなった。（男性，70歳以上）
- 給料が減って生活が苦しくなった。（女性，20歳代）
- 人と話す時間が減り，さみしい。（女性，50歳代）
- 運動不足による体重増加，ジムの利用制限による。（男性，30歳代）
- 仕事がなくなってしまった。退職。（女性，60歳代）
- 子どもと自由に出かける機会が，奪われた。（女性，30歳代）
- 家族に対しての負担が増えた。（女性，60歳代）
- マスク着用や・うがい・手指の消毒など億劫になった。（男性，70歳以上）

《働き方の変化》

- 無職（女性，70歳以上）【同様24件】
- 仕事は休めないが育児もあり職場で肩身がせまくなった。（女性，30歳代）
- 職業による行動制限が酷い。（女性，40歳代）

- 弁当作りをしなくてはならなくなった。（女性，60 歳代）
- 若年層雇用重視はやめてほしい。（女性，50 歳代）
- 退職しており特に変化はありません。（女性，70 歳以上）
- 出張がなくなった。（男性，50 歳代）
- 仕事を休む(有給) 事が増えた。子供が保育園へ登園出来ない条件が多くなった為。
（女性，30 歳代）
- 外出がかなり減った。各種地域活動に参加できなくなった。（女性，70 歳以上）
- 主人は有給の消化を押し付けられました。（女性，40 歳代）
- 休校になった。（女性，20 歳未満）
- 年金生活者（女性，70 歳以上）
- コロナ休暇（特別休暇）ができ，家事，育児がしやすくなった。（女性，30 歳代）
- 企画変更が必要になった。家で仕事することで集中できない。（女性，30 歳代）
- コロナでこどもの園の行事が延期になり，休みを再設定するのに苦労している。
（女性，30 歳代）
- オンラインが進まず苦労した。（女性，40 歳代）
- やることは変わらず，時間だけが増えた。（女性，30 歳代）
- 感染対策の厳しさに神経の毎日。（女性，60 歳代）
- 子育てがつらく，仕事を始めた。（女性，30 歳代）
- 収入を得る仕事はしていないが，趣味に時間をとったり家のリフォーム等に時間をとることが出来た。（女性，70 歳以上）
- 注文しても納期が 2-6 か月かかるうえ，値上げが多く，これからの日本の社会が不安。会社も黒字倒産の不安がある。これでいいのか？負のスパイラルに陥っている。今を会社や国がどのくらい理解し，対応を考えているのか。子供の代までには以前に戻って欲しい。
（女性，50 歳代）
- 顧客との交流が難しくなった。（男性，60 歳代）
- 就業時間は変わらずに，業務が大きく増えた。（男性，40 歳代）
- わからない（男性，60 歳代）
- 営業職ですが売上のノルマが 60%~70%位までしか，達成出来ず。
（男性，70 歳以上）
- 仕事をなくしてから仕事を探しても見つからず，面接に行っても必ず年令にしわよせ，仕事をしたくても出来ない。（女性，70 歳以上）
- 医療関係のため負担増。（女性，20 歳代）
- 学生である。（女性，20 歳代）
- 仕事に対して，ストレス有り（購入品入荷しない為）（男性，50 歳代）
- 仕事量が増減したので変化はあった。（男性，70 歳以上）
- 感染予防対応の仕事が増え体の疲労が大きい。（女性，50 歳代）
- 勤務先がなくなり，異動，引っ越し（自腹）を余儀なくされた。
（女性，20 歳代）
- 母に基礎疾患がある為以前のように保育士の仕事が出来ない。
（女性，60 歳代）
- PCR 検査の結果が出るまで出勤出来ない日があった。（女性，40 歳代）
- 大学のオンライン授業の増加によって家から出られず，バイトに出られる時間が制限された。（女性，20 歳代）
- 感染しないようにマスクなど自費！（女性，40 歳代）
- 今まで専業主婦。（女性，40 歳代）

市民意識調査報告書

- オフィスへの立ち入り制限のために仕事が非効率になった。(女性, 50 歳代)
- 学校が休業になったり, ちょっとした体調不良でも気をつけないといけなくなり, 急に休まなくてはならない日が増えた。(女性, 40 歳代)
- 多忙になった。(女性, 50 歳代)
- 忙しくなった。(女性, 50 歳代)
- 感染対策等で消毒作業などが増え, 仕事量が多くなった。仕事柄, リモートやテレワークはできず, 不安を抱えながら出勤していた。(女性, 20 歳代)
- 経営困難により, 給料がもらえなかった。(女性, 20 歳代)
- 転職した (女性, 20 歳代)
- マスク着用や手指の消毒をするようになった。(男性, 70 歳以上)
- オンラインで可能な事が多くなり, 時間がますます足らなくなった。(女性, 60 歳代)
- 仕事は同じだがマスク消毒などする事が増えた。(女性, 60 歳代)
- 今までボランティアなど出かけていたがそれもなくなり, 体調も悪くなった 75 歳。(女性, 70 歳以上)
- 研修がWEBになった。(女性, 30 歳代)
- ワークを始めた。(女性, 20 歳代)
- 感染防止対策など追加業務, 負担が増えたが収入は変わらない。(女性, 40 歳代)
- 職場での関係が悪くなった。(女性, 40 歳代)
- 感染予防の手間が増えた。通勤(電車)時, 感染しないかと恐怖を感じた。(女性, 50 歳代)
- 自治会等の会合, イベント等が減り, 時間に余裕が出来た。(女性, 60 歳代)
- もともと年金生活だったため。(男性, 70 歳以上)
- オンライン化による w i - f i 環境やパソコン, プリンター等の負担が増加した。(女性, 60 歳代)
- コロナの対応で従来のやり方ではない対応が大変だった。(女性, 60 歳代)
- コロナ前から 3 と 5 の状態。(女性, 40 歳代)
- 仕事が見つからない。(女性, 40 歳代)
- 仕事を見つけにくい。(女性, 50 歳代)
- 戸別訪問が難しくなった。(男性, 50 歳代)

【問 10 で, 「行っていない」に○をつけた人に伺いました。】

問 11 あなたが現在, 社会的な活動に参加していない主な理由は何ですか? (あてはまる番号すべてに○)

- コロナで色々と行事が中止になっている。(女性, 50 歳代)
- コロナで人が集まる所に行きたくないから。(女性, 60 歳代)
- 病気療養中のため。(女性, 60 歳代)
- 参加の機会がないため。(女性, 40 歳代)
- 特に求められてないから。(男性, 70 歳以上)
- コロナのため外出制限されている。(女性, 70 歳以上)
- 何をどこでするか不明。(男性, 40 歳代)
- 行える余裕がない。(男性, 40 歳代)
- 人とかわりたくないから。(女性, 60 歳代)
- 新型コロナ感染の影響で自治会の行事が中止されているから。(男性, 60 歳代)
- コロナで活動自体がほぼ何もない。(女性, 40 歳代)

- コロナにより活動が減少したため。（男性，40歳代）
- コロナのため活動が中止になった。（女性，40歳代）
- そもそもこの町に住むのが不本意のため（会社のせい）（男性，20歳代）
- コロナのせいです。（女性，70歳以上）
- 住んでいる場所を中心に掃除，ゴミ拾いに励む。（男性，50歳代）
- コロナの影響で活動できるものがないから。（女性，20歳代）
- 体が弱いから。（男性，70歳以上）
- 身の回りの人を幸せにする事から始めていて，まだそこまでに至っていないため。（女性，30歳代）
- 自分に向いていないことをさせられる気がする。（男性，50歳代）
- ボランティアなどは，身近なことからやっているが，皆がそろって行ってやってはいない。困っている人を助け話を聞いている。道の草むしり水やりなど買い物など，その時に応じて。1年を通じていつも人の手伝いはしている。行ってまではしていない。（女性，60歳代）
- 栃木県民が大嫌い。陰湿。（男性，50歳代）
- 体調が悪い。（女性，60歳代）
- 関節リウマチになったため。（女性，60歳代）
- コロナの影響により活動なし。（女性，20歳代）
- 適切な活動内容でない為。（男性，70歳以上）
- 傾聴のボランティアがコロナの影響で出来なくなった。（男性，70歳以上）
- 地域の役割で順番が回ってくればやるが，それ以外はやりたくないから。（男性，40歳代）
- コロナや受験でそれどころではなかった。（女性，20歳未満）
- コロナで中止が続いている。（女性，40歳代）
- 体力不足（男性，70歳以上）
- 体調が悪い為（女性，40歳代）
- 地域で順番を決めて参加している。（男性，60歳代）
- 自治体が怪しいので，近付きたくない。（男性，60歳代）
- 年齢的に。（女性，70歳以上）
- コロナの影響で活動が中止になったので。（女性，70歳以上）
- コンビニの募金はしている。（男性，40歳代）
- 単身赴任でマンション住なので声がかからないため。（男性，60歳代）
- 体調が障害が有，思うように活動がしにくいので，，，，。（女性，70歳以上）
- 透析が生活のほとんどを占めている。（男性，70歳以上）
- ゴルフ，BS，花栽培，相方とのリハビリ散歩，その他のスケジュールがギッチリのため。（男性，70歳以上）
- 引っ越してきたばかりの為。（女性，20歳代）
- 体調不良（女性，60歳代）
- 地域と深いかかわりがない。（女性，70歳以上）
- 新型コロナウイルス感染がこわい為。（女性，50歳代）
- コロナで中止（女性，30歳代）
- 必要にせまられてない。（女性，70歳以上）
- コロナのため。（男性，60歳代）
- 体調が十分でないこと。（男性，70歳以上）
- コロナで活動がなくなった。（男性，50歳代）

市民意識調査報告書

- コロナの為外出や活動の自粛の為。 (女性, 60 歳代)
- 勤務が不規則である為。 (女性, 60 歳代)
- 病気だから (女性, 40 歳代)
- 自治会が無い為。 (女性, 60 歳代)
- 夫の担当だから。 (女性, 60 歳代)
- 今まで介護が必要な家族がいた。 (女性, 50 歳代)
- 班内にイヤミな人がいるため。 (男性, 70 歳以上)
- 他にやるべき事があるので。 (女性, 70 歳以上)
- 持ち回りの役員になっていないので。 (女性, 70 歳以上)
- 多少の畑と屋敷の作業がある。 (女性, 60 歳代)
- 定年退職後に、ぜひ参加してみたいです。社会的な活動のアナウンスを、タイムリーにわかりやすく情報提供があればいいと思います。 (女性, 50 歳代)
- 体調がよくないから。 (女性, 40 歳代)
- 身体的な理由で。 (女性, 20 歳代)
- ボランティアの情報を集めようとしても、HP が更新されていないことがあるので、活動があるのかなのか不明の為。 (女性, 20 歳代)
- 病気治療と仕事で余裕がないが参加したい。 (女性, 60 歳代)
- 高齢者のため (女性, 70 歳以上)
- 他者とのかわりに負担を感じる。噂話等。 (女性, 60 歳代)
- わからない, なんとなく。 (男性, 60 歳代)
- 病気 (女性, 70 歳以上)
- コロナで特に活動がない為。 (女性, 20 歳代)
- 朝はウォーキング午後は趣味の活動をやっている。 (男性, 70 歳以上)
- 仕事が不規則でできた時間に参加しづらい。 (女性, 60 歳代)
- 機会がない (男性, 60 歳代)
- コロナのため外出を控えています。 (女性, 60 歳代)
- 夫がやっている。 (女性, 40 歳代)
- 無 (男性, 70 歳以上)
- コロナの影響で中々ボランティアに参加できないため。 (女性, 30 歳代)
- コロナの影響で社会的な活動が行なわれなくなったから。 (女性, 40 歳代)
- 自治会に入ってません (マンションに住んでいる為) (不明, 60 歳代)
- 生活も大変になっている為, 年令的なものもある。 (女性, 60 歳代)
- 参加の方法わからない。 (男性, 60 歳代)
- 介護される立場にある。視力障害 1 級。 (女性, 70 歳以上)
- 第 1 にコロナ自粛 (女性, 70 歳以上)
- 年齢が 80 才以上なので。 (女性, 70 歳以上)
- いくつもの病後で体が不自由だから。 (男性, 70 歳以上)
- 高齢のため (女性, 70 歳以上)
- コロナ禍依頼がない。 (不明, 60 歳代)
- 健康問題アリ (男性, 70 歳以上)
- コロナ (女性, 60 歳代)
- 家族に基礎疾患がある為, 外に出られない。私がコロナ感染するわけじゃない。 (女性, 60 歳代)
- コロナで活動の場がありません。 (女性, 40 歳代)
- 車イスだから, コロナが広がってるから。 (女性, 40 歳代)
- 時間があるなら息子に使いたい。 (女性, 20 歳代)

- 障がいがある為。 (女性, 70 歳以上)
- コロナで集まれないから。病気になってしまったから。 (女性, 70 歳以上)
- 一人生活の為。自治会に介入していない。 (男性, 60 歳代)
- 高年齢の為, 何が出来るのか (ボランティア) わからない。 (女性, 70 歳以上)
- 引っ越しして間もなく周りを把握していないし, 高齢の為。 (女性, 60 歳代)
- 活動する集会, 行事を自治会が行っていないから。 (女性, 50 歳代)
- 特定の政党に肩入れする自治体に納得がいけないから。 (男性, 70 歳以上)
- 体調がよくないので。 (女性, 60 歳代)
- 親が参加している。 (女性, 20 歳代)
- どのように参加したらいいのかよくわからない。 (女性, 40 歳代)
- コロナ前は参加していたが, コロナの為に中止になるうちに, 自身の健康が不安になってから。 (女性, 20 歳未満)
- 新型コロナのため (女性, 70 歳以上)
- コロナで活動自体がなくなっている。 (男性, 30 歳代)
- 子供の人数が少なくて子供会が休会しているので, 機会がない。 (女性, 40 歳代)
- 自分のことで精一杯だから。 (女性, 40 歳代)
- 寝る暇も無く, 生活の為に昼夜仕事しているから! (男性, 50 歳代)
- 自治会を勝手に退会させられた。 (男性, 70 歳以上)
- 高齢のため (女性, 70 歳以上)
- 病気で参加できない。 (男性, 70 歳以上)
- 病気があるから。 (男性, 70 歳以上)
- 体調が悪いから。 (女性, 60 歳代)
- 何年か前にはボランティア活動もしていましたが 70 才過ぎましたので。
(女性, 70 歳以上)
- 現在病気療養中 (男性, 30 歳代)
- 転居により, よそ者を感じる。 (女性, 70 歳以上)
- あまりにも生産性が低いから。 (男性, 40 歳代)
- 転勤族だから (男性, 60 歳代)
- 1 人で気軽には初めての人には参加しにくい。 (女性, 20 歳代)
- 毎日デイサービスへ行っているから。 (女性, 70 歳以上)
- 高齢のため (女性, 70 歳以上)
- 若い時ある程度やったからもういいかなという感じです。 (男性, 60 歳代)
- PTA活動が平日の日中に行われるため。 (男性, 30 歳代)
- コロナが怖いので外で活動したくない。 (女性, 40 歳代)
- 去年に活動した (女性, 40 歳代)
- コロナですべて行われていないため。 (女性, 30 歳代)
- 現在は行っていない。過去にはやっていた。 (男性, 60 歳代)
- 年齢が 78 歳なので, 若い人に任せる。 (不明, 70 歳以上)
- 自治会の役員を経験 (持ち回りで) (男性, 50 歳代)
- 子供がいらないから。 (女性, 50 歳代)
- 病院通院のため。 (男性, 60 歳代)
- 高齢者 (男性, 70 歳以上)
- 仕事を通じて社会活動に参加していると思っています。 (男性, 60 歳代)
- これからやる予定。 (女性, 40 歳代)
- 個人的な趣味, 関心事に時間を使いたい。 (男性, 70 歳以上)

市民意識調査報告書

- コロナのため活動の機会がない。 (女性, 60 歳代)
- 親が行っているため。 (男性, 20 歳代)
- 活動の場やチャンスが減った。 (女性, 60 歳代)
- 病気で参加できない。 (女性, 50 歳代)
- コロナ禍だから (男性, 40 歳代)
- コロナが心配のため, 人となるべく合わないようになっている。
(女性, 20 歳代)
- 退職後, 県外の大学院に入ったため, 定期的な社会的活動には参加しにくいです。
(女性, 60 歳代)
- 活動が中止になっているから。 (女性, 30 歳代)
- 療養中 (女性, 40 歳代)
- コロナ禍の影響で軽度ですが鬱を発症した為。 (男性, 40 歳代)
- 自治会に属してない, アパート住まい, 子無し。 (女性, 40 歳代)
- 持病があるから (女性, 20 歳代)
- 高齢になったから。 (不明, 70 歳以上)
- まだ親世代がやってくれている。 (男性, 20 歳代)
- 地域活動, 自律がない (男性, 50 歳代)
- 外に出たくはないから。 (女性, 20 歳未満)
- 年だから (女性, 70 歳以上)
- 単身なので地域との情報共有がない。 (女性, 20 歳代)
- 持病があるため (女性, 50 歳代)
- 時間がない (男性, 60 歳代)
- 要望がないから。 (男性, 40 歳代)
- コロナの影響で中止になっているため。 (女性, 30 歳代)
- LINEとか携帯などに, 直接情報が入ってくると, 何をやってるか何をして欲しいかが,
わかりやすいのでは? (女性, 50 歳代)
- 数年前に班長を行っていた。下野市から10年前に転入したため。 (男性, 50 歳代)
- コロナで全てなくなった。 (男性, 60 歳代)
- コロナで出掛けられない。 (女性, 40 歳代)
- 腎不全 (男性, 70 歳以上)
- 病気でできない。 (女性, 70 歳以上)

問12 自治会やPTAなど地域活動の役員や, 行政機関の審議会等の委員など, 方針を決定していく場での女性の参画が増えていくためには, どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 女性の中でも意識が高い人, 低い人, 忙しい人, 等いるので, どんな性別であっても参画出来る環境をつくること。子育て, 介護の支援。 (女性, 20 歳代)
- 子どもの時からの教育(発信の場, 機会を充分与え, 方法, 手段を学ぶ。個別, 国籍, 年代を越えた交流, 社会活動への参加) (女性, 60 歳代)
- PTAそのものに不信感がある。親ではなくボランティアにすれば良い。
(女性, 60 歳代)
- 大和なでしこ (男性, 50 歳代)
- 高齢な男性の考えをつぶすこと (女性, 40 歳代)

- 子供のころから学校などで、男女が参画する場を設けたり、女性も参画していきける能力と考え方を、家庭と学校において教育する。（女性、30歳代）
- 声の大きな女性が参画を求める風潮がある様に思いますが、それは大多数の意見なのでしょう？また、これは男性がやるべきのような意見は男性差別なのではないでしょうか？（男性、40歳代）
- 高齢者の縦割りのな（男は偉い的な）考え、これからの時代に合わない考えを改めてほしい。選挙もそうだけど多数決で決めたら高齢者優位になってあたり前。（女性、30歳代）
- 世間を見ていると収入（=家庭）を得るために働いている人が多くおそらくそこまでは行きつかないのでは（男性、70歳以上）
- 年寄りが早くやめること。（男性、40歳代）
- 女性を増やすのではなく、男女問わずやりたい人が参画できるようにすべき。（男性、30歳代）
- 職場や会社の理解（男性、40歳代）
- 適正な方（男女問わず）、環境が整っている方（子育て、介護なし）優秀な女性は大勢います。バックアップしてもらえると、参画が増えると思います。（女性、50歳代）
- PTAはそもそも不要と思っている。自治会も最小限にし、負担を減らすべきと考える。（男性、30歳代）
- 十分に活動していると思う。（男性、70歳以上）
- コロナの収束以外考えられない。（女性、60歳代）
- 女性、男性ともに感情的にならずに話が出来るようになること。（女性、40歳代）
- 女性の数だけではなく、真に社会の発展、充実をさせる意識の人が必要。（男性、70歳以上）
- 私の地区の自治会はむしろ男性が出てこない。要職につかされるのが嫌だから、みな女性に押し付けてくる。（女性、50歳代）
- 仕事をしていると、時間がないので理解して欲しい。（女性、40歳代）
- 無理だと思います。（女性、50歳代）
- 今時女性の参画に抵抗感がある人が多いと思わない。（男性、70歳以上）
- 女性の参画が必要なのか？を議論。質問が男性目線と感じてしまうため、まずそこから見直しが必要。（男性、30歳代）
- 活動の仕方そのものを柔軟に出来る仕組みにする必要がある。特に拘束時間の短縮が必要。（男性、50歳代）
- 時間や取り決めルールの見直し。オンライン化。（男性、30歳代）
- 栃木県においての地域を越えての排他的な慣習がまだまだ根強い事。（女性、60歳代）
- 若い人を育てる、賃金を高く設定する。（男性、40歳代）
- 女性と言っても、育児や家庭、能力などすべてに平等が平等とは限らない。（男性、60歳代）
- 自治会等やPTA、地域活動は必要ないのでは？（女性、50歳代）
- マンションの理事の役割が回ってきた時に行う。（女性、50歳代）
- 年配者の男性に男性優位の考え方が多いから。（男性、60歳代）
- すでに自治会では女性が積極的に参加している。（男性、70歳以上）

市民意識調査報告書

- そのような目的のために休暇を取るのは当たり前だと感じる社会全体の意識。
(女性, 40 歳代)
- 意見が合わない等でハブられる等, 身内意識を感じさせるうちは難しいのではないかと思う。
(男性, 40 歳代)
- 現在女性の参画が多い。
(男性, 70 歳以上)
- 国連WFPを協力させていただいています。
(女性, 70 歳以上)
- 女性もやる気になること。
(男性, 40 歳代)
- 男女問わず資質がある。
(男性, 60 歳代)
- そもそもが, この質問で男性, 女性と言っている事点がアウトナンセンスでは?
(男性, 40 歳代)
- 御機嫌をとりすぎる事。つまり男の意識を改める事。
(男性, 70 歳以上)

問 1 3 あなたは, 災害時や防災活動において男女共同参画を推進していくために, 特にどのようなことが必要だと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 子どもの時から役割を与えて自然に協力参加できるようにする。地域の顔つなぎも大切。
(女性, 60 歳代)
- わからない
(男性, 20 歳未満)
- 徴兵制度の復活
(男性, 50 歳代)
- 年より男性は頭脳がないだけでなく, じゃまなだけなのでやめさせる事。
(女性, 40 歳代)
- あまり災害時の経験知識がなく必要な事がわからない。
(女性, 30 歳代)
- わからない
(女性, 50 歳代)
- (男女共同参画=男女同じことをする)のでなく, それぞれの得意な視点や特性を活かすという考え方を社会全体でもてたらい。 (女性, 30 歳代)
- ない
(男性, 30 歳代)
- わからない
(女性, 30 歳代)
- 避難所における小学生の生活時間に, 学習の指導をしてくれるボランティア生が必要。(コーラス, トランプ遊び等) ゴミの片付け(高学年) (女性, 70 歳以上)
- 常に班内の人とコミュニケーションをとり, その人に合った対応が出来る体制を整える。家族→班→コミュニティの緊急時の連携を取れるように連絡網を作成。個人情報よりも, 地域の絆を重視すべき。 (女性, 50 歳代)
- 消防団員への優遇措置。
(男性, 40 歳代)
- わからない
(男性, 60 歳代)
- その時だけではなく, ずっと見て頂きます様。
(女性, 70 歳以上)
- その他
(男性, 70 歳以上)
- 女性への負担が増えることへの懸念。
(男性, 70 歳以上)
- 分からない
(男性, 70 歳以上)
- わざわざ女性を, 女性をというより, 半々に分ければ良いと思う。そもそもの人数設定を。
(女性, 20 歳代)
- そもそも, 女性とか関係なく考える事が大事なのは。
(男性, 20 歳代)
- 3は○をつけたいが, 女性責任者に従わない男性も多い。
(女性, 60 歳代)
- 本件に男女の差という概念を持ち込む必要はありません。
(男性, 50 歳代)
- 常に広報活動が必要。
(男性, 70 歳以上)
- 全部。これ以外にも女性のできることは多いはずだと思う。
(男性, 70 歳以上)

- 質問の意図がわからない。(男性, 20 歳代)
- 男も女も (女性, 50 歳代)
- 災害時女性参加を求めるのは不自然。特に男女同じ力を出し合っていけばよい。
(男性, 70 歳以上)
- 自治体の在り方を見直す必要がある (自治会に入らない家族が多い)
(男性, 50 歳代)
- 女性がやる気になること。(男性, 40 歳代)
- 1 項目に対し, 男女問わず同一の作業をさせる事。出来なかったら, 廃除すること。
(男性, 60 歳代)
- わからない (女性, 70 歳以上)
- 上の質問等の女性女性でなく, 女性でも参加したい人を募るだけで良いのでは?
(男性, 40 歳代)

【問 14 で, 「1. ある」に○をつけた方にお伺いしました。】

問 15 具体的な理由は, どれに該当しますか。(あてはまる番号すべてに○)
--

- 家業を手伝うため。(女性, 50 歳代)
- 結婚のため, 東京→宇都宮に来て自営業なので。(女性, 70 歳以上)
- 結婚のため。(女性, 70 歳以上)
- 昭和時代女性は結婚退職が普通でした。(女性, 70 歳以上)
- 結婚したら当前に家庭に入るものだと自身も夫も。(女性, 70 歳以上)
- 親の家の片づけ。(女性, 50 歳代)
- 出産 (女性, 40 歳代)
- 介護を理由に東京転勤を断った。(女性, 40 歳代)
- 職場に産休, 育休を嫌がる人が多かった為。(女性, 30 歳代)
- 時代的に結婚したら女性は家庭に。(女性, 70 歳以上)
- 父(夫)を亡くし, 精神的に母がうつ病になったため。(女性, 60 歳代)
- 妊娠でつわりがひどく肩身が狭く辞めざるを得なかった。(女性, 40 歳代)
- 職場が移転したため続けられなくなった。通勤困難のため。(女性, 50 歳代)
- 子が障がい者だった為, 預ける事は不可能。(女性, 60 歳代)
- 育休, 産休が取りづらかった為。(女性, 20 歳代)
- 転勤 (女性, 40 歳代)
- 看取りの為に介護休暇を取れたが, そうすると欠員補充されない為, 同僚に迷惑をかける事がわかっていた為退職を選んだ。(女性, 50 歳代)
- 妊娠時につわりが酷かったため。(女性, 40 歳代)
- 希望の地域の保育園に空きがない。(女性, 30 歳代)
- 東京から栃木に嫁に来たから。(女性, 70 歳以上)
- 自分以外の責任をもつことにより, 仕事の責任を全うできる自信がなくなった。
(女性, 60 歳代)
- 夜勤が出来なくなったことで, 希望しない部署への異動になった為。
(女性, 30 歳代)
- それが, あたりまえの時代だったから。(女性, 60 歳代)
- 同職場に夫婦で働く事が, タブーな考え方があった。(女性, 60 歳代)
- 花嫁修業(洋裁, 料理等)のため (女性, 70 歳以上)
- 妻の家の家業について。(男性, 60 歳代)

問16 あなたは、女性が職業をもつことについて、どうお考えですか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。（○は1つだけ）

- 働きたい人は働けば良いし、働かなくても家計を維持できることがまずは大切だと思う。
私は義親に働け働けと言われ続けているので。環境が良く無理のない範囲でが理想。
(女性, 40歳代)
- 本人の(女性その人の)考え方しだい。こうであるべきとは私は思っていない。本人の意志優先。(男性, 40歳代)
- その女性が選択をすればよい。(男性, 40歳代)
- 持つ持たないというよりも、誰もが生きやすい状況、自由選択でき、自立して生きられることが大切だと思う。働くもよし、やめるのもよし、また時期を見て働くもよし、仕事の内容、職場の変更よし、男女問わず生き生きと生きられる道を選択したい。
(女性, 60歳代)
- どんな職業が自分に合っているかを考え選び、家族の理解を得て仕事を持つことがベストです。女性だけしかできない家庭の仕事はあるかもしれないし、それを自分の中で発見出来たら、専業のお母さんでいても素晴らしいと思う。(女性, 70歳以上)
- 持つか持たないかは自由だと思う。(男性, 20歳未満)
- 男性、女性に関係なく職業を自分が持ちたいと思えば持てばいいし、結婚や出産など人生の岐路に立つ時には、自分が納得する選択を自分自身で決めればいい。もし自分だけで決めることが出来ないのであれば、周りの家族や配偶者や恋人、先輩や友達、または、そういった専門のアドバイザーなどの助言やサポートを受けながら自分と向き合う時間を作ればいいと思います。(男性, 40歳代)
- 産休をとり易くする法律、職場の意識。(不明, 不明)
- 女性は職業を一生持ち続けるべきである。(女性, 50歳代)
- 本人の判断、考え方しだい。(男性, 70歳以上)
- 仕事を続けるには、夫の協力、会社の理解、PTAの負担の軽減が必要。
(女性, 60歳代)
- 本人の自由(男性, 20歳代)
- 本人の考え方を重視する。自分の考えより本人の意見を尊重する。(男性, 40歳代)
- 自分は仕事をする、したいが、他人はその人の考えに従えばよい。(女性, 40歳代)
- 好きにすれば良いと思う。(女性, 20歳代)
- 結婚、出産しても働けるような制度を整える。(不明, 不明)
- 家庭の事情はそれぞれ違うので、個々に併せて選択していけばいいと思う。
(女性, 40歳代)
- 人それぞれでいい。(女性, 50歳代)
- 結婚、出産後は職業を持つ事にこだわらなくて良い。(女性, 20歳代)
- その時の人生の流れで決めれば良い。(女性, 30歳代)
- 職業を持つ、持たないは個人の意志。社会に参加する際は、続けられる環境が整えられていて欲しい。(女性, 70歳以上)
- 自分の希望に従って、職業を持っても持たなくても良い。(男性, 50歳代)
- やりたいようにやればいい。自由に。(男性, 50歳代)
- 女性、男性にかかわらず大人になったら職業をもつ、当たり前のことと考えます。
(女性, 70歳以上)
- 生活力があれば仕事にこだわらなくても良いが、現実はそのようではないので一生仕事しないと生きていけないと思う。多数の人が当てはまるのでは？(女性, 50歳代)
- 本人の意志(男性, 50歳代)

- 5の考えに近いが3-7まで人それぞれの状況や、パートナーと最も合意出来る考え方で、その人にとってベストな職業を持てると良いと思う。しかしこれは男性が働いて家計を支えてくれることが前提の条件であり、「男性は働くべき」という考えは平等でないのかも。実際には7出産後は仕事を時短にして負担を軽くする方が良いと思う。私は7で職業を続けている。7に同意しないのはパートタイムになる＝正社員でなくなるので、大きく収入が減り業務内容もまったく変わってくるので(キャリアが積めない)と思っている為です。(女性, 30歳代)
- 好きにしたらいい (女性, 20歳代)
- 女性がどうあるべきかは決めつけることではない。 (男性, 50歳代)
- ストレスがたまるので外に出た方が良い。 (女性, 50歳代)
- 金銭的に可能であれば(6) (女性, 70歳以上)
- 個人差によるので選べません。 (女性, 30歳代)
- その人がその職業にやりがいがあるのなら続けられればいいと思う。 (女性, 20歳代)
- 育児, 介護等を専念する時期は仕事の負担軽減し, それらが終わればその時専念している他の人をフォローできるよう仕事を少し頑張る。 (女性, 50歳代)
- 各個人の考えに任せる。 (男性, 60歳代)
- 職業につくべき(男女差別がない事) (女性, 60歳代)
- 相談の上, 意思整合をする。 (男性, 40歳代)
- 個人(家庭)による考えのもと, それぞれの想いを実現できる社会ならそれでいいと思う。(女性, 30歳代)
- 家族が豊かに生活するためには夫婦2人で働く事が良いと思うが, 育児をしながら働く事が難しい職場環境もあるので変えて欲しい。 (女性, 30歳代)
- 特にないが仕事をしたいと思う人が働けるようにすべき。 (男性, 30歳代)
- 本当は金銭的にはずっとフルタイムが良いと思うが, 環境がそれを許してくれないため, 子供が大きくなってから働くことが良いと思う。 (女性, 30歳代)
- 個人の自由でよい (女性, 50歳代)
- 出産・育児のサポート環境を充実させ, 女性が職業をもって働き続けられる支援体制をしっかり構築すべき。 (女性, 60歳代)
- 本人の自由にすればいい。機会を保証し抑圧を禁じればいい。 (男性, 50歳代)
- 人それぞれ (男性, 50歳代)
- 本人次第でいい。 (女性, 30歳代)
- 本人の意思にそった働き方が出来る方が良い。 (男性, 40歳代)
- 仕事がしたい時にする, 育児がしたければ育児をする。 (女性, 20歳代)
- 出産後は実家で見てもらった。 (女性, 70歳以上)
- 本人の意思次第, 周りの理解の上。 (男性, 40歳代)
- 「男女共同参画」という視点で見て, この設問1-6全体は?だと思います。特に1-7の項目は。 (男性, 60歳代)
- 自由でいいと思います。決められない事だと思います。 (女性, 40歳代)
- ※選択肢がおかしい。共同参画に対する認識に偏りがあるように感じる。(男性, 50歳代)
- 本人の意志 (男性, 40歳代)
- 家計など, 家庭状態に応じて個人に合った働き方, 職業を持てる方が良い。(女性, 20歳代)
- 本人の意識次第 (男性, 60歳代)

市民意識調査報告書

- 本人が希望するように出来る事が望ましい。〇〇な方が良いという問題ではないと思う。
(男性, 30 歳代)
- 女性が職業を持つことや, 社会に出る事を推進する流れと同じくらい, 父, または母が子育てにしっかり時間をさける社会も大切だと感じている。子育てに専念するのが女性の権利や地位が奪われているととらえるのはもったいない。 (女性, 40 歳代)
- わからない (男性, 60 歳代)
- キャパをこえない程度, どんな時も。 (女性, 30 歳代)
- 子どもの教育やサポートが出来る環境が整っていれば, 職業をもつ方が良い。正社員だと労働時間が長く, 子どもの習い事や教育に制限ができてしまう。パートだと扶養内になってしまうので十分な賃金は得られない状況。仕事と家庭のどちらを優先するべきかはまだ決められないです。ですので理想は②です。人によって決めれば良いと思います。
(女性, 30 歳代)
- 結婚や子どもにかかわらず自立するために仕事はもった方がよい。 (女性, 50 歳代)
- 本人が職業をもちたければもてば良いし好きにすれば良いと思う。 (男性, 40 歳代)
- 決めつけず, 各家庭の状況にあわせる。 (女性, 60 歳代)
- 仕事はもつ, 1人になった時の事も考えて。 (女性, 70 歳以上)
- 育児休暇を長くとれるようになると良い。休暇後は職場復帰できる環境が整えてあると良いです。 (女性, 60 歳代)
- 自分自身 (男性, 70 歳以上)
- 結婚, 出産等に関係なく, 女性がもっと社会進出できるようにすべき。高齢の方の男尊女卑がひどい, これをどうにかしないとダメ。 (女性, 30 歳代)
- 職業をもち社会との接点を続ける。 (女性, 70 歳以上)
- 本人の意志が重要 (男性, 60 歳代)
- パートナーの意思を尊重する。 (男性, 20 歳代)
- 結婚, 出産, 育児などに左右されず働ける社会。 (女性, 40 歳代)
- 女性も社会と繋がっていた方がよいと思うのでケースバイケースですが, 夫の協力を得て, 両立した方がよいと思います。 (女性, 60 歳代)
- 女性が仕事をする以上, 誰もが社会での制限や差別がない。 (女性, 50 歳代)
- 働きたい人が働けばいい。 (男性, 20 歳未満)
- 本人の意思が阻害されない環境があるべき。 (女性, 20 歳代)
- 職業, 職種により様々, それぞれ個人により選択は違うと思う。 (女性, 60 歳代)
- 5に近い考えですが周囲の協力が得られれば7です。 (女性, 60 歳代)
- 自由にすれば良いと思う。 (男性, 30 歳代)
- 選択の自由度がもっとあれば良い。仕事を負担なく続けるために, 時間の自由度, 出社の可否, 週1~5日以内の都度相談しながら自由に変動出来たら理想。子どもや親の介護の状況で変化するたびに(時間も出社も)自由に変化出来たら。 (女性, 50 歳代)
- 個人の自由, 就業の自由。 (男性, 20 歳代)
- 個人ごとの状況に応じて職業を続けるもやめるのも自由。 (女性, 40 歳代)
- その人の自由 (女性, 30 歳代)
- 男性(夫)の収入だけで生活可能であればやめる。 (女性, 30 歳代)
- 良いも悪いも働かなければ生活が維持できないのであれば選択肢はないと思うが, 社会的つながりはあってもいいと思うので負担にならないように職業は持つ方が良い。
(女性, 40 歳代)
- その人の考えによって好きにすれば良い。 (女性, 40 歳代)
- 働きたい人は働けばよいし, 育児がしたい人は育児を意志を持って選択すれば良い。
(女性, 60 歳代)

- 子供に合わせて仕事が出来ればよい。(男性, 20 歳代)
- まったく個人的, 家庭の問題で, どちらがいいなど思わない。(男性, 70 歳以上)
- 個人の自由。いろいろな考えがあるから。(男性, 40 歳代)
- 人それぞれ家族環境に応じて決めればよい。(男性, 40 歳代)
- それぞれが望むようにすればよい。(女性, 30 歳代)
- 自己実現の一つとして職業をとらえ, 男女問わず自由に選択できるべきであると思う。
(女性, 60 歳代)
- 職業を持つのは良いと思うが, 家庭の事情により柔軟な働き方を選ぶのが良い。
(女性, 40 歳代)
- 職業を持つことについて, 男女に分けて考える必要はない。「~の方が良い」という考え方はしたことがない。(女性, 20 歳代)
- その人の好きなようにすればよい。(女性, 30 歳代)
- 子供ができてずっと職業を続けるが, 休みをとりやすくした方が良い。
(女性, 20 歳代)
- その人が決めるべき。(女性, 40 歳代)
- どちらが良い悪いではなく, 働きたい人は働けて, 家庭に入りたい人は入る。個人の希望を尊重できる世の中になって欲しい。(女性, 40 歳代)
- 個人の考えに従って, 自由に選択できるのがよい。(男性, 30 歳代)
- 結婚, 妊娠, 出産, 育児に関係なく職業選択出来ると良い。(女性, 30 歳代)
- 個々人の考えを尊重したい。(男性, 40 歳代)
- 男女関係なく, やりたい仕事をやれば良い。(男性, 50 歳代)
- 個々の事情にあわせて変わるのでは・・・?(女性, 60 歳代)
- 結婚, 出産後も勤務形態を変えながら仕事を続けるのが良い。(女性, 30 歳代)
- なし (男性, 70 歳以上)
- 1 人の人としての意見が尊重される社会である事が重要。(男性, 30 歳代)
- 女性個人の考え次第。(男性, 60 歳代)
- 独身の時は社会を知るために仕事を持つべきだと思うが, 結婚後は夫婦で話し合っ
て決めれば良い(女性が働きたくないと言う人もいる) (女性, 70 歳以上)
- 基本的には相手の女性次第だと思います。相手の方がどのように考えているか。その考えを尊重し, 出来る限り寄り添ってあげられればと思います。又, その際, 結婚後や出産後に「仕事に復帰したい」と要望があったとしたら, 大きな抵抗なく受け入れられる社会になればと思います。(男性, 40 歳代)
- 持ち続ける事は大変。会社の受け入れもあるのでは? (女性, 70 歳以上)
- ケースバイケースであるべきだ。(男性, 40 歳代)
- 他人の「考え」に左右されずに個人で決めることもある。(男性, 60 歳代)
- 女性の考えも様々です。仕事もし, 家庭をも守りたい人もいれば, 家庭を持っても世のため仕事を優先させたい人もいる。家庭を一番に考えたい人もいる。どんな人も対応出来る仕事環境があれば良いと思う。仕事はそんなに甘い物じゃないと言う男性もいるでしょうが, そういう男性は家事を経験していない人が多い。両立してみるとその大変さ, 仕事への考え方も変わるでしょう。(女性, 50 歳代)
- 職業をもつ経験は必要だが, 基本的に女性だからという理由ではこだわらなくてよい。
(女性, 20 歳代)
- 個人の考えであり, 家庭によっても変わる事です。(女性, 60 歳代)
- 個人の判断で良い。(男性, 50 歳代)

市民意識調査報告書

- 個々の状況による。続けたい人が安心して続けられる社会の取り組み。
(男性, 60 歳代)
- それぞれ本人の意志と, 周囲の状況により自由に選択出来ると良い。
(女性, 50 歳代)
- 子供中心の生活になるが, 可能な限り続ける方が良い。 (女性, 40 歳代)
- 好きにしたらいい。 (女性, 20 歳代)
- わからない (女性, 30 歳代)
- その人その人の考えでいいと思う。 (男性, 60 歳代)
- 働きたいなら働く。本人の自由でいい。 (男性, 30 歳代)
- 人それぞれ (女性, 20 歳代)
- 職業を持つことにこだわらなくてもよい。子供が出来ても職業をもつかは本人の意志を尊重して自由にするべきだと思う。 (男性, 20 歳代)
- 職業を持つか持たないか, 働き方など, 本人の気持ちと家族との話し合いでそれぞれが決めるべきだと思います。 (女性, 40 歳代)
- 出産のタイミングでは育児休暇を利用し, その後女性の希望や能力にもよるが職場復帰出来るようにして欲しい。よって, 子供が出来たからといって職業をやめなくてもよい。
(不明, 不明)
- 好きな形で良いのではないかと思います。 (女性, 40 歳代)
- 男も女も仕事をしてそれぞれの環境に合わせて選択できると良い。 (女性, 50 歳代)
- 考え方も環境も人それぞれ違うのでどの考えも選べない。 (女性, 30 歳代)
- 本人の意志を尊重する, 応援する。 (男性, 30 歳代)
- 家族の事情にもよるので話し合う。 (女性, 70 歳以上)
- 仕事の内容によっても違いはあるとは思いますが, 大人として一生懸命働く姿は子供に見せたほうが良いと思う。 (女性, 70 歳以上)
- 好きに働けばよい。 (男性, 20 歳代)
- それぞれの考えや希望。 (女性, 60 歳代)
- 女性がどうしたいかを尊重したい。 (男性, 30 歳代)
- 女性が自由に選択できるようにすること。そのための社会の意識を変え, 会社や制度上のサポート作りがいます。 (女性, 60 歳代)
- 就職を希望することを優先できるように個人が自由に選択して欲しい。
(女性, 60 歳代)
- 個人の自由だと思うので, 性別は無関係。 (女性, 50 歳代)
- 家庭環境や個人の考えの自由でいいと思う。 (女性, 40 歳代)
- 専業主婦になりたい方 (女性) もいるので, なりやすい社会環境も必要だと思う。
(男性, 50 歳代)
- その人次第だと思う。 (女性, 20 歳代)
- いつでも働ける状態が良いが, 長時間労働になり比重が重くなると大変だと思う。非正規雇用で働く場合, 内情がひどいと思う。 (女性, 50 歳代)
- 子供ができて休職扱いで会社に戻ってもよい。 (女性, 20 歳代)
- 個人の考え次第。 (男性, 50 歳代)
- すべて極端なので選べない。 (女性, 60 歳代)
- その人の適性や意志で仕事を持つ持たないも自由に選べる。 (女性, 20 歳代)
- 本来生物は, 母乳を与えて子供を育てるものであり, 子育てが母親のみならず子供にとって精神的に重要不可欠な要素である。子育ての楽しさや, 子供の心身の安定を見返すべきでは? 何の為に生きるかをもう一度考えるべきでは? 共働きして, お金の為に生きるべきか? (男性, 70 歳以上)

- 個人の自由でいい。（女性，20歳代）
- 適性があれば働くべき。（男性，40歳代）
- 個人の自由で良い。（男性，30歳代）
- 女性もずっと仕事を続けることが良いが，子どもに負担がかからないようにしたい。働く事も大事にしつつ，子どもの事を一番に考えたいので，「女性管理職を増やす」試みよりも，「女性が仕事と家庭を両立できる」制度を整える方が，社会にとっても会社にとってもプラスになると思う。女性の在宅勤務，フレックス，時短制度（小学校終了まで）が認められると働きやすくなる。子どもの事を考えると，会社をやめた方がいいのか迷っている。（女性，30歳代）
- 人，それぞれの自由意志のもとに選択がいき，周囲の協力や賛同が得られるようになれば良い。（男性，30歳代）
- 本人のその時の状況で判断すればいい事で，固定観念は持たないようにしている。（女性，50歳代）
- 本人次第（男性，20歳代）
- 全ての男女や世帯に当てはまらない質問。男性も女性なく，必要であれば働けば良い。このような質問をする自体がすでに女性差別ではないのですか？（私は男性です。）（男性，40歳代）

問18 女性が結婚や出産・育児のために退職した場合，その後，再就職するためには何が必要だと思いますか。（あてはまる番号すべてに○）

- 子どもが体調不良で急に休まなければならない時の補償や，休んでも責められない空気。（女性，40歳代）
- 病児保育の充実（女性，60歳代）
- 年間103万円の壁を撤廃し，働ける選択肢の枠を増やす。撤廃しても控除は，ある程度受けられるような仕組みの構築など。（男性，40歳代）
- 型にはまるな！（男性，50歳代）
- タイムロスがあることの企業の理解。（女性，40歳代）
- 家庭，社会情勢を理解し，自分で再就職できる状況なのか良く判断することが必要。（女性，30歳代）
- 子どもの頃から，そういった教育。今の当たり前を変えていくような。（女性，30歳代）
- 保育園や病児保育などの施設の充実。（女性，30歳代）
- 企業が保育所を作る。（男性，70歳以上）
- 再就職に何が必要か？そんな事を言っているから仕事がしたくても出来ない人達が多くなっているんですよ。（女性，70歳以上）
- その人により（男性，70歳以上）
- 国の制度としての法制化。（女性，50歳代）
- 資格，スキル，人脈。（男性，20歳代）
- 法的なバックアップ。（男性，70歳以上）
- そもそも制度を導入しても使ったら白い目で見られるし使える気がしない（女性，20歳代）
- 現代社会に適応しようとする会社自体の努力が必要。（男性，40歳代）
- 6. 7. 8の項目も重要だが，国の法整備や施策が整う事が先決。（男性，70歳以上）
- 新しい職場の考え。嘘はつかないで雇用すべき。（女性，40歳代）

市民意識調査報告書

- フレックスタイム制勤務だが、育児に有利だと思った事はない。（男性，30歳代）
- 女性が働くためのバックアップが必要。（女性，70歳以上）
- 能力開発（男性，40歳代）
- ご本人の強い意志も必要です。（女性，60歳代）
- 企業の人に余裕があり寛容であること。（女性，40歳代）
- 本人の自覚（女性，40歳代）

問19 育児休業について、男性が育児休業を取得しづらい理由は何だと思えますか。（あてはまる番号すべてに○）

- 女性にまかせればよいと言う考えの人が多から。（女性，40歳代）
- 家事、育児は女性がするものというイメージが男性の中に根付いてしまっているから。（女性，20歳代）
- 育児休暇を取っても育児しているのか疑問。（女性，60歳代）
- わからない（男性，20歳未満）【同様7件】
- 必要ならとる（男性，60歳代）
- 時代の流れ（女性，70歳以上）
- 取得できないから。（男性，40歳代）
- 嫌がらせ、いじめで退職に追い込まれる。（男性，50歳代）
- 日本独特の悪い風土、国民性、地域性、県民性。（男性，50歳代）
- 育児は女性という風習、習慣を社会全体で変えていかなければと思う。（女性，70歳以上）
- そもそも男性の育休がない？あるのかわからない。（男性，50歳代）
- そもそも男性が育児休業を取りたいと思っていない。そういう教育を家庭や学校で受けてきた人が少ない。（女性，30歳代）
- 日本全体のそういうシステムになっているから。（女性，40歳代）
- 本人に取得しようという意志がないから。（女性，40歳代）
- 取る人がいないから（女性，50歳代）
- 仕事ができる人が、実際にとっているのをみたことがない。※仕事できてないのに、育休の権利だけ主張したり、傷病なのに育休の権利だけ主張したり、バランスが悪い人が周りに多い。（女性，50歳代）
- 育児＝女性の固定観念があるから。（男性，40歳代）
- 社会の風潮（女性，30歳代）
- 育休を取っていない世代が上司にすることが多いから。（男性，40歳代）
- 男性の方が重要な任務についている。（女性，70歳以上）
- 本人に育児休業をとって当たり前、の意識がないから(自分の子供なのに)（女性，30歳代）
- 育児に参加したくない男性もいるから。（女性，30歳代）
- 世界的に生産性の低い日本では休みを取ると影響が出てしまう為に、生産性を上げないと画にかいた餅になりかねない。（男性，40歳代）
- そういう時代でなかった。（男性，70歳以上）
- 会社の中で「奥さんは一人で大丈夫」など声をかけてくださる人がいれば家族と相談のうえ何か休ませて頂く、そういう方も居るのでは？（女性，70歳以上）
- 休業中も、育児や家事に消極的な男性が多いと思う。結局、女性（妻）に負担がかかる。子ども＋夫の面倒を見ることになる。（女性，50歳代）

- 自分の仕事を中止できない時。（男性，70歳以上）
- 男性が育児休業を取っても夫ひとりで子供の面倒を見られるのでしょうか？
（女性，60歳代）
- 育児の方が仕事より大変と思っている男性が多いのでは…（女性，60歳代）
- 会社から「休業しないの？」と言われないから。（女性，40歳代）
- 政治において，重要視されていないから。（男性，40歳代）
- 育児は女性がするものという考えの人が多から。特に会社の偉い人。
（女性，30歳代）
- 女性のほうが取りにくいと思います。パートは休みにくい。（女性，40歳代）
- 育児参加経験者がいないので，理解が得にくい。（女性，30歳代）
- 前時代的な集団心理（男性，40歳代）
- 男性だから育休を取りづらいつとは思わない。（男性，50歳代）
- 育児休業中は収入がなくなる。（男性，60歳代）
- 日本の国民意識が欧米よりはるかに低いから。（男性，40歳代）
- 会社，組織は推奨するが周りの目が怖い。（男性，20歳代）
- 取りたいと思う方は，増えつつあると思う。でも現実には難しい？（女性，70歳以上）
- 取得しづらいつとは思わない。（男性，40歳代）
- 職場ごとに事情が違つので何とも言えない。（男性，60歳代）
- 関心がないから（女性，70歳以上）
- 男性が育児より仕事に生きがいを感じるのて。仕事の方の需要。（女性，60歳代）
- 時代，古い固定観念がまだ根強いから。（女性，40歳代）
- 取得に対し，ルール化が必要。（男性，30歳代）
- 日本の企業では強制的に取得にしないと取れない。（男性，40歳代）
- 最少人数で仕事している為，かわりの人がいない。（女性，40歳代）
- 哺乳瓶があるとは言え，母乳は出せないから。（男性，20歳代）
- なんとなく男性は育休を取得しないという慣習的なものが未だにあると思うから。
（女性，20歳代）
- 勤務時間内に終えることができない量の仕事をかかえている現状では，取れない。常に人手不足。常に業務過多。（女性，40歳代）
- 女性が育児休業を取りやすいから。（男性，40歳代）
- 会社がバカだから。（男性，40歳代）

問20 介護休業について，男性が介護休業を取得しづらいつ理由は何だと思つますか。（あてはまる番号すべてに○）

- わからない（男性，20歳未満）【同様8件】
- とつたあと退職に追いつまれる。（男性，50歳代）
- 日本独特の極悪の風土，国民性，県民性，地域性。（男性，50歳代）
- 育児は女性という風習，習慣を社会全体で変えていかなければと思う。
（女性，70歳以上）
- 介護休暇が取得しやすい形になっていないから（時間休制度や回数など）
（女性，50歳代）
- 男性の方が給料が高いから。女性が介護したほうが良いと男性が思っているから。
（女性，40歳代）
- 介護をやる気がそもそもない。（女性，50歳代）

市民意識調査報告書

- 介護に知識が少ない（女性，40歳代）
- 男性は介護に向いていない（がまん強くない）（女性，70歳以上）
- 問19と同じ（女性，30歳代）
- 介護をしている自分よりも，仕事をしている男がかっこいいと思っている人が多いから。考えが古い人が多い。（男性，40歳代）
- 給与が少なくなるから。（男性，30歳代）
- 異性はできない，やらない，わからない。（女性，30歳代）
- わからない（女性，30歳代）
- 重要な任務についている，海外で仕事をしている時。（女性，70歳以上）
- 介護する者がいない。（男性，50歳代）
- 女がするものと決めつけているから。（女性，50歳代）
- 取得しづらい理由ない。（男性，70歳以上）
- 介護休業の認知度が低い？（男性，60歳代）
- 収入が減るため。（男性，50歳代）
- 光が見えてない事に対してのタイミング。（不明，60歳代）
- 会社から「介護しないの？」と言われないか。（女性，40歳代）
- 介護は女性がするものという考えをする人が男性に多いから。（女性，30歳代）
- 職場の圧力！（女性，40歳代）
- 終わりが見えないので，結果的に退職することになるので。（女性，30歳代）
- だいたい，会社に介護休業のシステムがないから。（男性，50歳代）
- 本件について，男女間の差異は無いと思う。（男性，50歳代）
- 収入が無くなる。（男性，60歳代）
- 嫁さんが居るだろうと回りが思うだろうと本人が思っている。（女性，70歳以上）
- 問19と同じ（男性，40歳代）
- 取得しづらいとは思わない。（男性，40歳代）
- 職場ごとに事情が違うので何とも言えない。（男性，60歳代）
- 介護をしたくない。（女性，60歳代）
- 古い固定観念が根強いから。（女性，40歳代）
- 男性自身が自分がすべきだと思っていない人が多いようです。（女性，60歳代）
- 男性が取得しようと思っていないから。（女性，50歳代）
- 期間が短い為（女性，50歳代）
- 会社はそんな事関係ないでしょ。私事でしょ。の対応がほとんどでは？（男性，40歳代）

【問24で，「相談しなかった」に○をつけた方にお伺いしました。】

問26 相談しなかった理由は何ですか。（あてはまる番号すべてに○）

- 親に相談すると，心配をかけるので出来なかった。義理の母にも無駄だった。夫の生い立ちに問題があると思い，様子を見ている。今度何かあったら離婚，卒婚をすると心に決めている。（女性，50歳代）
- 受けている内容がDVとわからなかった。（女性，70歳以上）
- どうしても良くなった，次の日には忘れる。（男性，20歳代）
- 自分の行動が，DV（暴力行意だと言う事が，認識力がない！！）（女性，60歳代）

<p>問27 DVやデートDVを防止するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。（あてはまる番号すべてに○）</p>
--

- 法的、物理的シェルターが必要。安全の確保。（男性、60歳代）
- 1対1で自分から言わなくても相談できる機会があると良い。（女性、30歳代）
- DVを受ける人の考え方を変える。DVをあたえる人をどうしようとしても何の解決にもならない。自分が変わる事が最優先。（男性、40歳代）
- 相談窓口が対応をおろそかにしない。（男性、30歳代）
- 感染症の事で精神面がギクシャク、経済面でも大変なので、穏やかな暮らしが早くくれば前に戻ると思う。（女性、70歳以上）
- やられる方にも問題があると思う。（男性、30歳代）
- 個人情報の徹底管理をしたうえで、身バレなどせず相談できる環境作り。（男性、40歳代）
- 軍隊に1か月入隊し厳しい訓練をする。心技体を鍛える。（男性、50歳代）
- 相談窓口、その後の対応がまちまち。判断が困難。（男性、50歳代）
- 聖書を学べば人格を変化させることが出来る。（女性、30歳代）
- 防止は無理なので自分で守るしかない。相談しても無理。（女性、50歳代）
- 子どものうちから自己肯定感を高める教育を行う。（女性、20歳代）
- 教育しても、認識しなければ、再発防止にならない。ですので、罰則で重みを与える方が効果はあると思う。（男性、40歳代）
- 教育（女性、30歳代）
- 良い人を見つける力をみにつけさせる事。（男性、30歳代）
- 逃げる場所が必要。（女性、30歳代）
- まわりに相談できる友人がいる。（女性、60歳代）
- 加害者を被害者から遠ざける。（男性、50歳代）
- 幼稚園児の時から教育する、中学では遅い。（女性、70歳以上）
- 中学、高校、大学等でどういったことがDVに該当するのか理解させる。知識を得られる機会を設ける。（女性、30歳代）
- 多くのシェルターを作って、女性に周知する。（女性、30歳代）
- 一人一人が自立して生きる力を身につける（経済面、精神面含めて）（女性、30歳代）
- 育児では暴力をふるわない。（男性、70歳以上）
- 刑罰の明確化（男性、40歳代）
- 受けている内容を全体にわかるように教育する。（女性、70歳以上）
- 加害者の安心して過ごせる環境の整備。（女性、40歳代）
- 氏名の公表（男性、40歳代）
- 被害者、加害者共に医療機関に相談する。（女性、30歳代）
- なにか事が起きてからでないと相談にのってくださらない 警察関係の人達はもっと深く、みてくれてもいいのでは。（女性、70歳以上）
- DV被害者は共依存になっていることが多いので、近所の人や会社の人等が通報しやすい環境にして欲しい。（女性、30歳代）
- 被害者、加害者ともにそれがDVであるという認識がない、子どもの頃から「暴力」についての学びが必要。（女性、50歳代）
- 力の暴力ではなく精神的苦痛のため（暴力）（女性、60歳代）
- 家庭での生活において、感謝の気持ちを育む。（男性、40歳代）
- 被害者だけではなく加害者にもカウンセリングを行う。（不明、不明）

市民意識調査報告書

- 警察が民事に介入出来る，法改正が必要。（男性，60歳代）
- 私は，子供たちがお父さんに離婚をすすめてくれて，別れました。DVは治らない（若いうちは）と思っています。（その当時は，長く付き合っている女の人がいたので，別れられました。）（その当時20歳・女，17歳・男）（女性，60歳代）
- 被害者が気づけないことが多いので，被害に気づかせる教育も必要。（女性，30歳代）
- 警察が本来すべき仕事を行う。（男性，40歳代）
- 加害者を施設に入れる。（女性，50歳代）
- 本人の自覚，どのようにしたら強い意志を持てるのか。（女性，70歳以上）
- 警察がもっと真剣に受け止める（相談したが笑われた。DVした側と雑談等をし，反省どころか楽しそうに帰ってきた。）（女性，20歳代）
- その行為がDVであると気づくことが出来るようにする。本人が気づいていない場合が多い。辛い，辛いと言うだけ。（女性，60歳代）
- 加害者は精神科通院，監視が義務化。（男性，40歳代）
- SNSで気軽に相談できるサイトを普及させる。（女性，20歳代）
- 加害者は病気。教育＋治療（精神科と投薬など）が必要だと思う。（女性，50歳代）
- 相談することをためらわないような呼びかけや配慮。（男性，40歳代）
- 自分が被害者にならないための教育（相手を加害者にさせない自己尊重の確立）DVを引き起こす人間の研究。（女性，60歳代）
- 今までに行っている中で件数が大幅に減っていないのなら，他の対策を早急に考え，実行すべきではないでしょうか。（女性，40歳代）
- 2ちゃんねるやネットの，DVや浮気等で離婚になった等の体験談を精神的に参るまで読ませるといいです。（男性，40歳代）
- 警察，病院等安心して受けられるような窓口設置を広報して人々に知らしめる必要あり。（女性，70歳以上）
- 加害者に暴力の痛みをわからせる。（男性，30歳代）
- 自分が受けているのがDVであると気づける，声をあげられる環境作り。（女性，20歳代）
- 児童虐待の防止（教育）被害者が加害者から逃げられる法整備。（男性，40歳代）
- 昭和27年の法制度（北陸地方女性議員に問題あり）（男性，60歳代）
- DVを受けている本人が，ハッキリと認識できる様な教育をしてほしい。これはDVなのだ。（女性，60歳代）
- ゲームやアニメの影響が強いのでは？そういう普通ではない描写や表現の規制。（男性，40歳代）

問28 女性に対する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで，配慮してほしいと思うことは何ですか。（あてはまる番号すべてに○）

- 相談しても具体的な対策を教えてくれないし，人によって答えが違うから，相談してうちにわけがわからなくなる。きちんと専門の人をおいて欲しい。（女性，40歳代）
- 安心してゆっくり過ごせる場所，何かに集中できる場所。サロン。（女性，60歳代）
- 無理にでも加害者から引きはがして保護。（女性，20歳代）
- 相談員の人数を増やす。（女性，60歳代）

- 相談員の人数を増やす，年齢が若すぎない方が良い。（女性，50歳代）
- 個人による。（女性，70歳以上）
- 相談窓口の場所，アピール。（男性，50歳代）
- きっと昔の様な井戸端会議的に，その人の身近に人がいる事がいいのじゃないかな。（女性，70歳以上）
- 精神的に弱い女性には，教育が必要だと思う。弱い方も悪い。（女性，40歳代）
- たくさん作って，それぞれ使いやすいツールを使ったらよいと思う。（女性，20歳代）
- 相談したことで何か解決できる機関であること。相談しただけでなく，伝えたことで，次にどうすれば良いか相談者がわかるようにしてもらいたい。（女性，40歳代）
- 相談したことが相手に知られていない，知られても安全を保障出来る環境作り。それを多くの人に知ってもらう為の方法。（女性，20歳未満）
- 相談受けたらすぐに男を精神科とかに入れるべき。待っていれば，待つほどひどくなる。（女性，50歳代）
- 相談したことによって，なにか不利益な事が生じる心配がある。（女性，60歳代）
- 親身に相談に乗ってほしい。（上辺だけでなく）（女性，70歳以上）
- この間でなぜ女性というのかわからない。男性に対する暴力もあるはず。（女性，20歳代）
- ラインやメールなど音が鳴る返信は気付かれやすい。残らないものがよい。（女性，50歳代）
- 匿名（女性，50歳代）
- まず相談する前に，逃げられる場所，シェルターなどがあつたらいい。（女性，40歳代）
- お決まりの軽い対応で済まさない（大変だと思うが真剣に対応して欲しい）（男性，50歳代）
- 相談者を尊重し真剣に話を聞いてくれる事。（女性，60歳代）
- 継続的に相談又はアフターフォローの充実。（女性，70歳以上）
- 相談したことによって状況が悪くなることへの不安があると思うので，安心して相談出来るような所。（女性，40歳代）
- 相談窓口に行くのは勇気のいること。先日の朝日新聞の内容に賛成？（女性，70歳以上）
- 相談内容が機密事項として保護される。（男性，40歳代）
- 相談しても足がつかない相談口が欲しい。（DVの加速につながる人が多いので）（女性，20歳代）
- もっとこの機関があると同意させる。知らない人が多い。（女性，60歳代）
- 24時間手続き連絡なしで行ける避難所。（男性，40歳代）
- 広告などで相談しやすい雰囲気をより出す。（女性，20歳代）
- マニュアルに沿うのではなく，親身になって話が出来るとある方を相談員に起用する。（女性，40歳代）
- 警察と連携する。（女性，50歳代）
- 情報の守秘義務。（男性，30歳代）

問31 あなたは、性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策について、必要だと思いますか。（○は1つだけ）

【必要と思う理由】

- 知らないのに偏見で見ている人が多すぎて、からかいの対象になりやすいため。
（女性，40歳代）
- 生まれてきた以上、人権は有る為。（男性，40歳代）
- 悩まずに生きやすい社会になるために必要。（女性，30歳代）
- 皆が自由に生きられる社会が望ましいため。（不明，不明）
- 個人を尊重するため。（女性，60歳代）
- 他人と違うことを理由に差別があってはならないと考えます。（女性，50歳代）
- 人として生きていく為に、まわりの人達の理解・協力など。（女性，60歳代）
- 人権に少数も多数も関係ない。（男性，30歳代）
- 周知は何においても大切だから。（女性，30歳代）
- 男性でも女性でもLGBTでも人権は同じだから。（男性，70歳以上）
- 人権は平等であると思うから。（男性，70歳以上）
- 上記の理由で害を与えられているのであれば、守ることが出来る施策や法があった方が良くと思うから。（女性，20歳代）
- 本人はもちろん、周囲も、良い意味で気をつかわなくて良い環境が必要だと考えるため。
（男性，20歳代）
- 教育の場（中学，高校）で教育してゆく。（男性，70歳以上）
- 人権はどんな状況の人々にも平等だから。（男性，40歳代）
- 「マイノリティの人もある」、 「そもそも性別を理由に人をどうこうしてもいいものではない」という認識が多くの人にはないと問題は良くなると思う。そのような認識を意識してもらおうような啓発はあった方が、ストレスなく過ごせるようになっていくと思う。
（女性，30歳代）
- 同じ人間が傷つくことに耐えられないから。（男性，40歳代）
- まだまだ知られていないから。（男性，20歳代）
- 自由ということは、こういう事で取り上げること自体がおかしい。そういうことも普通なのだから。（女性，70歳以上）
- 頭では理解していても感情的な嫌悪感があると思う。（男性，60歳代）
- 性のあり方はさまざまであることを知り、個人の尊厳や幸せを求める権利は守られるべきものであることを知ってもらうため。（不明，60歳代）
- そういう場所を提供してあげれば、その人なりの考え方など自分らしい道が出来、頼れる仲間も出来ると思う。（女性，50歳代）
- 個性の1つだと思うから。（不明，不明）
- マイノリティだけで、人権を侵害される理由はないと思う。（女性，40歳代）
- 本人のせいではない。生まれもったものだから。発達障害などと同様に誰も悪くないから。
（女性，50歳代）
- 人権は大切、誰にでも与えられるため。（不明，不明）
- 人間はすべて平等に生きる権利がある。（女性，50歳代）
- 性による差別や生きづらさがあってはならない。これだけ人口がいるのだから性に限らず少数派の考えや思想の人がいて当然。どんな人にも人として幸せに生きる権利があるべきだと思うから。当事者が声を上げることを待つのではなく、周囲の人間も理解をして彼らを守ることが大切だと思う。（女性，20歳代）

- 人は、皆自由な生き方を自分で選べる。（女性、60歳代）
- 知識があってこそ対応できることだと考えています。（女性、60歳代）
- 正しく理解することが差別、偏見をなくす第一歩。（男性、60歳代）
- 全ての人に対する人権は平等だから。（男性、20歳代）
- 差別や生きづらい世の中ではおかしいと思うから。（女性、40歳代）
- いろいろな人がいる。（男性、60歳代）
- 様々な立場で反対する人がいるため守る人が必要。（男性、40歳代）
- 多様性に関する話題をオープンにできるような環境づくりが大切だと思うから。（女性、20歳代）
- 人類は皆平等に扱われるべきだから。（女性、20歳代）
- 理解が深まらなくては人権は守れないと思う。（女性、20歳代）
- 同性結婚が出来ないなど、日本は性的マイノリティの方が生きやすい国にまだなっていないから。（女性、40歳代）
- 色々な人がいるということを理解することが大切だと思う。（女性、60歳代）
- 人は生まれ持って平等だから性的マイノリティは問題ない。（男性、20歳代）
- 人権尊重の観点。（男性、60歳代）
- 人間だから。（女性、50歳代）
- 今まで周知されていなかっただけで、暮らしづらさを感じてきた人たちがたくさんいたと思うので。（女性、30歳代）
- 性教育についてはタブー視されている（ふれてはいけない）とされている。（男性、50歳代）
- 関心を高めるために広く知らせる必要があると思うから。（女性、30歳代）
- 前よりは偏見が少なくなりつつあるが、まだ多くの人に受け入れられないから。（女性、20歳代）
- こころ豊かに人生を送ることができるようにする為。（女性、60歳代）
- 差別になるため、色々な生き方があっていいと思う。（男性、20歳代）
- 少数だからこそ周知啓発など知識や情報が必要だと思う。（女性、30歳代）
- すべての人は幸せに生きる権利を持っている。（女性、70歳以上）
- 昔（20年以上前）は、性的マイノリティを悪いことのように扱っていた。（男性、50歳代）
- 今のままで生きづらいと思うから。（女性、40歳代）
- その人の自由。放っておけばいいこと。いちいち干渉しない事。普通に接すればいいこと。（男性、50歳代）
- そういう世の中だから。（男性、60歳代）
- 外国に比べたら日本は遅れていると思う。教育現場、自治会、メディアなどでまめに発信して、人々に身近に感じてもらえるように取り上げられたらと願います。税金を無駄にしないでほしい。使い方を考え直してください。（女性、50歳代）
- 周囲からの理解を深める為。生きづらい世の中にしない為。（女性、20歳代）
- そのような方の人権を守る必要があるから。（女性、20歳未満）
- 周りが一人の人間だということを認め、すべての人たちが胸を張って生きていける環境（社会）をつくって欲しい。（女性、30歳代）
- 性的マイノリティの意味すらよく分かっていない為。（男性、70歳以上）
- まだまだ男性は男性として、女性は女性として生きていることが普通だと思われる人々が多いから。自分を含め。（女性、30歳代）
- 一人一人の思いは違って良い。認める事から始まる。（男性、70歳以上）

市民意識調査報告書

- 性的マイノリティ以外の人々の理解につなげる為必要。(男性, 60歳代)
- 自分が理解出来ていないので, まず知ることが必要だと思う。(女性, 60歳代)
- 苦しくない生き方が出来ればいいと思う。(女性, 40歳代)
- まだまだ偏見や無理解が多いと思うから。職場のトイレが男女しかないなど。
(女性, 40歳代)
- 人は選択する権利, 自由になる権利, 幸福になる権利があるから。(男性, 60歳代)
- 日本人に知識が少ないと思う。(男性, 30歳代)
- 人権は守るべきだと思う。(女性, 60歳代)
- だって生きづらいんだもん。(女性, 20歳代)
- 大事な個性なのに差別する人がたくさんいるから。(女性, 20歳未満)
- その人達が堂々と生きる事ができる社会になって欲しいから。(女性, 20歳代)
- マイノリティの方々の人権を守る活動は常に必要だから。(男性, 50歳代)
- 未だに差別があるため。(女性, 30歳代)
- 女性の人権を守る施策があるのだから, 他の性に対しての施策があつて当然。学校での教育も必要。(女性, 60歳代)
- 行政からのPRがないと, 社会の関心が広まらない。(男性, 40歳代)
- 世の中が昔とは違い, 性的マイノリティが認められる世の中となりつつあるから。
(女性, 50歳代)
- その人の人間性, 社会でも普通に生きて行ける様に。(女性, 70歳以上)
- この方々は, だれにも相談もできず, ひとりで悩み苦しんでいるのではと思う。
(女性, 60歳代)
- 理解していない人が, まだまだ多いと思うから。(男性, 40歳代)
- 生きづらいと思うことは基本的人権の尊重にはなっていないと思うから。QOLは介護でよく使われる言葉, 思考だが, どの分野にもあつて然るべきだと思う。
(女性, 30歳代)
- 性的マイノリティの人達の人権を犯すことがおかしいから。(女性, 40歳代)
- 全ての人権が尊重されるべきだと考えているから。(男性, 20歳代)
- それをすることは, あたりまえの事だと思うから。(女性, 20歳代)
- どんな人格でも, 人として生きづらい社会はダメだと思うから。(女性, 60歳代)
- 法律をあらためて, 差別などを無くして, 誰でも, 自分らしく生きられる様な国になって欲しいから。(女性, 40歳代)
- 宗教の自由。国によって一夫多妻民族。個々の性的共感共有, 共立で自由。
(男性, 70歳以上)
- 偏見をなくす為, もっと広く知ってもらう為。(女性, 40歳代)
- 個人の尊厳を守る為。(男性, 30歳代)
- 以前に比べ, 増えてきているように感じるため。(女性, 30歳代)
- 性的マイノリティの方々と身近に接する機会がないため, どうしていいか分らず, 結果「自分達と違う」という理由で排除されてきていると思うので, 正しい理解をしていくという意味でも啓発や施策が必要と思うため。(男性, 40歳代)
- まだまだ認知されていない為。(男性, 30歳代)
- 人間は誰でも幸せに生きる権利があると思う。(女性, 60歳代)
- 本人のつらさを思うと, , ,。(女性, 70歳以上)
- 性に対しての考え方は人それぞれ。いろいろな考えがあることを知ることが大切。
(女性, 50歳代)
- 現実を知るとともに, 差別があつてはならないと思うから。(女性, 50歳代)

- まず大人達から偏見意識を変えていかなければ、子供達に教育する事も出来ない。
(女性, 50 歳代)
- 自分は自分, 他人は他人, 人権を他が決める必要性はないと思う。
(男性, 40 歳代)
- 世界が認めているから。 (男性, 60 歳代)
- スピリチュアルなど, 普通ではないと思われることへの対応も必要。普通なんてないこと。
(女性, 30 歳代)
- 周囲の人々の理解が必要なので。 (男性, 30 歳代)
- 人権を守るため, 優しい社会をつくるため (男性, 70 歳以上)
- 自分にあった様に生きればよいと思うから。 (男性, 40 歳代)
- 自分自身LGBTQ (F T M) だから。 (男性, 30 歳代)
- 個性だと思うから。 (女性, 30 歳代)
- 少数派は声小さいので, できるだけ情報を周知していく方がよい。
(女性, 40 歳代)
- 人間はみな同じではなく, 現代では自由に生きる権利があると思うから。
(女性, 50 歳代)
- それ以外の方々に, まだ認められていない所が多いと思います。 (女性, 50 歳代)
- 様々な年代の人の理解を得られる機会を作るべきだと思うから。 (女性, 30 歳代)
- 人間が人間らしく生きるため。 (男性, 50 歳代)
- 実際に苦しんでいる人が居る事を, 情報系のツールで知っている。 (男性, 50 歳代)
- 互いに認め合う事で穏やかで平和が保たれる。 (女性, 60 歳代)
- 人間は全て平等が基本中の基本です。 (男性, 70 歳以上)
- デリケートな悩みなので。ないよりはあった方がよいと思うが, 気軽に相談できるようなものではないと, あまり意味はないように思う。 (女性, 30 歳代)
- 皆平等に生きる権利があるから。 (女性, 70 歳以上)
- 広く理解する事が重要だから。 (男性, 60 歳代)
- 多様性は必要。 (女性, 30 歳代)
- 実際困っているだろうから。 (女性, 30 歳代)
- まだまだ認知不足だから。 (女性, 50 歳代)
- 社会全体が理解していない限り, 差別は無くならないから。 (男性, 70 歳以上)
- 人権は守るべき! (男性, 60 歳代)
- 本人はすごく悩んでいると思う。何かの出口が見つかれば少しは心が休まるかと思うので。
(女性, 60 歳代)
- 啓発や施策が逆に差別を助長しないように。 (女性, 30 歳代)
- 少数, 少数派の人権を守ることが社会全体, 世界全体のことに繋がるから。
(男性, 70 歳以上)
- 周囲にそういう人や, そういう考えを持つ人が多くいるので。 (男性, 40 歳代)
- 人間は感性や思考の違いがあっても皆平等であるから。 (女性, 60 歳代)
- この言葉に違和感があるが, 性の多様性を理解しなくてはならないと思う。
(男性, 60 歳代)
- 知名度はまだまだ低いと思うから。 (男性, 20 歳代)
- 多種多様な考えが増え, 心の中で悩んで苦しんでる人がオープンに生きていけるような社会になって欲しいから。 (女性, 30 歳代)
- 全ての人間は自由だから。 (女性, 20 歳代)
- 性には多様性があることを知り, それを尊重すること。 (女性, 70 歳以上)

市民意識調査報告書

- 男性・女性の性に属さない人間がいるということを、受け入れていく必要がある。
(女性, 60 歳代)
- 差別と法的制度的不利益が存在するから。(男性, 50 歳代)
- 人権だから。(男性, 50 歳代)
- 性的マイノリティの方々も人ですので人権は守るべきです。(女性, 30 歳代)
- 誰もが自分らしく生きるため。(女性, 60 歳代)
- 自分が自分らしく生きるため。(男性, 40 歳代)
- 性的マイノリティだからという理由で尊重されないことは間違っている。
(女性, 20 歳代)
- 性的マイノリティも人間。(男性, 70 歳以上)
- 性多様性の尊重。(女性, 40 歳代)
- 他の人とは違う様々な「ちがい」を持っており, そのような「個性」を認め合うことが必要である。(男性, 70 歳以上)
- まだ差別で苦しむ人が多いから。(女性, 30 歳代)
- まだ広く知られていないと感じるので, 当事者が不快な思いをして欲しくない。ありがとうございました。日本に今後も住んでいたいと思える国になったら嬉しいです。自分も無知なところは勉強していきます。(女性, 20 歳代)
- 性的マイノリティであれ何であれ, すべての人の人権が守られるようになって欲しい。(女性, 30 歳代)
- 現在はSNSやネットなど, 個人の主張などが発信されるので。(男性, 40 歳代)
- 人々の人権を守るとは人が「生きる」という事を守ることに直結していると思うからです。
(男性, 60 歳代)
- 個人の意見を尊重することが, 人間にとって一番大事だと思います。
(男性, 30 歳代)
- ひとりひとり違って当たり前認識が必要。でも人間は, つい群れて多数の方にいけば安全と思込んでいる。それは違うと認識するような刷り込みは必要と考えます。
(女性, 60 歳代)
- 社会の理解が不足している。(男性, 60 歳代)
- 個人の人権が守られるべきで, 性的マイノリティに限らない。当然。
(男性, 50 歳代)
- 性癖は人それぞれだから必要。(男性, 40 歳代)
- 性的マイノリティの方々が, 周りの目を気にせず過ごして欲しいから。
(女性, 20 歳未満)
- 人権に性別は関係なく, 一人の個人として守られるべき (男性, 40 歳代)
- 正しい情報を発信し続ける事で, 差別がなくなっていくと考える為。
(女性, 20 歳代)
- 少数派のものに対し, 知らない事が排除の気持ちにつながるケースは多いと思っている。正しい知識であふれ, 想像出来れば理解し, 受け入れ, 尊重をする事が出来る様になると思う。(女性, 40 歳代)
- 仮に少数派だとしても, 人権を守る施策が必要ないという理由にならないから。
(男性, 20 歳代)

- 男である、女であるは、社会で生きていく中で一番重要な事ではないので、働いている事
に変わりはないですし、税金も納めてますし、同性婚もOKでいいと思います。家族とい
う形を与えることで働くこともきっと励みになりますよ…。男女の結婚だけが祝福されて
いるのは違う気がする。生きづらいと思っている人がたくさんいます。でも家族や守りた
い人がいる人もたくさんいます。これからもっと増えていくと思います。令和で変えてあ
げてください。若い世代の子たちが生きやすい時代にしてあげたいです。
(女性, 30 歳代)
- なぜ? どうして? どうすればいい? を子供の時から理解させる事がいいと思うので。
(女性, 60 歳代)
- たくさんの人に知ってもらい、理解してもらう必要があると思う。(女性, 60 歳代)
- 同じ人間であり個性なので、白い眼で見てしまうことは、人格を否定することになるから。
(女性, 60 歳代)
- 現在の考え方に合っている為。(男性, 40 歳代)
- 小さい頃から教育をすべきと思う。(男性, 30 歳代)
- 最近急に耳にする様になったが、よくわからないので。(女性, 70 歳以上)
- 全く興味が無い質問でした。(男性, 60 歳代)
- 生きづらく辛い思いをしてしまう。(女性, 30 歳代)
- まだまだ偏見が多いから。(男性, 50 歳代)
- 性的マイノリティの方々の、精神的苦痛がなくなればいいと思うため。
(男性, 40 歳代)
- 無知は無理解と同じと思う。(女性, 60 歳代)
- 日本はまだ抵抗のある人が多いため。(女性, 20 歳代)
- 性的マイノリティを理由に、仕事など断られてはいけないと思うため。
(女性, 20 歳代)
- 必要な施策だから。(男性, 70 歳以上)
- 平等だから。(女性, 70 歳以上)
- 人権を守る必要がある。(女性, 40 歳代)
- 必要 (男性, 70 歳以上)
- 個人の人権を尊重すべき。(女性, 60 歳代)
- 小さい頃から「男だから～」 「女だから～」と刷り込みをすることにより、差別が起こる
と考えるため、「男だから〇〇」「女だから△△」などをなくすことにより、同性愛等に
対する差別的な考えも減るのではないか。(女性, 30 歳代)
- 知識や理解が深まることで、互いを尊重しようと考えられる人が増えると思うから。ただ、
権利ばかりが主張されるような風潮にはなあって欲しくない。(女性, 50 歳代)
- あたりまえ!! 理由なんてない!! この質問おかしい!! (女性, 30 歳代)
- 差別する時代は終わり、少数者も理解する社会が必要。(男性, 20 歳代)
- 人権を守る事はあたりまえの事。(女性, 70 歳以上)
- 現状、知る機会が無いから。(男性, 20 歳代)
- それぞれが幸福になれば。(男性, 60 歳代)
- 色々な思考は認めるべき。(男性, 60 歳代)
- いろいろな考えを持っている人がいるので、それを守る必要がある。
(男性, 60 歳代)
- どんな人でも人権は守られるべきだから。(女性, 50 歳代)
- その人の人権を守るため。(男性, 50 歳代)
- 人権が必要ない人などいない、守ってあげて欲しい。(女性, 40 歳代)

市民意識調査報告書

- 不当な差別を受けず、普通の生活を送ることができる環境になる事。
(女性, 50 歳代)
- 人生はただ 1 度しかないのだから、自分らしく生きて心から幸せを感じるような世の中になっ
て欲しいから。(女性, 40 歳代)
- 生き方は個性があって良い。(男性, 50 歳代)
- 法の下での平等に十分あてはまると思うから。(女性, 50 歳代)
- 性に関わらず、マイノリティだからといって阻害されていいわけではない。
(女性, 20 歳代)
- 人権の基本だと思います。(女性, 70 歳以上)
- 幸せな人生をおくる権利は皆平等であって欲しい。(女性, 60 歳代)
- お互いの存在がごくごく当たり前という認識になるまでは、公共機関のバックアップが必
要だと思います。(女性, 50 歳代)
- 全ての人に平等に偏見のない生活が出来ますように。(女性, 50 歳代)
- 私には何をどうしたら良いのかわかりません。(女性, 60 歳代)
- 当然のことである。当たり前であるべき人間として。(男性, 50 歳代)
- 様々な考えや思考を理解できる世の中になって欲しい。(女性, 60 歳代)
- 時代の変化。(女性, 40 歳代)
- 該当者が声を上げにくいと思うから。(男性, 70 歳以上)
- そのような人が存在するから。(男性, 70 歳以上)
- 差別すべきでは無い。全て平等であるべき。(男性, 60 歳代)
- 海外などでは当たり前になっているから。日本でももっと理解を広げるべき。
(女性, 20 歳代)
- 友だちから経験談を聞き、現状を知って驚いたことがある。自分の無知さを知った。
(女性, 50 歳代)
- 他人に迷惑をかけていなければ個人の嗜好なので問題ない。(男性, 60 歳代)
- 生活しやすい環境を作る方が良く思う。(女性, 20 歳代)
- 偏見や無理解がまだまだ多いから。(女性, 70 歳以上)
- 男も女も、その中間の考えを持つ人も同じ人間。(男性, 70 歳以上)
- 性的マイノリティの方々が自由に社会の中で行動できる様に。(男性, 70 歳以上)
- 同じ人間でたまたま少数名だけだから。(女性, 40 歳代)
- 全ての人々が認識を持つべき。(男性, 50 歳代)
- 特に高齢ほど偏見が残っていると思うので。(男性, 40 歳代)
- 国民の人権を守ることは国や行政の仕事。(男性, 20 歳代)
- 近くにいないと思ってしまうような社会観は変わった方が良い。(女性, 40 歳代)
- 受け取り手が取る対応と、性的マイノリティの方々が望む対応との温度差があり、性的マ
イノリティの方々が未だに不安を抱えている人もいるため。(女性, 20 歳代)
- 多様性の時代なので。(女性, 30 歳代)
- まだまだ啓発等が少ない為、一般の人の理解が不十分であり偏見が多い。
(男性, 50 歳代)
- 知らないより知っていた方が良い。(女性, 40 歳代)
- それぞれの人権を大切に生きていくため、理解を深めていくことが重要だと思います。
(女性, 60 歳代)
- 人間は皆平等である。(女性, 70 歳以上)
- 全ての国民の人権が守られるべきだから。(男性, 60 歳代)
- 人権はすべての人に平等。(男性, 60 歳代)
- その人たちにも守られる権利があるから。(男性, 20 歳未満)

- 生まれ持って備わっている性格等は、個性であり、単純に好き嫌いで極端に制限されてはならない為。（男性、40歳代）
- 人間としての権利を守る。（男性、70歳以上）
- 世間の理解が不十分だから。（女性、40歳代）
- そういう人々の人権が、守られていると思えないから。（女性、60歳代）
- 同じ人間なので、人権は保護されるべき。（男性、30歳代）
- 人権の尊重や社会の多様性を認識する事は、人も社会も進歩していけると思う。（男性、70歳以上）
- マイノリティが生きやすい環境は、すべての人が生きやすいという環境につながると思うから。（女性、30歳代）
- 人間は生まれながらにして価値があり、唯一無二の大切な存在だから。（女性、30歳代）
- 悪意を持って生きている事ではないので、偏見や興味本位で接するべきではないと思います。（女性、70歳以上）
- すべての人が、人としてのその人権は守られなければいけないと思うから。（女性、60歳代）
- 悩んでいる人がいるし、まだ偏見があると思うので。（男性、50歳代）
- その人に合った人権を守ることが大切だと思うから。（女性、30歳代）
- 自分から発信できる人ばかりではないので、社会全体の理解が不可欠だと思うから。（女性、40歳代）
- 本人だけの苦悩が非常に大きいと思います。（女性、70歳以上）
- みんな人間だから。（男性、60歳代）
- 性的マイノリティの方に対する環境の不備さを感じる。（不明、不明）
- 古い考えの大人が多い。（男性、50歳代）
- 同性カップルが、異性カップルと同等の制度を受けられるようにするべきだから。（女性、20歳代）
- 「性」をひとつの概念に当てはめるのは無理がある時代です。「性」は多様性があって良いと思う！（男性、60歳代）
- 人権です。（女性、40歳代）
- 犯罪者ではありませんので。（女性、60歳代）
- 全く理解できない人がいると、その子、その孫のように再生産されてしまうから。（女性、50歳代）
- 理解できていない部分があると思うので、どのようにしたらいいかわからないから。（女性、40歳代）
- 性的マイノリティの方も、人間。人としての人権は守るべき。宇都宮は男尊女卑社会という印象を受けています。男性は女性に大声を出す。職場でも男性の質問には丁寧に答え、女性には「いいから。」「女のくせに。」「50過ぎたババアはいいよ。」等々、耳にしてきました。この様な事が改善されなければ、男女共同にはならないと思います。（女性、60歳代）
- 生命を与えられた時から、生まれた時から、人は平等に生きていく権利があるはずだから。（女性、60歳代）
- まだ一般的とは言いつらく、理解も得られにくい。社会的不利益を被ることが多いと思う。（男性、30歳代）
- 現状で、人権が十分に守られているとは思えないので。（男性、50歳代）

市民意識調査報告書

- ダイバシティへの要求と基本的人権の尊重の観点から、どちらかといえば必要である。
(女性, 40 歳代)
- 皆が関心をもち、正しい知識・情報を共有することが必要だと思うから。
(女性, 60 歳代)
- 必要だと思うが、逆差別だと思うこともある。(女性, 40 歳代)
- 結婚、姓名、家族でないと認められないことも多々あるのに、ただのパートナー扱いで困っている人もいる。(女性, 30 歳代)
- 社会全体で動いていくことで、人権を守ることに少なからずつながっていくと思う。
(女性, 40 歳代)
- 生きやすい社会構築が必要。(女性, 50 歳代)
- 性別に関わらず、個人の人権は守られるべき。(女性, 40 歳代)
- 多様性を尊敬する方が、これからの社会は必要である。(男性, 50 歳代)
- マイノリティな立場は、マジョリティから迫害や誤解を受けることも多いため。
(男性, 20 歳代)
- 性の多様性を尊重する社会実現のため。(男性, 70 歳以上)
- そうしないと改善につながらない。(男性, 60 歳代)
- 人の権利は、すべてにおいて平等であるべきではないかと思うため。
(男性, 30 歳代)
- 偏見や差別をなくす為、生きやすい社会にする為。(女性, 40 歳代)
- 自分が自分である事に、なぜ負い目を感じなければならないのか。「可能性」の解放と開放、その両方を。(男性, 40 歳代)
- 同じ人間なので人権が守られることが当然であると思うから。(女性, 20 歳代)
- 平等な精神や平等な幸福度を手に入れるため。(男性, 30 歳代)
- 平等に生きていくため。(女性, 20 歳代)
- 自分らしい生き方を選択するため。(女性, 70 歳以上)
- 堂々と生きるため。(男性, 40 歳代)
- 性的マイノリティの方々の人権を守って欲しいと思うから。そのためには多くの人がそれについて理解する必要があると思うから。(女性, 20 歳代)
- 性的マイノリティを差別しないために対策を強化することで、少し時間がたったら聞き慣れて意識しなくなってくると思うから。(女性, 20 歳代)
- 知らないうちに人権を侵害していることがあるから。(女性, 70 歳以上)
- 昔の女性が厳しい状況にありましたが、少しずつ改善されました。それと同じように、マイノリティ、高齢者等、偏見をなくすべき。(女性, 60 歳代)
- 人は人を救い、個々の考え方を尊重するのは当然だから。(男性, 60 歳代)
- いろんな性別、いろんなことを自由に選択された方が良いと思う。
(女性, 40 歳代)
- 程度はあるが、感じ方は人それぞれなので、その人に合わせた人権は大切だと思う。
(男性, 40 歳代)
- 社会が変わらないと、そのような方々は守れないと思う。(男性, 30 歳代)
- 差別されることがないようになると良いと思う。(女性, 40 歳代)
- 周囲の理解が必要だと思う。理解出来ない事は受け入れにくいから。
(女性, 50 歳代)
- 施策として(地域によって異なるのではなく)、国として決めていく方が良いと思う。地域によって(パートナーシップ制度)異なる自体、性差別だと感じる。
(女性, 30 歳代)
- 性的マイノリティがあることが特別だとは思わないから。(女性, 20 歳代)

- 恋慕は理屈ではないから。（男性，20歳代）
- この質問自体がおかしい。すべての人に人権があるのに。（女性，30歳代）
- 多様性を認めて，偏見や差別をなくすため。（女性，40歳代）
- 性別，LGBTに関係なく人権は守られるべきだと思います。
（女性，50歳代）
- だれでも自分らしい生き方を出来る為に。（女性，40歳代）
- 海外では同性婚が認められてきており，性的マイノリティを認める風潮が出来てきている
と思うから。（男性，20歳代）
- 今はLGBTも身近な世の中であるし，性別でなんでもかんでも決定するのは良くない
と思うから。（女性，20歳代）
- 差別をなくすため。幼児のうちから教育するべきだと思う。（無知より怖いものはない）（女
性，50歳代）
- 最近広く知られるようになり，それにともない理解も広がったと思うから。
（男性，50歳代）
- まだ世の中には言葉すら知らない人が多いと思うから。（女性，30歳代）
- 正しい理解から行動が良い方向に向かい，お互いが生きやすくなるから。
（女性，40歳代）
- 正しい知識や情報の発信，性の在り方を認め合える社会をつくる。
（男性，50歳代）
- 外国では日本に比べて人権が尊重されているので，外国に見習っていくべき。
（女性，30歳代）
- すべての人にとって住みやすい社会を作っていくことが大事だと思うから。
（不明，不明）
- 性的だけではなく世の中には色々なマイノリティがあると思います。そのすべて
（法律に触れないもののみ）に寛容であれば良いと思います。
（女性，40歳代）
- 教育が必要だと思う。小学校等からの。（女性，50歳代）
- 他人には分からない，苦しみや辛さがあると思うから。（男性，40歳代）
- 男女の差の考えを，差別に意識すべきではないと思います。人間として，接するように心
がけたいです。（女性，70歳以上）
- 性的マイノリティの方々は特殊なわけではなく，たまたまそうであったという個性のよう
なものであると思うので，他の多数の方と同じく人権は守られるものだと思うので必要だ
と思う。まだまだ差別的に考える人が多くいるように感じるの。
（女性，30歳代）
- 知ること，理解する事が大切だから。（男性，30歳代）
- どのような少数者でも，平等に人権は守られるべきであり，また，理解を深めるべきだ
と思う。（女性，40歳代）
- 一人一人の人権を守ることは，あたりまえの事。（女性，70歳以上）
- 現状，理解が十分になされていると思わないから。（女性，30歳代）
- 人権が守られていないと感じるから。（女性，40歳代）
- 出来るだけ誰でも生活しやすい社会作りが必要だと思うから。（女性，20歳代）
- まだ社会全体に認知され，受け入れられているとは言い難いから。
（女性，40歳代）
- どんな人間にも，人権があり守る権利がある。（男性，60歳代）
- 人や性格そのものを否定することはできないから。（男性，20歳代）

市民意識調査報告書

- 知識として、知っていることが大事だから。（女性，60歳代）
- 同じ人間である。（女性，60歳代）
- 減らせる差別は減らせた方がいい。（女性，30歳代）
- 偏見や差別によって言い出せずにいる人々がいっぱいいると思うので。（女性，不明）
- 少数派であるために身近に性的マイノリティを見る聞く話す，機会がない。幼少期から接する機会があれば，それぞれの個性だと理解できるのではないかと思う。
（男性，30歳代）
- 性的マイノリティの方々の人権を守ることは，全ての人間の人権を守ることにつながり，とても重要だと思います。（女性，60歳代）
- 基本的人権と，世界的に自由民主国家の時代の潮流を考慮すると。
（男性，70歳以上）
- 差別や排除などの対応にならないために。（女性，60歳代）
- 少数派の人々の人権も保証されるべきだと思うので。（女性，50歳代）
- 「そういうことで悩む人が存在する」という現実を，多くの人に知ってもらいたい。
（女性，20歳代）
- 生きている為，平等の権利だと思います。（女性，40歳代）
- 個人の生き方や多様性が，認められる社会であって欲しいから。（女性，40歳代）
- 社会に知らない方もたくさんいるので，生きづらいことを変えてあげたい。
（女性，40歳代）
- 同じ人間であるのに守られているように感じない。（女性，20歳代）
- まだまだ知らない人，理解できない人が多いと思うから。（女性，40歳代）
- 同じ人間だから。（女性，60歳代）
- みんな平等な権利を持つから。（男性，20歳代）
- 差別など無くす為。（男性，50歳代）
- 多くの人に知れ渡ればそれだけ理解が深まる為。（男性，20歳代）
- 生きていくために。（女性，70歳以上）
- 偏見，差別をなくし，理解を深めるため。（女性，50歳代）
- 誰もが，平等に社会で生きる事の出来る環境づくりを行うべき。（女性，20歳代）
- 無理解が偏見を招くから。（女性，60歳代）
- もし自分の知人がそうなら，人権を守って欲しいと思うから。（女性，50歳代）
- 人権が守られていない人が存在する事が前提としておかしいから。
（女性，20歳代）
- すべての人間が同じであるはずがない。人権は平等であるべき。（女性，30歳代）
- 生まれ持った性別で，その人の人生を「～らしく」で固定される必要はない。
（女性，20歳代）
- 皆平等（女性，60歳代）
- 偏見が多い為。（男性，50歳代）
- まだ社会に認められているとは言い難いから。（男性，30歳代）
- いろいろな人間がいる（年齢，性別，LGBT含め）。宇都宮市はどんな人も住みやすい都市になって欲しい。（女性，60歳代）
- 平等である。（男性，70歳以上）
- 不平等だから。（女性，20歳代）
- 差別はよくないと思う。（女性，20歳代）
- 本人の責任でない問題なので，社会で教育等対応すべき。（男性，40歳代）
- 様々な生き方の自由があるので，自由を守る為の施策は必要。（男性，30歳代）
- 外観と内面が違うのはどうしようもない。（女性，50歳代）

- オープンにする人が増えてきた。（男性，50歳代）
- 身近でないと感じているが，多様な性への理解は広げるべき。（女性，60歳代）
- 病気ではなく，生まれ持った物ならば平等。但し，快樂的なアブノーマル行為を望むだけの人を見分けて差別化する事。（男性，40歳代）
- 必要だから。（女性，40歳代）

【必要ないと思う理由】

- 人権に性別は関係ない為。（男性，40歳代）
- 最近はやや騒ぎが過剰，大多数の方々を主に考えたい。（女性，60歳代）
- 差別としての教育は必要。その一部が性的マイノリティ。（男性，60歳代）
- 全ての人に理解さるほど，この国に時間もお金も残っていないと思うため。（女性，20歳代）
- すべて特別視しなくて良いと思います。（女性，70歳以上）
- 特別扱いしない方がいいと思うから。（男性，50歳代）
- 人間個性が，それぞれ違い一様にはできない。一人一人が，折り合いをつけ，他人を思いやり，話し合い共生していくための努力をしていくべきだと思います。（女性，60歳代）
- 人権はすべての人に平等にあるべき。（男性，70歳以上）
- 知人に数人いるが，本人たちから「放っていてくれればそれが良い」と聞いたので。（男性，50歳代）
- 他の人権問題等と同様に扱うべきだと思う。特に強調する必要はない。（男性，40歳代）
- 人間は平等だけれども個々は異なる事を小さいうちから，家庭でも社会でも自然に教えていければよいと思います。（女性，60歳代）
- 当人の問題だから。普通の人間には興味が無い事。（女性，50歳代）
- そのような社会になっている。（男性，50歳代）
- 公序良俗に反するから。（女性，60歳代）
- きりが無いから機会均等が実現されているから。（男性，50歳代）
- 人権は必要。個性を認め特別な扱いはしない。色々な人がいるだけの事なので過剰に反応しないことだと思う。（男性，不明）
- 性的マイノリティに対する活動をする事自体が，マイノリティであることを助長すると感じる。自分がもしLGBTだったらそっとしておいて欲しい。（女性，20歳代）
- あくまで個人の好みのお話であるため，行政がかかわる必要ないと思う。（男性，40歳代）
- 本人の気持ちの問題だから，最近では皆さんも理解していると思う。（女性，50歳代）
- 逆差別になりかねないから。（不明，不明）
- 原因を究明する知識が必要。（男性，60歳代）
- 少子化な現在，そこに時間やお金を使わず，妊娠，出産した人や，子供たちのために，使って欲しいです。（女性，20歳代）
- 大多数をどうするかを考えるより，マイノリティの方々が何をすべきかを，まず考えるべきでは？（男性，30歳代）
- 人の種としての衰退を助長するので，「間違いではない」と「正しい」をすり替える事はあってはならないし，余計なお世話をするから「ふつうの人」が萎縮する結果となっていると理解して欲しい。（男性，40歳代）

【その他】

- 性的マイノリティは生物学的に変だと思う。存在や人権は否定しないが、できればひっそり生きて欲しいと思う。（男性、60歳代）

- 自分がその立場ではないので分からないことが多いのですが、あまり性的マイノリティの方を守ると、男性、女性がなくなってしまうと、逆に混乱を招くのではないのでしょうか？トイレや公衆のお風呂、更衣室などの問題や、将来的に子どもが減ってしまったりする可能性も…。（女性、50歳代）
- わざわざ表面化せず、自然な感じで、皆仲良くすれば大丈夫と思います。どなたに対しても心から優しく接することだと思います。（女性、70歳以上）
- 個々の問題であり他人がどうこう言う権利がない。（男性、60歳代）
- 特に性的マイノリティの方だけでなく、どんな人にも人権を守る権利があると思います。〇〇〇の人権を守る啓発でなく、人が人を思いやったり、人を幸せにする人を育てる啓発や世策が必要で、〇〇〇と限定することもないと思います。（女性、30歳代）
- 特別扱いではなく、男女平等と同じレベルで進めてほしい。（男性、50歳代）
- 批判する方をなんとかすべき。（男性、50歳代）
- 必要だとは思いますが、過剰に保護または優遇するような風潮はすべきではないと思う。特に同性愛については、人類の未来への貢献となるか？が疑問である。（男性、40歳代）
- 実際に差別している人を見たことがない。（女性、20歳代）
- 多数の設問の回答集計施策に、どう生かせるのでしょうか？（男性、70歳以上）
- ある程度は必要だが、過度に行くと逆効果になりかねない。（男性、40歳代）
- 初めて知った。（男性、50歳代）
- 自由に生きると良い。（女性、50歳代）
- 情報は必要だが、理解を強要するのはどうかと思うことがある。（女性、40歳代）
- ここでの人権の意味が分からない。性を理由とする差別をなくすことは必要だと思う。（男性、20歳代）
- 人権を守る施策は必要だと思うが、スポーツの分野やトイレの利用といった日常生活等において、どうしても分けざるを得ない部分があり、難しい課題も抱えていると思う。（女性、20歳代）
- 必要と思うが、過剰すぎこともよくないと思う。（男性、50歳代）
- 必要だけど、おおっぴらでないように。（男性、60歳代）
- むやみに「守る」と誇張するよりも、それが当たり前をいう雰囲気を作る社会にして欲しい。（女性、20歳代）
- 性的マイノリティの方々に、判断していただければと思う。（男性、60歳代）
- 人権を守る事も大切ですが、人権を脅かす存在に対しての教育も大切だと思う。守るだけではダメです。若いうちからの教育は何よりも大切だと思う。（女性、50歳代）
- あまり大々的なキャンペーンは、やらない方がいいと思う。（女性、70歳以上）
- 悩んでいる人個人が相談しやすい窓口が必要だと思う。まずは、そこからでは。（女性、70歳以上）
- 従来タブー視されてきた分野の為、啓発に反発が予想される。（男性、60歳代）
- 教育の中で、マイノリティという区分けをしない環境と意識を持たせること。個性を認められる教育をしていく事が大切と思う。（女性、60歳代）

- 初めて言葉を知ったため、意味も理解できていません。個人を尊重するという意味では必要だと思いますが、啓発がその方々を傷つけてしまうこともあると思います。その点では、啓発や施策をどのようにすすめていくのが良いのか、難しい部分があるかと思います。
(女性, 30 歳代)
- マイノリティだからと虐げられるのはだめだが、本当はそのような区別をしなくて良くなってほしい (女性, 20 歳代)
- 性的な事よりも個人 1 人 1 人が大切に差別されるべきではない, という考え方が持てるように, 小さい時からの認識・教育が必要なのではないか。 (女性, 60 歳代)

調査票

～あなたのご意見をお聴かせください～

宇都宮市男女共同参画に関する意識調査

日頃から市政について格別のご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

宇都宮市では、男女が性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる社会の実現を目指し、「宇都宮市男女共同参画行動計画」に基づいて、さまざまな取組を進めています。

本調査は、平成28年度に実施した調査からの意識の変化や、社会情勢の変化に伴う新たな問題に対する意識等を調査し、計画の見直し及び市が取り組むべき施策の基本資料とするために実施いたします。

お忙しいところお手数をおかけしますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいようお願い申し上げます。

なお、調査にご回答いただく方は、住民基本台帳に登録されている18歳以上の方の中から、3,000人を無作為に選ばせていただきました。お答えいただいた内容は、本調査の目的だけに利用し、秘密の保持には万全を期してまいりますので、率直なご意見、ご感想をお寄せください。

令和4年2月
宇都宮市長 佐藤 栄

ご記入にあたってのお願い

①回答は、あてはまる項目の番号に○印をつけてください。

質問によっては1つだけ回答していただくものと、複数回答していただくものがありますので、指示に従って回答してください。

○印は、番号を囲むようにつけてください。

例) 1

②「その他」とお答えの方は（ ）内に、その内容を具体的にお書きください。

③ご記入は、鉛筆又はボールペン（色不問）でお願いいたします。

④この調査の集計は、「地域計画株式会社」に委託しており、返信用封筒の宛先が「地域計画株式会社」宛となっております。

⑤ご記入がすみましたら、お手数ですが、同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずに

3月4日（金）までにポストにご投函ください。

【問い合わせ先】

宇都宮市 市民まちづくり部 男女共同参画課

電話：028-632-2346

【調査票返送先】 地域計画株式会社（調査業務委託先）

あなたについてお伺いします。

F 1 あなたの性別は次のうちどれですか。 (○は1つだけ)

- | | | |
|-------|-------|-----------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. 選択できない |
|-------|-------|-----------|

F 2 あなたの年代は次のうちどれですか。 (○は1つだけ)

- | | | | |
|-----------|------------|------------|-----------|
| 1. 18～19歳 | 2. 20～24歳 | 3. 25～29歳 | 4. 30～34歳 |
| 5. 35～39歳 | 6. 40～44歳 | 7. 45～49歳 | 8. 50～54歳 |
| 9. 55～59歳 | 10. 60～64歳 | 11. 65～69歳 | 12. 70歳以上 |

F 3 あなたがお住まいの地区はどちらですか。 (○は1つだけ)

- | |
|---|
| 1. 中央地域 (下記2～5以外の地区) |
| 2. 東部地域 (平石地区, 清原地区, 瑞穂野地区) |
| 3. 西部地域 (城山地区, 姿川地区) |
| 4. 南部地域 (横川地区, 雀宮地区) |
| 5. 北部地域 (豊郷地区, 国本地区, 富屋地区, 篠井地区, 河内地区, 上河内地区) |

F 4 あなたの家族構成はどれに該当しますか。 (○は1つだけ)

- | | | |
|--------------------|--------------------------|-------------------|
| 1. ひとり暮らし (単身世帯) | 2. 夫婦のみ (一世代世帯) | 3. 親と未婚の子ども (核家族) |
| 4. 親と子ども夫婦 (二世帯世帯) | 5. 親と子ども夫婦とその子ども (三世帯世帯) | |
| 6. その他 (具体的に | |) |

F 5 あなたの仕事は次のうちどれにあたりますか。 (○は1つだけ)

- | | | |
|--------------|-------------------------------------|-------|
| 1. 自営業主 | 2. 家族従業 (農家や商店など自営業主の家族で, その自営業に従事) | |
| 3. 常勤・フルタイム | 4. パート・アルバイト・派遣など | |
| 5. 学生 | 6. 専業主婦 (夫) | 7. 無職 |
| 8. その他 (具体的に | |) |

男女共同参画に関する用語についてお伺いします。

問1 次にあげる男女共同参画に関する用語を聞いたことがありますか。

(それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

	1 言葉も内容も知 っている	2 言葉だけは聞い たことがある	3 全く知らない
① ジェンダー	1	2	3
② アンコンシャス・バイアス	1	2	3
③ ドメスティック・バイオレンス (DV)	1	2	3
④ デートDV	1	2	3
⑤ LGBT	1	2	3
⑥ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	1	2	3

男女共同参画意識についてお伺いします。

問2 あなたは、現在、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

(それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

	1 優男性 の 方が 非 常 に	2 れ男ど 性 の ら い の ら 方 か が と い 優 え さ は	3 平 等 に な っ て い る	4 れ女ど 性 の ら い の ら 方 か が と い 優 え さ は	5 優女性 の ら い の ら 方 か が と い 非 常 に	6 わ か ら な い
① 家庭生活で	1	2	3	4	5	6
② 職場で	1	2	3	4	5	6
③ 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
④ 自治会等の地域社会で	1	2	3	4	5	6
⑤ 政治の場で	1	2	3	4	5	6
⑥ 法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
⑦ 社会通念・慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会全体で	1	2	3	4	5	6

問3 「男は仕事，女は家庭」という考え方について，あなたの意見に近いものはどれですか。
(○は1つだけ)

- | | |
|---|---|
| 1. 男は仕事，女は家庭にいるのがよい
2. 男女とも仕事をもち，家庭のことは女性に任せるのがよい
3. 男女とも仕事をもち，家庭でも役割を分担するのがよい
4. 男女の役割は固定せずに，男女どちらが仕事をして家庭にいてもよい
5. その他（具体的に
6. わからない |) |
|---|---|

問4 次の①～⑨の項目について，あなたの考えに近いものはどれですか。
(それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

	1 そう思う	2 えど ばち らそ うか と 思 う い	3 な えど い ばち ら そ う か と 思 わ い	4 そう 思 わ な い
① 男性は仕事をして家計を支えるべきだ	1	2	3	4
② 家事・育児は女性がするべきだ	1	2	3	4
③ 共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	1	2	3	4
④ 共働きで子どもの具合が悪くなった場合，母親が看病するべきだ	1	2	3	4
⑤ 親の介護は女性がするべきだ	1	2	3	4
⑥ 女性に理系の進路（学校や職業）は向いていない	1	2	3	4
⑦ PTAなどの学校の行事には，女性が参加するべきだ	1	2	3	4
⑧ 親戚や地域の会合で，食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	1	2	3	4
⑨ 自治会などの重要な役職は男性が担うべきだ	1	2	3	4

問5 あなたは自分の子どもをどのように育てたいと思いますか。子どもがいない場合は，いると仮定して選んでください。
(○は1つだけ)

- | |
|--|
| 1. 「男の子は男らしく，女の子は女らしく」というふうに育てたい
2. どちらかといえば，「男の子は男らしく，女の子は女らしく」というふうに育てたい
3. どちらかといえば，性別にとらわれずに育てたい
4. 性別にとらわれずに育てたい
5. わからない |
|--|

問6 生活の中で、「仕事」，「家庭生活」，「地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「個人・地域の生活」の優先度についてお伺いします。

(1) あなたの【理想】に最も近いものはどれですか。 (○は1つだけ)

1. 「仕事」を優先したい	2. 「家庭生活」を優先したい
3. 「個人・地域の生活」を優先したい	4. 「仕事」と「家庭生活」を優先したい
5. 「仕事」と「個人・地域の生活」を優先したい	6. 「家庭生活」と「個人・地域の生活」を優先したい
7. 「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」のすべてを優先したい	

(2) あなたの【現実・現状】に最も近いものはどれですか。 (○は1つだけ)

1. 「仕事」を優先している	2. 「家庭生活」を優先している
3. 「個人・地域の生活」を優先している	4. 「仕事」と「家庭生活」を優先している
5. 「仕事」と「個人・地域の生活」を優先している	6. 「家庭生活」と「個人・地域の生活」を優先している
7. 「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」のすべてを優先している	

問7 あなたは、次の①～④について、夫婦の間でどのように分担していますか。配偶者のいない場合は、配偶者がいるとしたらどのようにしたいと思えますか。

(それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

	1 主に夫	2 えど どちら かとい	3 夫 妻同 じ程 度	4 えど どちら かとい	5 主に妻	6 家 族	7 そ の 他
① 家事 (例：食事の支度や後片付け，掃除，ごみ出し，洗濯 など)	1	2	3	4	5	6	7
② 育児 (例：子どものしつけや勉強，乳幼児の世話 など)	1	2	3	4	5	6	7
③ 親や身内の介護	1	2	3	4	5	6	7
④ 地域活動 (例：地域行事などへの参加，PTA活動 など)	1	2	3	4	5	6	7

問 8 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、特にどのようなことが重要だと思いますか。 (あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|--|---|
| | <ol style="list-style-type: none"> 1. 男女の役割意識についての社会通念や慣習、しきたりを改めること 2. 夫婦の間で家事などの分担について、十分に話し合い、協力し合うこと 3. 男性の仕事中心の生き方や考え方を改めること 4. 夫婦が協力して家事、子育て、介護をすることに職場の理解が得られること 5. 男性が家事や子育て、介護について学べる機会や情報提供を充実すること 6. 労働時間の短縮や休暇制度を普及させること 7. 柔軟な勤務制度（フレックスタイム制度※など）の導入がされていること 8. 賃金、昇進・昇格の機会、仕事内容など、労働条件での男女の差をなくすこと 9. その他（具体的に _____） 10. わからない |
|--|---|

※フレックスタイム制度：定められた労働時間の中であれば、労働者自身が出社時間と退社時間を決めることのできる、変形時間労働制のうちの一つです。

新型コロナによる影響についてお伺いします。

問 9 新型コロナによる影響で、あなたの生活や働き方、仕事内容などにどのような変化がありましたか。 (あてはまる番号すべてに○)

【生活の変化】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家事・育児・介護の分担ができなくなった（負担が増えた） 2. 家事・育児・介護の分担ができるようになった（負担が減った） 3. 配偶者や恋人、パートナーとの関係が悪くなった 4. 配偶者や恋人、パートナーとの関係が良くなった 5. 心身の不調を感じた 6. その他（ _____） 7. 特に変化はなかった
【働き方の変化】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 解雇（雇止めを含む）をされた 2. 仕事を辞めた 3. 収入が減った 4. 仕事のニーズが高まり忙しくなるなど、就業時間が増えた 5. 勤務先の経営状況や運営状況（営業時間等）が変化し、就業時間が減った 6. テレワーク等多様な働き方が認められた 7. 勤務先や仕事のデジタル化が進んだ 8. オンラインで可能な事が多くなり、時間に余裕ができた 9. その他（ _____） 10. 特に変化はなかった

職業・就労についてお伺いします。

問 14 あなたは、「結婚」「妊娠・出産」「育児」「介護」の理由で退職した経験がありますか。
(○は1つだけ)

1. ある →問 15へ

2. ない→問 16へ

【問 14で、「1. ある」と回答した方にお伺いします。】

問 15 具体的な理由は、どれに該当しますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 家事・育児・介護に専念したいので自発的に辞めた
2. 仕事と家事・育児・介護の両立が難しいため
3. 体力や健康に自信がないため(病気を含む)
4. 子ども、高齢者や病人を預けられる人や、施設が近くにないため
5. 保育園や幼稚園、介護施設に預ける方が、経済的に負担が大きくなるため
6. 職場に、育児、介護休業制度がなかったため
7. 解雇・または退職勧奨されたため
8. 配偶者または子どもなど、家族が望まなかったから
9. 配偶者の転勤や居住地の問題などで職場が遠くなったから
10. 仕事の内容や責任等が変わり、やりがいを感じられなくなりそうだったから
11. その他(具体的に)

問 16 あなたは、女性が職業をもつことについて、どうお考えですか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(○は1つだけ)

1. 女性は職業をもたない方がよい
2. 女性は職業をもつことにこだわらなくてよい
3. 結婚するまでは職業をもつ方がよい
4. 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
5. 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
6. 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
7. 結婚後や出産後も仕事は続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい
8. その他(具体的に)

問 17 次の①～⑤の項目について、あなたの考えに近いものはどれですか。

(それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

	1 そう 思う	2 えど ばち らか とい う	3 ない えど ばち らか とい う	4 そう 思わ ない
① 組織のリーダーは男性の方が向いている	1	2	3	4
② 女性の上司には抵抗がある	1	2	3	4
③ 男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ	1	2	3	4
④ 男性は育児休業を取るべきではない	1	2	3	4
⑤ 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	1	2	3	4

問 18 女性が結婚や出産・育児のために退職した場合、その後、再就職するためには何が必要だと思いますか。

(あてはまる番号すべてに○)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 夫の理解や家事・育児などへの参加 2. 夫以外の家族の理解や家事・育児などへの参加 3. 子どもや介護を必要とする人を預かってくれる施設やサービスの充実 4. 就職情報や職業紹介などの相談機関の充実 5. 技能習得のための講座等の充実 6. 企業等事業所の理解 7. 企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実 8. フレックスタイム制度の導入や育児休業などの制度の充実 9. その他（具体的に _____) 10. わからない

問 19 育児休業について、男性が育児休業を取得しづらい理由は何だと思いますか。

(あてはまる番号すべてに○)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 周囲に取った男性がいないから 2. 職場に取りやすい雰囲気がないから 3. 仕事が忙しいから 4. 取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから 5. 人事評価や昇給に影響があるから 6. 休業補償が十分でないので経済的に困るから 7. 育児は女性の方が向いているので、男性が取る必要はないから 8. その他（具体的に _____)
--

問 20 介護休業について、男性が介護休業を取得しづらい理由は何だと思えますか。
 (あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 周囲に取った男性がいないから 2. 職場に取りやすい雰囲気がないから 3. 仕事が忙しいから 4. 取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから 5. 人事評価や昇給に影響があるから 6. 今後、現在よりも必要な状況が来るかもしれないから 7. どのタイミングで取得したらよいかわからないから 8. 会社で介護をしていることを公表していないから 9. 配偶者や他の家族が介護に専念しているから 10. その他（具体的に |) |
|--|---|

人権尊重についてお伺いします。

問21 あなたは、次のハラスメントを受けた経験がありますか。
 (それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

	1 ある	2 ない
① セクシュアルハラスメント（性的冗談やからかい、食事やデートへの執拗な誘い、身体への不必要な接触など）	1	2
② パワーハラスメント（職場上の地位や人間関係などの職場内での優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与えられたり、職場環境を悪化させられる行為）	1	2
③ 妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメント	1	2

問 22 女性は妊娠や出産の可能性もあることから、ライフサイクルを通じて、男性とは異なる、月経など健康上の変化が起こり得ますが、そうした、身体的性差による健康状態について、

【女性の方へ】あなたの配偶者や恋人などが、正しく理解していると思えますか。

【男性の方へ】あなた自身が、配偶者や恋人などの健康状態を理解できていると思えますか。

(○は1つだけ)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 理解していると思う、理解できていると思う 2. 理解していると思わない、理解できていないと思う 3. わからない 4. 該当しない |
|---|

問 23 あなたは過去 1 年間に配偶者や恋人から、①～⑤のような暴力（DV又はデートDV）を受けた経験がありますか。（それぞれについてあてはまる番号に○を1つ）

	1 何 度 も あ っ た	2 1, 2 度 あ っ た	3 ま っ た く な い
① 身体に対する暴力を受けた（殴る，蹴るなど）	1	2	3
② 精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた （大声で怒鳴る，嫌な写真を送りつける，待ち伏せをするなど）	1	2	3
③ 経済的な暴力を受けた （生活費を渡さない，支出を細かく監視するなど）	1	2	3
④ 社会的な暴力を受けた （携帯電話を壊す，親戚や友人との付き合いを制限するなど）	1	2	3
⑤ 性的な暴力を受けた（性行為を強要する，避妊に協力しないなど）	1	2	3

すべて「3」の方は、問 27

【問 23 で、①～⑤のいずれかで、「1」または「2」に○をつけた方にお伺いします。】

問 24 あなたはこれまでに、配偶者等から受けた暴力について、誰かに相談しましたか。（○は1つだけ）

- | | | |
|------------|--------|--------|
| 1. 相談した | -----▶ | 問 25 へ |
| 2. 相談しなかった | -----▶ | 問 26 へ |

【問 24 で、「1. 相談した」に○をつけた方にお伺いします。】

問 25 相談した相手はどなたですか。（あてはまる番号すべてに○）

- | | |
|---------------------------------|--------------|
| 1. 親族 | |
| 2. 友人・知人 | └──────────▶ |
| 3. 市や県等の <u>公的機関の相談窓口</u> ・電話など | |
| 4. 民間支援団体，NPO法人，シェルターなど | |
| 5. 同じような経験をした人 | |
| 6. 弁護士 | |
| 7. 警察署・交番 | |
| 8. 医師やカウンセラーなど | |
| 9. その他（具体的に |) |

【公的機関の相談窓口（例）】
 ・市配偶者暴力相談支援センター
 ・市女性相談所
 ・とちぎ男女共同参画センター（パーティ）
 ・福祉事務所 等

【問 24 で、「2. 相談しなかった」に○をつけた方にお伺いします。】

問 26 相談しなかった理由は何ですか。

(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|------------------------------|-------------------------|
| 1. 相談する人がいなかったから | 2. どこに相談してよいのかわからなかったから |
| 3. 相談しても無駄だと思ったから | 4. 仕返しを受けると思ったから |
| 5. 子どもに危害がおよぶと思ったから | 6. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから |
| 7. 自分さえ我慢すればやっていけると
思ったから | 8. 自分にも落ち度があると思ったから |
| 9. 他人を巻き込みたくなかったから | 10. 相談するほどのことではないと思ったから |
| 11. その他（具体的に |) |

問 27 DVやデートDVを防止するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。

(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|--|---|
| 1. 被害者が早期に相談できるよう、相談窓口を周知する | |
| 2. 家庭で、暴力を防止するための教育を行う | |
| 3. 中学・高校や大学等で、暴力を防止するための教育を行う | |
| 4. 加害者への罰則を強化する | |
| 5. 加害者に、二度と繰り返さないための教育を行う | |
| 6. 暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、インターネットなど）を取り締まる | |
| 7. 暴力を防止するための広報・啓発活動を積極的に行う | |
| 8. 被害者を発見しやすい立場にある医療関係者などに対し、研修や啓発を行う | |
| 9. その他（具体的に |) |
| 10. わからない | |

問 28 女性に対する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで、配慮してほしいと思うことは何ですか。

(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|--------------------------------|---|
| 1. メールによる相談ができる | |
| 2. LINEなどのSNSによる相談ができる | |
| 3. 電話による相談ができる | |
| 4. 通話料が無料 | |
| 5. 24時間相談ができる | |
| 6. 相談内容に関連する、他の相談窓口との連携が行われる | |
| 7. 同性の相談員がいる | |
| 8. 匿名で相談ができる | |
| 9. 弁護士など、法的知識のある相談員がいる | |
| 10. 臨床心理士、公認心理士など、心理専門職の相談員がいる | |
| 11. その他（具体的に |) |
| 12. 特にない | |
| 13. わからない | |

問 29 あなたは、今まで自分の性別に悩んだことはありますか。 (○は1つだけ)

1. ある	2. ない
-------	-------

問 30 性的指向や性自認、LGBT、性的マイノリティという言葉を知っていましたか。
(それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

	1 知っていた	2 初めて知った	3 その他
① 性的指向や性自認	1	2	3
② LGBT	1	2	3
③ 性的マイノリティ	1	2	3

問 31 あなたは、性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策について、必要だと思いますか。 (○は1つだけ)

1. 必要だと思う (理由)
2. 必要ないと思う (理由)
3. わからない
4. その他 (具体的に)

調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。

お手数ですが、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに

3月4日(金)までにポストにご投函ください。

宇都宮市 令和3年度男女共同参画に関する市民意識調査報告書

令和4年3月

発行 宇都宮市

編集 市民まちづくり部 男女共同参画課

住所 〒320-8540 栃木県宇都宮市旭1丁目1-5

電話 028-632-2346 (直通)

FAX 028-632-2347